こども学科

1）教養科目

日本の憲法	長沼　秀明	1
文章表現法	佐々木美和	3
英語コミュニケーション	蒔田　裕美	5
情報機器演習	原　かおり	7
生涯スポーツⅠ	小山内弘和	9
生涯スポーツⅡ	小山内弘和	11
知の技術	小山内,長沼,西,川喜田	13

2）専門科目

国語（書写を含む）	佐内　信之	15
社会	長沼　秀明	17
算数	森田　大輔	19
理科	長友　大幸	21
生活	中野　英之	23
音楽Ⅰ	齊藤, 佐藤(千), 佐藤(良), 舘岡, 荻原, 高梨, 児玉	25
音楽Ⅱ	宮澤, 佐藤(良), 舘岡, 松山, 山口	27
音楽Ⅲ	宮澤, 佐藤(良), 舘岡, 松山, 山口, 高梨	29
音楽Ⅳ	齊藤　淳子･宮澤多英子	31
図画工作	木谷　安憲	33
家庭	佐藤　真弓	35
体育	藤田　倫子	37
児童英語	蒔田　裕美	39
教職･保育概論(教育制度等を含む)	西　敏郎・川喜田昌代	41
教育原理	西　敏郎	43
教育心理学	一色　翼	45
保育･教育課程論	西　敏郎	47
発達心理学	一色　翼	49
保育内容（健康）	藤田　倫子	51
保育内容総論	川喜田昌代	53
保育内容（人間関係）	岩崎　桂子	55
保育内容（環境）	織壁佐和子	57
保育内容（言葉）	佐々木美和	59
保育内容（表現･音楽）	齊藤　淳子	61
保育内容（表現･造形）Ⅰ	木谷　安憲	63
保育内容（表現･造形）Ⅱ	佐藤　牧子	65
子どもと健康	小山内弘和･藤田　倫子	67
子どもと人間関係	岩崎　桂子	69
子どもと言葉	佐々木美和	71
子どもと表現	木谷安憲･齊藤淳子･宮澤多英子	73
子どもと環境	織壁佐和子	75
初等教科教育法（国語）	佐内　信之	77
初等教科教育法（社会）	長沼　秀明	79
初等教科教育法（算数）	森田　大輔	81
初等教科教育法（理科）	長友　大幸	83
初等教科教育法（生活）	中野　英之	85
初等教科教育法（音楽）	齊藤　淳子	87
初等教科教育法（図画工作）	木谷　安憲	89
初等教科教育法（家庭）	佐藤　真弓	91
初等教科教育法（体育）	小山内弘和	93
初等教科教育法（英語）	蒔田　裕美	95
道徳の指導法	一色　翼	97
特別活動の指導法	長沼　秀明	99
教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含む)	西　敏郎	101
ICT 活用の理論と方法	織戸　恒男	103

生徒･進路指導の理論と方法　長沼　秀明 …… 105
教育相談の理論と方法　原口　幸 …… 107
児童文化　佐々木美和 …… 109
子どもの理解と実践　一色　翼 …… 111
児童文学　佐々木美和 …… 113
社会福祉論　西内　俊朗 …… 115
子育て支援　佐藤　晃子 …… 117
子ども家庭支援の心理学　三浦真紀帆 …… 119
子ども家庭福祉　佐藤　晃子 …… 121
社会的養護Ⅰ　西内　俊朗 …… 123
社会的養護Ⅱ　西内　俊朗 …… 125
保育原理　岩﨑　桂子 …… 127
子どもの保健　高山　智子 …… 129
子どもの健康と安全　須藤佐知子 …… 131
子どもの食と栄養Ⅰ　中西由季子 …… 133
子どもの食と栄養Ⅱ　中西由季子 …… 135
乳児保育Ⅰ　松原みゆき …… 137
乳児保育Ⅱ　松原みゆき …… 139
特別支援論Ⅰ(対象理解)　林　恵 …… 141
特別支援論Ⅱ(乳･幼児への支援方法)　林　恵 …… 143
特別支援論Ⅲ(児童への支援方法)　村浦新之助 …… 145
地域子育て支援論　佐藤　晃子 …… 147
子ども家庭支援論　佐藤　晃子 …… 149
在宅保育　岩﨑　桂子 …… 151
栽培　橋本　敏幸 …… 153
演劇　中村　一規 …… 155
教育実習指導（事前事後）（幼稚園）　小山内, 木谷, 齊藤, 川喜田, 佐々木, 宮澤, 一色 …… 157
教育実習Ⅰ（幼稚園）　こども学科専任教員 …… 159
教育実習Ⅱ（幼稚園）　こども学科専任教員 …… 161
教育実習指導（事前事後）（小学校）　長沼, 木谷, 西, 藤田, 一色 …… 163
教育実習Ⅰ（小学校）　こども学科専任教員 …… 165
教育実習Ⅱ（小学校）　こども学科専任教員 …… 167
保育実習指導Ⅰ（事前事後）　岩﨑, 小山内, 宮澤, 藤田, 川喜田 …… 169
保育実習指導Ⅱ（事前事後）　小山内, 齊藤, 佐藤, 西内 …… 171
保育実習Ⅰ（保育所）　こども学科専任教員 …… 173
保育実習Ⅱ（施設）　こども学科専任教員 …… 175
保育実習指導Ⅲ･Ⅳ（事前事後）　木谷, 佐藤, 岩﨑, 宮澤, 西内、藤田 …… 177
保育実習Ⅲ（保育所）　こども学科専任教員 …… 179
保育実習Ⅳ（施設）　こども学科専任教員 …… 181
保育･教職実践演習（幼･小）　長沼, 西, 佐藤, 西内, 藤田, 一色, 川喜田 …… 183

3）ゼミ

保育・教育学演習Ⅰ　小山内弘和 …… 185
保育・教育学演習Ⅰ　木谷　安憲 …… 187
保育・教育学演習Ⅰ　長沼　秀明 …… 189
保育・教育学演習Ⅰ　西　敏郎 …… 191
保育・教育学演習Ⅰ　齊藤　淳子 …… 193
保育・教育学演習Ⅰ　佐々木美和 …… 195
保育・教育学演習Ⅰ　佐藤　晃子 …… 197
保育・教育学演習Ⅰ　岩﨑　桂子 …… 199
保育・教育学演習Ⅰ　宮澤多英子 …… 201
保育・教育学演習Ⅰ　藤田　倫子 …… 203
保育・教育学演習Ⅰ　一色　翼 …… 205
保育・教育学演習Ⅱ　小山内弘和 …… 207
保育・教育学演習Ⅱ　木谷　安憲 …… 209
保育・教育学演習Ⅱ　長沼　秀明 …… 211
保育・教育学演習Ⅱ　西　敏郎 …… 213
保育・教育学演習Ⅱ　齊藤　淳子 …… 215

保育・教育学演習Ⅱ　佐々木美和 …… 217
保育・教育学演習Ⅱ　佐藤　晃子 …… 219
保育・教育学演習Ⅱ　岩﨑　桂子 …… 221
保育・教育学演習Ⅱ　宮澤多英子 …… 223
保育・教育学演習Ⅱ　西内　俊朗 …… 225
保育・教育学演習Ⅱ　藤田　倫子 …… 227
保育・教育学演習Ⅱ　一色　　翼 …… 229

4）自由選択科目

文学　柴田　勝二 …… 231
文化論　平澤　純子 …… 233
環境論　小島　　望 …… 235
民法　三重野雄太郎 …… 237
心理学　伊澤　利文 …… 239
臨床心理学　赤城　知里 …… 241

日本の憲法　～子どもたちを守るために憲法を学ぼう～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	選択

授業概要

この科目は教育職員免許法施行規則（文部科学省令）が定める教員免許状取得のための必修科目です。授業では、憲法の重要な論点を講義します。また、教育現場をはじめとする身近な話題の中に、どんな憲法問題が潜んでいるのかを討論も交えて皆で検討します。また、「それでも生きる子供たちへ」という外国映画を観て、世界の子どもたちが直面する問題へも目を向けます。

今の日本社会に生きる子どもたちがどのような問題を抱えているのか、そして教師は子どもたちをどのように導き、守り抜いていくべきかを共に考えます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	なぜ憲法を学ぶのか
第 2 回	日本国憲法第１３条（その１）：個人の尊厳
第 3 回	日本国憲法第１３条（その２）：公共の福祉
第 4 回	自由権：思想・良心の自由、表現の自由、学問の自由、経済的自由
第 5 回	日本国憲法第２５条：不安なく生きる権利
第 6 回	日本国憲法第２６条：教育を受ける権利
第 7 回	身近な話題の中の憲法問題（その１）
第 8 回	映画で学ぶ憲法（その１）
第 9 回	身近な話題の中の憲法問題（その２）
第 10 回	映画で学ぶ憲法（その２）
第 11 回	国を治める仕組み：象徴天皇・国民主権、国会・内閣・裁判所、地方自治
第 12 回	平和主義―国を守るということ―
第 13 回	身近な話題の中の憲法問題（その３）
第 14 回	映画で学ぶ憲法（その３）
第 15 回	まとめ―保育・教育と憲法―

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、授業内容に関する質問票を作成・提出してもらいます。詳細は授業で指示します。
遅刻３回を欠席１回に換算するので、くれぐれも遅刻しないようにしてください。

到 達 目 標

１．日本国憲法と保育・教育との関係を十分に理解できるようになること。
２．学んだことを保育・教育の現場で活かす準備ができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
論理的に文章で説明する力（30%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『保育と日本国憲法』改訂版（シリーズ 保育と現代社会）
・著 者 名：橋本勇人編、長沼秀明ほか著
・出版社名：株式会社みらい
・出 版 年（ISBN）：2025 年

文章表現法　～保育者として求められる日本語の語彙力と文章力～

佐々木　美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	－	選択

授業概要

この授業のねらいは、幼稚園教諭や保育士を目指す学生が実習や就職活動および入職時に求められる、日本語の表現力の向上にある。教育や保育の現場では、乳幼児だけでなく、保護者や同僚、地域に暮らす人々など、さまざまな年齢や関係性、立場の人たちと関わる。他の人が発した内容を正しく理解し、自分も他の人に正しく発信する力の修得が必要になる。文章で説明したり、伝えたりする技術を磨き向上できるように、基礎から応用まで課題（ワークやテスト）を解きながら講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション（現在の国語力、語彙力、文章力の確認）
第 2 回	正しい現代表記①―仮名遣い、送り仮名、漢字、同音異義―
第 3 回	正しい現代表記②―漢字、異字同訓、慣用表現（四字熟語を含む）―
第 4 回	正しく整った文章①―係り受けや呼応、文末表現、和語と漢語―
第 5 回	正しく整った文章②―話し言葉と書き言葉、敬語表現（会話を含む）―
第 6 回	第２～５回までの復習
第 7 回	わかりやすい文章①―長文から短文へ、効果的な読点の使い方―
第 8 回	わかりやすい文章②―曖昧な表現を避ける、論理的な文章のポイント：主語・述語―
第 9 回	わかりやすい文章③―接続表現、論理的な文章のポイント：修飾語・接続語―
第 10 回	何かを見て文章にする―「絵・写真」をみてその情報を文章に―
第 11 回	言葉遣いや文章表現の場面分け①―「葉書」の書き方―、第６～10 回までの復習
第 12 回	言葉遣いや文章表現の場面分け②―会話、電話、電子メール―
第 13 回	大学生らしい文章を書く①―短文対策（自己 PR 文の作成）
第 14 回	大学生らしい文章を書く②―小論文対策（構成を意識する）
第 15 回	まとめ：「最終課題（全範囲から出題）」に挑戦

予習・復習

・予習：授業内で課題に取り組むので、基本的に予習は求めない。
　　ただし、日常生活の中で常に「正しい日本語表現」の使用を意識して欲しい。
・復習：授業内で学習したことを、事後に振り返ることを求める。
　　特に「確認テスト」が手もとに戻ったら、間違った問題の正答を必ず確認する。

履修上の注意

・遅刻や早退は 20 分以内とし、遅刻および早退は 3 回で欠席 1 回とみなす。
・授業時間内で「ワーク」と「確認テスト」を行うので、授業時間中は集中して学習すること。
・出席票を配付するので、忘れずに提出すること。票の提出をもって、出席を認める。

到 達 目 標

・保育者に求められる語彙力や文章表現力を培う。
・自分自身の「文章表現」上の課題に気づき、その修正能力を身につける。
・初回授業段階より確実に、最終回授業時において「文章表現力」向上を実感できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
正しい表記力の向上（25%）	授業課題を全て正答し、正しく優れた日本語表記ができる	授業内容を理解し、課題全てに解答し正答率が 8 割以上である	課題項目によって出来不出来があり、正答率が 6 割程度である	授業内容の理解が十分ではないため、正答率が 5 割を切る	授業内容への理解が足らず、課題への取り組みに困難がある
語彙力の向上（20%）	授業課題を全て正答し、豊富な語彙力を有する	授業内容を理解し、課題全てに解答し正答率が 8 割以上である	課題項目によって出来不出来があり、正答率が 6 割程度である	授業内容の理解が十分ではないため、正答率が 5 割を切る	授業内容への理解が足らず、課題への取り組みに困難がある
正しい文章力の向上（25%）	授業課題を全て正答し、正しく優れた文章表現ができる	授業内容を理解し、課題全てに解答し正答率が 8 割以上である	課題項目によって出来不出来があり、正答率が 6 割程度である	授業内容の理解が十分ではないため、正答率が 5 割を切る	授業内容への理解が足らず、課題への取り組みに困難がある
場面に合った言葉遣いと表現力の向上（10%）	授業課題を全て正答し、正しい言葉遣いや言葉選びができる	授業内容を理解し、課題全てに解答し正答率が 8 割以上である	課題項目によって出来不出来があり、正答率が 6 割程度である	授業内容の理解が十分ではないため、正答率が 5 割を切る	授業内容への理解が足らず、課題への取り組みに困難がある
短文および小論文の作成力（20%）	授業内容を踏まえて、論理的で構成力のある論述ができる	授業内容を理解して、論理性や構成を意識した作文ができる	論理的な文章力ないし論構成のいずれかに課題がある	論理的な文章力と論構成の双方に課題がある	授業内容への理解が足りず、作文が大学生レベルに届かない

評価方法

・授業時間内の課題への取り組み　90%
・授業態度　10%

テキスト

・毎回、教員作成の「ワークシート」と「確認テスト」を使用する

英語コミュニケーション　～保育学生のための実践英語～	蒔田　裕美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	必修	必修	選択

授 業 概 要

グローバル化が進む現代社会においては、英語でコミュニケーションをとる機会が多く、幼稚園でも遊びの中で英語に触れる時間を取り入れるところが増えている。本科目ではアクティビティやロールプレイを通して、保育園や幼稚園の現場で必要な英語表現を学び、実際に運用できるよう指導する。英語圏の文化を理解した上で、英語の唄を習得することも目指す。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	Pre-Unit: Please Speak More Slowly 英語でコミュニケーションをするときの基本表現
第 2 回	Unit 1: Hi, I'm Yuri Tanaka
第 3 回	Unit 2: Where Is the Multi-purpose Room?
第 4 回	Unit 3: Good Morning. How Are You Today?
第 5 回	Unit 4: What Color Do You Like?
第 6 回	Unit 5: There's a Ladybug on the Leaf
第 7 回	Unit 6: It's Time to Play Outside
第 8 回	Unit 7: She Is Allergic to Eggs
第 9 回	Unit 8: You Should Go to the Bathroom
第 10 回	Unit 9: We Made Masks Today
第 11 回	Unit 10: If It Rains, What Happens?
第 12 回	Unit 11: What Shall We Do Today?
第 13 回	Unit 12: I Feel Feverish
第 14 回	Unit 13: This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
第 15 回	Unit 14: Thank You Very Much for Everything

予 習 ・ 復 習

・予習：テキストの単語の意味を調べ、問題をあらかじめ解いて分からない箇所を明確にしておく。

・復習：授業で学んだ英単語の発音練習をして、表現を自分のものにできるよう覚える。

履修上の注意

遅刻２回で欠席１回とみなす。授業開始から大幅に時間が過ぎても、参加の意欲があれば欠席扱いにしないので遅刻してもあきらめないで授業に参加すること。

到 達 目 標

・保育園や幼稚園で使われる会話表現を覚え、実際に使用できるようになる。
・相手に伝わる発音や英語のイントネーションが身につく。
・英語圏の文化を理解し、グローバル化が進む社会で教育活動に生かすことができる。
・マザーグースなどの英語の唄や、英語の手遊び唄を習得できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（50%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
表現力（50%）	場面に応じた多様な英語表現を用い、正しい発音で自分の意見を表明することができる。	相手に伝わる発音と適切な英単語で自分の意見を表現できる。	英語で最低限の意思疎通をすることができる。	英単語の並べ方や発音に改善が必要である。	英語を聞き取り、発音することができない。

評価方法

発表 50%、課題レポート 50%

テキスト

・教科書名：『Happy English for Childcare 保育のための基礎英語』
・著 者 名：土屋麻衣子
・出版社名：金星堂
・出 版 年（ISBN）：2015 年（978-4-7647-4008-2）

情報機器演習　～保育の現場で役立つ、情報機器の基礎を学ぶ～	原　かおり

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	必修	選択

授業概要

情報機器には、あらゆる現場で活用できる多様な機能が備わっており、保育の現場においても適切な情報活用能力が求められています。本授業「情報機器演習」では、Word、Excel、PowerPoint の 3 つのソフトウェアを中心に、文書作成や記録管理、資料作成など、保育現場で実践的に活用できる操作方法を学びます。あわせて、情報を取り扱う際の留意点や情報モラル、情報セキュリティについて理解を深め、現代社会における課題や問題点についても考察していきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　電子メールの作成とマナー
第 2 回	Word：基本操作（縦書きと横書き・印刷設定・テキストボックスの利用）データの種類
第 3 回	Word：図入り文書の作成（SmartArt・アイコン・図形の利用）、情報に関する法制度
第 4 回	Word：おたよりの作成（リストと行間）
第 5 回	Word：年間行事カレンダーの作成（表のある文書）
第 6 回	Word：クラス新聞の作成（段組とセクション）
第 7 回	Excel：基本操作（セルの書式・オートフィル機能・挿入・削除）
第 8 回	Excel：名簿の作成（テーブル・並び替え・フィルター）
第 9 回	Excel：成績表の作成（関数の利用）
第 10 回	Excel：条件付書式・印刷設定・ヘッダーとフッター・改ページプレビュー
第 11 回	Excel&Word 複合データ：エクセルの表を Word で利用する
第 12 回	PowerPoint：基本スライドの作成
第 13 回	PowerPoint：保護者会の進行プログラムのスライド作成
第 14 回	PowerPoint：卒園式プログラムのスライド作成（アニメーションの利用）
第 15 回	総合資料の作成・セキュリティと個人情報の保護

予習・復習

・予習：ブラインドタッチ習得に向けて、キーボードを見ずに入力することを意識し、ホームポジションを基準としたタイピング練習を継続的に行いましょう。

・復習：授業で配付した練習ドリル（データ）を活用し、指定のファイルを繰り返し操作して練習しましょう。また、授業内で作成したデータをもう一度自分で作成してみることで、操作手順や機能の理解を深めましょう。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。
遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
授業開始までに、パソコンにログインし、準備をすること（ID、パスワードを各自確認しておくこと。）
データを保存する USB を各自で用意してください。（初回の講義で説明しますので、初回は持参不要）

到 達 目 標

・基本文書の作成（Word）ができるようになること。
・表計算ソフトの基本（Excel）を理解し、活用できるようになること。
・用途を考え、使用する機能を選択できるようになること。
・個人情報を含む、情報の取り扱い方について理解すること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（基本操作）（30%）	基本機能を十分に理解し、効率よく操作ができる。	基本機能を十分に理解し、操作ができる。	ヒントを与えれば、理解し、基本操作ができる。	指示通りに操作はできるが、基本理解が不足している。	基本機能の理解が足りない。
応用力（発想能力）（30%）	使用したことのない機能でも自分で調べ活用できる。	応用機能を十分に理解し、機能を組み合わせて操作ができる。	ヒントを与えれば、理解し、応用操作ができる。	指示通りに操作はできるが、応用理解が不足している。	応用機能の理解が足りない。
読解力（判断能力）（30%）	作成者の意図を理解した上で、データをアップグレードできる。	作成者の意図を理解し、編集作業ができる。	ヒントを与えれば理解し、編集作業ができる。	指示通りに操作はできるが、自分自身で判断ができない。	どのようにしたらよいか自身で判断ができない。
情報リテラシー（10%）	危険を回避して行動でき、他者への提案もできる。	危険を回避して行動できる。	危険な状況であることは理解できる。	危険な状況であるか否か迷いがある。	危険な状況を判断できない。

評価方法

学期末試験（50%）　授業内課題（25%）　授業態度（25%）

テキスト

指定のテキストはありません。毎授業、プリントを配付します。
プリントを入れるファイル（A4 版）を用意してください（初回の講義で説明します）。
データを保存する USB を用意してください。（初回の講義で説明しますので、初回は持参不要）

生涯スポーツⅠ　～スポーツの楽しさと自己の身体を考える～	小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	必修	必修	必修

授業概要

「身体を動かす」ことに重点を置き、複数のスポーツにより展開し、それぞれのスポーツの特性に触れる。さらに、経験者が初心者を教えるなどにより、スポーツを全体として楽しむための方法について考え、運動・スポーツを通してコミュニケーションをとることの重要性を再確認できるよう指導する。また、身体のデータを収集し、その変化と体力との関連についても考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　授業内容、授業の特性上、必要な注意を伝達する。
第 2 回	自己の身体について（身体計測１）：　自己の身体的、体力的な現状を知るために、データの収集を行う。
第 3 回	バスケットボール①確認：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 4 回	バスケットボール②応用：　確認した個々の運動能力を考慮しながら、応用した練習を組み込み、簡単なゲームを行う。
第 5 回	バスケットボール③ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 6 回	バトミントン①確認：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 7 回	バトミントン②応用：　確認した個々の運動能力を考慮しながら、応用した練習を組み込み、簡単なゲームを行う。
第 8 回	バトミントン③ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 9 回	バレーボール①確認：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 10 回	バレーボール②応用：　確認した個々の運動能力を考慮しながら、応用した練習を組み込み、簡単なゲームを行う。
第 11 回	バレーボール③ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 12 回	ドッヂビー①基礎：　運動経験や個々の運動能力を確認しながら、種目に触れることから始め、簡単なゲームを行う。
第 13 回	ドッヂビー②ゲーム：　学習した内容や個々の運動能力を考慮しながら、ゲームを行う。
第 14 回	自己の身体の変化について（身体計測２）：　自己の身体的、体力的な変化を知るために、データの収集を行う。
第 15 回	まとめ

予習・復習

日常の運動習慣は、実技での活動の基礎となる。より充実したスポーツ活動を進めるために以下の事を心がける事。

・予習：日々の生活における健康管理に努め、健康な心身で授業に参加するよう努力する。

・復習：授業で感じたことを日常の生活に組み込む努力を行う。

履修上の注意

・ 遅刻（30 分以内の遅れ）は 3 回で 1 回の欠席とする。
・ 授業は体育アリーナで実施する。必ずジャージで、屋内履きで受講すること。ジャージ以外の服装、屋内履き（運動靴）がない場合は、安全上、出席を認めない。
・ 安全上の問題から適切に身だしなみを整えて出席すること。
・ 暑さが予想されることから、十分に体調管理の上で出席すること。
※履修者人数や環境条件に合わせて変更する場合がある。
※土足での授業参加を発見した場合、以降の履修の可否について検討する。

到 達 目 標

・ 身体計測を通して、自己の身体の変化について知ることができる。
・ 自らの運動能力（体力）の現状を実感できるよう、積極的に実技に参加することができる。
・ 仲間づくりや協調性を含めた、運動・スポーツの楽しさ、一生懸命に動くことによる爽快感を感じることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
授業への積極性（20%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
授業での協調性（30%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

・レポート（50%）
・提出物（20%）
・授業への貢献度（積極性と協調性）（30%）

テキスト

なし。
必要に応じて、適宜、プリントを配布する。

生涯スポーツⅡ　～今の自分とこれからの自分～	小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

授業概要

スポーツは、豊かな生活を営むための一つ活動である。身体活動を伴うスポーツは健康にとっても有益な活動である。健康に対する価値観はさまざまではあるが、生涯にわたって身体的に良好な状態であることがQOLを向上させることは明らかである。本講義では、スポーツの基礎となる健康や身体について、自己の身体、日常生活を記録するとともに分析し、自己の「今」を知る事から始める。そして、その基礎データをもとに身体について学習することで、スポーツなどの身体活動や健康などへ目を向けるきっかけとなるように講義を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　生涯スポーツⅡの授業の進め方や注意事項について伝達する。
第 2 回	健康について：　健康についての一般的な考え方や個々の捉え方、それとともに自分たちの状況について考える。
第 3 回	身体組成の測定の意義と方法：　自己の身体についての理解を深めるとともに、身体組成を速成する意義と方法について説明する。
第 4 回	自己の身体について（身体計測１）：　自己の身体的な現状を知るために、データの収集を行う。
第 5 回	自己の体力レベルの確認①：　自己の体力的な現状を知るために、実際に活動し確認をする。
第 6 回	身体の変化について：　測定した身体組成を基に、体重、BMI、体脂肪率を中心に理解を深める。
第 7 回	生活活動記録調査：　自己の生活を知るために、生活活動記録の記録を行う。
第 8 回	身体活動量（カロリー）の算出：　生活活動記録を基に、自己の日常の消費エネルギーについて算出してみる。
第 9 回	日常生活について：　自己の生活活動記録とエネルギー消費量を参考に、日常生活についての理解を深めの過ごし方を考える。
第10回	エネルギーの生成と消費、筋肉について：　身体のエネルギーの生成と消費、筋肉について学ぶ
第11回	呼吸循環系について：　生命維持に必要な身体活動について学ぶ
第12回	自己の体力レベルの変化の確認②：　自己の体力的な変化を知るために、実際に活動し変化の確認をする。
第13回	自己の体力レベルの変化の確認③：　自己の体力的な変化を知るために、実際に活動し変化の確認をする。
第14回	自己の身体の変化について（身体計測２）：　自己の身体的、体力的な変化を知るために、データの収集を行う。
第15回	まとめ

予習・復習

自分自身の日常の生活や身体活動が、健康維持・増進には大きな影響を与えている。このことから、日々の生活が予習であり復習となる。

・予習：毎日の気づきから、自己の健康に必要な課題を明確に持ち、生活する。

・復習：予習と授業内容から得た知識を実践し、自己の身体・生活の結果に反映させる努力をする。

履修上の注意

・遅刻（30 分以内の遅れ）は３回で１回の欠席とする。
・身体計測、体力レベルの確認時は、ジャージ、上履き等適した服装を必要とする（事前に連絡）。

到 達 目 標

・自己の身体、日常生活の「今」を明確にし、健康の基準となるデータから自己の身体や生活を見直すことができる。
・自己の身体、生活と健康との関連を検討し、生涯に渡っての身体、日常生活を考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（55%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（15%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（15%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイス があれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業での協調性（15%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的な取り組みがやや消極的である。	授授業内での学習に協調的な取り組みが消極的である。	授業内での学習に協調的な取り組みがみられない。

評価方法

・レポート（55%）
・提出物（30%）
・授業への積極性（15%）

テキスト

なし。
必要に応じてプリントを配布する。

知の技術　～教員・保育士養成基礎講座～

小山内・長沼・西･川喜田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	－	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

教員や保育士を目指す学生が初年次に身につけるべき以下の内容を講義する。
・学生としての学びの技術を習得し、本学で履修する科目内容への理解を深める
・社会人として求められる基本的なスキル（コミュニケーション力とプレゼンテーション力）を磨く

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　本学での学ぶ意義と授業形態、履修登録の方法を理解しよう
第 2 回	川短での学びの概要と各授業受講に指してのルールを知ろう（学生としての学び❶）
第 3 回	メディアセンターの機能、資料の探し方を知り活用しよう（学生としての学び❷）
第 4 回	ノート、レポートの書き方を身につけよう（学生としての学び❸）
第 5 回	ICT 活用の意義と注意事項を理解しよう（学生としての学び❹）
第 6 回	保育・教職課程学生としての情報活用の倫理を考えよう（SNS の利用、引用表記）（学生としての学び❺）
第 7 回	実習参加に際しての心構え、幼稚園の１日、日誌の基本を理解しよう（実習にむけての学び①）
第 8 回	地図、礼状等の書き方を身につけよう（実習にむけての学び②）
第 9 回	人前に立って話す準備をしよう（実習にむけての学び③）
第 10 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）について知ろう（学生としての学び❻）
第 11 回	「教育・保育学演習」の授業（ゼミ活動）を決めよう（学生としての学び❼）
第 12 回	個人調書を書こう（実習にむけての学び④）
第 13 回	実習生としてのマナー、言葉遣い、オリエン電話のかけ方を理解しよう（実習にむけての学び⑤）
第 14 回	模擬保育に挑戦しよう（実習にむけての学び⑥）
第 15 回	まとめ―「かわたんシート」を使って授業の振り返りをしよう（学生としての学び❽）

予 習 ・ 復 習

・予習：漢字学習を授業回ごとに指示されたペースで進める。
・復習：各回の授業内容に基づき、具体的に指示する。

履修上の注意

本授業は本学での学びの基礎となる事項であり、免許・資格取得と密接に関連した重要事項を扱うため、すべての回に出席し、求められる提出物を期限内に提出する必要がある。配布物はすべてファイルして保管すること。

さらに、1 年次後期に開講する「教育実習指導（事前事後）幼稚園／小学校」「保育実習Ⅰ・Ⅱ（事前事後）」は、本授業の内容を修得済であることを前提に進められるので、実習参加予定者は特に注意が必要である。

また、5 回・10 回の授業時に「漢字テスト」を行うので、授業回毎に伝える学習案内のペースに従って自習を進めること。

遅刻・早退３回で欠席１回の扱いとする。

到達目標

2年間の学生生活を有意義なものにするために必要な学びの態勢を整え、教員や保育士を目指すうえで不可欠な社会常識とマナー、および社会人としての基本的なスキルを身につける。
上記を踏まえ、具体的には以下5項目の知識や資質・能力の習得を目指す。
①スタディスキル（ノートテイキング、発言、グループ内での協働、講義内容の理解、ならびに期限内に課題提出ができる）
②スチューデントスキル（メールや電話、手紙等を使って、マナーを踏まえた報告・連絡・相談ができる）
③文章表現の基礎力（正しい漢字・文法により的確な文章作成ができる）
④情報リテラシー（メディアセンター、インターネット等を活用して多様な情報を収集し、モラルに則って活用することができる）
⑤保育・教育実践の基礎力（保育の観察・記録の基本を理解し、テーマに沿った保育実技のプレゼンテーションができる）

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
スタディスキル（20%）	ノートテイキング協働、課題提出内容に義務付けられた課題を積極的に行い、プレゼンテーションにおいて内容を理解し、講義内容を的確に説明できる。	ノートテイキング協働、課題提出内容に義務付けられた課題を積極的に行い、プレゼンテーションにおいて内容を理解し、講義内容を的確に説明できる。	ノートテイキング協働、課題提出内容に義務付けられた課題を積極的に行い、プレゼンテーションにおいて内容を理解し、講義内容を的確に説明できる。	ノートテイキング協働、課題提出内容に義務付けられた課題を積極的に行い、プレゼンテーションにおいて内容を理解し、講義内容を的確に説明できる。	ノートテイキング協働、課題提出内容に義務付けられた課題を積極的に行い、プレゼンテーションにおいて内容を理解し、講義内容を的確に説明できる。
スチューデントスキル（20%）	メールや電話、手紙等を適切に使い分け、相手に応じた報告・連絡・相談をなし、マナーを踏まえた対応ができる。	メールや電話、手紙等を適切に使い分け、相手に応じた報告・連絡・相談をなし、マナーを踏まえた対応ができる。	メールや電話、手紙等を適切に使い分け、相手に応じた報告・連絡・相談をなし、マナーを踏まえた対応ができる。	メールや電話、手紙等を適切に使い分け、相手に応じた報告・連絡・相談をなし、マナーを踏まえた対応ができる。	メールや電話、手紙等を適切に使い分け、相手に応じた報告・連絡・相談をなし、マナーを踏まえた対応ができる。
文章表現の基礎力（20%）	文法的に正しい文章を作成し、漢字・送り仮名を正確に使用できる。	文法的に正しい文章を作成し、漢字・送り仮名を正確に使用できる。	文法的に正しい文章を作成し、漢字・送り仮名を正確に使用できる。	文法的に正しい文章を作成し、漢字・送り仮名を正確に使用できる。	文法的に正しい文章を作成し、漢字・送り仮名を正確に使用できる。
情報リテラシー（20%）	情報収集の目的に応じて適切なメディアを選択し、情報を収集・分析・整理・発信できる。	情報収集の目的に応じて適切なメディアを選択し、情報を収集・分析・整理・発信できる。	情報収集の目的に応じて適切なメディアを選択し、情報を収集・分析・整理・発信できる。	情報収集の目的に応じて適切なメディアを選択し、情報を収集・分析・整理・発信できる。	情報収集の目的に応じて適切なメディアを選択し、情報を収集・分析・整理・発信できる。
保育・教育実践の基礎力（20%）	保育の基本を理解し、保育の観察・記録・評価の基礎的なスキルを身につけ、保育実践に応用できる。	保育の基本を理解し、保育の観察・記録・評価の基礎的なスキルを身につけ、保育実践に応用できる。	保育の基本を理解し、保育の観察・記録・評価の基礎的なスキルを身につけ、保育実践に応用できる。	保育の基本を理解し、保育の観察・記録・評価の基礎的なスキルを身につけ、保育実践に応用できる。	保育の基本を理解し、保育の観察・記録・評価の基礎的なスキルを身につけ、保育実践に応用できる。

評価方法

漢字テストおよび課題レポート　50%
授業時の提出物　30%
発表　20%

テキスト

・教科書名：【改訂2版】これだけは知っておきたい 保育の基本用語(漢字練習シート付)
・著者名：長島和代（編）　石丸るみ・亀﨑美沙子・木内英実（著）
・出版社名：わかば社
・出版年：2021年
＊『実習のてびき』『履修のてびき』（他に、必要に応じて資料を配布する）

国語(書写を含む)　～言語活動で国語力を高めよう～	佐内　信之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校における国語という教科の位置づけと内容の概略を理解する。さらに、言葉の手本となるべき教員自身の国語に対する意識を高め、思考力・判断力・表現力につながる言葉の力（話す力・聞く力、書く力、読む力）を確かなものにし、具体的な言語活動を通して各技能を磨き高めるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　国語「概説」
第 2 回	ことばの力1　話す力・聞く力
第 3 回	ことばの力1　書く力1－文字を書く－
第 4 回	ことばの力1　書く力2－文章を書く－
第 5 回	ことばの力1　読む力
第 6 回	文章のいろいろ　説明的文章
第 7 回	文章のいろいろ　文学的文章
第 8 回	文章のいろいろ　言語文化
第 9 回	ことばの理解　表記
第10回	ことばの理解　ことばのきまり
第11回	ことばの理解　語と意味
第12回	ことばの力2　音読の力
第13回	ことばの力2　コミュニケーションの力
第14回	ことばの力2　情報活用の力
第15回	ことばの力2　論理の力

予習・復習

・予習：授業計画にしたがって、事前に教科書の該当箇所を読んでおく。

・復習：課題には自分の感想や意見を自由に表出し、各自の課題解決能力を評価する。

履修上の注意

・授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。
・遅刻は３０分以内、遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・言語活動を通して国語力を構成する「考える力」「感じる力」を深める。
・日常の言語生活において「聞く・話す」「読む」「書く」という具体的な言語活動のスキルを高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限は理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート）（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業内レポート 70%、学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：言語活動中心　国語概説　改訂版－小学校教師を目指す人のために－
・著 者 名：岩﨑淳ほか
・出版社名：学文社
・出 版 年（ISBN）：2022 年（9784762031274）

社会　～社会科とは、いかなる教科か～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校の教育課程における社会科の役割や性格について講義する。具体的には、学習指導要領に掲げられている「教科の目標」および「各学年の目標及び内容」について、社会科という教科の歴史をふまえて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	社会科の目標（1）　小学校社会科の目標
第 2 回	社会科の目標（2）　「社会生活についての理解」
第 3 回	社会科の目標（3）　「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情」
第 4 回	社会科の目標（4）　「公民的資質の基礎」
第 5 回	学年の目標―構造と系統―
第 6 回	各学年の目標および内容（1）　第 3 学年および第 4 学年（その 1）
第 7 回	各学年の目標および内容（2）　第 3 学年および第 4 学年（その 2）
第 8 回	各学年の目標および内容（3）　第 3 学年および第 4 学年（その 3）
第 9 回	各学年の目標および内容（4）　第 5 学年（その 1）
第 10 回	各学年の目標および内容（5）　第 5 学年（その 2）
第 11 回	各学年の目標および内容（6）　第 5 学年（その 3）
第 12 回	各学年の目標および内容（7）　第 6 学年（その 1）
第 13 回	各学年の目標および内容（8）　第 6 学年（その 2）
第 14 回	各学年の目標および内容（9）　第 6 学年（その 3）
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。

遅刻 3 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

社会科とは、いかなる教科であるのかについて、十分に理解できるようになること。あわせて、初等教育における社会科教育の内容について指導できる能力の基盤を養うこと。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
論理的に文章で説明する力（30%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%

レポートの得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

算数　～教える立場から捉える算数の内容～

森田　大輔

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	−	選択必修	−

授業概要

本授業では，小学校算数科の内容について講義する。現行の学習指導要領において，小学校算数科には「A 数と計算」「B　図形」「C　測定」「C　変化と関係」「D　データの活用」という5つの領域があるが，それぞれの領域には内容の系統性が存在する。それを，「教える立場」から概観し，子どもが示す学習上の困難点を講義する。また，「算数をつくる」という立場に立つことで，算数の学び方や内容の系統性を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション，整数の概念と表記
第 2 回	整数の加法・減法
第 3 回	整数の乗法・除法
第 4 回	小数・分数の加法・減法
第 5 回	小数・分数の乗法・除法
第 6 回	整数・有理数・実数と計算
第 7 回	式の表現と意味，見積もりと概数・概算
第 8 回	図形の概念と操作
第 9 回	図形の計量：面積・体積，図形の学習水準論
第 10 回	量の概念と測定
第 11 回	長さ・重さ・時間と時刻
第 12 回	伴って変わる 2 つの数量の関係
第 13 回	2 量の割合
第 14 回	統計の考え
第 15 回	データの考察

予習・復習

・予習：テキストの該当箇所を読む

・復習：授業で学んだことをノートにまとめる，解けなかった問題を改めて解き直す

履修上の注意

・本授業では，しばしば問題演習を取り入れるが，その際一人で取り組むだけでなく，少人数またはグループによるディスカッションも適宜促す。「問題が解ける・解けない」という点だけでなく，主体的・対話的で深い学びを行うという観点から，自身の学びを見つめ直してもらいたい。
・授業開始から 20 分経過後に入室した学生は遅刻とみなす。なお，公共交通機関の遅延による遅刻はその限りではない。2 回の遅刻で 1 回分の欠席とカウントするので，注意すること。

到 達 目 標

・教える立場から小学校算数科の内容を捉え直し，指導上の困難点を理解することができる。
・「算数をつくる」という立場に立ち，小学校算数科の内容の系統性を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
「A　数と計算」に関する内容の理解（20%）	「A　数と計算」に関する内容や指導上の困難点を理解することができる。	「A　数と計算」に関する内容を理解することができる。	「A　数と計算」に関する内容を概ね理解することができる。	「A　数と計算」に関する内容を理解することが部分的にできる。	「A　数と計算」に関する内容を理解することができない。
「B　図形」に関する内容の理解（20%）	「B　図形」に関する内容や指導上の困難点を理解することができる。	「B　図形」に関する内容を理解することができる。	「B　図形」に関する内容を概ね理解することができる。	「B　図形」に関する内容を理解することが部分的にできる。	「B　図形」に関する内容を理解することができない。
「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容の理解（20%）	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容や指導上の困難点を理解することができる。	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容を理解することができる。	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容を概ね理解することができる。	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容を理解することが部分的にできる。	「C　測定」「C 変化と関係」に関する内容を理解することができない。
「D　データの活用」に関する内容の理解（20%）	「D　データの活用」に関する内容や指導上の困難点を理解することができる。	「D　データの活用」に関する内容を理解することができる。	「D　データの活用」に関する内容を概ね理解することができる。	「D　データの活用」に関する内容を理解することが部分的にできる。	「D　データの活用」に関する内容を理解することができない。
算数の学び方や内容の系統性の理解（20%）	「算数をつくる」という立場から，算数の学び方や内容の系統性を理解することができる。	算数の学び方や内容の系統性を理解することができる。	算数の学び方や内容の系統性を概ね理解することができる。	算数の学び方や内容の系統性を理解することが部分的にできる。	算数の学び方や内容の系統性を理解することができない。

評価方法

・リアクションペーパー(30%)
・レポート課題(30%)
・筆記試験(40%)

テキスト

・教科書名：新版　算数科教育研究
・著 者 名：算数科教育学研究会(編)
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2019 年(978-4-491-03681-6)

理科　～身につけておきたい理科の知識と実験技能～	長友　大幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	選択	－

授業概要

小学校学習指導要領を概説するとともに，教科書に取り上げられている教材を詳説する。その際には，可能な限り観察や実験を取り入れて指導する。そして，小学校において理科を指導する上で必要となる知識や技能，安全面での配慮事項など，教師として体得しておくべき基本的な素養の育成をはかるための講義を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション，小学理科の概要
第 2 回	学校および小学校学習指導要領における理科教育の目標
第 3 回	小学校理科の学習内容（A区分・B区分）
第 4 回	実験器具の取り扱い方と安全教育
第 5 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「物体の運動」
第 6 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「電気，磁石」
第 7 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「光，物質の性質」
第 8 回	A区分「物質・エネルギー」に関わる基本的事項「物質の変化」
第 9 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「植物の成長，生物と環境」
第 10 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「動物の成長，人の体のつくり」
第 11 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「大地の構成とその変化」
第 12 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「天気とその変化」
第 13 回	B区分「生命・地球」に関わる基本的事項「太陽，月，星の動き」
第 14 回	理科における環境教育と野外観察の方法
第 15 回	まとめ

第 4～14 回にかけて，実習や実験および野外観察を取り扱う。

予習・復習

・予習：事前に教科書に目を通しておくことが望ましい。

・復習：知識や実験の技能の定着を図る小テストを第 2 回目以降毎回行うので，それに対応できるように前時の学習事項の確認に力を入れ，本時の授業に臨むことが重要である。

履修上の注意

本授業では，実験・観察を取り入れることが多い。説明を聞かずに取り組むと事故につながることもあるので，原則として遅刻は認めないので留意すること。

後期の小学校実習のための条件科目「初等教科教育法（理科）」の授業は、本授業内容を理解していることを前提に進めるので、必ず本授業を履修すること。

到 達 目 標

１．小学校理科の各分野にわたる基礎的な教授内容を理解できる。
２．学習指導要領理科の目標，小学校理科の内容の構成と各学年の目標をふまえながら，児童の自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得することができる。
３．小学校理科で取り扱う実験の基本的な操作，危険の回避，実験準備の注意点，考え方などを理解できる。
４．児童の体験が予想される身の回りの事物現象，自然とのふれ合いを考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容を100%近く理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
技能（20%）	実験・観察方法が分からない他人にアドバイスできる。	何も参照せずに独自の能力で実験・観察を行うことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で実験・観察を行うことができる。	他人のアドバイスがあれば実験・観察を行うことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に実験・観察を行うことができない。
結果から考察したことを説明する能力（10%）	他人を説得する考察を記述することができる。	論理が通った考察を記述することができる。	不足する点があるが、考察を書くことができる。	最低限の内容について考察できる。	内容についての考察ができない。

評価方法

授業への取り組み（授業中の課題や実験への取り組み）20%、教師として必要な知識と技能の取得状況（定期試験）70%、小テスト 10%
欠席が１/３を超えた場合は，原則として評価の対象とはしないので充分注意すること。

テキスト

・教科書名：文部科学省検定済教科書「新しい理科」（小学校 3～6 年）の 4 冊
・出版社名：東京書籍　・令和 6 年度初版
参考資料：文部科学省『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説　理科編』（最新版）

生活　～体験を通して気づきの質を高める～	中野　英之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校低学年で設定されている教科「生活科」について、その成立、目標、学習活動例についての学習を通して講義を行い、低学年期の児童の学びについて考える。特に、本授業においては、生活科の９つの内容について、実際に具体的な活動を通して各内容の理解を深めるとともに、児童の気づきを促す環境構成の在り方について深く考察することを重視する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、生活科の歴史的背景と意義について講義する。
第 2 回	「生活」の内容と目標について講義する。
第 3 回	（1）「学校と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 4 回	（2）「家庭と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 5 回	（3）「地域と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 6 回	（4）「公共物や公共施設の利用」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 7 回	（5）「季節の変化と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 8 回	（6）「自然や物を使った遊び」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 9 回	（7）「動植物の飼育・栽培」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 10 回	（8）「生活や出来事の伝え合い」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 11 回	（9）「自分の成長」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 12 回	科学原体験について講義を行うとともに、活動を通して理解を深める①
第 13 回	科学原体験について講義を行うとともに、活動を通して理解を深める②
第 14 回	生活科の授業づくりの基礎について講義する。
第 15 回	授業全体の振り返りを行う。

予習・復習

・予習：学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでおいてください（週１時間）。
・復習：毎回の授業に関する振り返りシートを仕上げ、授業の振り返りを行ってください（週１時間）。

履修上の注意

・学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでください（週１時間）。授業後は授業で紹介する参考文献等も参考にしながら振り返りを行ってください（週１時間）。
・天候、履修者数などの理由で活動内容が前後あるいは変更になる場合もあります。
・ハサミ、のり、カッターナイフ、色鉛筆などが必要になりますので各自で用意しておくこと。
・20 分以内の遅刻は出席扱いとしますが、3 回の遅刻（各 20 分以内）で 1 回欠席したものとして扱います。

到 達 目 標

１．生活科の創設の過程と生活科のねらいを理解する。
２．生活科の目標、学習内容を理解する。
３．低学年における体験的な学習活動の事例について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容を理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
活動への積極的な参加（30%）	積極的に活動に参加し他者の学びや授業の充実に大きく寄与した。	積極的に活動に参加している。	概ね積極的に活動を行っているが多少の不足がある。	最低限の活動を行っている。	活動に参加できていない。
解決を文章で説明する力（振り返りシート）（30%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるものの、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

各授業で行う発表・授業の終わりに提出する振り返りシート（50%）※授業態度も含まれます。
試験（50%）

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領解説 生活編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2018 年 ISBN:978-4491034645
※指導要領は各自でダウンロードして印刷したものを使用してもよい。参考文献は適宜紹介します。

音楽Ⅰ

～保育・教育現場における音楽活動を行うための基礎理論と実践～

齊藤,児玉,佐藤(千),佐藤(良),
高梨,舘岡,萩原

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	必修	－	選択必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教員・保育者として，子ども達に楽しい音楽あそびを展開するために必要な音楽の基礎的な能力の育成を目指す。受講者を2グループに分け，クラス授業（45分）とピアノの個人レッスン（45分）を並行して行う。クラス授業では，音楽の基礎的な理論（楽典）とピアノ伴奏のための基礎演習，コード伴奏法などについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。個人レッスンでは，教育・保育実習や保育現場において使用頻度の高い歌唱曲や生活の歌（実習曲）を必修課題とし，ハ長調のコード伴奏を中心に，子ども達が楽しく歌うための伴奏技術を身に付けられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，童謡の歌唱及びリズム唱	個人レッスン
第 2 回	ピアノの演奏の基礎①・楽典①（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 3 回	Ⅰ・V_7 の和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典②	個人レッスン
第 4 回	ピアノ演奏の基礎②・楽典③（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 5 回	ピアノ演奏の基礎③・楽典④（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 6 回	ピアノ演奏の基礎④・楽典⑤（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 7 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7 の全調課題試験①（ピアノ演奏の基礎）	個人レッスン
第 8 回	「かえるのがっしょう」Ⅰ・V_7の全調課題試験②（ピアノ演奏の基礎），楽典⑥	個人レッスン
第 9 回	Ⅰ・Ⅴの和音による伴奏を様々な調に移調することで響きの違いを感じ取る，楽典⑦	個人レッスン
第 10 回	ピアノ演奏の基礎⑤・楽典⑧（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 11 回	ピアノ演奏の基礎⑥・楽典⑨（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 12 回	ピアノ演奏の基礎⑦・楽典⑩（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 13 回	ピアノ演奏の基礎⑧・楽典⑫（小・中学校教員の実務経験を生かした指導）	個人レッスン
第 14 回	「メリーさんの羊」Ⅰ・Ⅴの全調課題試験及び楽典のまとめ	個人レッスン
第 15 回	楽典試験	個人レッスン

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いですので，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいと思いましょう。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，かなり難しい内容もありますので，授業内で理解できない場合は積極的に質問し，しっかりと理解できるよう努めること。

履修上の注意

・卒業必修科目及び保育士資格取得の必修科目である。
・クラス授業は音楽室，個人レッスンはレッスン室でグループレッスンを行う。
・「クラス授業」「個人レッスン」のどちらかしか出席していない場合は欠席扱いとなるので注意すること。また，遅刻３回で１欠席扱いとするとともに，30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。
・音楽室及び個人レッスン室の使用マナーを守ること（飲食厳禁など遵守事項を守る）。

到 達 目 標

・音楽に関する基礎的な知識を理解する。
・教育・保育実習や保育現場での実践に対応できる力を身に付ける。
・子ども達自らが児童文化財を楽しむ体験を支えるための音楽的技能を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ピアノの技能①全調課題Ⅰ・V_7（10%） ピアノの技能②全調課題Ⅰ・Ⅴ（10%）	どの調もスムーズに，音楽的に表現しながら弾くことできる。	どの調もスムーズに弾くことができる。	弾き始めるまでに考える時間が長く，時々躓くが最後まで弾くことはできる。	躓きながら弾くことはできるが，間違いが多く，曲として成立していない。	全調課題の意味が理解できていないため，全く弾くことができない。
ピアノの技能③弾き歌い（30%）	オリジナル伴奏による弾き歌いを，歌，ピアノともに音楽的に工夫をしながら表現することができている。	コード伴奏による弾き歌いを，歌，ピアノともにしっかり演奏することができ，所々，工夫することができる。	所々，躓くが，コード伴奏による弾き歌いができている。歌声はか細く，伴奏に消されることがある。	コード伴奏による弾き歌いは躓きがかなり多く，途中から歌が消え，ピアノのみの演奏になっている。	コード伴奏で弾いているが躓きが非常に多く，曲の流れが止まる。弾き歌いの意味が理解できていない。
楽典の理解度（30%）	内容をしっかりと理解できており，困っている人が理解できるよう解説することができる。	説明内容をほぼ全て理解できている。	説明を聞いてすぐは理解できているが，時間が経つとあやふやになっている。	小学校音楽で学んできた内容の振り返りは理解できているが，調などの難しい内容の理解は不足している。	音符を読むことができず，小学校音楽で学んできた内容の振り返りも理解できていない。
学習意欲（20%）	必修課題は早々に終わらせ，積極的にレパートリーを増やしている。課題は期日内に全て提出している。	必修課題はただ弾くだけでなく，伴奏の方法や表現の工夫をしている。課題は期日内に全て提出している。	期日までに必修課題を終わらせることはできたが，期日ギリギリである。課題は概ね期日内に提出している。	期日までに終わらなかった必修課題が２～３曲ある。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	期日までに終わっていない必修課題が 1/3 以上ある。未提出の課題がある。

評価方法

・実技試験（全調課題(2 回)各 10%・期末実技試験 30%） ・楽典試験（30%） ・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・教科書名：『保育のためのやさしい子どもの歌 －弾き歌い・合奏・連弾・合唱－』
・著 者 名：有村さやか・今泉明美・望月たけ美 編著 ・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2023 年（9784623094714）
※入学前配布資料も持参すること
※配布された資料を保存するためのスクラップブック等を準備すること。ただし，クリアファイルは不可。

音楽Ⅱ　～保育・教育現場における音楽活動実践力の育成～	宮澤, 児玉, 佐藤(千), 佐藤(良), 舘岡, 萩原

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

子どもが楽しめる音楽あそびや歌唱表現活動を実践するために必要な音楽の基礎的な知識や演奏法や表現法を指導します。「音楽Ⅰ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施します。

クラス授業は、保育現場や小学校での音楽活動実践や中学校・高等学校の音楽科教員としての実務経験に基づいて、保育・教育現場を想定した指導を行います。音楽の基礎的な理論は、必修曲の「子どものうた」に関連付け、実際に演奏しながら学ぶことで生きた音楽の知識を身に付けます。また、歌唱や合唱発表を通して、楽曲のよさや美しさを生かした歌唱表現や身体表現、舞台発表の工夫について協働的に学びます。

ピアノの個人レッスンでは、保育・教育現場で扱われる頻度の高い「子どものうた」や「生活のうた」を必修課題とし、コード伴奏法を含めて、子どもが楽しく歌える弾き歌いの技能を身に付けます。また、音楽表現の幅を広げるため、選択曲として個々のレベルに応じた「子どものうた」の弾き歌いやピアノ曲の演奏にも取り組みます。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、歌唱①音取り（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（夏休みの課題）
第 2 回	歌唱②呼吸と発声の基礎（大学祭合唱発表曲）	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 3 回	歌唱③音楽表現の工夫（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 4 回	歌唱④身体表現の考案（大学祭合唱発表曲、必修曲）	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 5 回	【大学祭合唱発表（リハーサル・本番）】	
第 6 回	歌唱⑤「子どもの歌」歌唱表現法（必修曲）	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 7 回	【中間実技試験】「生活の歌」弾き歌い	個人レッスン（生活の歌・必修曲）
第 8 回	楽典・ソルフェージュ①リズムと旋律	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 9 回	楽典・ソルフェージュ②和音の響きとコードの種類	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 10 回	楽典・ソルフェージュ③音楽を形づくっている要素	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 11 回	楽典・ソルフェージュ④拍の流れとリズム	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 12 回	楽典・ソルフェージュ⑤音階の仕組みと調	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 13 回	楽典・ソルフェージュ⑥コード伴奏のアレンジ法	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 14 回	【ソルフェージュ試験】音名唱、リズム唱	個人レッスン（必修曲・選択曲）
第 15 回	個人レッスン（必修曲・選択曲）／　期末実技試験リハーサル（「子どもの歌」弾き歌い）	

予習・復習

・予習：ピアノの個人レッスンで指定された楽曲を次回の授業までに毎日15分以上練習しましょう。
・復習：既習曲を週2回程度練習し、自分自身のレパートリーとしていつでも弾ける状態に維持しましょう。
　　楽典やソルフェージュ（音名唱・リズム唱）等、クラス授業で学んだ内容も必ず復習しましょう。

履修上の注意

・卒業必修科目であるため、こども学科の学生は全員履修します。
・遅刻は3回で1回欠席とします。授業開始後20分以降は欠席扱いとなりますので注意してください。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなりますので注意してください。
・クラス授業では、【大学祭合唱発表（リハーサル・本番)】【ソルフェージュ試験】を、ピアノの個人レッスンでは「夏休みの課題」「生活の歌（実習曲)」「必修曲」の合格を必須とします。

到 達 目 標

・保育者、教員になるための音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・音楽の基礎的な理論について、実際に演奏する楽曲と結び付けて理解することができる。
・楽曲のよさや美しさを感じ取り、子どもの音楽活動にふさわしい表現を工夫しながら歌ったりピアノを演奏したりすることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いができる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら、弾き歌いができる。	音楽の流れが大きく止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
ソルフェージュ能力（20%）	常に一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ほぼ一定のテンポ感を維持し、スムーズな拍の流れの中で音程やリズムを正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをほぼ正確に伝えることができる。	ややテンポが崩れる箇所があるが、拍の流れを自分なりに感じながら、音程やリズムをおおむね正確に伝えることができる。	テンポが崩れる箇所が所々あり、全体の半分以上の音程やリズムを正確に伝えることができない。
音楽の基礎知識の理解（10%）	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解し、課題の記述内容も模範的な水準である。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解が不足している。	音楽の基礎的な知識や楽曲の音楽的特徴の理解ができていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%）…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%）…【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・ソルフェージュ試験 20%（音名唱 10%、リズム唱 10%）…【評価項目】ソルフェージュ能力
・個人レッスン待機課題 10% …【評価項目】音楽の基礎知識の理解

テキスト

・「音楽Ⅰ」に引き続き『保育のための やさしい子どもの歌』を教科書として使用します。
・オリジナルテキスト『音楽活動実践のための基礎力を身に付ける 音楽Ⅱ』を初回の授業で配布します。
・配布物を整理、保管できるファイルを各自用意してください。

音楽Ⅲ　～保育・教育現場における音楽活動実践力の育成～	宮澤, 佐藤(良), 高梨, 舘岡, 松山, 山口

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	選択	－	選択必修	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

「音楽Ⅱ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを 45 分交代で実施します。「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ内容を発展させ、保育者・小学校教員に必要な音楽活動実践力を育成します。

クラス授業は、保育現場や小学校での音楽活動実践や中学校・高等学校の音楽科教員としての実務経験に基づいて、常に保育・教育現場を想定しながら、歌唱やピアノ、ミュージックベルの実技と指導法や、責任実習を想定した音楽あそびや音楽授業の模擬実習、音楽の基礎的な理論を指導します。歌唱では主に音楽文化財である「季節のうた」と「わらべうた」を取り上げ、集団で歌ったり遊んだりする体験を通して、子どもの生活の中で歌い継がれてきたうたのよさや楽しさを味わい、音楽的特徴を生かした指導法について学びます。音楽の基礎的な理論では、「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」で学んだ音楽の基礎知識を生かし、楽譜作成ソフトを用いた記譜法を身に付けます。

ピアノの個人レッスンでは、子どもが親しみやすい行進曲や芸術曲、「季節のうた」の演奏に取り組み、楽曲のイメージを広げ、ふさわしい音楽表現を創意工夫しながら、ピアノ演奏の技能を高めます。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、「自己紹介の歌」づくり	個人レッスン（春休み課題）
第 2 回	弾き歌い①実習に向けたピアノ伴奏法（6 月の歌）	個人レッスン（マーチ）
第 3 回	弾き歌い②楽曲の特徴を生かした指導法（春の歌）	個人レッスン（マーチ）
第 4 回	弾き歌い③楽曲の特徴を生かした指導法（夏の歌）	個人レッスン（マーチ・季節の歌）
第 5 回	わらべうた遊び①「わらべうた」の音楽的特徴	個人レッスン（マーチ・季節の歌）
第 6 回	わらべうた遊び②伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（マーチ・季節の歌）
第 7 回	わらべうた遊び③伝承遊び体験と指導法	個人レッスン（マーチ・季節の歌）
第 8 回	【中間実技試験】「6 月の歌」弾き歌い	【中間実技試験】「マーチ」のピアノ演奏
第 9 回	【模擬実習】音楽遊び・音楽授業の発表と体験	個人レッスン（芸術曲）
第 10 回	弾き歌い④楽曲の特徴を生かした演奏法（秋の歌）	個人レッスン（芸術曲）
第 11 回	弾き歌い⑤楽曲の特徴を生かした演奏法（冬の歌）	個人レッスン（芸術曲）
第 12 回	【前後半クラス合同授業】楽譜作成ソフトを用いた記譜法　※ICT の活用	
第 13 回	ミュージックベル①基本奏法、「チャイム」づくり	個人レッスン（芸術曲）
第 14 回	ミュージックベル②指導法、楽曲のグループ発表	個人レッスン（芸術曲）
第 15 回	個人レッスン（芸術曲）　／　期末実技試験リハーサル（芸術曲のピアノ演奏）	

予 習 ・ 復 習

・予習：ピアノの個人レッスンで指定された楽曲を次回の授業までに毎日 15 分以上練習しましょう。

・復習：既習曲を週 2 回程度練習し、自分自身のレパートリーとして常に弾ける状態に維持しましょう。

履修上の注意

・実習派遣に関わる科目であるため、幼稚園教諭免許および保育士資格取得予定者は履修してください。
・遅刻は 3 回で 1 回欠席とします。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとなりますので注意してください。
・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなりますので注意してください。

到 達 目 標

・保育者、小学校教員に必要なの音楽的資質の向上を目指し、授業に主体的に取り組むことができる。
・楽曲のよさや美しさなどを感じ取り、楽曲のイメージを広げながらふさわしい音楽表現を工夫して弾き歌いやピアノ演奏をすることができる。
・幼児の音楽あそびや小学校低学年の音楽科授業を計画し、模擬実習として実践することができる。
・記譜法の基礎を理解し、ピアノ伴奏譜を作成することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（20%）	予習・復習や全ての課題に丁寧に取り組んだ上で、自主的な課題にも取り組み、クラス授業と個人レッスンに積極的、主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、クラス授業と個人レッスンに主体的な姿勢や態度で取り組んでいる。	全ての課題を提出し、指定された予習・復習におおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度がやや主体性に欠ける。	期日が守れなかったが全ての課題を提出し、指定された予習・復習にもおおむね取り組んでいるが、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度が主体性に欠ける。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、クラス授業と個人レッスンでの姿勢や態度も主体性に欠ける。
表現の創意工夫と演奏の技能（50%）	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	子どもの音楽活動にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が所々あるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いがやピアノ演奏できる。	音楽の流れが止まる箇所が多くあるものの、子どもの音楽活動にふさわしい表現を自分なりに工夫しながら弾き歌いやピアノ演奏ができる。	音楽の流れが止まる箇所が非常に多くあり、子どもの音楽活動にふさわしい表現の工夫もみられない。
音楽活動の計画・実践力（20%）	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や様々な配慮がみられ、模範的な水準である。	教育実習での音楽活動を想定した指導案を的確に作成でき、発表において子どもの興味を引き出す創意工夫や配慮がみられる。	教育実習での音楽活動を想定した指導案をおおむね的確に作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮がやや不足している。	教育実習での音楽活動を想定し、自分なりに指導案を作成できているが、発表において子どもの興味を引き出す工夫や配慮が不足している。	教育実習での音楽活動を想定していない不十分な指導案で、発表においても子どもの興味を引き出す工夫や配慮がみられない。
記譜法の理解（10%）	記譜法の基礎だけでなく、応用的な内容も自主的に学び理解している。	音楽の基礎的な知識を活用し、記譜法を十分に理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないが、記譜法をおおむね理解している。	音楽の基礎的な知識がやや足りていないため、記譜法の理解がやや不足している。	音楽の基礎的な知識が定着しておらず、記譜法が理解できていない。

評価方法

・受講態度 20%（クラス授業 10%、ピアノレッスン 10%）…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・実技試験 50%（中間実技試験 20%、期末実技試験 30%）…【評価項目】表現の創意工夫と演奏の技能
・模擬実習 20%（発表 10%、音楽活動の指導案 10%）…【評価項目】音楽活動の計画・実践力
・課題 10%（楽譜作成ソフト課題 10%）…【評価項目】記譜法の理解

テキスト

・教科書は「音楽Ⅱ」に引き続き、『保育ためのやさしい子どもの歌』を使用する。
・オリジナルテキスト『音楽活動実践力を身に付ける 音楽Ⅲ』を初回の授業で配布する。
・配布物を整理、保管できるファイルを各自用意すること。

音楽Ⅳ　～保育・教育編場における実践力及び指導力を身に付ける～	齊藤, 宮澤

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	1	選択	−	−	−

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

選択人数や学習内容により指導形態は変わるが，第 8 回までは合同授業と個人レッスンを，第 9 回からは合同授業を中心に行う。保育・教育現場での実践にすぐに役立つ教材の演習を通し，実践法や指導法を身に付けられるよう，全ての回について小・中・高等学校教員の実務経験を活かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，音色の違いに注目したクラッピングによるアンサンブル	
第 2 回	歌によるコミュニケーション①（斉唱と合唱「わらべうた」，交互唱「よろこびのうた」①）	
第 3 回	歌によるコミュニケーション②（交互唱「よろこびのうた」② 他）	個人レッスン①
第 4 回	初見演奏①，歌に合わせたリズム遊び	個人レッスン②
第 5 回	初見演奏②，ボディパーカッションとピアノによるアンサンブル	個人レッスン③
第 6 回	初見演奏③，保育実践での器楽教材の演習①連弾・重奏に向けて	個人レッスン④
第 7 回	初見演奏④，器楽合奏に向けて	個人レッスン⑤
第 8 回	中間実技試験	個人レッスン⑥
第 9 回	保育実践での器楽教材の演習②器楽合奏に向けた練習方法について	
第 10 回	保育実践での器楽教材の演習③器楽合奏を進めるために必要なことについて	
第 11 回	保育実践での器楽教材の演習④器楽合奏	
第 12 回	保育実践での器楽教材の演習⑤指揮法	
第 13 回	保育実践での歌唱・器楽教材の演習①劇あそび体験	
第 14 回	楽譜作成ソフトの活用（ピアノ伴奏の編曲・作成した楽譜の実演「楽器のお名前なぁに？」）	個人レッスン⑦（連弾）
第 15 回	保育実践での器楽教材の演習⑥連弾・重奏発表に向けて	個人レッスン⑧（連弾）

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。個人レッスンの一人あたりの時間は短いため，必ず練習をして臨むこと。練習をしていない状態では，個人レッスンを受ける資格がないに等しいです。

・復習：合格した課題曲はいつでも演奏できるよう，レッスン後も継続して練習すること。さらに，理論については，授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し，理解を深めること。

履修上の注意

大学で個人レッスンを受けられる最後の授業であるが，音楽Ⅰ～Ⅲのようにレッスンの先生はおらず，授業者がレッスンを行うため，これまで以上にレッスン時間は非常に短くなる。そのため，短時間のレッスンが有効に機能するよう必ず練習をして授業に臨むこと。また，履修者数によっては個人レッスンが受けられない日もあるが，その場合は個人練習をしっかり行うこと。さらに，連弾・重奏は一人で行うものではないため，積極的にペアやグループで合わせる時間を作って練習を進めること。

なお，履修希望者が多く定員に達した場合は，履修届の先着順とする。

また，遅刻3回で1欠席扱いとするとともに，30分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到 達 目 標

就職後の音楽活動について，柔軟な感覚と実践力を持って指導できるための力を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
表現の創意工夫 （中間・期末試験） （40%）	楽曲に相応しく，且つオリジナル性の高いアレンジや表現の工夫を考えることができる。	楽曲に相応しいアレンジや表現の工夫を考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることができる。	アレンジや表現の工夫を自分なりに考えることはできないが，アドバイスをもとに考えることができる。	アレンジや表現の工夫をすることができない。
表現の技能 （中間・期末試験） （20%）	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながら，完成度の高い演奏をすることができる。	自分で考えたアレンジなどを音楽的に表現しながらスムーズに演奏することができる。	自分で考えたアレンジなどを表現することはできるが，所々，躓くため，音楽の流れがやや止まる。	アドバイスを受けて考えた表現をしようとするが，躓きがかなり多い。	アドバイスを受けても考えることができず，全く演奏することができない。
保育者として必要な支援方法の理解 （20%）	保育者として必要な支援方法を理解し，上手く表現できない人に対してアドバイスすることができる。	保育者として必要な支援方法を理解し，どのような声掛けが必要かを考えることができる。	保育者として必要な支援方法は理解しているが，具体的な声掛けや手段を考えるまでには至っていない。	保育者として必要な支援方法をあまり理解しておらず，具体的な声掛けや手段を考えることができない。	保育者として必要な支援方法を全く理解しておらず，具体的に考えることができない。
学習意欲 （20%）	レパートリーを増やすなど自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	自主的に課題を設定することはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	自主的に課題を設定することができず，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	自主的に課題を設定せず，授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

・実技試験（中間実技試験（個人）・期末実技試験（連弾・重奏） 60%）
・保育者としての支援方法の理解（様々な活動の様子の観察）（20%）
・学習態度・練習状況・課題提出（20%）

テキスト

・音楽Ⅰ～Ⅲで使用した教科書
・その他，適宜，資料を配布する（A4サイズのスクラップブックやフラットファイルなどを準備すること）

図画工作　～子どもによりそう造形表現活動の実践～	木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	必修	－	選択	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

幼児期にふさわしい様々な造形表現活動を実際に行い、子どもの気持ちによりそい、その感性を育むとともに、深い学びを導くことのできる保育者となることを目指す。素材の変化を楽しみ自己表現を育てる。乳幼児期の感覚を追体験し、驚きや喜びを子どもと分かち合えるような活動について、高等学校美術科の実務経験に基づき、具体的に考える指導をする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業ガイダンス・「なぐりがきで描いてみよう」
第 2 回	「お面づくり１」園で遊ぶためのお面の構想
第 3 回	「お面づくり２」園で遊ぶためのお面の制作
第 4 回	「お面づくり３」園で遊ぶためのお面の制作・完成
第 5 回	「絵具あそび」（ローラー・スタンピング）
第 6 回	「ねんど遊び１」半立体的な作品の粘土での制作
第 7 回	「ねんど遊び２」立体的な作品の粘土での制作
第 8 回	ポートフォリオ制作
第 9 回	「お菓子の箱でつくろう」空き箱による立体物の制作
第10回	「線で遊ぶ」
第11回	「紙コップで遊ぶ」
第12回	「といかけことば」卒業後、園で行うことのできる言葉遊び　構想
第13回	「といかけことば」絵入り説明シート作成
第14回	「といかけことば」発表
第15回	ポートフォリオ制作・まとめ

予習・復習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

造形活動を楽しみ、指導の計画を立てることができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現し、子どもの気持ちを想像できるようになる。
指導者の立場で活動を考え、実践する準備ができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［作品制作におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

テスト（筆記と発表）：４0%
提出物：４0%
授業態度：20%

テキスト

・教科書名：ずこうことばでかんがえる（新装版）
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：H.A.B.
・出 版 年（ISBN）：2022 年（978-4990759667）
※１年次に使用したもの

家庭　～小学校家庭科で学ぶ「生活」とは何か～	佐藤　真弓

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	－	選択必修	－

授 業 概 要

小学校 5 年生から学ぶ「家庭科」について、教科の特性や現代の子どもたちの生活実態に触れながら、家庭科を学ぶ意義などについて検討していく。家庭科の基本理論である家政学の視点を知り、家庭科教育の理念や目的、特性を理解するように演習を織り交ぜつつ講義をする。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	本授業のガイダンス（受講者の確認、学んできた家庭科を振り返る等）
第 2 回	家庭科教育の本質（歴史的社会的背景からの考察）
第 3 回	家庭科教育の目的と理念
第 4 回	家庭科の内容構成、枠組み
第 5 回	家政学の環境概念と家庭科
第 6 回	家庭科の学習内容の検討①家族・家庭生活の基礎理論と家政学
第 7 回	家庭科の学習内容の検討②衣生活の基礎理論と家政学
第 8 回	家庭科の学習内容の検討③食生活の基礎理論と家政学
第 9 回	家庭科の学習内容の検討④住生活の基礎理論と家政学
第 10 回	家庭科の学習内容の検討⑤消費生活・環境の基礎理論と家政学
第 11 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討①情報機器の活用と生活時間調査
第 12 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討②衣服の着用と手入れ
第 13 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討③食事の役割と栄養
第 14 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討④ごみ処理調査
第 15 回	家庭科の学習内容に関する体験学習からの検討⑤家計簿作成

予 習 ・ 復 習

・予習：小学校学習指導要領解説（家庭編）の授業計画に該当する内容を読んでおくこと。新聞やインターネットから、家庭、生活に関する時事問題を探しておく。

・復習：授業で学んだこと、課題等を復習として各自行うこと。

履修上の注意

小学校教諭を目指す学生は履修をすることが望ましい。また「初等教科教育法（家庭)」を履修する前に、本授業を履修すること。

到 達 目 標

家庭科の基礎理論である家政学の思想を背景とした小学校家庭科の目標、教科内容等基本的な事項について理解できる。

身近な生活課題を発見しそれを解決するための方策を主体的に考えることができる。

家庭科の学習指導において必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を身に付けることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学習ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容の最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題発見能力（20%）	生活課題を発見しその根本原因を探ることができる。	生活課題を発見することができる。	課題を見つけることができるが、生活課題として認識できない。	他人のアドバイスがあれば課題を見つけることができる。	アドバイスがあっても課題を見つけることができない。
課題解決能力（20%）	生活課題の解決のために方策を検討し、主体的に実践できる。	生活課題の解決のための方策を主体的に考えることができる。	生活課題の解決のための方策を他人のアドバイスを受けて考えることができる。	生活課題の解決のための方策の検討ができない。	生活課題の解決の必要性に気づくことができない。
実践的な技能・態度（20%）	家庭科指導に必要な技能と態度を身につけ、自らの生活課題の解決にとりくむ。	家庭科指導に必要な技能と態度をもつことができる。	家庭科指導に必要な技能と態度が多少不足している。	最低限の家庭科指導に必要な技能と態度が身についている。	家庭科指導に必要な技能と態度が身についていない。

評価方法

期末レポート（40%)、授業態度（30%)、小課題レポートの評価（30%）から総合的に評価する。

テキスト

・新版 生活と家族―幸せに生きることのへ探究　　佐藤真弓
一藝社　　2025 年　　ISBN：978-4-86359-292-6

・小学校学習指導要領解説（平 29 年告示）家庭編　文部科学省
東洋館出版社　　ISBN：978-4-491-03466-9

体育　～遊ぶとは～	藤田　倫子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	－	選択必修	必修

授業概要

本授業では、子どもの運動遊びの体験と運動発達理論の理解を通して、乳幼児期の遊びについて考察・検討できるよう指導する。また、運動欲求を満たすための多様な動作の経験や運動量の確保、仲間と関わる遊び、遊びを創意工夫できる環境構成など、乳幼児期の運動遊びにおける留意点を理解する。そして、それらの体験と留意点の理解のもと、設定保育、自由保育での子どもの遊びへのかかわり方について考察する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション・子どもにとっての遊びとは【教室】
第 2 回	体を使った運動遊びの実践①（体つくり運動）（ふれあい遊び・集団遊び）【体育館】 自分の体がどのように動くのか、身体認識力を高め、理解する。また、2人組から集団へと遊びを展開し、仲間とふれあい遊ぶことの意義を理解する。
第 3 回	体を使った運動遊びの実践②（手あそび・リズム運動）【体育館】 手遊びを通じて粗大運動から微細運動への移行について理解するとともに、音楽やリズムを使って体を動かし、その意義を理解し、楽しさを体験する。
第 4 回	用具を使った運動遊びの実践①（ボール・タオル）【体育館】 ボールの特性を楽しみ、空間認知能力について理解する。また、身近にある用具を使え遊び、園だけではなく、家庭でも実践できる遊びについて理解を深める。
第 5 回	用具を使った運動遊びの実践②：（フラフープ・縄・マット・跳び箱）【体育館】 固定概念にとらわれない遊具の使い方について学ぶ。また、マットや跳び箱が楽しい用具であることを理解するために、様々な使い方について言及していく。
第 6 回	用具を使った運動遊びの実践③（パラシュート・運動会）【体育館】 集団で遊ぶ楽しさ、息を合わせて動く一体感を体験する。また、力を合わせて競技することから、応援する気持ちや踏ん張る気持ちを体験する。
第 7 回	運動会の計画①【教室】 用具の用い方について考察し、運動会種目を立案する。
第 8 回	運動会の計画②【教室】 運動会の運営について学び、運動会を計画する。
第 9 回	運動会の計画③【教室】 運動会の実践について、運営や種目、環境構成について考察する。
第10回	自由遊びと関わり①【体育館】 自由遊びを行い、その物的環境について考察する。
第11回	自由遊びと関わり②【体育館】 自由遊びを行い、その人的環境について考察する。
第12回	自由遊びと関わり③【体育館】 自由遊びを行い、安全な環境構成について考察する。
第13回	リズム体操の創作①【多目的室】: 子どもの発達を踏まえた、リズム体操を創作する。
第14回	リズム体操の創作②【多目的室】: 創作したリズム体操を発表し、考察する。
第15回	まとめ 子どもの遊びや運動場面での環境構成と保育者の関わりについて、考察する。

予習・復習

・予習：次の授業内容のトピックスについて調べる。
・復習：授業での実践や得られた知見を振り返り、指導上の留意事項や要点をまとめておく。

履修上の注意

・内容により、使用する施設は、教室と体育館、多目的室である。
・遅刻について、30 分以内の遅刻 3 回で、欠席 1 回とする。また、30 分以降の遅刻は、欠席となる。
・教室での活動時以外は、体育館シューズを持参し、運動のできる服装（普段着は認めない。動きやすい服装ではなく、運動用に作られた服装）で受講する。
・露出度の高い服装で、授業を受けることはできない。
・安全のため、アクセサリー、腕時計、スマートフォンなど、運動に支障をきたし、自他ともに傷つけてしまう可能性のあるものは身につけないこと。また、爪は清潔に短くしておく。爪の装飾は認めない。再三にわたる注意に応じない場合、また自他ともへの安全への配慮ができない場合は、授業を受けること（単位習得）はできない。

到 達 目 標

・運動遊びの重要性を理解し、楽しさを伝えることができる。
・子どもの発育発達を踏まえた段階的な運動遊びの計画を立てることができる。
・安全な環境を設営し、子どもの発育発達を踏まえた段階的な運動遊びの指導ができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を越えて、積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容は、最低限理解している。	授業内容についての理解ができていない。
課題作成・実践能力 （30%）	他学生の模範となり、他学生への助言ができる。	独自に課題を作成し、十分に実践することができる。	見本を参考にしながら課題を作成し、実践することができる	助言があれば課題を作成し、実践することができる。	助言や指導があっても課題作成や、実践することができない。
授業への積極性と協調性（20%）	自ら積極的に行動するだけでなく、周りの状況に配慮することができる。	授業内で十分に積極的に取り組む。	授業内で積極的な学修がおおむねできる。	授業内で積極的に学修に関わる努力はみられる。	授業内で学修への関りが消極的である。
授業での協調性（20%）	授業内で他学生と顕著に協調を図れる。	授業内で他学生と十分に協調を図れる。	授業内で他者と部分的に協調を図れる。	授業内で他者と協調を図る努力はみられる。	授業内で他者と協調を図れない。

評価方法

授業への取り組み：理解度（30%）・課題作成・実践能力（20%）・授業への積極性（20%）・授業での協調性 （30%）

テキスト

・適宜資料を配布する。

児童英語　～児童の特徴を踏まえた英語指導の実践～

蒔田　裕美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	2	選択	－	必修	－

授 業 概 要

2020 年より改訂版『小学校学習要領』が完全実施となり、小学校高学年で「外国語」が教科となった。また、中学年で「外国語活動」が導入されるなど、英語教育の教科化、早期化とともに低学年から外国語活動を実施する学校も増えている。

本科目では児童の特徴を踏まえ、幼稚園から小学校高学年まで英語を用いて指導できる教員を育成する。英語の指導に求められる 4 技能の向上を図り、実際の授業において必要となるクラスルーム・イングリッシュを習得し、授業で用いられる言語活動、歌、チャンツを指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	Unit 1: Hello!　非言語コミュニケーションについて（Nonverbal Communication）
第 2 回	Unit 2: Numbers and colors　多感覚を使用したアプローチ（Multisensory Approach）
第 3 回	Unit 3: Let's play! Let's move!　TPR 教授法について（Total Physical Response）
第 4 回	Unit 4: Quiz Show　クイズを通して英語の語彙・表現に慣れ親しむ
第 5 回	Unit 5: I like fruit.　カタカナ、和製英語の発音の違い
第 6 回	Unit 6: Reading a picture book　英語の絵本の読み聞かせ（Story-based learning）
第 7 回	Unit 7: Do you have a pencil?　ICT の活用法
第 8 回	Unit 8: What subject do you like?　時間割や教科に関する英語
第 9 回	Unit 9: My favorite place　道案内など課題を中心に構成する指導法（Task-based learning）
第 10 回	Unit 10: Let's help our family　家事や日常生活の英語
第 11 回	Unit 11: Let's celebrate!　行事などトピックを中心に構成する指導法（Theme-based learning）
第 12 回	Unit 12: She can skateboard. He can play the trumpet.　3 人称の代名詞
第 13 回	Unit 13: Ordering food at a restaurant　他教科と関連づけた Activity
第 14 回	Unit 14: Welcome to Japan　日本文化を英語で紹介する
第 15 回	Unit 15: How was your summer vacation　夏休みにしたことを尋ねたり答えられる

予 習 ・ 復 習

・予習：テキストの単語の意味を調べ、問題をあらかじめ解いて分からない箇所を明確にしておく。
・復習：授業で学んだ英単語の発音練習をして、表現を自分のものにできるよう覚える。

履修上の注意

小学校教職課程の履修者が望ましい。
「初等科教育法（英語)」を同時に履修することが望ましい。
遅刻２回で欠席１回とみなす。授業開始から大幅に時間が過ぎても、参加の意欲があれば欠席扱いにしないので遅刻してもあきらめないで授業に参加すること。

到 達 目 標

・幼児・児童が学ぶ語彙や表現を実際に運用できるようになる。
・歌やチャンツ、絵本、クイズ・ゲームなどの言語活動を知り、自ら活動を設計できるようになる。
・ALT（外国語指導助手）とスモールトークをしたり、活動の指示や説明をするクラスルーム・イングリッシュを使えるようになる。
・小学校で指導するための基礎的な文法事項を復習し、児童に指導できるようになる。
・英語の発音や音声変化を理解し、正しい音声を身につけることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（50%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
表現力（50%）	場面に応じた多様な英語表現を用い、正しい発音で自分の意見を表明することができる。	相手に伝わる発音と適切な英単語で自分の意見を表現できる。	英語で最低限の意思疎通をすることができる	英単語の並べ方や発音に改善が必要である。	英語を聞き取り、発音することができない。

評価方法

授業内確認テスト 50%、発表 30%、課題レポート 20%

テキスト

・教科書名：『Basic English for Teachers of Young Learners 楽しく教える子ども英語』
・著 者 名：泉惠美子他編
・出版社名：朝日出版社
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-255-15689-7）

教職･保育概論(教育制度等を含む)

～保育者・教員の魅力と責務～

西・川喜田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	必修	必修

授業概要

現代の乳幼児と子育て家庭を取り巻く環境を広い視野で捉え、保育・幼児教育の重要性や保育職・教職の意義と役割等を講義する。特に前半では、保育者の制度・法令上の位置付け、服務・身分の義務と職務内容に関する基本的事項を講義する。また、様々な事例や視聴覚教材をとおして、子どもにかかわる専門職として求められる資質・能力、及び保護者・家庭支援の姿勢や専門職としての学びの必要性が理解できるようにする。後半では、保育の意義と目的、及び保育実践を支える基本的な理論と諸制度を講義する。さらに、教育専門紙、保育図書の記者・編集者としての実務経験をもとに、現代の社会的コンテクストにより生み出されている子ども・家庭の多様な課題に、保育者・教員はどのような具体的貢献ができるのかということに言及する。

授業計画

第 1 回	**西①・川喜田①** **オリエンテーション**―保育、養護、教育等、基本用語を確認し「教育・保育」という言葉の意味を知る。子どもにとってのうれしい保育者・教員像を考える。
第 2 回	**西②公教育における教職・保育の社会的意義①** 公教育の目的とその担い手である教員・保育者の存在意義を理解する。
第 3 回	**西③公教育における教職・保育の社会的意義②** 教員・保育者に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解する。
第 4 回	**西④公教育における教職・保育の社会的意義③** 近代から現代までの教育観・保育観の変遷を踏まえ、今日の教員・保育者に求められる役割を理解する。
第 5 回	**川喜田②様々な保育施設①**―多様な保育施設、及び関連する諸制度にふれる。
第 6 回	**川喜田③様々な保育施設②幼稚園教諭の仕事と保育と準拠法**―多様な保育施設とそこで働く保育者の１日にふれ、保育者・教員をとりまく資格と制度を理解する。
第 7 回	**川喜田④様々な保育施設③保育士の仕事と保育と準拠法　**―多様な保育施設とそこで働く保育者の１日にふれ、保育者・教員をとりまく資格と制度を理解する
第 8 回	**川喜田⑤現代社会が求める保育・教育**―子どもたちの育ちを支えるために、指針・要領の改訂動向にふれ、「子ども主体」の保育・教育の意義を理解する。
第 9 回	**川喜田⑥計画と評価の基本**―なぜ計画･評価が必要なのか、保育･教育の現場ではどのような計画･評価が行われているのか、カリキュラムマネジメントの全体像を把握する。保育・教育における PDCA の意味・意義を考える
第 10 回	**川喜田⑦子どもの権利と保育者の倫理**―「児童の権利に関する条約」（子どもの権利条約）について考える。全国保育士会倫理綱領について知る。
第 11 回	**西⑤公教育制度の意義・原理・構造①** 公教育の原理を学び、公教育制度の法的・制度的仕組み理解する。
第 12 回	**西⑥公教育制度の意義・原理・構造②** 現代における教育行政機関の目的やその役割について理解する。
第 13 回	**西⑦教員・保育者の今日的課題①** 今日における社会の変化や状況を知り、それらが学校教育や保育現場にもたらした影響と、そこから新たに生じた課題（地域との連携や地域との協働含む）について理解する。
第 14 回	**西⑧教員・保育者の今日的課題②** 諸外国の教育事情や教育改革を学び、わが国と照らし合わせながら理解する。
第 15 回	**西⑨・川喜田⑧** これまでの総括を行い、試験に向けての整理と注意事項を説明する。

・予習：授業計画に沿って参考書籍や関連する保育のニュース記事を一読することを推奨する。
・復習：授業での配布資料等をノートに整理することで理解を深めることを推奨する。

履修上の注意

・振り返りテストでは手書きノート、授業での配布物の閲覧を可とします。
・授業期間中で1回、レポート作成課題を求めます。
・3回の遅刻で1回の欠席、20分以降の入室は欠席として扱います。

到達目標

・保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解する。
・保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できるようになる。
・保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解する。
・乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を説明できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解する。（25%）	保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を十分理解している。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を理解している。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像は理解しているが、制度上・身分上の義務を理解していない。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像も制度上・身分上の義務も理解していない。	保育者・教員に求められる職務内容の全体像、及び制度上・身分上の義務に関する理解度を問う課題を提出しない。
保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できるようになる。（25%）	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で、他者が理解できるように説明できる。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できる。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明するが、偏っており、十分でない。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明しようとするが、偏っているうえに、意味不明である。	保育者・教員にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で述べようとしない。
保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解する。（25%）	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を十分理解し、その実践例を述べることができる。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を理解している。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性を十分に理解していない。	保護者や地域社会、専門機関とはどのような人・組織を指しているのかを理解していない。	保護者や地域社会、専門機関との連携・協働の必要性の理解度を問う課題を提出しない。
乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を説明できるようになる。（25%）	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、各施設の社会的役割を他者が理解できるように、適切に説明できる。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を最低限は理解し、各施設の社会的役割を説明できる。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解しているが、各施設の社会的役割を説明できない。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解していない。	乳幼児期・児童期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項や、各施設の社会的役割の理解度を問う課題を提出しない。

評価方法

授業態度（発表・リフレクションシート・グループワーク等で評価）40%、試験40%、授業内レポート20%
※評価方法の詳細は第1回目に説明するので、必ず出席してください。

テキスト

・民秋言編著「幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立」萌文書林（川喜田）

教育原理　～教育とは何か～	西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	必修	必修	必修

授業概要

本授業では、「教育」とは何か？という根源的な問いを教育の理念や思想、歴史から捉える。学生自ら教育哲学を構築し、教育学の基本的な知識を体系的に習得することを目指す。同時に保育者や教育者など教育に携わる者に必要な基本的な知識を中心に講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：これまでの教育経験を振り返る
第 2 回	教育とは何か
第 3 回	教育の理念と目的（乳幼児時期の教育の特性も踏まえて）
第 4 回	子ども理解と地域・家庭（子ども家庭福祉との関連も踏まえて）
第 5 回	教育制度の基礎①　西洋の教育の歴史と思想
第 6 回	教育制度の基礎②　日本の教育の歴史Ⅰ（古代～近代）
第 7 回	教育制度の基礎③　日本の教育の歴史Ⅱ（近代～現代）
第 8 回	文部科学省の歴史と役割（教育法規・教育行政の基礎）
第 9 回	学校制度の多様化と学力観
第 10 回	教員養成の歴史と現在
第 11 回	諸外国の教育制度と世界の教育の課題
第 12 回	現代日本の教育と課題①　教育の国際化
第 13 回	現代日本の教育と課題②　多様な背景を持つ子どもへの教育
第 14 回	現代日本の教育と課題③　生涯学習社会における教育の現状と課題
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：前回の授業内容および配布された資料を見直しその確認を行うこと。

・復習：授業内容を振り返り知識の定着と疑問点を明確にしておくこと。

履修上の注意

・日頃から新聞やニュースなどを通して、教育問題や社会問題に関心をもつことが望ましい。
・授業開始から２０分までを遅刻とし、それ以後は欠席とする。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・教育の理念や歴史、制度についての基礎的な知識を体系的に習得し、その内容を説明することができる。
・今日の学校や子どもを取り巻く問題について、多角的な視点から捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	基本的な内容についての説明ができない

評価方法

学期末試験（50%）、授業内レポート・課題等（50%）により総合的に評価する。

テキスト

教科書は特に指定しないが、適宜必要に応じて参考資料などを紹介する。

教育心理学　～教育にかかわる現象や問題への心理学的アプローチ～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	必修	必修	－

授業概要

教育心理学とは、保育・教育の場で起きている現象や問題を心理学の視点から分析し、よりよい支援や対応につなげようと探究する学問である。

本授業では、幼児・児童の心身の発達を理解するとともに、子どもたち一人ひとりが大切にされる支援の在り方について講義する。また、理論的な理解にとどまらず実践力を身に付けるために、保育・教育の場で起きている具体的な問題を取り上げ、学生一人ひとりが深く考えたり、他の学生と話し合ったりする機会を設定することで、アクティブ・ラーニングの実現を目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	学習のメカニズム　条件づけとその応用
第 3 回	動機づけの基礎　やる気の心理学的理解
第 4 回	動機づけの応用　やる気を引き出し持続させる支援
第 5 回	記憶の分類　人間の記憶の多様性
第 6 回	記憶と思考　覚え方や考え方の偏り
第 7 回	学習指導　学習法・指導法
第 8 回	発達の理論　発達を見つめる枠組
第 9 回	人間関係と社会性の発達（1）　関係性の中での発達
第 10 回	人間関係と社会性の発達（2）　他者理解
第 11 回	パーソナリティの発達　自分らしさ
第 12 回	学級集団の理解と対応　学級集団づくり
第 13 回	学校不適応の理解と対応　いじめや不登校
第 14 回	教育評価　教育評価の目的と具体的方法
第 15 回	まとめ　教育心理学に基づいた保育・教育の在り方

予習・復習

・予習：授業の最後に次回予告した内容や授業計画に示された内容について、事前に学習しておくこと。
・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。
授業の内容によって、レポートを課すことがある。

履修上の注意

１．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
２．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
３．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
４．身近に乳幼児や児童がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察し、理解を深めることを期待する。

到 達 目 標

１．教育心理学の諸理論について、基本的事項を理解している。
２．教育心理学の知見に基づいて、自分の考えを文章で表現することができる。
３．教育心理学の知見に基づいて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
教育心理学の諸理論についての理解度（70%）	授業内容を超えて、自主的な学修ができている。	授業内容についてほぼ 100%理解している。	授業内容について理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限理解している。	授業内容について理解できていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（15%）	説得力のある文章で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のない文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを最低限表現できている。	文章で自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発言・議論する力（15%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・学期末試験　70%
・課題への取組（レポート等）　15%
・授業中の議論や発言等　15%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

保育・教育課程論　～保育・教育活動の基盤となるカリキュラムについて考える～

西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	必修	必修	必修

授業概要

本授業では、保育や教育活動の基盤となるカリキュラムの編成について、その意義や目的を捉えたうえで、子どもたちの育ちと学びを支えるカリキュラムのあり方について考える。保育所・幼稚園における保育・教育課程の編成に関する基本的な内容と、具体的なカリキュラムの展開が理解できるように講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：カリキュラムとは
第 2 回	カリキュラムの基礎理論
第 3 回	カリキュラムの意義と機能
第 4 回	カリキュラムの変遷
第 5 回	カリキュラムの編成
第 6 回	指導計画の基礎①　保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景
第 7 回	指導計画の基礎②　保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的考え方
第 8 回	全体的な計画と指導計画の関係性
第 9 回	全体的な計画の作成
第 10 回	指導計画の作成
第 11 回	指導計画の実際
第 12 回	保育記録・保育評価・カリキュラムマネジメント
第 13 回	保育士及び保育所の自己評価
第 14 回	保幼小の連携（生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録を含む）
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：授業の前に教科書を読み授業内容を確認して臨むこと。

・復習：授業内容を振り返り知識の定着を図ること。

履修上の注意

・日頃から、保育所、幼稚園、小学校に関する新聞記事やニュースに関心をもつことが望ましい。
・授業開始から２０分までを遅刻とし、それ以後は欠席とする。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・保育所や幼稚園におけるカリキュラムの意義や機能を理解し、説明することができる。
・保育所や幼稚園におけるカリキュラムの理論と実践を踏まえて、具体的なカリキュラムのあり方について考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	基本的な内容についての説明ができない

評価方法

学期末レポート課題（50%）、授業内レポート・課題等（50%）により総合的に評価する。

テキスト

・教科書名：『保育・教育カリキュラム論』
・著 者 名：佐藤康富　編著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN）：2020 年（978-4-909655-30-1）

発達心理学　～ヒトが人として生きるうえでの心の発達段階と課題～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	必修	必修	必修

授業概要

発達心理学とは、生物の一種である「ヒト」が、社会や文化を獲得した「人」として生き、死に至るまでの、心の発達過程の共通性と個別性を探究する学問である。

本授業では、生涯発達の視点から発達段階と発達課題について講義する。また、発達の共通性に関する理論的理解にとどまらず、発達の個別性に関する実践的理解を促すために、学生一人ひとりが自身の育ちを振り返ったり、他の学生と話し合ったりする機会を設定することで、アクティブ・ラーニングの実現を目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	発達の基本的理解　発達段階や発達課題
第 3 回	胎児期の発達と理解　生命の芽生えや出生をめぐる現代的な問題
第 4 回	乳幼児期の発達と理解（1）　認知的発達理論
第 5 回	乳幼児期の発達と理解（2）　アタッチメント理論
第 6 回	乳幼児期の発達と理解（3）　言葉と遊びの発達
第 7 回	乳幼児期の発達と理解（4）　自己概念の発達
第 8 回	乳幼児期の発達と理解（5）　仲間関係の発達
第 9 回	児童期の発達と理解　思考の深まりや学校における学びの発達
第 10 回	青年期の発達と理解　アイデンティティの発達
第 11 回	成人初期（若年期）の発達と理解　職業選択や家庭生活における発達
第 12 回	成人中期（壮年期）の発達と理解　職業生活や親としての発達
第 13 回	成人後期（高齢期）の発達と理解　認知機能の加齢変化や死生観の発達
第 14 回	発達におけるつまずきの理解　つまずきの理解と支援
第 15 回	まとめ　発達心理学に基づいた保育・教育の在り方

予習・復習

・予習：授業の最後に次回予告した内容や授業計画に示された内容について、事前に学習しておくこと。
・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。
授業の内容によって、レポートを課すことがある。

履修上の注意

1．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
2．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
3．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
4．身近に乳幼児や児童がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察し、理解を深めることを期待する。

到 達 目 標

1．発達心理学における発達段階や発達課題について、基本的事項を理解している。
2．発達段階や発達課題の特徴を踏まえて、自分の考えを文章で表現することができる。
3．発達段階や発達課題の特徴を踏まえて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
発達心理学の基本的事項についての理解度（70%）	授業内容を超えて、自主的な学修ができている。	授業内容についてほぼ 100%理解している。	授業内容について理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限理解している。	授業内容について理解できていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（15%）	説得力のある文章で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のない文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを最低限表現できている。	文章で自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発言・議論する力（15%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・学期末試験　70%
・課題への取組（レポート等）　15%
・授業中の議論や発言等　15%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

保育内容総論～保育における「領域」を総合的に捉え、実践を構想する～

川喜田昌代

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	必修	必修	－	必修

授業概要

乳幼児期の保育において育みたい資質・能力について学ぶとともに、遊びや生活を通して指導する保育の実際と指針・要領に示された領域のねらい及び内容とのつながりが理解できるように指導する。子ども主体の保育において、「養護と教育の一体的な展開」が不 可欠であることを理解できるようにする。また、遊びや生活を通した総合的な指導の構造・展開、 及び小学校以降の教育とのつながりを理解できるようにすることに重点を置く。多様な子どもを理解するための基礎知識を踏まえ、集団としての生活や遊びへとつなげるための保育実践上の工 夫を、学生自らが考えられるように指導していく。また、教育専門紙、保育図書の記者・編集者としての実務経験をもとに、現代の社会の子ども・家庭の多様な課題に、保育者・教員はどのような具体的貢献ができるのかということに言及する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	遊びの原理と保育内容 ―幼児の主体的な活動が尊重される保育・養護と教育・環境・遊びを介した総合性・発達の特性の視点から
第 2 回	保育の基本と保育内容 ―要領・指針に基づく保育の基本・要領・指針の各年齢段階の保育内容
第 3 回	保育内容と子ども理解 ―「子ども理解」とは・「子ども理解」と評価・子どもの育ちの理解する
第 4 回	発達を見通した指導計画の作成の理解 ―指導計画の基本的な考え方・指導計画の効果的な評価・子どもと行事
第 5 回	保育の基本的な考え方 ―環境を通して行う保育・子どもの主体性を尊重する保育・個と集団の発達を踏まえた保育・養護及び教育を一体的に行う保育
第 6 回	生活や遊びを通しての総合的な保育と領域 ―保育者と一緒にやってみたいこと・家庭での体験を再現・「やってみたいけど，やりたくない」葛藤・繰り返しと予想外のこと・リレーを通しての仲間意識
第 7 回	年齢による主な姿と保育内容① ――０・１・２歳児クラスの保育内容と実践
第 8 回	年齢による主な姿と保育内容②――３・４・５歳児 ―他者の思いへの気付き・遊びの広がりと試行錯誤・仲間のみんなが納得する解決策・子どもの経験を支える保育実践
第 9 回	家庭や地域との連携 ―現代社会における親の子育ての状況と園に求められる役割・「共に育てる」ための家庭との連携・家庭との連携から地域との連携へ
第 10 回	小学校との接続 ―幼児期の教育と小学校教育をつなぐことがなぜ大切なのか・スタートカリキュラムとその授業実践
第 11 回	多様な保育と保育内容 ―長時間保育・異年齢の子どもたちが関わって過ごすということ・特別な配慮を要する子どもの保育・多文化共生の保育
第 12 回	保育内容を深める遊びと教材 ― 保育内容を深める教材とは・遊びと教材・遊びを見る視点・教材研究を生かした指導案作り
第 13 回	保育の基本と保育内容の歴史的変遷 ―日本の保育の歴史と保育内容・保育の制度化と保育内容の変遷・要領・指針の刊行の背景と保育内容の変遷・要領・指針の改訂（改定）の背景と保育内容の変遷
第 14 回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領と保育内容
第 15 回	まとめ ―全体を通しての復習

予習・復習

・予習：授業計画に沿って参考書籍や関連する保育のニュース記事を一読することを推奨する。
・復習：授業での配布資料等をノートに整理することで理解を深めることを推奨する。

履修上の注意

・試験では手書きノート、閲覧を可とします。
・授業期間中で1回、レポート作成課題を求めます。
・3回の遅刻で1回の欠席、20分以降の入室は欠席として扱います。

到 達 目 標

・保育内容の歴史的変遷や意義を理解して幼稚園教育・保育所保育の基本を踏まえ、保育内容の意義や指導の考え方について理解し、説明できる。
・一人一人の子どもの発達と学びを見通した保育内容を構想し、具体的な援助や指導の在り方を考えることができる。
・各領域のねらい及び内容を踏まえて、子どもの実態に即した環境構成、教材、指導上の留意点等を考慮した指導計画を作成し、実践できる。
・保育実践の振り返りを通して、一人一人の子どもの発達に必要な体験を保障する保育内容への改善を図る視点を身に付けることができる。
・保育内容の多様な展開について理解を深め、その現代的課題を主体的に考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
乳幼児の保育 における養護 と教育の一体 的な展開の意 味を理解して いる。（20%）	乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解し、実践例を説明できる。	乳幼児の保育における養護と教育の一体的な展開の意味を理解している。	「養護と教育」の言葉は理解し ているが、その 一体的な展開の 意味を理解して いない。	「養護と教育」の言葉・概念を 理解していな い。	「養護と教育」の概念理解度を 問う課題を提出できない。
「指針・要領における「5 領 域」「3 つの視 点」を踏え、 乳幼児が経験し身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を自分なりの言葉で説明できる。（20%）	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、 乳幼児が経験し 身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を十分に理解し、実践例を説明できる。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、 乳幼児が経験し 身に付けていくねらい・内容と指導上の留意点を説明できる。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を踏まえ、 乳幼児が経験し 身に付けていくねらい・内容と 指導上の留意点を説明できな い。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」を理解していない。	「指針・要領における「5 領域」「3 つの視点」の理解度を問う課題を提出しない。
保育における計画・評価の考え方を理解し、子ども主体に配慮した保育の計画を作成できる。 （20%）	保育における計画・評価の考え方を理解し、子ども主体に配慮した保育の計画を創意工夫を凝らして作成できる。	保育における計画・評価の考え方を理解し、子ども主 体に配慮した保育の計画を作成できる。	保育における計画・評価の考え方は理解しているが、子ども主体の保育を展開する計画を作成ができない。	保育における計画・評価の考え方を理解していない。	保育における計画・評価の考え方の理解度を問う課題を提出しない。
乳幼児期の保育と小学校の教科教育とのを理解し繋がり理解している。（20%）	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習へとスム ーズにつなげて いくための総合 的な指導の実践 例と意義を説明できる。	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習へとスム ーズにつなげていくための総合 的な指導の実践例を説明できる。	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習につなげるための配慮の必要性は理解しているが、実践例を構想することができない。	幼児期の育ち・学びを低学年期の学習へとつなげていくための配慮の必要性を 理解していな い。	幼児期の育ち・学びと低学年期の学習のつながりについて、理解度を問う課題 を提出しない。
子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した保育の構想を、自分なりの言葉で表現できる。(20%)	子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した保育の構想を、他者が理解できるよう に説明できる。	子どもの多様性を理解し、一人ひとりの権利を尊重した保育の構想を、自分なりの言葉で表現できる。	子どもの多様性を理解しているが、一人ひとりの権利を尊重した保育の具体例が構想できない。	子どもの多様性及び子どもの権利を理解していない	子どもの多様性及び子どもの権利の理解度を問う課題を提出しない。

評価方法

試験 40%、授業態度 40%、授業内レポート 20%　※詳細は第1回目に説明するので、必ず出席してください。

テキスト

・教科書名：保育内容総論（アクティベート保育学）
・著 者 名：汐見稔幸（監修），大豆生田啓友（監修，編集），北野幸子（編集），砂上史子（編集）
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：978-4623096909

保育内容（健康）　～自ら生き生きと動く子どもを育てる～	藤田　倫子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	－	必修

授業概要

幼稚園教育要領および保育所保育指針における、心身の健康に関する領域の「健康」を中心に、その内容を理解するように講義する。乳幼児期の子どもの健康について、からだと心の発育・発達、体力・運動能力と動きの獲得、休養(睡眠)・栄養(食事・排便)・運動(あそび)の側面から、規則正しい生活というものを具体的に考えていく。また、あそびに関わる時の留意事項、安全に関する事項を理解する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、乳幼児の健康：授業内容や進め方について確認する。
第 2 回	領域「健康」のねらいと内容：テキストをもとに、領域「健康」の概要を理解する。
第 3 回	生活リズム（休養・栄養・運動）：基本的な生活習慣の確立に向けて、休養・栄養・運動の関わりについて紐解いていく。
第 4 回	心と体の発育発達：乳幼児期の心身の発育発達や運動発達について理解する。
第 5 回	体型（やせ・肥満の実態と予防・改善方法）：子どもの体格調査に関する資料を参考に、現状と課題を明確にする。
第 6 回	視力（視力低下の要因と予防方法）：子どもの視力低下に関する資料を参考に、現状と課題を明確にする。
第 7 回	体力・運動能力と動きの獲得：子どもが生き生きと動き、生活する力を身に着けていくために、必要な体力・運動能力の向上について理解する。
第 8 回	病気・アレルギー：生活習慣との関連やアレルギーについて調べ、理解する。
第 9 回	健康教育：子どもの健康教育について、乳児期、幼児期、学童期に分けて調べ、考察する。
第 10 回	安全管理・安全教育：園での安全管理、感染症予防、交通安全、災害対応などについて、資料や文献をもとに学ぶ。
第 11 回	性に関する教育：子どもが性や生に健康的に適切に向き合うことができるように、幼児期の性教育の特徴を理解する。
第 12 回	遊びへの関わり：保育者や教員として、子どもの遊びにどのようにかかわるのか、事例をもとに考察する。
第 13 回	保育者の役割と保育者自身の健康： 子どもの健康をはぐくみ守るための保育者や教員の役割について、考察する。また、保育者自身の健康の維持増進についても言及し、考察する。
第 14 回	子どもの健康と関連する法律・計画・ガイドライン： 子どもを守るための法律やガイドラインなどについて、理解を深める。
第 15 回	まとめ：これまで学習してきた内容を確認し、それらについてどのように感じ、どのように実践していこうと考えるのか、まとめる。

予習・復習

・予習：次の授業の事前学習として示された項目を調べて、授業に臨むこと。
・復習：授業中の重要ポイントを振り返り、現代社会の課題と関連付けて自分の考えをもつ。授業での実践や得られた知見を振り返り、要点をまとめる。

履修上の注意

・遅刻について、30 分以内の遅刻 3 回で、欠席 1 回とする。また、30 分以降の遅刻は、欠席となる。
・授業中に積極的に発言し、考えを表明する。またその上で、子どもの健康を育むために保育者として何ができるのかを模索し続けること。
・授業時に必ず教科書を持参すること。

到 達 目 標

①子どもの健康と心身の発育発達について理解し、説明できる。
②子どもの生活習慣（休養・栄養・運動）について理解し、説明できる。
③保育・幼児教育における安全管理・安全教育を理解し、説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を越え積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解ができていない。
授業への積極性（50%）	自ら積極的に行動するだけでなく、周りの状況に配慮することができる。	授業内で主体的に発言し、積極的に取り組むことができる。	授業内での発言や、積極的に取り組もうとする意欲がある。	授業内では、最低限の発言や取り組みはみられる。	授業内で学修への関わりが消極的である。

評価方法

授業への取り組み：授業への積極性（50%）
筆記試験：理解度（50%）

テキスト

＜教科書＞
・教科書名：＜ねらい＞と＜内容＞から学ぶ　保育内容・領域　健康
・著 者 名：清水将之・相楽真樹子
・出版社名：わかば社
・出 版 年：2018 年
・ISBN：978-4-907270-21-6
※教科書の他、適宜資料を配布する。

保育内容(人間関係)　～子どもと保育者でつくる人間関係～	岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本授業では、乳幼児の人間関係について、毎回、乳幼児の園生活の映像資料を紹介し、人と関わる力や心の働きが育つ過程の長期的な見通しが持てるように指導する。保育士の実務経験に基づき、それを支える保育者の関わりについて具体的な指導・援助の行為とその背景にある心の働きを見取ることができる見方を指導する。さらに現代の家庭や地域における人間関係の特徴と課題について、保育を営む上で基本的な認識を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：人間関係とは何かを解説する
第 2 回	乳幼児期の「人間関係」がその後の「人間関係」に及ぼす影響
第 3 回	保育における「人間関係」を学ぶ-領域「人間関係」-
第 4 回	保育者が作る「人間関係」-保育者が築く「人間関係」-
第 5 回	新入園児と保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 6 回	遊びを支える保育者と人間関係-グループで事例検討-
第 7 回	こどもが遊びに夢中になるになる人間関係-グループで事例検討-
第 8 回	こどもの一人遊びを捉える-グループで事例検討-
第 9 回	こどもの創造性を支える人間関係-グループで事例検討-
第 10 回	一人のこどもと関わる保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 11 回	年齢別のこどものケンカの意味を探る-グループで事例検討-
第 12 回	見せる保育とは？-グループで事例検討-
第 13 回	行事に向けたこどもと保育者の人間関係-グループで事例検討-
第 14 回	人間関係の育ちを見通した保育計画を考える-グループワーク-
第 15 回	多様化する社会の人間関係-保育者として学び合い、育つとは-まとめ

予習・復習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

履修上の注意

・映像資料で使用するワークシートを保管するファイルを用意する。
・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で欠席１回とする。
・グループワークでは、グループ内での積極性を重要視する。
・テキストは、「子どもと人間関係」と同じものを使用する。

到 達 目 標

・人と関わる力が育つ過程について、乳児期から幼児期の終わりまでの見通しを理解する。
・人間関係が育つ保育の基本的なあり方について、保育者の意図を見取って理解する。
・多様化する保育の特徴と課題について理解し、向き合う姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（10%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解出来る。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容について理解出来ていない。
課題解決能力（30%）	自身の解決策と他者からの意見を含めて課題を解くことができる。	自身の力で課題を解くことができる。	教科書や他者の意見を参考にすれば課題を解くことができる。	他者からアドバイスを受けることで課題を解くことができる。	他者のアドバイスや教科書があっても課題を解決する事ができない。
課題を文章で説明する力（レポート）（60%）	他者を説得する内容が記述する事ができる。	論理が通った説明文を記述する事ができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない。

評価方法

学期末試験（レポート）60%　　授業内グループワーク 30%　　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：資質・能力を育む保育内容領域人間関係-こどもにとっての人間関係とは-
・著 者 名：編者：齊藤崇
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年　978-4-909378-51-4

保育内容(環境)　～子どもが育つ環境を見つめよう～	織壁佐和子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	必修	－	必修

授業概要

本授業では、幼児を取り巻く多様な「環境」を保育内容の一領域として捉え、子どもの発達や遊びとの関係から理解を深める。身近な自然環境や人的環境・物的環境など多様な環境要素について、理論を踏まえながら学修する。また、0・1・2歳児の環境理解や幼児教育の現代的課題にも触れ、保育者として環境構成を構想・判断する力の育成を目指す。

授業計画

第1回	ガイダンス　―保育内容（環境）とは
第2回	環境を通して行う教 育2
第3回	子どもを取り巻く環境　アフォーダンス
第4回	自然との関わり①　身近な環境
第5回	自然との関わり②　栽培
第6回	自然との関わり③　飼育
第7回	園環境における環境構成①　保育環境
第8回	園環境における環境構成②　ものとの関わり　物的環境
第9回	園環境における環境構成③　人との関わり　人的環境
第10回	身近な素材を用いた保育①　有能感・汎用性
第11回	身近な素材を用いた保育②　素材を使ったおもちゃ
第12回	身近な素材を用いた保育③　情報と施設
第13回	身近な素材を用いた保育④　標識・文字・数量・図形
第14回	0.1.2歳児の世界と環境
第15回	幼児教育の現代的課題

予習・復習

・予習：次回の授業内容を確認し、子どもの環境との関わりを視点をもってテキストを中心に予習する。
・復習：講義を受けて、学修内容を振り返り、子どもと環境の関わりを基に考察する。

履修上の注意

積極的参加と協働が求められる。受講準備が必要な回もあるため指示を確認し、遅刻・欠席なく取り組むこと。

到 達 目 標

・幼児を取り巻く多様な環境の特性を理解し、発達や遊びとの関係を説明できる。
・理論を踏まえて人的・物的・自然環境を捉え、環境構成の意図を考察できる。
・学修内容を基に、年齢や発達段階に応じた保育環境を構想・表現できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識・理解（20%）	保育内容「環境」の理念や特性を深く理解し、理論と具体例を関連付けて説明できる	保育内容「環境」の理念や特性を理解し、内容を適切に説明できる	基礎的な知識を理解し、要点を押さえた説明ができている	基礎的な内容を理解し、説明しようとする姿勢が見られる	基礎的な知識や概念の理解が十分でない
思考・判断（20%）	子どもの姿や発達を的確に捉え、根拠をもって環境構成の意図を判断できる	発達や遊びを踏まえ、環境構成について妥当な判断ができる	一定の視点から環境を捉え、基本的な判断ができている	限られた視点ながら、環境構成について考えようとしている	環境構成について適切な判断に至っていない
技能・表現（20%）	学修内容を踏まえ、具体的かつ創意工夫のある保育実践として表現できる	学修内容を指導計画や模擬保育に適切に表現できている	基本的な技能や表現を用いて保育内容を示すことができる	基礎的な技能を用い、表現しようとする姿勢が見られる	技能や表現が十分に身についていない
関心・意欲（20%）	課題意識をもって主体的に学修に取り組み、学びを深めようとしている	意欲的に授業や課題に取り組み、学修姿勢が安定している	必要な学修活動に継続して取り組んでいる	指示を踏まえ、学修活動に取り組もうとしている	学修活動への参加が十分でない
社会性・人間性（20%）	・　他者を尊重し、協働的に学修を進める姿勢が一貫して見られる	周囲と協力し、責任をもって学修活動に取り組んでいる	基本的な協調性やルールを意識して行動している	周囲と関わりながら学修に参加しようとしている	学修に必要な基本的態度が十分でない

評価方法

課題・振り返り・試験・参加態度などを総合評価する。
学期末試験 50%　提出物及びレポート 40%　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：新・保育シリーズ 保育内容「環境」
・著 者 名：浅野由子他
・出版社名：学術出版社
・出 版 年（ISBN）：978-4-7806-1427-5

保育内容(言葉)　～子どもの言葉の発達を理解し支える～	佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	－	必修

授業概要

保育内容の領域「言葉」の目的・ねらい・内容について、および0歳から6歳までの具体的な子どもの姿を理解した上で、乳児・幼児期に身につけたい言葉への感覚や言葉で表現する力を養うための保育活動を構想し、指導方法の立て方を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　―演習授業の特徴・保育の基本と保育の専門性― 保育内容（言葉）とは…シラバスの内容説明（授業シート配布）
第 2 回	言葉の発達理論① 言葉の獲得を支える環境…メディア・文化財の関わりについて
第 3 回	言葉の発達理論② 乳幼児の言葉の発達を支えるさまざまなもの、話し言葉と書き言葉の機能・発達・保育展開
第 4 回	児童文化財① 絵本と紙芝居…共通点と相違点、種類と活用例
第 5 回	児童文化財② わらべ歌と童謡…“遊び”を通じて言葉への感覚を養う
第 6 回	児童文化財③ さまざまなシアター教材…ペーパーシアターの制作
第 7 回	児童文化財④ ペーパーシアターの実演と活用時の留意点（指導案作成に向けて）
第 8 回	言葉あそび① 言葉あそび教材の種類と特徴、活用が求められている背景
第 9 回	言葉あそび② 言葉あそびの実践
第 10 回	言葉あそび③＋児童文化財④ 言葉あそびを主題とした「絵本」、「素話」の意義と練習
第 11 回	児童文化財⑤ 「素話」の実演
第 12 回	指導法① 絵本の読み聞かせの仕方と絵本の選び方
第 13 回	指導法② 読み聞かせの練習と「指導案」の説明
第 14 回	指導法③ 指導案の作成と絵本の読み聞かせ実演
第 15 回	指導法④ 絵本の読み聞かせ実演と指導案の修正と提出

予習・復習

・予習：配布資料や教科書の授業回内容の読み込み、実演や発表の準備

・復習：制作物の改良や授業内容の振り返り

履修上の注意

・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・グループワークを含む実演に際しては、事前によく相談して、十分に練習してから臨むこと。
・制作物の準備や改良は、授業時間外に行うこと（他の授業時も同様）。
・制作課題で使用する材料や道具を、各自で授業時に持参すること。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート」を記入し提出すること。

到 達 目 標

・保育内容の領域「言葉」の意義、ねらい、内容を踏まえて子どもの発達を理解する。
・領域「言葉」に関する具体的な場面を想定して教材を選択し、指導法を作成できる。
・児童文化財（絵本・言葉あそび・シアター教材等）について、実演を含む基礎的な知識を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（30%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
保育活動の企画力と文章表現力 指導案、レポート（30%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	難点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	難点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな難点がある
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目だつ
保育教材制作力 ペーパーシアター・言葉あそび教材（10%）	時間内に独創的で模範的な教材を作成できる	時間内に保育のねらいに沿う教材を作成できる	時間超過だが、ねらいに沿う教材を作成できる	時間超過で独創性にも欠けるが課題は提出する	提出しない、または提出期限を大幅に超過する

評価方法

・実技など授業時の課題（ペーパーシアター、言葉あそび、絵本の読み聞かせ、素話、指導案など）60%
・課題レポート 20%
・受講態度（「授業シート」の記載内容を含む）20%

テキスト

・教科書名：保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」
・著者名：馬見塚昭久、小倉直子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出版年（ISBN）：2022 年（4623092518）

保育内容(表現・音楽)　～保育者として必要な音楽表現の理論と実践～　齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	必修	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

幼稚園や保育園で日常的に行われている音楽表現について,『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「表現」をふまえながら理論的・経験的に理解を深めるとともに,その指導法を修得できるようにする。また,子どもの学びの連続性を確保するためには保幼小連携の視点が大切となる。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとして保幼小連携の在り方についても考える。楽器の奏法や歌唱,創作活動,舞台発表については,小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス,楽器で奏でる①～太鼓あそび及び太鼓の基本奏法,声で奏でる①わらべうたあそび～
第 2 回	楽器で奏でる②～長胴太鼓と小締太鼓でアンサンブルをつくろう（創作お囃子）～
第 3 回	楽器で奏でる③～創作お囃子の「なか」の部分を完成させよう～
第 4 回	楽器で奏でる④～創作お囃子を練る～
第 5 回	楽器で奏でる⑤～創作お囃子を完成させる～
第 6 回	舞台発表のリハーサル及び本番（舞台セッティング・演奏・舞台撤去等の体験）
第 7 回	舞台発表の振り返り,世界の音楽教育メソッドを知る,手で奏でる・身体で奏でる①～手あそび～
第 8 回	手で奏でる・身体で奏でる②～手話の歌・リトミック～
第 9 回	声で奏でる②～童謡をア・カペラで 100 曲演習～
第 10 回	楽器で奏でる⑥～様々な打楽器の音を聴き,基本奏法を知ろう～
第 11 回	身近な素材で奏でる①～身の回りの音素材探し（ICT の活用を含む）～
第 12 回	身近な素材で奏でる②～身の回りの音から音楽へ（ICT の活用を含む）～
第 13 回	絵本と音楽～絵本と音楽の関係について考え,絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 14 回	絵本と音楽～好きな絵本に音・音楽をつけてみよう～
第 15 回	絵本に音・音楽をつけながら読み聞かせの発表をしよう

予習・復習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには日々の練習が欠かせない。必ず練習をして授業に臨むこと。

・復習：クリアした課題はいつでも演奏できるよう,継続して練習すること。さらに,理論については難しい内容もあるため,授業内で理解できない内容があった場合は積極的に質問し,理解を深めること。

履修上の注意

・大学祭での舞台発表は，普段の授業とは異なる学びを得ることができるため，練習，準備，本番の全てに出席することを必修とする。
・グループやペアなど仲間と協力して活動を進めること。
・積極的に様々な音楽表現を経験すること。
・遅刻 3 回で 1 欠席扱いとする。また，30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到 達 目 標

・領域「表現」における音楽表現の扱いについて学び，そのねらいと内容を理解する。
・子どもの歌 100 曲をア・カペラで歌うことができる能力，幼児が親しみやすい打楽器の奏法技能，即興表現の能力，音・音楽づくり(創作)能力を修得する。
・想像力と創造力を伸ばす。
・世界の音楽教育メソッドについて理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
器楽表現の技能（期末試験）（30%）	楽器の奏法を理解し，自由に演奏することができる。	楽器の奏法を理解し，演奏することができる。	楽器の奏法は理解しているが，上手く演奏することはできない。	楽器の奏法を理解しているものもあるが，自己流のものもあり上手く演奏することができない。	楽器の奏法は全く理解しておらず，自己流で音を鳴らすことしかできない。
歌唱表現の技能（期末試験）（10%）	指定数以上の曲を覚え，どの曲も正しく歌うだけでなく，イメージなども考え表現することができる。	指定数の曲を覚え，どの曲も正しい音程・リズムで歌うことができる。	指定数の曲を覚え，歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	指定数の曲を覚えたが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	指定数の曲を覚えておらず，元々知っている曲以外は歌うことができない。
表現の創意工夫（絵本と音楽による表現発表）（20%）	日頃から日常に溢れる音を意識して聴き，音楽表現や保育の中でどのように生かすことができるかを考え，創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持ち，創作活動に生かすことができる。	身の回りの音に関心を持つことはできるが，創作活動に生かすことはあまりできない。	身の回りの音にあまり関心を持つことができず，創作活動に生かすことはほぼできない。	身の回りの音に全く関心がなく，自分で考えて創作活動をすることができない。
音楽教育についての理解度（レポート）（20%）	世界の様々な音楽教育に関心を持ち，その内容を十分に理解した上で，保育にどのように生かすことができるかを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち，内容を理解し，保育との繋がりを考えることができる。	世界の音楽教育に関心を持ち，大まかな内容は理解しているが，保育との繋がりを考えることはあまりできない。	世界には様々な音楽教育があることは理解しているが，内容及び保育との繋がりに関する理解は乏しい。	世界の音楽教育に関心がなく，保育との繋がりがあることを理解することができない。
学習意欲（20%）	グループ活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められても，ほとんど何も発言することがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。

評価方法

期末実技試験（40%），絵本と音楽による表現発表（20%），レポート（20%），学習態度・課題提出（20%）

テキスト

・教科書名：『保育者のための表現あそび　－音楽・身体・造形のアイディアー』
・著 者 名：若谷啓子 編・齊藤淳子・渡辺敏明・桐原礼 著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-909655-70-7）
※その他，適宜，資料を配布する（A4 サイズのスクラップブックやフラットファイルなどを準備すること）

保育内容(表現･造形) Ⅰ ～子どもに関わる造形表現の基礎～	木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	必須	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするための授業である。そのために、自分が表現するだけではなく園児に対してどのようにかかわっていけばよいのかを、高等学校美術科の実務経験に基づき、授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	授業スケジュールと材料・用具の説明(情報機器及び教材の活用を含む)
第 2 回	色紙を使った「自分の名前デザイン」
第 3 回	色彩表現 I 色の三原色を使った色彩あそび
第 4 回	色彩表現 II 色の三原色と白・黒を使った色彩あそび
第 5 回	色彩表現 III 色の三原色を使った絵画あそび
第 6 回	色紙と絵具を使った絵画遊び
第 7 回	幼稚園教育要領について
第 8 回	絵の活動を考える I 幼稚園でできる絵画の制作
第 9 回	絵の活動を考える II 幼稚園での絵画活動 導入のプレゼンテーション
第 10 回	絵の活動を考える III クラス単位での模擬授業
第 11 回	絵の活動を考える IV クラス単位での壁面装飾風共同制作
第 12 回	絵画制作 ごしごしあそび かたつむりを描く
第 13 回	絵画制作 どこから描いたらいいのあそび
第 14 回	絵画制作 こすりだしあそび フロッタージュなどの技法習得
第 15 回	おなまえ絵本制作

予 習 ・ 復 習

・予習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

・復習：教科書や保育雑誌に定期的に目を通す。

履修上の注意

保育内容(表現・造形)Ⅰの履修者が受講する。
絵の具セットを毎回持参する。
ハサミ、のりは毎回持参する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

造形活動を楽しむことができるようになる。
感じたことや考えたことを自分なりに表現できるようになる。
指導者の立場で活動を考えられるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［作品制作におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

テスト（筆記と発表）：４0%
提出物：４0%
授業態度：20%

テキスト

・教科書名：ずこうことばでこたえましょう
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：H.A.B.
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4990759674）
※「こどもと表現」でも使用しているもの

保育内容（表現・造形）Ⅱ

～保育者の視点と子どもとの視点を生かした造形表現の実践～

佐藤　牧子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	必修	－	選択必修

授業概要

授業を通して、学生自身が心身を開放して造形表現を楽しむこと、その際に感じたこと・気づいたこと・考えたことを、保育者の視点と子どもの視点をもって考察することにより、多様な子どもの個性に寄り添う造形表現活動を実現できるようになることを目指す。本授業では、そのために必要な素材・画材・技法、環境等の理解を深め、環境を通して行う保育における造形表現活動を学生自身が体験を通して理解することができるように進める。さらに、授業を通して学んだことやポートフォリオ等の記録を生かして、幼児の造形表現活動を「立案-計画」し、模擬保育として「実践」する。実践後の振り返りを通して、造形表現活動の面白さを再認識して、今後の実践に生かすことができるようにする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業ガイダンス、○○風 自己紹介カードの作成と発表
第 2 回	「色・形・光・影であそぶ」 ～身近な環境の中で、色・形・光・影を捉える～
第 3 回	「○○に見えるかもしれない、から始まる世界の創造 」～造形における見立て遊びの実践～
第 4 回	「ポートフォリオの制作①」 ～見せる記録を作る～
第 5 回	「新聞紙であそぶ」 ～素材の可能性を探る～
第 6 回	「おなまえ絵本」の発表
第 7 回	「ポートフォリオの制作②」 ～見せる記録を作る～
第 8 回	「自然物であそぶ」 ～身近な自然素材を造形素材として捉える～
第 9 回	「フロッタージュであそぶ」～表現技法を通して身近な環境を造形表現に取り入れる～
第 10 回	「ポートフォリオの制作③」 ～見せる記録を作る～
第 11 回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育①」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第 12 回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育②」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第 13 回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育③」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第 14 回	「指導計画と実践から学ぶ模擬保育④」 ～保育者の視点・子どもの視点を磨く～
第 15 回	まとめ、振り返り

予習・復習

・予習：次回の授業内容に合わせて、教科書や資料に目を通し、イメージもって授業に参加すること。
　　必要に応じて、素材を集めたり、活動内容を考えたりするなどの準備を行って参加すること。
・復習：リフレクションやポートフォリオで得た「気づき」と「課題」を次の授業や実践に生かすこと。
　　造形表現の見方・考え方を生かして、日常生活や身近な環境を見つめ直すこと。

履修上の注意

・保育内容（表現・造形）Ⅰの履修者が受講する。
・共通のスケッチブック（B4）を使用する。
・デジタルカメラ（スマーフォフォン可）を必ず持参する。
・ハサミ・のり・クレヨン・絵の具などの画材・道具や、使用する素材については都度指示する。
・遅刻 30 分で欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

・造形表現活動の面白さ（醍醐味）を保育者の視点と子どもの視点をもって体験して理解を深める。
・素材、画材、技法、環境等の理解を深め、保育における造形表現活動を構造的に捉えて、多様な活動を立案・展開できるようになる。
・ポートフォリオの作成を通して、人に見せることを意識した記録が作れるようになる。
・子どもの多様な個性に応えられるような造形表現活動を具体的に立案-計画-実践できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度［リフレクションシート等］（30%）	考察を元に、次の活動に生かすための具体的な考えやアイデアを示すことができる。	感じたこと、気づきを元に、考察ができる。	感じたこと、気づきを書くことができる。	気づきが書かれていない。	リフレクションシートの提出がない。
表現力［ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ・模擬保育等］（30%）	場に応じたオリジナリティーのある表現ができる。	相手の理解と興味を引き出す表現ができる。	相手を意識した表現になっていない。	伝えるために必要な記載や準備が不十分である。	ポートフォリオの作成、模擬保育に取り組んでいない。
実践力［授業、模擬保育等］（40%）	リーダーシップを発揮して、積極的に場の「構成」及び「雰囲気作り」を行なうことができる。	アイディアを出して積極的に活動に参加し、実践することができる。	活動の目的を理解して実践ができている。	活動の目的を理解せずに実践している。	活動に参加していない。

評価方法

提出課題（30%） 学期末課題（30%） 授業態度（40%）

テキスト

テキストの指定なし。必要に応じて資料を配布する。
【参考図書】
・教科書名：『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第 2 版』
・著 者 名：北沢昌代・畠山智宏・中村光絵
・出版社名：開成出版
・出 版 年（ISBN）：2024 年（ISBN:9784876035533）

子どもと健康　～子どもの「健康」にむけて～	小山内, 藤田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	－	－

授業概要

保育内容の領域「健康」のねらい・内容を基に、子どもの発達や特徴と生活習慣の結びつきや安全管理の観点から理解するよう、保育者の役割について講義する。幼児期に健康な心と体を身に付けるために必要な知識や技能を養うための保育を検討・実践できるようにする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	「子どもと健康」のオリエンテーション 健康の定義と幼児期の健康の意義：　健康の概念について学習するとともに、子どもにとっての健康について知る。
第 2 回	乳幼児期の体の発達と運動発達の特徴などの健康課題：　子どもの健康を考えるにあたり、幼児期の子どもの身体的な発達について知る。
第 3 回	乳幼児の心の発達と基本的な生活習慣の形成とその意義：　子どもの健康を考えるにあたり、幼児期の子どもの心の発達を知るとともに、基本的な生活習慣について知る。
第 4 回	乳幼児の健康、心と体や生活習慣ついての課題と対策の検討（ICT の活用を含む）：　子どもの健康、生活習慣の疑問についてＩＣＴやインタビューを用いて掘り下げる。
第 5 回	幼児期の運動発達の特徴、意義と注意事項：　子どもにとって必要な運動を学習するとともに、意識すべき内容について知る。
第 6 回	幼児期における多様な動きの獲得について：　子どもにとって必要なさまざまな動きの獲得とその意義について知る。
第 7 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　①作成（ICT の活用を含む）：　学習した内容を踏まえた運動遊びをグループで検討する。
第 8 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　②作成（ICT の活用を含む）：　学習した内容を踏まえた運動遊びをグループで作成・準備する。
第 9 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　③発表・実践：　学習した内容を踏まえて作成した運動遊びを発表（実践）する。
第 10 回	領域「健康」から考える運動遊びの検討　④振り返り：　発表（実践）を踏まえて、振り返りをする。
第 11 回	幼児の安全教育・健康管理に関する基本：　子どもの安全を守るために必要な安全教育と安全管理について知る。
第 12 回	幼児期のケガの特徴：幼稚園・保育園・こども園での子どものケガの特徴について、データを読み解く
第 13 回	危険の理解と安全管理、リスクとハザード：　危険について理解を広げるために、リスクとハザードについて学び、その違いについて知る。
第 14 回	幼児期の安全管理、健康管理についての検討（ICT の活用を含む）：子どもの安全、ケガやン管理の疑問について ICT やインタビューを用いて掘り下げる。
第 15 回	「子どもと健康」のまとめ

予習・復習

・予習：必要な授業内容を確認し、授業に備える。特に、事前配布資料については必ず準備をした上で授業に臨むこと。
・復習：学習内容を再度確認し、学習内容の定着に繋げる。特に事前準備をした内容については、授業内での再確認を忘れないこと。

履修上の注意

・遅刻は3回で欠席1回とする。
・話し合いには積極的に参加し、自分の意見と他者の意見を摺り合わせる中で学びを深めていくように努力すること。

到 達 目 標

領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。
・　乳幼児期の健康課題、健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
・　乳幼児期の体の発達的特徴と基本的な生活習慣の形成とその意義について説明できる。
・　幼児期の安全教育・健康管理の基本を理解し、幼児期のけがの特徴や病気の予防について説明できるとともに、危険に関するリスクとハザードの違いと安全管理を理解する。
・　日常生活における幼児の動きの経験や多様な動きを獲得することの意義を理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（15%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（15%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイス があれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業への積極性（10%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
授業での協調性（10%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的な取り組みがやや消極的である。	授業内での学習に協調的な取り組みが消極的である。	授業内での学習に協調的な取り組みがみられない。

評価方法

テスト（筆記）：50%
提出物：30%
授業への貢献度、授業態度、発表：20%

テキスト

教科書名：改訂版　〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ　保育内容・領域　健康、
著 者 名：清水将之、相楽真樹子、
出版社名：わかば社、出 版 年：2018年
ISBN　9784907270216

子どもと人間関係　～子どもにとっての人間関係～	岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

領域「人間関係」の指導の基礎となる基礎理論として発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解できるように講義する。保育士の実務経験に基づいて、適時DVDの視聴、事例を通して子どもの育ちの姿について講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	現代社会と人間関係－こどもを取り巻く人間関係・社会システムとの関係について－
第 2 回	現代のこどもを取り巻く影響と人間関係－保護者、家族、地域と人間関係について－
第 3 回	保育・幼児教育の基本－保育とは何か？領域「人間関係」について－
第 4 回	乳幼児の「人間関係」－子どもの発達と「人間関係」・他の領域との関係について－
第 5 回	乳児保育の視点－乳児の発達、「人間関係」とのつながりについて－
第 6 回	1歳以上3歳未満児の「人間関係」－1歳以上3歳未満児の発達、領域とのつながりについて－
第 7 回	3歳以上の「人間関係」－3歳以上の発達、「人間関係」のねらいと内容について－
第 8 回	領域「人間関係」と10の姿－自立、協同、道徳・模範意識、社会性のつながりについて－
第 9 回	様々な人との「人間関係」－異年齢児との関わり、生活、遊びの中での人間関係について－
第10回	幼保小の接続－「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「資質・能力」について－
第11回	保育者としての「人間関係」での援助－個々のこどもの育ち、集団と人間関係ついて－
第12回	領域「人間関係」と指導計画－乳幼児の各年齢における指導計画－
第13回	多文化保育－多文化、異文化と「人間関係」について－
第14回	支援を必要とするこども－困難を伴う保育、障がいのあるこどもの保育－
第15回	まとめ－遊びと「人間関係」の指導計画の立て方－

予習・復習

・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
・復習：授業内容をまとめ、専門用語を覚える。

履修上の注意

・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・進歩状況により授業内容が変更する可能性がある。

到 達 目 標

① 幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
② 幼児期の遊びやの中で育つ人と関わる力の発達について、保育者との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。
③ 自立心の育ち、協同性の育ち、家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足はある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解が出来ていない。
文章で説明する力（レポート）（50%）	他者を説得する内容が記述できる。	論理が通った説明分を記述することができる。	不足する点があるが説明文を書くことができる	最低限の内容について説明できる。	内容について説明できない。
受講態度（20%）	自身の解決策と他者からの意見を含めて課題に取り組むことが出来る。	自身の力で課題を解くことができる。	積極的に授業に参加し授業内の課題に取り組むことが出来る。	授業内の課題に積極的に取り組み問題解決できる。	授業内容を理解した上で積極的に課題を解決できる。

評価方法

学期末試験（レポート）50%　　授業内課題 30%　　受講態度 20%

テキスト

・教科書名：資質・能力を育む保育内容領域人間関係-こどもにとっての人間関係とは-
・著 者 名：編者：齊藤崇
・出版社名：教育情報出版
・出 版 年（ISBN）：2023 年　978-4-909378-51-4

子どもと言葉　～領域「言葉」に関する専門的な知識を学ぶ～

佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	－	－

授業概要

保育内容の領域「言葉」の目的、ねらい、内容について、0歳から6歳までの具体的な子どもの姿と結びつけながら理解し、保育者の役割について講義する。また、幼児期に身につけたい言葉への感覚や言葉で表現する力を養うための保育を構想し実践する方法を身につけられるようにする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス① ・子どもと言葉とは…シラバスの内容説明（「授業シート」配布） ・言葉をめぐるワークショップ：人間と「言葉」
第 2 回	ガイダンス② ・保育の「５領域」と幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」
第 3 回	言葉の特徴と機能① ・言葉の豊かさと日本語の特徴について、言葉あそび「早口言葉（外郎売り）」に挑戦
第 4 回	言葉の特徴と機能② ・言葉の３つの機能―伝達、思考、行動調整―
第 5 回	言葉の発達理論① ・「言葉の機能」を子どもの姿（事例や映像）で確認し理解を深める
第 6 回	言葉の発達理論② ・各年齢の特徴と発達の道すじ
第 7 回	言葉の発達理論③ ・「言葉の発達理論」を子どもの姿（映像）で確認し理解を深める ・配慮を必要とする子ども①障害、虐待、成長過程の問題
第 8 回	「教育要領」「指針」① ・領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱い
第 9 回	「教育要領」「指針」② ・領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱いの「確認テスト」 ・配慮を必要とする子ども②日本語を母語としない子どもと家族
第10回	教材理解と実践① ・言葉を育てる児童文化財の種類と特徴、紙芝居のグループ分け発表
第11回	教材理解と実践② ・絵本と紙芝居の歴史や種類、紙芝居実演に向けて演じ方の理解
第12回	教材理解と実践③ ・紙芝居実演における「指導案」の書き方、指導案課題の提示
第13回	教材理解と実践④ ・紙芝居のグループ実演（練習）と指導展開の省察
第14回	教材理解と実践⑤ ・紙芝居のグループ実演（練習）と指導案の下書き提出
第15回	教材理解と実践⑥ ・紙芝居のグループ実演（本番）と事後考察、指導案の清書と提出

予習・復習

・予習：配布資料や教科書の授業回内容の読み込み、実演の準備や練習

・復習：授業内容の振り返り

履修上の注意

・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・授業時の課題は“提出期日”がある。期日を過ぎた場合は「未提出」とみなす。
・実演を含むグループワークに際しては、事前に十分に練習してから臨むこと。
・毎回授業の最後に、授業回の内容を振り返る「授業シート」を記入し提出すること。

到 達 目 標

・言葉の意義と機能、幼児の言葉の発達過程と言葉の機能を説明できる。
・言葉の感覚を豊かにする実践の基礎を身につけ、幼児の発達の姿を意識して説明できる。
・幼児の発達における児童文化財の意義を学び、実演を通して基礎的な知識を身につける。
・教育活動のねらいや展開を理解し、指導案を作成できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（80%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
教育活動実践力（紙芝居など）（10%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
教育活動の企画力と文章表現力（指導案）（10%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	難点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	難点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな難点がある

評価方法

・学期末試験（筆記、持ち込み不可） 70%
・実技など授業時の課題（言葉あそび、確認テスト、指導案、紙芝居実演など） 20%
・受講態度（「授業シート」の記載を含む）10%

テキスト

・教科書名：保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」
・著者名：馬見塚昭久、小倉直子
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出版年（ISBN）：2022 年（4623092518）

子どもと表現 ～子どもの表現を支えるための感性を豊かにする～	木谷, 齊藤, 宮澤

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	必修	－	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

領域「表現」の指導に関する、子どもの表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて、保育現場や小学校での表現活動実践や小・中・高等学校教員としての実務経験を生かして実践的に指導し、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	表現とは何か、表現の生成過程の理解、領域「表現」のねらいと内容の理解
第 2 回	乳幼児の音楽的発達及び音楽表現の芽生えの理解(担当:宮澤※1) ※1 保育現場・小学校での表現活動実践や中・高等学校教員としての実務経験を生かした指導
第 3 回	イメージを音や声で表現する(担当:宮澤※1)
第 4 回	子どもの音楽遊びの体験と保育における音楽表現活動への展開(担当:宮澤※1)
第 5 回	豊かな音楽活動―音楽表現から総合的な表現への広がり―(担当:宮澤※1)
第 6 回	乳幼児の造形的発達及び造形表現の芽生えの理解(担当:木谷※2) ※2 保育現場・小学校での表現活動実践や高等学校教員としての実務経験を生かした指導
第 7 回	子どもの造形遊びの体験と保育における造形表現活動への展開(担当:木谷※2)
第 8 回	イメージを色や形で表現する(担当:木谷※2)
第 9 回	豊かな表現活動―造形表現から総合的な表現への広がり―(担当:木谷※2)
第 10 回	子どもの身体表現と身体的発達の理解(担当:齊藤※3) ※3 小・中学校教員としての実務経験を生かした指導
第 11 回	イメージを身体で表現する(担当:齊藤※3)
第 12 回	子どもの身体遊びの体験と保育における身体表現活動への展開(担当:齊藤※3)
第 13 回	豊かな表現活動―身体表現から総合的な表現への広がり―(担当:齊藤※3)
第 14 回	音や声・色や形・動きを媒体とした総合的な表現創作活動
第 15 回	表現活動における ICT の活用と学習の総括

予 習 ・ 復 習

・予習：様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができるようにする授業なので、身の回りのものを身体の諸感覚でとらえるようにする時間を設ける。

・復習：子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できるように、その度に授業を振り返る。

履修上の注意

・授業では表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析できることを目指す。そのために、協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくように取り組むこと。また、様々な表現の基礎的知識を生かし、子どもの表現活動に展開させることができるように積極的な姿勢で授業に臨むこと。
・遅刻 3 回で 1 回欠席とする。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとする。
・卒業必修科目及び幼稚園教諭二種免許状取得の必修科目である。また、教育実習Ⅰの派遣科目である。

到 達 目 標

(1)子どもの表現の姿や、その発達を理解する。
(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの表現の姿や発達の理解（30%）	子どもの表現の姿や発達について十分に理解し、その内容から自らの気付きや考えを深めることができる。	子どもの表現の姿や発達について十分に理解している。	子どもの表現の姿や発達についておおむね理解している。	子どもの表現の姿や発達についての理解が不十分である。	子どもの表現の姿や発達について全く理解していない。
表現の基礎的な知識・技能を生かした思考力・表現力（30%）	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動においてイメージ豊かに思考･判断･表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において自分なりに思考･判断･表現することができる。	表現の基礎的な知識・技能について学んだことを生かし、表現活動において指導者のアドバイスをもとに思考･判断･表現することができる。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能と、表現活動における思考・判断・表現の結びつき付きがあやふやである。	授業で学んだ表現の基礎的な知識・技能が定着しておらず、表現活動における思考･判断･表現も不十分である。
総合的な表現活動の考案力・発表力（40%）	幼児が表現を楽しみ、感性や創造性を育めるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	幼児が表現を楽しめるよう工夫された総合的な表現の活動案を作成し、発表において他者にその活動を分かりやすく伝えることができる。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分である。	総合的な表現の活動案を作成し、発表できるが、幼児が表現を楽しめるような工夫についての考案が不十分で、発表の説明も分かりにくい。	総合的な表現の活動の意味を理解せず、活動案の作成は不十分な上、発表で使用する教材・教具の準備も不十分で、説明も分かりにくい。

評価方法

・リフレクションシートの記述内容(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【子どもの表現の姿や発達の理解】
・授業における表現活動の過程と発表(30%)：音楽・造形・身体表現　各 10%
…評価項目【表現の基礎的な知識技能を生かした思考力・表現力】
・総合的な表現活動の活動案と発表（40%)：期末試験　活動案 20%、発表 20%
…評価項目【総合的な表現活動の考察力・発表力】

テキスト

①音楽　　・教科書名：保育者養成のための子どもと音楽表現
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：一般社団法人日本電子書籍技術普及協会出版
・出 版 年（ISBN)：2021 年（978-4910472270)
②造形　　・教科書名：ずこうことばでかんがえる
・著 者 名：きだにやすのり
・出版社名：HH.A.B.
・出 版 年：(ISBN)：2022 年（978-4990759667)
③身体表現・教科書名：保育者のための表現あそび　－音楽・身体・造形のアイディアー
・著 者 名：若谷啓子 編・齊藤淳子・渡辺敏明・桐原礼 著
・出版社名：大学図書出版
・出 版 年（ISBN)：2023 年（978-4-909655-70-7)

子どもと環境　～子どもが見る世界と出会おう～

織壁佐和子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	－	－

授業概要

本授業は、基礎科目で学んだ環境理解を発展させ、保育現場で求められる具体的な指導法を身につけることを目的とする。栽培や環境構成、遊びを題材に、学生が〈指導計画・模擬保育・省察〉のサイクルを体験し、主体的に学び他者と協働する力を養う。学ぶ楽しさや気づきの歓びを実践に結びつける学びを重視する。

授業計画

授業回	授業内容
第1回	ガイダンス　―保育内容（環境）とは
第 2 回	子どもを取り巻く環境①　―最近の傾向と現状
第 3 回	保育環境を捉える①　―保育の環境構成
第 4 回	子どもを取り巻く環境②　－保育内容と遊び
第 5 回	自然との関わり①　―ネイチャーゲーム
第 6 回	自然との関わり②　―泥団子づくり
第 7 回	保育環境を捉える②　―壁面構成の企画・作成
第 8 回	文字・標識・数量・図形の学びを捉える　―教材研究
第 9 回	自然との関わり③　―野菜や植物の栽培計画
第10回	自然との関わり④　―模擬保育
第11回	自然との関わり⑤　―振り返り
第12回	身近な素材を用いた保育①　―動くおもちゃ製作
第13回	身近な素材を用いた保育②　―指導計画と模擬保育
第14回	子どもを取り巻く環境③　―伝統行事
第15回	子どもを取り巻く環境④　―地域社会

予習・復習

・予習：次回の授業内容を確認し、子どもの環境との関わりの視点をもってテキストを中心に予習する。

・復習：講義を受けて、学修内容を振り返り、子どもと環境の関わりを基に考察する。

履修上の注意

積極的参加と協働が求められる。受講準備が必要な回もあるため指示を確認し、遅刻・欠席なく取り組むこと。

到 達 目 標

・子どもを取り巻く環境の意義を理解し、子どもと環境の特性を説明できる。
・子どもの発達や遊びを踏まえ、主体的な学びを支える環境構成を考えられる。
・自然・素材・地域等を活用し、具体的な保育実践や指導計画に結び付けられる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識・理解（20%）	子どもと環境に関する理論や概念を深く理解し、具体例と関連付けて説明できる	子どもと環境に関する基礎的知識を理解し、授業内容を適切に説明できる	授業で扱った内容の要点を理解し、基本的な説明ができている	基礎的な内容を理解し、説明しようとする姿勢が見られる	基礎的な知識や概念の理解が十分でない
思考・判断（20%）	子どもの姿や遊びを踏まえ、根拠をもって環境構成の意図を判断できる	発達や遊びの視点から、環境と保育の関係を考えて判断できる	一定の視点で環境を捉え、基本的な判断ができている	限られた視点ながら、環境と子どもの関係を考えようとしている	環境と子どもの関係について適切な判断に至っていない
技能・表現（20%）	学修内容を踏まえ、教材研究や模擬保育として具体的に表現できる	学修内容を指導計画や製作活動に適切に表現できている	基本的な技能や表現を用いて課題に取り組めている	基礎的な技能を用い、表現しようとする姿勢が見られる	技能や表現が十分に身についていない
関心・意欲（20%）	課題意識をもち主体的に学修に取り組み、学びを深めている	授業や課題に意欲的に取り組み、継続した学修ができている	指示に従い、必要な学修活動に取り組んでいる	指示を踏まえ、学修活動に参加しようとしている	学修活動への参加が十分でない
人間性・社会性（20%）	他者を尊重し、協働的に学修を進める姿勢が一貫して見られる	周囲と協力し、責任をもって学修活動に取り組んでいる	基本的な協調性やルールを意識して行動している	周囲と関わりながら学修に参加しようとしている	学修に必要な基本的態度が十分でない

評価方法

課題・振り返り・試験・参加態度などを総合評価する。
学期末試験 50%　提出物及びレポート 40%　授業態度 10%

テキスト

・教科書名：新・保育シリーズ 保育内容「環境」
・著 者 名：浅野由子他
・出版社名：学術出版社
・出 版 年（ISBN）：978-4-7806-1427-5

初等教科教育法（国語）　～模擬授業で指導力を高めよう～

佐内　信之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

国語科の目標を理解した上で、実践的な指導力を身につけるための基礎的な力を養う。特に、学習指導要領下のこれからの国語教育の内容と方法について具体的に学んだ上で、国語科の教材研究、評価を含めた授業実践ならびに授業研究に向けての下地をつくることをねらいとして指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　履修説明、講義の目的、模擬授業の進め方について
第 2 回	教材研究と学習指導案　教材研究とは何か、学習指導案と教材研究の関係
第 3 回	学習指導案と授業　学習指導案とは何か、本時案と授業の流れ
第 4 回	教材研究と指導案作成　１年生
第 5 回	模擬授業の発表と協議　１年生
第 6 回	教材研究と指導案作成　２年生
第 7 回	模擬授業の発表と協議　２年生
第 8 回	教材研究と指導案作成　３年生
第 9 回	模擬授業の発表と協議　３年生
第 10 回	教材研究と指導案作成　４年生
第 11 回	模擬授業の発表と協議　４年生
第 12 回	教材研究と指導案作成　５年生
第 13 回	模擬授業の発表と協議　５年生
第 14 回	教材研究と指導案作成　６年生
第 15 回	模擬授業の発表と協議　６年生

予習・復習

・予習：模擬授業計画にしたがって、事前に教材研究・指導案作成を行う。

・復習：課題には自分の感想や意見を自由に表出し、各自の課題解決能力を評価する。

履修上の注意

・授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。
・遅刻は３０分以内、遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・しっかりとした教材研究に基づき単元の指導計画を作る。
・授業を構想して実践するという一連の過程に必要な知識と技術を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限は理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート）（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業内レポート 70%、模擬授業 30%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。

初等教科教育法(社会)　～社会科の授業を創る～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

学習指導要領に示された社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行なう方法を身に付けられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	社会科の目標及び内容（1）教科の目標・内容と全体構造
第 2 回	社会科の目標及び内容（2）第3学年・第4学年の目標・内容と教材研究
第 3 回	社会科の目標及び内容（3）第5学年の目標・内容と教材研究
第 4 回	社会科の目標及び内容（4）第6学年の目標・内容と教材研究
第 5 回	社会科の目標及び内容（5）指導上の留意点と学習評価（第3学年・第4学年）
第 6 回	社会科の目標及び内容（6）指導上の留意点と学習評価（第5学年）
第 7 回	社会科の目標及び内容（7）指導上の留意点と学習評価（第6学年）
第 8 回	社会科の目標及び内容（8）発展的な学習内容の探究
第 9 回	社会科の指導方法と授業設計（1）子どもの実態を視野に入れた授業設計
第 10 回	社会科の指導方法と授業設計（2）情報機器及び教材の効果的な活用法
第 11 回	社会科の指導方法と授業設計（3）授業設計と学習指導案作成
第 12 回	社会科の指導方法と授業設計（4）模擬授業の実施と授業改善の視点（第3・第4学年）
第 13 回	社会科の指導方法と授業設計（5）模擬授業の実施と授業改善の視点（第5学年）
第 14 回	社会科の指導方法と授業設計（6）模擬授業の実施と授業改善の視点（第6学年）
第 15 回	社会科の指導方法と授業設計（7）社会科の実践研究の動向

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

※この科目は教育実習Ⅰ・Ⅱ（小学校）を実施するために単位の修得が条件となる科目（条件科目）です。
毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

社会科における教育目標を理解し、小学校教諭として社会科を指導できる資質・能力を理解するとともに、授業設計を行なう方法を身に付けること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

初等教科教育法（算数）～教える立場から捉える算数の目標・方法・評価～

森田　大輔

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

本授業では，小学校算数科の目的・目標，学習指導や評価の方法について講義する。特に，資質・能力の育成を主眼とした算数指導のあり方について理解が深まるよう講義する。その際，必要に応じて，適宜アクティブ・ラーニングを導入することで，実体験を通して講義内容の理解をより深めるよう努める。

また，本授業の後半では指導案の作成や模擬授業の実施・協議に取り組む。グループワークやディスカッションといった協働を通して，算数科における授業研究（指導案作成，研究授業，研究協議）を模擬的に体験し，授業づくりの方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：自身の学習経験の省察
第 2 回	算数教育の目的
第 3 回	算数教育の目標の変遷
第 4 回	算数科における資質・能力の育成：数学的な見方・考え方と数学的活動
第 5 回	算数科における授業づくりの理論①：問題解決，多様な考えを生かす指導
第 6 回	算数科における授業づくりの理論②：オープンエンドによる指導
第 7 回	算数科における授業づくりの理論③：問題の発展的な指導
第 8 回	算数科における学習の評価：指導と評価の一体化
第 9 回	算数科における ICT の利活用：GeoGebra，Scratch を中心に
第 10 回	算数科における教材・教材研究：教科書比較を中心に
第 11 回	学習指導案（略案）の作成
第 12 回	模擬授業の実施・協議①
第 13 回	模擬授業の実施・協議②
第 14 回	模擬授業の実施・協議③
第 15 回	本授業のまとめ：授業研究を通した授業改善

予習・復習

・予習：テキストの該当箇所を読む，模擬授業の準備

・復習：授業で学んだことをノートにまとめる，模擬授業の省察

履修上の注意

・第 12 回以降の授業では，グループで協力して，模擬授業で用いるもの（指導案，掲示物等）を予め準備すること。
・授業開始から 20 分経過後に入室した学生は遅刻とみなす。なお，公共交通機関の遅延による遅刻はその限りではない。2 回の遅刻で 1 回分の欠席とカウントするので，注意すること。

到 達 目 標

・算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することができる。
・小学校算数科における授業づくりの理論や実際を理解することができる。
・小学校算数科における評価の役割や方法を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
算数科の目標の理解（40%）	これまでの歴史的経緯を踏まえ，算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することができる。	算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することができる。	算数教育の目的および小学校算数科の目標を概ね理解することができる。	算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することが部分的にできる。	算数教育の目的および小学校算数科の目標を理解することができない。
指導案の作成（15%）	本授業で扱った授業づくりの理論を踏まえた，十分な学習指導案の作成ができる。	十分な学習指導案の作成ができる。	大まかな学習指導案の作成ができる。	学習指導案の作成が部分的にできる。	学習指導案の作成ができない。
模擬授業の実施（10%）	ICT を適切に活用することができ，作成した学習指導案に則った模擬授業を実施することができる。	作成した学習指導案に則った模擬授業を実施することができる。	模擬授業を概ね実施することができる。	模擬授業を実施することが部分的にできる。	模擬授業を実施することができない。
算数科における評価の理解（35%）	算数科における評価の役割や方法を理解することができ，指導案や模擬授業に反映させることができる。	算数科における評価の役割や方法を理解することができる。	算数科における評価の役割や方法を概ね理解することができる。	算数科における評価の役割や方法を理解することが部分的にできる。	算数科における評価の役割や方法を理解することができない。

評価方法

・リアクションペーパー(30%)
・学習指導案(15%)
・模擬授業(10%)
・筆記試験(45%)

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）　算数編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年(978-4-536-59010-5)

初等教科教育法(理科)　～教師として必要な知識･技能の獲得と授業づくり～　長友　大幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択	－

授 業 概 要

小学校理科の目標・学習指導・評価のあり方について，具体的な小学校現場の教育実践例を紹介しながら講義と実験を通して考察する。また，模擬授業を通してあるべき小学校の理科授業について検討し，理科の授業における知識及び指導技術を身につけることができるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション，理科教育の現実と日本の子どもの理科学力の実態
第 2 回	理科教育の価値と目的
第 3 回	授業・日常経験を通した科学概念の形成とその探り方
第 4 回	小学校理科の教科書の単元構成とその内容
第 5 回	小学校理科学習指導案の構成内容とその作成
第 6 回	小学校における授業実践例
第 7 回	理科学習の評価とその方法
第 8 回	教材準備の重要性と模擬授業にむけた予備実験
第 9 回	模擬授業（3 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 10 回	模擬授業（4 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 11 回	模擬授業（5 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 12 回	模擬授業（6 年生）と討論会（観察・実験を取り扱う）
第 13 回	理科教育の現代的諸問題（学校種間の接続，他教科との連携，環境教育など）
第 14 回	理科教育の現代的諸問題（疑似科学に対する理科教育の役割）
第 15 回	まとめ

第 6～12 回にかけて実習や実験・観察を取り扱う。

予 習 ・ 復 習

・予習：模擬授業のための学習指導案の作成や教材作成など，事前に自主的な学習や作業が必要になる。

・復習：知識や実験技能の定着を図る小テストを毎時間に行うので，それに対応できる復習が必要である。

履修上の注意

自身の模擬授業を無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。遅刻の取り扱いは，遅刻３回で欠席１回として扱う。また，20 分以上の遅刻は欠席として扱う。

本科目は小学校実習実施のための条件科目であり、前期「理科」の授業内容を理解していることを前提に授業を進めるので留意しておくこと。

到 達 目 標

1. 小学校理科を中心に理科の目標･内容･評価等について，学習指導要領を踏まえながら理解できる。
2. 児童の自然認識について考察し，それに基づく授業のあり方を理解できる。
3. 実際に予備実験を行い，指導案を作成して模擬授業を行う。授業後，検討会を行い，授業デザインについて理解を深めることができる。
4. 理科教育に関連する現代的諸問題について理解できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容を100%近く理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
技能（40%）	模擬授業の方法が分からない他人にアドバイスできる。	何も参照せずに独自の能力模擬授業を行うことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に模擬授業を行うことができる。	他人のアドバイスがあれば模擬授業を行うことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的にも模擬授業を行うことができない。
考察したことを説明する能力（20%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

授業への参加状況（授業中の課題や実験への取り組み、小テストなど）10%、課題やレポート及び模擬授業50%、教師として必要な知識と技能の取得状況（定期試験）40%

欠席が１/３を超えた場合は，原則として評価の対象とはしないので充分注意すること。

テキスト

・教科書名：教科書名：授業をつくる！　最新小学校理科教育法　～2017 学習指導要領準拠～
・著 者 名：左巻健男他
・出版社名：学文社
・出 版 年（ISBN）：2018 年（978-4-7620-2772-7）
・その他は適宜印刷して配布するが，以下のものを用意しておくことが望ましい。
　小学校 3～6 年生の検定済教科書「新しい理科」（東京書籍：令和 6 年度初版），
　小学校学習指導要領解説　理科編（最新版）

初等教科教育法（生活）　～気づきの質を高める授業づくり～

中野　英之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

生活科は、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を」育成することを目標としている。本科目においては、講義だけでなく実際に模擬授業を行うことにより、生活科の教科としての意義と特質についての理解を深める。また、三つの資質・能力の柱、９つの学習内容を把握した上で、気付きの質の向上目指した適切な指導法を選ぶとともに、評価と結び付けて考えていく。特に活動を通して思考する低学年児童の特徴を踏まえ、児童の思いや願いに即した指導ができるよう、指導と関連付けた授業を進める。生活の活動についても講義と並行して取り入れる。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、生活科新設の経緯について講義する。
第 2 回	教科目標と学年の目標について講義する。
第 3 回	生活科の内容について講義する（1）。
第 4 回	生活科の内容について講義する（2）。
第 5 回	指導計画作成上の配慮事項について講義する。
第 6 回	内容の取扱いについての配慮事項について講義する。
第 7 回	指導計画の作成と学習指導について講義する。
第 8 回	ICT の活用について講義する。
第 9 回	生活科の評価について講義する。
第 10 回	指導案の作成、略案・細案の書き方について講義する。
第 11 回	模擬授業①　グループワークを通して１人１回模擬授業を行う。
第 12 回	模擬授業②　グループワークを通して１人１回模擬授業を行う。
第 13 回	模擬授業③　グループワークを通して１人１回模擬授業を行う。
第 14 回	模擬授業④　グループワークを通して１人１回模擬授業を行う。
第 15 回	振り返りを行う。模擬授業で行った授業の指導案（細案）を作成する。

予習・復習

・予習：学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでおく（週１時間）。模擬授業では、模擬授業の略案の作成（計３時間）を行う。
・復習：毎回の授業の振り返りシートの作成を通して授業の振り返りを行う。模擬授業実施後は、自分自身や他の履修者が行った授業について振り返りを行う（週１時間）。

履修上の注意

・天候、履修者数によって、講義内容が変更になる場合もあります。
・学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでください（週 1 時間）。授業後は授業で紹介する参考文献等も参考にしながら振り返りを行ってください（週 1 時間）。
・ハサミ、のり、カッターナイフ、色鉛筆などが必要になることがありますので各自で用意しておくこと。
・20 分以内の遅刻は出席扱いとしますが、3 回の遅刻（各 20 分以内）で 1 回欠席したものとして扱います。

到 達 目 標

1．学習指導要領における目標及び内容を踏まえた上で、生活科は遊びなど具体的な活動を通して気付きの質を高め、自立し生活を豊かにしていくための学習であることを理解し、そのための基本的な知識・技能（ICT 機器の活用を含む）の習得を目指す。
2．気付きの質を高める実習を工夫したり、児童の特徴である思考と表現の一体化を踏まえた授業づくりをしたりするなど、実践的指導力の基礎を身に付ける。
3．将来小学校教員として児童の多様性を進んで理解しようとする態度や、授業に活かすように自ら学んでいく姿勢を身に付けることに重点をおく。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容を理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
模擬授業への取り組み（40%）	積極的に模擬授業に取り組み、他者の学びや授業の充実に大きく寄与した。	積極的に模擬授業に取り組んでいる。	概ね積極的に模擬授業に取り組んでいるが多少の不足がある。	最低限の模擬授業を行っている。	模擬授業を行うことができていない。
解決を文章で説明する力（振り返りシート）（30%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるものの、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

各回の授業後に提出する振り返りシート（25%）、模擬授業（35%）、試験（40%）

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領解説 生活編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2018 年 ISBN:978-4491034645
※指導要領は各自でダウンロードして印刷したものを使用してもよい。参考文献は適宜紹介します。

初等教科教育法(音楽) ～音楽科の授業づくりに必要な理論と指導法の演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	選択必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

小学校音楽科の目標や指導内容，指導計画，指導展開及び評価を含めた基礎的な理論，情報通信技術の活用について理解を深めるとともに，学習指導案作成と模擬授業の実践を通して音楽科の授業づくりについて学ぶ。また，教材研究の方法を含めた音楽科の授業づくりについて，小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容について
第 2 回	音楽科の指導内容と指導計画及び評価，音楽教育主要用語について
第 3 回	「歌唱」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信記述の活用）
第 4 回	「器楽」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 5 回	「鑑賞」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 6 回	「音楽づくり」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第 7 回	学習指導案の理解，ワークシートづくりについて
第 8 回	学習指導案の作成，ワークシートの作成
第 9 回	音楽教育史及び音楽史について
第 10 回	中間筆記試験（学習指導要領等，教員採用試験対策）及び解説
第 11 回	模擬授業①
第 12 回	模擬授業②
第 13 回	模擬授業③
第 14 回	模擬授業④
第 15 回	まとめ，音楽科における関連と連携

※教員採用試験の日程により，第 7 回～第 10 回の順番が入れ替わる場合があります

予 習 ・ 復 習

・予習：音楽の各技能の向上を目指すには，日々の練習が欠かせません。演習がある際は，必ず事前に練習をして授業に臨みましょう。

・復習：学習指導要領や配布資料を熟読し，内容の理解に努めましょう。特に前半は，教員採用試験対策も含まれています。

履修上の注意

・現場に出た際に，「音楽専科がいるから大丈夫」と思わず，音楽専科がいない学校へ着任したり，自分が音楽専科になったりする可能性もあるということを念頭に置いて授業を受けること。
・模擬授業は教師・児童役を体験します。少人数での授業ですので，意欲的に取り組みましょう。
・ソプラノリコーダー及び鍵盤ハーモニカを使用する予定です。
・学習指導案やワークシートについてはパソコンで作成してもらいますので，パソコンが苦手な人は，基本的な操作や文字の打ち込みに慣れておきましょう。
・遅刻 3 回で 1 欠席扱いとする。また，30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到 達 目 標

小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容，指導計画，指導展開，評価等について理解した上で，学習指導案を作成し，授業を実践することができる力を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
小学校学習指導要領(音楽)及び小学校音楽の学習内容に関する理解度 (中間・期末試験) (30%)	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をしっかりと理解しており，他の人に解説することができる。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容をほぼ全て理解できている。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を理解できていないところがいくつかある。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容の理解が不足している。	学習指導要領及び小学校音楽で学習する内容を全く理解できていない。
歌唱共通教材の歌唱の能力 (中間・期末試験) (10%)	全ての歌唱共通教材を正しく歌うだけなく，曲のイメージなども考え表現することができる。	全ての歌唱共通教材を正しい音程・リズムで歌うことができる。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，音程等が不安定になるところがある。	全ての歌唱共通教材を歌うことはできるが，正しい音程やリズムで歌うことができない。	低学年の歌唱共通教材や元々知っている曲以外は歌うことができない。
指導案立案及び模擬授業による実践力 (40%)	指導案はしっかりと練って立案し，板書計画や掲示物等の準備も十分に行った上で模擬授業をスムーズに行うことができる。	よく考えて指導案を立案し，模擬授業を行うことができる。	指導案を立案することはできるが，時々，指導案を見ながらでなければ模擬授業を行うことができない。	教師用指導書を参考にしながら指導案を立案しているが，指導案を見ながらでなければ模擬授業をおこなうことができない。	指導案は教師用指導書を丸写しのため授業の流れを把握しておらず，指導案を見ながらでも模擬授業を行うことができない。
学習態度 (10%)	話し合い活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいつことがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。
課題提出 (10%)	課題は全て期日内に提出している。	課題は遅れることなく提出している。	概ね期日内に課題を提出している。	課題を提出しているが，期日は守れていない。	未提出の課題がある。

評価方法

筆記試験（中間試験 15%，期末試験 15%），歌唱共通教材の歌唱実技試験（中間試験 5%，期末試験 5%），学習指導案立案・模擬授業の実践（40%），学習態度（10%），課題提出（10%）

テキスト

・教科書名：『三訂版 小学校音楽科の学習指導 －生成の原理による授業デザイン－』
・著者名：清村百合子・小島律子（監修） ・出版社名：廣済堂あかつき株式会社
・出版年（ISBN）：2018 年（978-4-908255-74-8）
※その他，適宜，資料を配布する（専用のフラットファイル等を準備すること）

初等教科教育法(図画工作) ~図工で育てる思考力、判断力、表現力~	木谷　安憲

【こども学科】

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	後期	2	選択	−	選択	−

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

小学校の教育課程における図画工作科における役割や性格について講義し、それを踏まえて実技制作を行う。1 学年から 6 学年までの作品制作をする中で、教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識・理解を習得できるよう、高等学校美術科の実務経験に基づき、授業全体を通して指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス(受講者自身の振り返り：小学校時代の図工に関して)
第 2 回	図画工作科の目標および内容について理解する
第 3 回	第 1・2 学年の目標と内容について講義をする
第 4 回	第 1・2 学年の目標と内容についての演習を行う
第 5 回	第 3・4 学年の目標と内容について講義をする
第 6 回	第 3・4 学年の目標と内容についての演習を行う
第 7 回	第 5・6 学年の目標と内容について講義をする
第 8 回	第 5・6 学年の目標と内容についての演習を行う
第 9 回	模擬授業のための指導案を書く
第 10 回	模擬授業 1
第 11 回	模擬授業 2
第 12 回	模擬授業 3
第 13 回	模擬授業 4
第 14 回	授業分析と授業評価について講義・演習を行う
第 15 回	まとめ(情報機器及び教材の活用を含む)

予 習 ・ 復 習

・予習：次回の授業で扱われる学年部分の小学校学習指導要領を読む。

・復習：制作した作品を、小学校学習指導要領に書かれている部分を踏まえて振り返る。

履修上の注意

実技を行うための描画材や材料は各自用意する。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。
遅刻 3 回で 1 回の欠席とする

到 達 目 標

小学校図画工作科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培うことを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［指導計画等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた指導計画等を作ることができる。	思考力を働かせた指導計画等を作ることができる。	指導計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
判断力［指導計画、見本作品制作等］(25%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた、すぐれた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	判断力を働かせた指導計画、見本作品制作等を作成することができる。	指導計画、見本作品制作等を作成することができても、判断力の観点が抜けている。	判断力という観点が抜けている。
表現力［見本作品制作等］(25%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作る表現力を持っている。	見本作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力 (25%)	思考力、判断力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、判断力、表現力のどれかを結びつけた実践を行うことができる。	実践を行うことができても、思考力、判断力、表現力が結びついていない。	思考力、判断力、表現力の観点が抜けている。

評価方法

指導案・課題作品から、小学校教諭になる者としての思考力、判断力、表現力がどれくらいあるのか、上記の基準に照らしながら評価していく。(75%)
図工における総合的な力がどのくらい身についたか、上記の基準に照らしながら評価していく。(25%)

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 図画工作編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：日本文教出版
・出 版 年（ISBN）：2018 年　(978-4536590112)

初等教科教育法(家庭)　～小学校家庭科の内容と指導方法～	佐藤　真弓

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法に関する基本的事項及び効果的な学習指導を実践するための指導計画、評価、施設・設備等について理解を深める。また、望ましい家庭科の指導内容や授業構成について考究し、教育実践における諸問題を検討する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	初等家庭科教育法の概要説明
第 2 回	小学校家庭科の内容
第 3 回	家庭科の学習指導について①学習指導要領の分析
第 4 回	家庭科の学習指導について②小学校教科書の分析
第 5 回	学習指導案の作成①　作成の手順、留意点について
第 6 回	学習指導案の作成②　模擬授業の検討、教材・教具の準備 （1）授業の展開（情報機器の活用を含む）
第 7 回	学習指導案の作成③　模擬授業の検討、教材・教具の準備 （2）資料の作成（情報機器の活用を含む）
第 8 回	模擬授業と教材研究①家庭生活と家族（情報機器の活用を含む）
第 9 回	模擬授業と教材研究②食事の役割と栄養
第 10 回	模擬授業と教材研究③調理の基礎
第 11 回	模擬授業と教材研究④衣服の着用と手入れ
第 12 回	模擬授業と教材研究⑤生活に役立つ物の製作（裁縫）
第 13 回	模擬授業と教材研究⑥快適な住まい方
第 14 回	模擬授業と教材研究⑦身近な消費生活と環境（情報機器の活用を含む）
第 15 回	模擬授業と振り返り・評価について（情報機器の活用を含む）

予習・復習

・予習：小学校学習指導要領解説（家庭編）、小学校家庭科教科書を授業に必ず用意し、授業計画に該当する内容を読んでおくこと。

・復習：授業で学んだこと、課題等を復習として各自行うこと。 家庭科の授業の教材研究として新聞やインターネットから、家庭、生活に関する時事問題を探しておく

履修上の注意

小学校教諭を目指す学生は、「家庭」が履修済であることが望ましい。
第1回のガイダンスで、授業の進め方、遅刻の取り扱い等について説明をするので、必ず出席すること。

到 達 目 標

小学校家庭科の目標や指導内容、指導方法、評価法に関する基本的事項を理解することができる。
家政学の視野をもった創造的・効果的な学習指導を実践するための指導計画を立て、適切な教材を検討し、学習指導案を立案、作成することができる。
生活課題を発見しそれを解決するための方策を検討することができる。
指導計画に基づき、模擬授業実習を通して実践力を身に付けることができる。
生活の総合性に鑑み、授業で得られた知識を統合させ家庭科の授業実践へつなげることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（ 20%）	授業内容を超えた自主的な学習ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容の最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
学習指導案立案能力（ 20%）	創造的・独創的な家庭科学習指導案を計画することができる。	家庭科の理念を踏まえた家庭科学習指導案を計画することができる。	家庭科学習指導案として多少不足がある。	家庭科学習指導案として多くの不足がある。	家庭科学習指導案を立案できない。
課題解決能力（ 20%）	生活課題の解決のために方策を検討し、主体的に実践できる。	生活課題の解決のための方策を主体的に考えることができる。	生活課題の解決のための方策を他人のアドバイスを受けて考えることができる。	生活課題の解決のための方策の検討ができない。	生活課題の解決の必要性に気づくことができない。
授業実践能力（ 20%）	創造的・独創的な家庭科授業実践ができる。	授業内容を踏まえた家庭科授業実践ができる。	家庭科授業実践として多少不足がある。	家庭科授業実践として多くの不足がある。	家庭科授業実践ができない。
知識の統合能力（ 20%）	知識を統合させ創造的・独創的な授業を計画できる。	知識を統合させた授業を計画することができる。	知識の統合に多少不足がある。	知識の統合に多くの不足がある。	知識の統合ができない。

評価方法

模擬授業への取り組み（学習指導案作成、教材作成含む）（40%）、授業内小課題レポート（20%）、期末レポート（40%）から総合的に評価する。

テキスト

・小学校学習指導要領解説（平29告示）家庭編　文部科学省
東洋館　ISBN：978-4-491-03466-9
・新しい家庭（小学校家庭科教科書）　岡　陽子・杉山久仁子　他
東京書籍　2024年　ISBN：978-4-487-10690-5
・わたしたちの家庭科（小学校家庭科教科書）　鳴海多恵子　他
開隆堂　2024年　ISBN：978-4-304-08124-8

初等教科教育法(体育)　～実感から実践へ～	小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

自らの体育の学習観を再確認し、小学校における体育科教育について考え、その上で、講義を通して援業づくりをする上での基盤を構築するよう講義する。さらに、実際に指導案を作成し、体育の指導についての理解を深め、よりよい授業づくりに向けて基礎を養うよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　初等教科教育法（体育）の授業の進め方と授業の特性に合わせた注意事項を伝達する。
第 2 回	体育の在り方の理解と体育の学習観について：　現状の学校での体育への学習観を考える。
第 3 回	各自のレディネスの確認（ICT の活用含む）：　学校体育で実施される種目を実施し、自身の体育レベルについて確認する。
第 4 回	体育の授業づくりについて：　体育の授業の作り方（年間計画、単元計画、単位時間計画）について知る。
第 5 回	体育の教材研究について理解する：　体育での教材の重要性とその作成方法について知る。
第 6 回	体育授業の基礎的・内容的条件について理解する：　体育の授業を行うに当たっての、基礎的、内容的条件を知る。
第 7 回	模擬授業のための資料作り①（資料収集・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のための資料を集め、模擬授業を行う種目を決める。
第 8 回	模擬授業のための資料作り②（単元作成・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のために決まった種目を基に、単元計画を作成する。
第 9 回	模擬授業のための資料作り③（単位時間作成①・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のために作成した単元計画を基に、単位時間のシナリオを作成する。
第 10 回	模擬授業のための資料作り④（単位時間作成②・ICT の活用含む）：　模擬授業作成のために作成した単元計画を基に、単位時間の指導案を作成する。
第 11 回	模擬授業シミュレーション：　模擬授業のシミュレーション行う。作成のために作成した単元計画を基に、単位時間のシナリオを作成する。
第 12 回	模擬授業および授業分析①：　模擬授業と授業の評価・分析をする。
第 13 回	模擬授業および授業分析②：　模擬授業と授業の評価・分析をする。
第 14 回	授業評価および分析と指導案の修正：　模擬授業全体の評価・分析とともに修正を行い、最終版の指導案の作成を行う。
第 15 回	全体評価・分析・まとめ

予習・復習

・予習：
指導要領解説、事前に配布された資料については確認の上で授業に参加すること。また、日常的なスポーツ・運動活動やそれらの観戦を積極的に行うこと。それにより、実践力の向上や種目の特性の理解し、授業作成に生かすことに繋がる。
・復習：
既習の授業プリントは再度見直した上で授業に臨むこと。その上で、指導案作成においては授業内容を反映した指導案を作成すること。

履修上の注意

・実践を行う際は、それに適した服装をすること。
・遅刻（30 分以内の遅れ）は 3 回で 1 回の欠席とする。
※履修者の状況により，内容を変更する場合がある。

到 達 目 標

初等教科教育法（体育）の特徴を学び、知識・技能の蓄積から、授業づくりの基盤を確立し、体育授業の計画・実践・評価分析ができる基礎を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内を越え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（20%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（20%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業での協調性（10%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

授業への貢献度、授業態度： 10%
模 擬 授 業： 40%
模擬授業指導案： 50%

テキスト

（参考図書）
・教科書名：小学校学習指導要領解説（体育編）※巻末、小学校学習指導要領含む
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・ISBN 9784491034676

初等教科教育法（英語）～小学校英語教育法の理論と実践～

蒔田　裕美

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	必修	－

授業概要

小学校で英語の授業を担当することを目指す学生が身につけておくべき知識、技能、指導者としての姿勢について講義する。発達段階に応じた指導能力、教材開発能力、そのバックボーンとなる言語習得理論や教授理論、具体的な指導方法、多様な教材、ICT利用のあり方などを指導する。

学生は学習指導要領、英語教授法、第二言語習得論、評価方法、模擬授業などを理解し、実践できるようになることを目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	小学校における英語教育～導入の経緯、現状と展望～
第 2 回	言語習得理論と関連領域
第 3 回	基本的な外国語教授法
第 4 回	国際理解教育と英語教育
第 5 回	評価の意義と評価方法
第 6 回	カリキュラム・年間指導計画作成のポイント
第 7 回	小学校の英語授業作り
第 8 回	クラスルーム・イングリッシュの活用
第 9 回	求められる教員の資質
第10回	教材の使い方・選び方と開発方法
第11回	ICTの効果的な活用
第12回	指導の基本と留意ポイント
第13回	指導の実際
第14回	文字指導のあり方
第15回	模擬授業の実践

予習・復習

・予習：教科書の該当部分を事前に読み、事前に指示された課題があれば取り組んでおくこと。

・復習：授業で学んだことの要点を記録し、振り返ること。

履修上の注意

小学校教職過程の履修者が望ましい。
「児童英語」を同時に履修することが望ましい。
遅刻２回で欠席１回とみなす。授業開始から大幅に時間が過ぎても、参加の意欲があれば欠席扱いにしないので遅刻してもあきらめないで授業に参加すること。

到 達 目 標

・外国語活動の目的、指導内容や方法、評価方法を習得できる。
・学習到達目標に基づく授業を立案し、学習指導案を作成できる。
・学習指導案を踏まえ、模擬授業を行うことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学習指導案の作成（50%）	創造的で、受講生のお手本となる学習指導案を作成できる。	授業の概要を踏まえた適切な学習指導案を作成できる。	学習指導案としてやや不足がある。	学習指導案としての多くの不足がある。	学習指導案を立案できない。
模擬授業（50%）	創造的で、受講生のお手本となる模擬授業を展開できる。	授業の概要を踏まえた適切な模擬授業を展開できる。	模擬授業としてやや不足がある。	学習指導案として多くの不足がある。	模擬授業を展開できない。

評価方法

模擬授業 50%、学習指導案の作成 30%、課題レポート 20%

テキスト

・教科書名：『Basic English for Teachers of Young Learners 楽しく教える子ども英語』
・著 者 名：泉惠美子他編
・出版社名：朝日出版社
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-255-15689-7）

道徳の指導法　～「考え、議論する道徳」とは～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・道徳の意義や原理等を踏まえ、道徳教育、および、その要となる道徳科について具体的に理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付けられるよう指導する。
・小学校教諭としての実務経験に基づき、授業展開技術の理解と実践の向上を目指して指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	道徳の理論（1）道徳の本質（道徳とは何か）
第 2 回	道徳の理論（2）道徳教育の歴史
第 3 回	道徳の理論（3）現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）
第 4 回	道徳の理論（4）子どもの心の成長と道徳性の発達
第 5 回	道徳の理論（5）学習指導要領に示された道徳教育および道徳科の目標と主な内容
第 6 回	道徳の指導法（1）学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要となる道徳科
第 7 回	道徳の指導法（2）道徳教育の指導計画および教育活動全体を通じた指導
第 8 回	道徳の指導法（3）道徳科の特質を生かした多様な指導方法
第 9 回	道徳の指導法（4）道徳科の教材の特徴を踏まえた授業設計
第 10 回	道徳の指導法（5）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成①目標設定
第 11 回	道徳の指導法（6）授業のねらいや指導過程を明確にした学習指導案作成②内容
第 12 回	道徳の指導法（7）道徳科の特性を踏まえた学習評価のあり方
第 13 回	道徳の指導法（8）模擬授業の実施と授業改善の視点①模擬授業の内容吟味
第 14 回	道徳の指導法（9）模擬授業の実施と授業改善の視点②他教科との関連
第 15 回	道徳の指導法（１０）模擬授業の実施と授業改善の視点③授業改善

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認すること。

履修上の注意

1．教育実習Ⅱ（小学校）を実施するために単位の修得が条件となる科目（条件科目）である。
2．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
3．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
4．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
5．学期末試験は行わない。

到 達 目 標

・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育、および、その要となる特別な教科道徳の目標や内容、指導計画等を理解する。
・「考え、議論する道徳」の理念を踏まえた実践的な指導力を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
道徳教育への理解と授業に対する取組（20%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
授業展開技術の理解（40%）	道徳の特質を理解したうえで綿密に教材研究が行われ、その内容が学習指導案に適切に反映されている。	道徳の特質を理解したうえで教材研究が行われ、その内容が学習指導案に反映されている。	道徳の特質の理解にやや不安があるものの、学習指導案の基本的な書き方を理解している。	学習指導案の書き方への理解が不足しており、教員の援助を受けて準備に取り組む。	学習指導案の書き方を理解することができず、作成することが難しい。
授業展開技術の実践（40%）	子どもの学びを促進するさまざまな工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られるが、指示の出し方や板書にやや課題がある。	子どもの学びを促進する工夫が必要であり、指示の出し方や板書にも課題がある。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。

評価方法

・課題への取組　80%
　※特に、「学習指導案作成」や「模擬授業」への取組を重視する。
・授業中の議論や発言等　20%。

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：廣済堂あかつき
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年

特別活動の指導法　～集団活動を学び、実践する～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	必修	－

授業概要

「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点および「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けられるよう、指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	特別活動の意義、目標および内容（１）学習指導要領における特別活動の目標と主な内容
第 2 回	特別活動の意義、目標および内容（２）教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連
第 3 回	特別活動の意義、目標および内容（３）学級活動・ホームルーム活動の特質
第 4 回	特別活動の意義、目標および内容（４）児童会活動、クラブ活動、学校行事の特質
第 5 回	特別活動の指導法（１）教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方
第 6 回	特別活動の指導法（２）特別活動における取組の評価・改善活動の重要性
第 7 回	特別活動の指導法（３）合意形成に向けた話合い活動の準備
第 8 回	特別活動の指導法（４）合意形成に向けた話合い活動の指導
第 9 回	特別活動の指導法（５）合意形成に向けた話合い活動の評価
第 10 回	特別活動の指導法（６）意思決定につながる指導
第 11 回	特別活動の指導法（７）集団活動の意義
第 12 回	特別活動の指導法（８）集団活動の準備
第 13 回	特別活動の指導法（９）集団活動の指導
第 14 回	特別活動の指導法（１０）集団活動の評価
第 15 回	特別活動の指導法（１１）特別活動における家庭・地域住民・関係機関との連携のあり方

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

集団活動の実践として、皆で力をあわせて、学級活動を具体的に企画・立案し、実践します。毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。
学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
遅刻３回を欠席１回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

学校教育全体における特別活動の意義を理解し、特別活動に必要な視点を持つとともに、特別活動の特質をふまえた指導に必要な知識や素養を身に付けること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開しようとする。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開しようとする。	指導案を作成し教育活動を展開しようとするものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%
筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館
・出 版 年（ISBN）：平成 30 年
・教科書名：『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』
・著 者 名：文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
・出版社名：文渓堂
・出 版 年（ISBN）：2019 年

教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含む)

～教育の理論と実践について考える～

西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	選択必修

授業概要

本授業では、これまで教師たちによって築かれてきた教育実践を手がかりとして、子どもたちの学びの基盤となる学習理論と教育方法の基本的な知識を習得し、授業づくりのあり方について考える。その上で、総合的な学習の時間の意義と指導方法の基本的内容を捉え、授業づくりの具体的なイメージがつかめるように理論と実践を有機的に結び付けて講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：これまでの授業風景を振り返る
第 2 回	教育方法の基礎理論
第 3 回	日本の幼児教育方法の歴史
第 4 回	環境を通して行う教育
第 5 回	子どもの育ちと人的環境
第 6 回	子どもの育ちと社会的環境
第 7 回	幼児保育・保育における遊び
第 8 回	幼児教育・保育における情報機器（ICT）の活用
第 9 回	情報活用能力と幼児教育・保育
第10回	総合的な学習の時間について①　その意義
第11回	総合的な学習の時間について②　学習指導要領にみる総合的な学習の時間
第12回	総合的な学習の時間について③　教育課程と指導計画
第13回	総合的な学習の時間について④　指導方法と評価方法
第14回	総合的な学習の時間について⑤　指導案
第15回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：授業の前に教科書の該当箇所を読み授業内容を確認して臨むこと。

・復習：授業内容を振り返り、知識の定着を図ること。

履修上の注意

・授業の内容に応じてグループディスカッション等も用いて進めていくので、積極的に参加すること。
・授業開始から２０分までを遅刻とし、それ以後は欠席とする。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・子どもたちの学びの基盤となる学習理論と教育方法についての基本的な知識を習得し、授業づくりの基本的な考え方を説明することができる。
・総合的な学習の時間の指導法についての基礎的な知識と技能を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	基本的な内容についての説明ができない

評価方法

学期末レポート課題（50%）、授業内レポート・課題等（50%）により総合的に評価する。

テキスト

・教科書名：『幼児教育・保育のための教育方法論』
・著 者 名：垂見直樹　池田竜介　編著
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2020 年（978-4-623-09091-4）

ICT 活用の理論と方法

～教育 DX への対応とオンライン授業の実践的活用法～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1 年	後期	2	選択	－	必修	－

授 業 概 要

「情報通信技術（ICT; Information & Communication Technology）を活用した教育の理論及び方法」の習得を目的として、ｸﾗｳﾄﾞﾈｯﾄﾜｰｸを利用した情報や知識のやり取り（＝生徒とｵﾝﾗｲﾝでつながる）に焦点を当て、教育ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝに対応したｵﾝﾗｲﾝ授業の実践的活用方法をﾊﾝｽﾞｵﾝ（体験型学習）形式で指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション －現代社会における ICT の役割－ 日常生活と最先端テクノロジー／ICT の基本理解／教育へのテクノロジー活用の意義
第 2 回	GIGA スクール構想と教育現場のデジタルトランスフォーメーション（DX） ICT 活用指導力が求められる理由／1 人 1 台の情報端末／情報活用能力とモラルの育成
第 3 回	オンライン授業に必要な情報端末（PC・スマートフォン・タブレット類）と基本操作 OS／アプリケーションソフト／データストレージサービス／コラボレーションツール
第 4 回	オンラインコミュニケーションと情報検索・収集の方法 ドメインの理解／電子メール・チャット／Web ブラウザー／検索エンジン／SNS
第 5 回	教育機関向けクラウド型ネットワークサービスの活用方法 クラウドサービスの機能・特徴と活用事例／校務の情報化／Microsoft Teams 基本設定確認
第 6 回	オンライン教室の設定 ①（トライアル・基礎編） テクノロジーを活用した教育の意義／クラウドサービスを活用したオンライン教室の特徴
第 7 回	オンライン教室の設定 ②（実践・活用編） オンライン教室の計画／クラスの作成／生徒の招待／チャネルの作成／チームの設定
第 8 回	オンライン授業の開始 ①（トライアル・基礎編） クラウドサービスを活用したオンライン授業の特徴／オンライン授業の設計
第 9 回	オンライン授業の開始 ②（実践・活用編） 生徒との対話・やり取り／資料ファイルの投稿／メッセージ投稿・返信・編集
第 10 回	オンライン授業の運営 ①（トライアル・基礎編） 授業開始／オーディオ・ビデオ・録画など授業運営の環境設定
第 11 回	オンライン授業の運営 ②（実践・活用編） 出席確認／画面共有／意見交換／グループワーク／質疑応答など授業運営の基本
第 12 回	オンライン授業の運営 ③（応用編） アンケート実施／課題／小テスト／ルーブリック／成績評価など授業運営の応用
第 13 回	オンライン授業の検証（機能・操作確認編） クラス・授業への参加／メッセージ確認・返信／質問・回答確認／録画閲覧／課題確認
第 14 回	模擬授業の実施と参加（実際の授業を想定したオンライン・ロールプレイ）
第 15 回	模擬授業の検証（オンライン授業の改善点・課題の明確化と解決策の検討）

予 習 ・ 復 習

- 予習：教科書の指定された範囲を必ず講義までに学習しておくこと（他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- 復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること。興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること(他に、授業内で課題の指示あり)。

履修上の注意

1. 受講者所有のノートパソコンを持参することを推奨する。
2. 受講者の情報端末操作リテラシーや理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。

到 達 目 標

1. 教育現場おける ICT 活用の意義と理論を理解する。
2. ICT 活用指導力に必要な情報端末機能を操作することができる。
3. 教育機関向けクラウドサービスを活用したオンライン教室を設定することができる。
4. 教育機関向けクラウドサービスを活用したオンライン授業を実施することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ICT 活用の意義と理論の理解（20%）	ICT 活用の意義と理論の理解にとどまらず、オンライン授業の設計まで習得できている。	ICT 活用の意義と理論を理解している。	ICT の役割を理解している。	ICT の役割をある程度理解している。	ICT 活用の意義や理論も ICT の役割も理解していない。
ICT 活用指導力に必要な情報端末の操作（20%）	講義で取り上げていない情報端末の機能を応用することができる。	講義で取り上げた情報端末の機能を活用することができる。	情報端末の機能をある程度活用することができる。	情報端末の機能を不十分であるが、操作することができる。	情報端末を操作することができない。
オンライン教室の設定（30%）	講義で取り上げていないオンライン教室設定の機能を応用することができる。	講義で取り上げたオンライン教室設定の機能を活用することができる。	オンライン教室設定の機能をある程度活用することができる。	オンライン教室設定の機能を不十分であるが、操作することができる。	オンライン教室設定の機能を操作することができない。
オンライン授業の実施（30%）	講義で取り上げていないオンライン授業実施の機能を応用することができる。	講義で取り上げたオンライン授業実施の機能を活用することができる。	オンライン授業実施の機能をある程度活用することができる。	オンライン授業実施の機能を不十分であるが、操作することができる。	オンライン授業実施の機能を操作することができない。

評価方法

受講態度（体験型学習への取り組み）40%、後期定期試験（実技）40%、課題（レポートなど）20%

テキスト

・教科書名：できる Microsoft Teams for Education すぐに始めるオンライン授業
・著 者 名：清水理史&できるシリーズ編集部
・出版社名：インプレス
・出 版 年（ISBN）：2021 年（978-4-295-01099-9）
※その他、講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ICT 活用の理論と方法」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

生徒･進路指導の理論と方法

～児童が生きる今を知り、指導・援助する～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	必修	－

授 業 概 要

生徒指導は、一人ひとりの児童の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる。他の教職員や関係機関と連携しながら生徒指導を進めていくために必要な知識・技能を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けられるよう、指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	生徒指導の意義と原理（1）教育課程における生徒指導の位置付け
第 2 回	生徒指導の意義と原理（2）各教科・道徳教育・総合学習・特別活動における生徒指導の意義
第 3 回	生徒指導の意義と原理（3）集団指導・個別指導の方法原理
第 4 回	生徒指導の意義と原理（4）生徒指導体制と教育相談体制―基本的な考え方と違い―
第 5 回	児童全体への指導（1）校務分掌と学校指導方針および年間指導計画に基づく組織的な取組
第 6 回	児童全体への指導（2）生徒指導の在り方―基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成―
第 7 回	児童全体への指導（3）児童及の自己存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方
第 8 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例１）
第 9 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例２）
第 10 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例３）
第 11 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例４）
第 12 回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例５）
第 13 回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（1）進路指導・キャリア教育の意義および理論
第 14 回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（2）ガイダンスとしての指導
第 15 回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（3）カウンセリングとしての指導

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。

遅刻 3 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

生徒指導・進路指導は学習指導と並ぶ重要な教育活動である。組織的に生徒・進路指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることが目標となる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（30%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 55%

筆記試験の得点 45%

テキスト

・教科書名：『生徒指導提要』（改訂版）
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2023 年
・教科書名：『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 小学校編（改訂版）』
・著 者 名：長谷川啓三・花田里欧子・佐藤宏平編
・出版社名：遠見書房
・出 版 年（ISBN）：2019 年

教育相談の理論と方法　～子どもの心の理解と対応～

原口　幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	必修	必修	選択必修

授業概要

本講義では，教育相談の基礎理論と技法の理解を目指す。基礎的なカウンセリングの理論及び技法，乳幼児期・児童期・思春期に生じうる問題と対応，多職種との連携について講義する。また，アクティブ・ラーニングとして，グループ・ワークを用い，体験を通した事例理解を目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス，教育相談とは何か
第 2 回	教育相談における連携と協働①：チーム学校（園）の基礎，専門職の役割
第 3 回	教育相談の基礎知識①：カウンセリングの代表理論と基礎技法
第 4 回	教育相談の基礎知識②：カウンセリングマインド，教師の自己理解
第 5 回	子どもの発達と生じうる問題①：乳幼児期
第 6 回	子どもの発達と生じうる問題②：児童期～思春期
第 7 回	教育相談の実際①：アタッチメントとトラウマの理解
第 8 回	教育相談の実際②：不登校・不登園
第 9 回	教育相談の実際③：いじめ
第 10 回	教育相談の実際④：発達障害
第 11 回	教育相談の実際⑤：児童虐待
第 12 回	教育相談の実際⑥：心身症・精神障害
第 13 回	教育相談の実際⑦：ヤングケアラー・LGBTQ・言語的マイノリティ（外国籍児童・生徒）
第 14 回	教育相談の予防的活用：心理教育
第 15 回	教育相談における連携と協働②：円滑な連携のための情報の活用，幼保小中の連携

予習・復習

・予習：授業計画や授業内で提示する資料を参照し，各自予習をする。必要に応じて，関連する資料を調べる。その他適宜授業内で提示する。

・復習：授業内で理解したこと，疑問をもったこと，興味をもったことをまとめる。

履修上の注意

（1） ２０分以上の遅刻は欠席扱い。遅刻３回で１回の欠席とする。リアクションペーパーの未提出は，欠席とする。
（2） すべての授業でリアクションペーパーの提出を求め，翌週の授業開始時に授業担当者がフィードバックする。
（3） 許可の無い限り，機器の如何にかかわらず授業内容の撮影・録音を禁ずる。
（4） 本授業では，グループワークを用いるため，積極的に参加すること
（5）授業計画は、受講生の興味関心に応じて、適宜、内容や順番を変更する。

到 達 目 標

１．幼保園・小学校における教育相談の意義，理論及び技法について説明できる。
２．幼保園・小学校における発達段階と生じうる問題について説明できる。
３．幼保園・小学校において生じうる問題への理解と対応について，体験を通した事例理解ができる。
４．教育相談における連携・協働の意義と具体的手法について説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
教育相談の意義・手法について理解する力（４０%）	授業内容を超えて，自主的な学習・思考に基づく理解がなされている	教育相談の意義・手法・理論の基礎を理解している	教育相談の意義・手法について理解している	教育相談の意義・手法について最低限理解している	教育相談の意義・手法の理解が不足している
問題や事例を理解し，対応を検討する力（２０%）	学んだ知識や他者の意見を踏まえて，自分なりの対応方法を考えて説明できる	問題や事例についての基本的な対応について，説明できる	資料を参照しながら，対応について検討できる	他者の意見を聞いて，対応について検討できる	他者の意見を聞いても，対応について検討できない
校（園）内及び多職種連携の意義・手法について理解する力（１０%）	各専門職の役割と限界を理解し，連携の意義を理解している	各専門職の役割と限界について理解している	連携する専門職について理解している	自らの専門性について理解している	各専門職の役割についての理解が不足している
理解や対応について文章で説明する力（リアクションペーパー）（２０%）	自分の考えを交えて，説得力のある内容が記述されている	理解・疑問点が論理的に記述されている	授業で理解したことが記述されている	最低限の説明がなされている	授業内容についての説明が不足している

評価方法

学期末試験 60%，リアクションペーパー20%，受講態度 20%

テキスト

教科書は使用せず，各授業のパワーポイント資料を用いる。その他，適宜資料を配布する。

児童文化　～実践を通して知っておくべき子どもの文化～

佐々木美和

【こども学科】

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	－	－	必修

授業概要

大人が子どもに与えるモノだけでなく、子ども自身が創り出す文化や衣食住を含む子どもを取り巻く環境にも視野を広げて、「児童文化」について講義する。一つひとつの児童文化財や遊び、玩具などへの探究を通して、保育者が身につけておくべき基本知識と、その知識を現場で生かすための技能の双方を指導する。

授業では、児童文化財による教材制作と実演、折り紙やあやとり、言葉あそびなどの実践を通して、その特徴や楽しさを体感してもらう。加えて、保育者の立場からこうした教材（玩具や遊具）の活用を考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	初回ガイダンス・子どもにとっての「遊び」 ・遊びの成立要件としての「三間」
第 2 回	子どもの遊び① ・言葉あそび教材の種類と特徴、活用が求められている背景
第 3 回	子どもの遊び② ・伝承行事と遊び、あやとりの技の理解と練習
第 4 回	子どもの遊び③ ・あやとりの実技
第 5 回	子どもの遊び④ ・伝承遊びの知識と実践（前半）
第 6 回	子どもの遊び⑤ ・伝承遊びの知識と実践（後半）
第 7 回	子どもの遊び⑥ ・折り紙の知識（基本の型）と制作課題の指示
第 8 回	子どもの遊び⑦ ・折り紙を主とする“壁面装飾”の制作
第 9 回	子どもの生活と社会 ・児童向け文化施設についての理解と各自治体への調査
第 10 回	児童文化財① ・共遊玩具の世界（布絵本、UD 絵本を含む）
第 11 回	児童文化財② ・豊かな「絵本」の世界 ・人形劇の世界
第 12 回	児童文化財③ ・フェルトパペットの構想と制作
第 13 回	児童文化財④ ・フェルトパペットの制作と活用の仕方（人形劇の台本作り）
第 14 回	実演発表会① ・フェルトパペットによる「人形劇」の準備、リハーサル
第 15 回	実演発表会② ・フェルトパペットによる「人形劇」の実演・発表

予習・復習

・予習：配布資料を読む、実技の練習、制作の準備

・復習：授業内で行った実技の練習、制作の改良

履修上の注意

・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。
・グループワークを含む実演に際しては、事前によく相談して、十分に練習してから臨むこと。
・制作物の準備や改良は、授業時間外に行うこと（他の授業時も同様）。
・制作課題で使用する材料や道具を、各自で授業時に持参すること。
・毎回授業後に、授業回の内容を振り返る課題を作成し提出すること。

到 達 目 標

・「児童文化」に関する基本的な知識を身につける。
・子どもを取り巻く文化環境について学び、保育者の視座から考える力を身につける。
・実際に「児童文化財」を用いて、遊びを構築し実演する技能を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（40%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
口頭発表力（10%）	論理的で独自性があり、発表の仕方にも工夫がある	論理の通った内容の発表ができる	説明の不足する点があるが、発表することができる	最低限の内容だが、発表をすることはできる	研究発表をしない、または準備不足が非常に目立つ
提出課題完成度（10%）	すべての完成度が高く、指定以上の内容を提出する	指定課題をほぼ100%完成させ期日内に提出できる	完成度に難点はあるが、期日内に課題は提出できる	提出や完成度に難点はあるが、最低限の課題数は提出できる	課題提出がないまたは期限超過や完成度に大きな難点がある
調査分析力と文章表現力（レポート）（10%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	難点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	難点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな難点がある

評価方法

・制作や実技、発表など授業時の課題（パペットの制作と実演、あやとり実技など）50%
・提出課題（学期末レポート、「絵本リスト」、折り紙の制作課題など）40%
・受講態度（「授業シート」の記載や提出課題の内容）10%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料を配布する。

子どもの理解と実践　～保育・教育カウンセリングの理論と方法～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	－	必修

授業概要

保育・教育カウンセリングとは、保育者・教育者だからこそできる、保育や教育の場において実践的に役に立つカウンセリングのことである。

保育や教育の場において、子どもを理解し実践に結び付けるためには、何を目的にどのようなことを行うのか、その際の判断基準は何かを理解しておくことは重要である。本授業では、実践力のある保育者・教育者の育成を目指し、保育・教育カウンセリングの理論と方法について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	保育・教育カウンセリングの理論（1）　論理療法
第 3 回	保育・教育カウンセリングの理論（2）　交流分析
第 4 回	保育・教育カウンセリングの理論（3）　アドラー心理学
第 5 回	保育・教育カウンセリングの理論（4）　構成的グループエンカウンター（1）
第 6 回	保育・教育カウンセリングの理論（5）　構成的グループエンカウンター（2）
第 7 回	保育・教育カウンセリングの理論（6）　グループワーク・トレーニング
第 8 回	保育・教育カウンセリングの実践（1）　グループ・アプローチ実施準備（1）
第 9 回	保育・教育カウンセリングの実践（2）　グループ・アプローチ実施準備（2）
第 10 回	保育・教育カウンセリングの実践（3）　グループ・アプローチ実施（1）
第 11 回	保育・教育カウンセリングの実践（4）　グループ・アプローチ実施（2）
第 12 回	保育・教育カウンセリングの方法（1）　個別面接の技法（1）
第 13 回	保育・教育カウンセリングの方法（2）　個別面接の技法（2）
第 14 回	保育・教育カウンセリングの方法（3）　個別面接の技法（3）
第 15 回	まとめ　保育・教育カウンセリングに基づいた子どもの理解と実践の在り方

予習・復習

・予習：授業の最後に次回予告した内容や授業計画に示された内容について、事前に学習しておくこと。
・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。
授業の内容に沿って、レポートを課す。

履修上の注意

１．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
２．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
３．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
４．身近に乳幼児や児童がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察し、理解を深めることを期待する。
５．学期末試験は行わない。

到 達 目 標

１．保育・教育カウンセリングの理論と方法について、基本的事項を理解している。
２．保育・教育カウンセリングの理論と方法に基づいて、自分の考えを文章で表現することができる。
３．保育・教育カウンセリングの理論と方法に基づいて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育・教育カウンセリングの理論と方法についての理解度（70%）	授業内容を超えて、自主的な学修ができている。	授業内容についてほぼ 100%理解している。	授業内容について理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限理解している。	授業内容について理解できていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（15%）	説得力のある文章で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のない文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを最低限表現できている。	文章で自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発言・議論する力（15%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・課題への取組（レポート等）　70%
　※特に、「グループ・アプローチ」や「個別面接の技法」の課題への取組を重視する。
・授業中の議論や発言等　30%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

児童文学　～もっと知っておきたい子どもの本の世界～	佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	選択	選択必修

授業概要

子どもと本との関わりには、必ず保護者や保育者といった大人がその橋渡しを担っている。この授業では、教員や保育士が理解しておくべき児童文学の代表的な作品について講義する。

児童文学の領域は多岐にわたるが、この授業の履修生が卒業後に求められる専門性を意識して、主に「絵本」を例に用いながら説明し、学生が希望するテーマを題材とする作品への探究も行う。また、ブックスタートやブックトークといった児童読書活動についても講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ・「児童文学」とは
第 2 回	伝承文学 ・日本の昔話について
第 3 回	言葉遊び絵本 ・回文、しりとり、アナグラム、落語など
第 4 回	幼年向け童話① ・宮沢賢治、古田足日、寺村輝夫など
第 5 回	幼年向け童話② ・神沢利子、中川李枝子、海外作品など
第 6 回	海外童話① ・グリム童話
第 7 回	海外童話② ・アンデルセン童話
第 8 回	ファンタジー（日本） ・佐藤さとる、上橋菜穂子など
第 9 回	ファンタジー（海外） ・M.エンデ、A.A.ミルン、ルイス.キャロルなど
第10回	マンガ・アニメーション① ・やなせたかし「アンパンマン」
第11回	マンガ・アニメーション② ・絵本に繋がるアニメーション作品
第12回	ブックスタートからブックトークへ ・保育者の役割
第13回	テーマ別絵本探究① ・履修生と相談して決めた「テーマ」に則した絵本について
第14回	テーマ別絵本探究② ・履修生と相談して決めた「テーマ」に則した絵本について
第15回	テーマ別絵本探究③ ・まとめ（児童文学の保育活用について）

予習・復習

・予習：配布資料や事前に指定された絵本や童話作品を読む

・復習：授業時に配布された絵本を読み、その特徴を授業内容と結びつけて確認する

履修上の注意

・遅刻や早退は 20 分以内とし、遅刻および早退は 3 回で欠席 1 回とみなす。
・事前に配布された資料や指定された絵本は、必ず読んで授業に臨む。
・授業時にも多くの絵本に目を通してもらう。毎回、講義内容を踏まえて各自の意見の述べる機会を設けるので、主体的・積極的に授業へ参加してもらいたい。
・児童文学のテーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する場合もある。

到 達 目 標

・児童文学、特に幼年向け童話や絵本に関する保育者として求められる知識を身につける。
・多様な絵本やジャンルやテーマを理解し、教育・保育活動で活用する技能を身につける。
・子どもと本を繋げる役割を自覚し、その意欲を高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（50%）	授業内容はもちろん、それ以上の自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容をある程度理解しているが多少の不足がみられる	授業内容について最低限の理解をしている	授業内容の理解ができていない
調査分析力と文章表現力 研究発表・レポート（40%）	執筆要項に則し論理的かつ優れた文章表現で記述できる	執筆要項に従い過不足のない記述ができる	難点はあるが、執筆要項に則った記述ができる	難点は多いが、執筆要項に従い最低限の記述ができる	執筆要項に従わず、記述の質量に大きな難点がある
協働学習力（10%）	履修生同士の学習に積極的に関わり、他者から学ぼうとする	履修生同士の学習において、協力する姿勢がある	協働学習において自分の役割を理解し、それに努める	協働学習において常に受動的な態度だが、活動には参加する	学習に参加しない、または非常に消極的な姿勢が目立つ

評価方法

・発表や意見交換などの授業時の活動　50%
・学期末レポート（授業時の発表内容を含む）40%
・受講態度　10%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

社会福祉論 ～社会福祉の法制度および相談援助について理解する～

西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	－	必修

授業概要

・社会福祉の動向、意義、歴史的経緯について講義する。
・子どもの家庭福祉の内容について講義する。
・社会福祉の制度、実施体系、相談援助の内容について講義する。
・社会福祉における利用者保護の内容について講義する。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な事例課題を提示してグループワークを指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	保育と社会福祉
第 2 回	社会福祉の理念と概念
第 3 回	欧米における社会福祉の歴史的変遷
第 4 回	日本における社会福祉の歴史的変遷
第 5 回	子ども家庭福祉と社会福祉
第 6 回	社会福祉の法制度と法体系　～子ども、障害者に関連するもの～
第 7 回	社会福祉の法制度と法体系　～高齢者、その他に関連するもの～
第 8 回	社会福祉行財政と実施機関
第 9 回	社会福祉施設、社会福祉専門職
第 10 回	社会保障および関連法制度１
第 11 回	社会保障および関連法制度２
第 12 回	相談援助の理論、意義と機能
第 13 回	相談援助の対象、過程、方法、技術
第 14 回	社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み～第三者評価、権利擁護、苦情解決～
第 15 回	これからの社会福祉

予習・復習

・予習：日頃の子育てに関するニュース等に関心を持つようにする。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・社会福祉の制度、実施体系、相談援助の方法と技術について理解する
・子どもが健やかに育つ社会のために、求められる社会福祉と保育のあり方を理解する。
・子育てにかかわる現状を自分自身の問題として考え、課題解決に向けた心構えを持つ。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　　６０%
授業内レポート　３０%
受講態度　　１０%

テキスト

・教科書名：改訂2版　最新保育士養成講座第4巻　社会福祉
・著 者 名：代表執筆者　山縣負文治　鶴宏史
・出版社名：全国社会福祉協議会
・出 版 年（ISBN）：2024年　978-4-7935-1462-3

子育て支援　～保育者の専門性を活かした子育て支援の実際～	佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

本授業では，ケーススタディーをもとに，子育て支援の様々な対象や場面，展開過程等保育者が行う子育て支援の実際と，保護者理解や支援の方法・技術を学ぶ。現代において子育て支援が必要とされる社会的背景や子育てをめぐる現代的課題，そこにおける保育者の役割を踏まえた上で，保育者の専門性を活かした子育て支援の特性と展開，具体的な内容，方法について，事例を通して理解を深められるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／子育て支援とは【教科書 LESSON1／子育て支援の制度的基盤】
第 2 回	子育て支援の意義【教科書 LESSON2／子育て支援が求められる社会的背景，子育て支援において園が果たす役割，子育て支援の独自性】
第 3 回	子育て支援の基本的価値・倫理【教科書 LESSON3／子どもの最善の利益の尊重，保護者における自ら子育てを実践する力の向上，保護者の状況に配慮した個別の支援他】
第 4 回	子育て支援の基本的姿勢【教科書 LESSON4／保育者の専門性の活用，家庭や地域の社会資源との連携，個人情報・プライバシーの保護と秘密保持他】
第 5 回	子育て支援の基本的技術【教科書 LESSON5／子育て支援のプロセス，子育て支援に役立つコミュニケーション技法】
第 6 回	園内・園外との連携と社会資源【教科書 LESSON6／園内の職員間の連携，さまざまな子育て支援者・地域子育て支援事業との連携，子育て支援ネットワークの活用】
第 7 回	記録・評価・研修【教科書 LESSON7／アセスメントで使われる記録方法他】
第 8 回	日常会話を活用した子育て支援【教科書 LESSON8／送迎時・トラブルの際のやりとり，面談，電話や SNS による連絡】
第 9 回	文書を活用した子育て支援【教科書 LESSON9／連絡帳，おたより】
第 10 回	行事などを活用した子育て支援【教科書 LESSON10／保育参加・参観，保護者懇談会，行事】
第 11 回	環境を活用した子育て支援【教科書 LESSON11／環境を通した子育て支援の意義，子育て支援にふさわしい環境の特性，環境を通した子育て支援の方法】
第 12 回	地域子育て支援拠点における支援【教科書 LESSON12／園で実施される子育て支援サービス，地域子育て支援拠点事業の内容と支援方法】
第 13 回	社会的養護と連携した子育て支援【教科書 LESSON13／親と子をつなぐ支援，要保護児童の保護者の傾向，社会的養護と連携した子育て支援の方法】
第 14 回	児童発達支援と連携した子育て支援【教科書 LESSON14／要支援児童の保護者の傾向，児童発達支援と連携した子育て支援の方法】
第 15 回	子育て支援と保育者の役割（振り返りとまとめ）【教科書 LESSON15】

予習・復習

・予習：翌回の「ストーリー」を事前に読み，わからない用語について調べておくこと。
・復習：授業で作成したワークシートを整理し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

1) 子育て支援の社会的な必要性やニーズ，そこにおける保育者の役割について理解する。
2) 保育の専門性を背景とした，保育士の保護者に対する相談，情報提供，行動見本の提示等について，その特性と展開を理解する。
3) 保育士の行う子育て支援について，様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，事例等を通して具体的に理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ワークシートの作成及び提出）（60%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に文章で説明する力（ワークシートの作成及び提出）（20%）	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができ，かつ，授業内容を越えた自主的な学習の成果が反映されている。	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	自分の意見を論理的に文章にすることはできているが，授業内容への理解が不足している。	授業内容の理解が不足しており，意見の論述の論理性にも不足が見られる。	授業内容が理解できておらず，意見の論述に論理性もない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

各回のワークシートの作成及び提出　80%
その他課題（授業内の質疑応答，グループディスカッション等）　20%

テキスト

・教科書名：『子育て支援　15 のストーリーで学ぶワークブック＜第 2 版＞』
・著 者 名：二宮祐子
・出版社名：萌文書林
・出 版 年（ISBN）：2025 年（4893474346）

子ども家庭支援の心理学

～子どもの未来を支える家庭支援のあり方を探る～

三浦真紀帆

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	－	必修

授業概要

本授業では、子どもの発達や家族・家庭の理解、子育て家庭を取り巻く社会的課題、子どもの心の健康について心理学的な視点から学ぶ。子どもと家庭を包括的に捉え、子どもや保護者を支えるための支援の目的や機能、実践方法について理解を深める。事例の検討や演習、ディスカッションを取り入れながら、保育者として求められる子ども家庭支援の視点を養うことを目的として講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　生涯発達：乳幼児期の発達と発達課題
第 2 回	生涯発達：学童期の発達と発達課題
第 3 回	生涯発達：青年期の発達と発達課題
第 4 回	生涯発達：成人期・老年期の発達と発達課題
第 5 回	家族・家庭の理解：家族・家庭の意義と機能
第 6 回	家族・家庭の理解：親子関係・家族関係の理解
第 7 回	家族・家庭の理解：子育ての経験と親としての育ち
第 8 回	子育て家庭に関する現状と課題：子育てを取り巻く社会的状況
第 9 回	子育て家庭に関する現状と課題：ライフコースと仕事・子育て
第 10 回	子育て家庭に関する現状と課題：多様な家庭とその理解
第 11 回	子育て家庭に関する現状と課題：特別な配慮を要する家庭
第 12 回	子どもの精神保健とその課題：子どもの生活・生育環境とその影響①
第 13 回	子どもの精神保健とその課題：子どもの生活・生育環境とその影響②
第 14 回	子どもの精神保健とその課題：子どもの心の健康に関わる問題①
第 15 回	子どもの精神保健とその課題：子どもの心の健康に関わる問題②

予習・復習

・予習：授業の最後に次回予告した内容や授業計画に示された内容について、基本的な用語や概念を確認しておくこと。
・復習：授業の配布した資料やノートを見直し、学修内容の整理を行うこと。また、子どもの発達、家族・家庭、子育て支援等に関するニュースや社会的話題に関心を持ち、学習内容との関連について考察すること。

履修上の注意

・授業中は演習やディスカッションへの積極的な参加を期待する。
・授業開始後 20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回を欠席 1 回として扱う。
・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合は、原則として評価の対象とならない。

到 達 目 標

1.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を身につける。
3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や課題について理解し、多様な家庭への支援のあり方を考察することができる。
4.子どもの精神保健とその課題について理解し、保育者として必要な支援の視点を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容の最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
考察力（15%）	授業内容をもとに問題意識を持ち、それについて多方向から考え説明することができる。	授業内容をもとに問題意識を持ち、それについて考えることができる。	授業内容をもとに問題意識を持つことができる。	他者の意見などを参考にすれば、問題意識を持つことができる。	問題意識を持つことができない。
参加意欲度（15%）	課題に対して主体的かつ積極的に取り組み、周囲との協調的な姿勢を持つことができる。	課題に対して主体的かつ積極的に取り組む姿勢が見られる。	課題に対して積極的に取り組もうとしている。	課題に対して周囲と協調しようとする姿勢が見られる。	課題への取り組みが消極的である。

評価方法

学期末試験 70%、授業毎のリアクションペーパー及びディスカッションへの参加度 30%

テキスト

【参考図書】※授業毎に資料を配布しますので、参考図書の購入の必要はありません。
・教科書名：よくわかる！保育士エクササイズ⑩子ども家庭支援の心理学演習ブック
・著 者 名：松本峰雄（監修）　池田りな・小林玄・土屋由・宮本桃英・渡辺千歳
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2022 年（978-4-623-09276-5）

子ども家庭福祉　～すべての子どもの育ちを支える福祉～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	必修	－	－	必修

授業概要

本授業では，子どもやその家族を取り巻く社会状況を踏まえた上で，子ども家庭福祉の理念，歴史，制度，実施体系等子ども家庭福祉の基本的な知識について講義する。特に，子ども家庭福祉の中心となる子どもの権利や権利擁護という考え方について，保育者として実践につなげることができるよう，具体的な事例に即して理解を深める。また，現代の子どもをめぐる福祉的な課題や子どもを支える種々の活動について知り，「自分ごと」としてとらえることができるよう，映像資料等を用いてできる限り多くの事例を紹介するとともに，グループワーク等を通して共同的に検討を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども家庭福祉とは何か【教科書第1章1】
第 2 回	子どもと家庭を取り巻く社会【教科書第1章2】
第 3 回	子どもの権利と権利擁護【教科書第1章3，第7章2】
第 4 回	子ども家庭福祉の歴史【教科書第2章】
第 5 回	子ども家庭福祉の制度と法律【教科書第3章】
第 6 回	子ども家庭福祉に関わる機関と施設【教科書第4章】
第 7 回	少子化と子育て家庭へのサービス【教科書第5章】
第 8 回	子育て支援と子どもに関する諸問題①児童虐待・DV【教科書第6章2】
第 9 回	子育て支援と子どもに関する諸問題②社会的養護【教科書第6章3】
第10回	子育て支援と子どもに関する諸問題③障害のある子ども【教科書第6章4】
第11回	子育て支援と子どもに関する諸問題④少年非行【教科書第6章5】
第12回	子育て支援と子どもに関する諸問題⑤子どもの貧困と対策【教科書第6章6】
第13回	子育て支援と子どもに関する諸問題⑥外国にルーツのある子ども【教科書第6章7】
第14回	保育と子どもの権利（「子どもの権利」カルタの作成）
第15回	子ども家庭福祉のこれからを考える【教科書第7章3，4】／まとめ

予習・復習

・予習：各回の教科書の該当部分を事前に読み，疑問点について調べておくこと。
　　常日頃から，子どもや子育ての問題に関心を持ち，時事問題にアンテナを張っておくこと。
・復習：授業のレジュメ，教科書を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

1) 子ども家庭福祉の理念，歴史，制度，実施体系等，子ども家庭福祉の基本的な知識について理解する。
2) 子どもの権利や権利擁護という考え方について，実践と関連づけて理解する。
3) 現代の子どもをめぐる福祉的な課題について，現状を理解し，今後のあり方を考察できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（定期試験）（70%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（30%）	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができ，かつ，授業内容を越えた発展的な主張を展開できる。	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，授業への理解が不足している。	授業への理解が不足しており，自分の意見もほとんど述べることができない。	授業の内容を理解できておらず，自分の意見も述べることができない。

評価方法

定期試験　70%
その他課題（リアクションペーパー，グループディスカッション等）　30%

テキスト

・教科書名：『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉［第２版］』
・著 者 名：直島正樹・河野清志編著
・出版社名：萌文書林
・出 版 年（ISBN）：2025 年（4893474445）

社会的養護Ⅰ　～こどもの権利擁護と自立支援～	西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・子どもの養護を担う「社会的養護」、「施設養護」の内容について講義する。
・子どもの「権利擁護」、「自立支援」の内容について講義する。
・児童福祉施設について適切な理解ができるように講義する。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な事例課題を提示してグループワークを指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	子どもの社会的養護
第 2 回	日本における社会的養護のしくみ
第 3 回	社会的養護に携わる専門職
第 4 回	家庭支援の理論と実践
第 5 回	家庭的養護の理念と里親制度
第 6 回	乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
第 7 回	児童養護施設の歴史と自立支援
第 8 回	非行のある子どもの自立支援
第 9 回	情緒障がいのある子どもの社会的養護
第10回	知的障がいのある子どもの社会的養護
第11回	身体障がいのある子どもの社会的養護
第12回	児童養護施設における子どもの権利擁護
第13回	当事者からみた日本の社会的養護
第14回	施設の運営
第15回	社会的養護の課題と展望

予習・復習

・予習：日頃の子育てに関するニュース等に関心を持つようにする。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・社会福祉の制度、実施体系、相談援助の方法と技術について理解する
・子どもが健やかに育つ社会のために、求められる社会福祉と保育のあり方を理解する。
・子育てにかかわる現状を自分自身の問題として考え、課題解決に向けた心構えを持つ。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　　６０%
授業内レポート　３０%
受講態度　　１０%

テキスト

・教科書名：社会的養護Ⅰ・Ⅱ
・著 者 名：松本峰雄監修
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2024年　978-4-623-09617-6

社会的養護Ⅰ

社会的養護Ⅱ ～子どもの自立を支援する～	西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

・社会的養護Ⅰで学んだ内容を基礎にして、実践的な能力を培っていけるように講義する。
・教員自身が福祉施設等で勤務した実務経験に基づき、社会的養護の実際場面の事例課題を提示して、グループワークやディスカッションを指導する。
・施設実習の事前学習として、個別支援計画作成、記録の取り方、自己評価の内容について講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	社会的養護における子どもの理解
第 2 回	日常的支援
第 3 回	治療的支援
第 4 回	自立支援
第 5 回	施設養護の生活特性および実際１
第 6 回	施設養護の生活特性および実際２
第 7 回	施設養護の生活特性および実際３
第 8 回	施設養護の生活特性および実際４
第 9 回	家庭養護の生活特性と実際
第 10 回	アセスメントと個別支援計画の作成
第 11 回	記録および自己評価
第 12 回	保育の専門性に関わる知識・技術と実践
第 13 回	社会的養護に関わる知識・技術と実践
第 14 回	社会的養護における家庭支援
第 15 回	社会的養護の課題と展望

予 習 ・ 復 習

・予習：日々の子育て関係のニュースに関心を持ち、社会的養護に関する理解を深める。

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。授業回数の3分の2以上の出席がない場合は期末試験を受けることができない。
・毎回の授業で、「授業レポート」を作成して提出。これを評価対象の資料とする。

到 達 目 標

・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
・施設養護および家庭養護の実際について理解する。
・社会的養護における計画、記録、自己評価の実際について理解する。
・社会的養護に関わる相談援助の方法、技術について理解する。
・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

筆記試験　　６０%
授業内レポート　３０%
受講態度　　１０%

テキスト

・教科書名：社会的養護Ⅰ・Ⅱ
・著 者 名：松本峰雄監修
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2024年　978-4-623-09617-6

保育原理　～保育とは？～

岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	必修	−	−	必修

授業概要

この授業では保育に関する基礎・基本、また根底を学ぶことができるように講義する。必要な基本的な知識を丸暗記するだけでなく、保育における基本、歴史、今日の課題等を自発的に学び、一人一人の保育に対する考えが深まるように講義を行う。保育士の実務経験に基づき、具体的、実用的な保育の基本を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	保育の方向性と実践の基礎と発達観
第 3 回	保育に関する諸法令
第 4 回	指針、要領にみる保育の原理
第 5 回	養護と保育の一体化
第 6 回	保育実践の基本構造
第 7 回	多様な保育内容とその方法
第 8 回	子育て支援について
第 9 回	西洋と日本の保育
第 10 回	西洋の保育実践の発展過程
第 11 回	日本の保育実践の発展過程
第 12 回	倉橋総三からの学び
第 13 回	保育者の在り方
第 14 回	今後の保育
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：テキストを熟読する

・復習：毎授業で学んだことをまとめておく

履修上の注意

・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・進歩状況により授業内容が変更する可能性がある。
・テキスト内のワークを行うため、テキスト持参（購入）が必須

到 達 目 標

① 教育の意義及び目的について理解する。
② 保育に関する法令及び制度を理解する。
③ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
④ 保育の思想と歴史的変遷について理解する。
⑤ 保育所現状と課題について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育の基本原則（50%）	日本の保育の現状・課題・歴史等多角的視点で保育の基本原則を説明できる	保育の基本原則について論理的に説明できる	保育の基本原則について説明できる	保育の基本原則について部分的に説明できる	保育の基本原則を説明できない。課題に取り組まない。
保育の現状と課題（30%）	日本の保育の現状・課題・歴史等多角的視点で保育の在り方について考察できる	保育の現状と課題に対し強い関心を持ち具体例を用いて考察できる	保育の現状と課題に対し関心を持ち考察できる	保育の現状と課題に対し関心を持ち部分的に考察できる	保育の現状と課題に対し関心を示さない。課題に取り組まない
保育の課題解決へのプロセス（20%）	諸外国や日本の保育に対して歴史や思想の観点から保育の具体的なプロセスを論理的に説明できる	具体例を用いて保育の課題を発見し解決策とプロセスを説明できる	具体例を用いて保育の課題を発見し解決策とプロセスを構想できる	具体例を用いて保育の課題を発見し解決策とプロセスを部分的に構想できる	具体例を用いて保育の課題を発見できない。課題に取り組まない

評価方法

学期末試験（レポート）50%　授業内課題 30%　授業態度 20%

テキスト

・教科書名：「改訂 2 版　Work で学ぶ保育原理」
・著 者 名：佐伯一弥・鈴木彬子・高橋優子・金瑛珠
・出版社名：わかば社
・出 版 年（ISBN）：978-4-907270-47-6

子どもの保健　～子どもたちの健やかな成長のために～	高山　智子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

授業概要

子どもには、健康に育っていく権利があるが、その権利を守っていくためには、子どもの発育・発達や健康を損なう要因について十分な知識を持ち、適切な対応方法を知っていることが重要である。本講義では、保育士として子どもの成長を支えるために必要な事柄について、講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　子どもの健康と保健の意義 健康とは何か、子どもの健康がなぜ重要なのか、
第 2 回	子どもの発達・発達と保健①乳児期　乳児期とは、乳児期の発育と発達、その特徴
第 3 回	子どもの発達・発達と保健②幼児期　幼児期とは、幼児期の発育と発達、その特徴
第 4 回	子どもの発達・発達と保健③学童期　学童期とは、学童期の発育と発達、その特徴
第 5 回	健康状態の把握とよくある症状への対応 子どもの健康状態の見方、子どもによくみられる症状への基本的な対応方法
第 6 回	子どもの感染症とその対応①　感染とは、感染予防対策、予防接種
第 7 回	子どもの感染症とその対応②　主な感染症
第 8 回	子どもの病気とその予防①　赤ちゃんに多い病気、乳幼児期の病気、
第 9 回	子どもの病気とその予防②　乳幼児期～学童に多い病気
第 10 回	子どもの病気とその予防③　アレルギーとは、アレルギー疾患とその対応
第 11 回	心の健康　心の健康とは、問題行動・発達障害・身体障害・精神疾患とその対応
第 12 回	子どもを病気から守る　環境衛生、衛生管理、熱中症予防など
第 13 回	子どものけが・事故とその予防と対応　けがへの基本的な対応、緊急時の対応
第 14 回	母子保健施策と施設における保健活動　制度や健康診断など
第 15 回	まとめ　14 回を通しての振り返り、補足

予習・復習

・予習：講義内容について、関連する事柄に関心を持ち、興味関心を高める。

・復習：講義内容を振り返り、疑問点を明らかにし、復習をして理解を深める。知識の定着のために繰り返し振り返る。

履修上の注意

覚えなければことがたくさんあるので、毎回の講義内容を着実に積み重ねていってください。
遅刻は、授業開始 30 分以降は欠席とします。遅刻３回で欠席１回とします。

到 達 目 標

・子どもの健康と保健の意義について理解する。
・子どもの発育・発達の特徴について説明することができる。
・子どもに多い病気や感染症とその予防、症状への対処方法について説明することができる。
・子どもの心の健康の重要性について説明することができる。
・子どもの環境衛生や安全管理について説明することができる。
・母子保健施策について説明でき、保健活動の重要性を理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
知識の定着（ 40%）	授業内容を超えた自主的な知識の獲得をしている。	授業で扱った事項の知識について、ほぼ 100%定着している。	授業で扱った事項の知識の定着について、多少不足がある。	授業で扱った事項の知識の定着が最低限である。	授業で扱った知識が定着していない。
意義や重要性について説明する力（ 20%）	他人を説得する内容が記述できる。	論理が通った説明を記述することができる。	不足する点があるが、説明文をかくことができる。	最低限の説明ができる。	説明ができていない。

評価方法

学期末試験　70%
講義時のプリント・レポートなどへの取り組みと提出状況　30%

テキスト　指定しない

・教科書名：
・著 者 名：
・出版社名：
・出 版 年（ISBN）：

子どもの健康と安全

～健やかな育ちを支える保育者の役割と実践力を育てよう～

須藤佐知子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

授 業 概 要

「子どもの健康と安全」は、子どもの保健での学びを基礎に、子どもの身体的・精神的健康および日常生活における安全の確保について、基礎的な知識と実践的な対応力を身につけることを目的とする。

近年、子どもを取り巻く環境はますます複雑化・多様化しており、保育現場では、的確な判断と柔軟な対応が求められている。そうした現状を踏まえ、本授業では、以下のような点に重点を置いて展開していく。

・子どもの健康管理及び保育環境の衛生管理・感染症対策
・保育環境の安全対策及び災害対策
・子どものけがや体調不良児の対応及び救命処置

演習を通じて、子どもの視点や保育者としての責任感を考察し、知識と対応力を結びつけ、実践力と判断力を培えるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション・保育所における感染症対策その１：手洗い演習 本授業の目的や全体構成、評価方法について説明する。保育所における健康・安全・感染症対策がなぜ重要なのかを理解し、保育士として求められる役割と責任を確認する。また、演習や実技が多い授業であるため、服装・態度・安全配慮についても共有する。
第 2 回	健康管理その１：身体計測・保健計画 身体計測の目的と実施方法を学ぶ。測定結果の記録や活用方法、発育の個人差への理解を深める。また、年間を通した保健計画の意義を知り、保育所での健康管理が計画的に行われていることを理解する。
第 3 回	健康の保持増進：健康教育その１ 子どもの健康の保持増進を目的とした健康教育の考え方を学ぶ。生活リズム、清潔習慣、食事などをテーマに、年齢に応じた健康教育の内容と伝え方について理解する。
第 4 回	保育所における感染症対策その２：おむつ交換演習 おむつ交換時に起こりやすい感染リスクを理解し、正しい手順と衛生管理について学ぶ。手袋の使用、汚物処理などを含め、安全で清潔なおむつ交換を実践できるようになる。
第 5 回	健康の保持増進：健康教育その２ 歯や体の清潔、運動、休息など、より幅広い健康教育の内容を扱う。子どもが主体的に健康行動を身につけられるような関わり方や、日常保育の中での健康教育の工夫を考える。
第 6 回	健康管理その２：健康観察と体調不良児への対応 毎日の健康観察のポイント（顔色、食欲、行動、排泄など）を学ぶ。体調不良の子どもへの初期対応、保育の配慮について理解し、早期発見・早期対応の重要性を学ぶ。
第 7 回	健康管理その３：口腔保健（歯磨き） 乳幼児期の口腔保健の重要性を理解する。年齢に応じた歯磨きの方法や援助の仕方、むし歯予防の考え方を学び、保育所での歯磨き指導や環境づくりについて考える。
第 8 回	保育所における感染症対策その３：嘔吐処理演習 嘔吐物による二次感染の危険性を理解し、正しい処理方法を演習で学ぶ。必要な物品、処理手順、消毒方法、周囲の子どもへの配慮など、実際の現場を想定した対応力を身につける。
第 9 回	安全対策その１：生活（食事・睡眠他） 日常生活の中に潜む事故の危険性を理解する。食事中の誤嚥・窒息、睡眠中の事故、着替えや排泄時の安全配慮について学び、事故を未然に防ぐ保育者の視点を養う。
第 10 回	安全対策その２：遊び（玩具・遊具・異年齢・行事等） 遊びの中で起こりやすい事故やケガについて学ぶ。玩具・遊具の安全点検、異年齢保育や行事時の注意点を理解し、子どもの発達に応じた安全な遊び環境の整え方を考える。
第 11 回	応急手当：ロールプレイ 切り傷、打撲、鼻血など保育現場で起こりやすいケガへの応急手当を学ぶ。ロールプレイを通して、落ち着いた対応、子どもへの声かけ、周囲への配慮を実践的に身につける。
第 12 回	救命処置演習 気道の異物除去・心肺蘇生法について基礎知識と実技を学ぶ。万が一の緊急事態に備え、子どもの命を守るために保育士が取るべき行動を理解し、実践力を高める。
第 13 回	個人差への対応：慢性疾患児や障害児の健康管理 慢性疾患や障害のある子どもの健康管理について学ぶ。医療的配慮、保護者や関係機関との連携、個別対応の重要性を理解し、一人ひとりを尊重した保育の視点を養う。
第 14 回	災害対策その１：防災・防犯 保育所における災害対策（地震・火災・水害など）や、不審者侵入などの防犯上のリスクを想定し、日常的な備え・対策や職員の役割分担、マニュアルの重要性を理解する。
第 15 回	災害対策その２：避難訓練・年齢別配慮・まとめ 災害時の避難行動について、年齢や発達段階に応じた配慮を学ぶ。あわせて授業全体を振り返り、保育士としての健康・安全管理の役割を確認する。

予習・復習

・予習：テキストの該当箇所を熟読する。また、「子どもの保健」の関連個所の振り返りもしておく。
・復習：テキストや授業内容、紹介した資料を読み返し、ノートにまとめる。

履修上の注意

授業回・内容により、各自用意する物がある。初回授業で通知するので、当日忘れないこと。
授業開始後 20 分以内は遅刻、20 分超は欠席とする。遅刻 3 回は欠席 1 回分とする。

到達目標

１．子どもの身体的・精神的健康の保持増進に関する基礎的知識を理解している。
２．子どもの安全な生活環境を整えるための基本的な知識と技能を有している。
３．けがや体調不良時の適切な初期対応ができる。
４．保育者としての責任と役割を自覚し、子どもの立場に立った行動ができる。
５．多様化する保育現場の状況に応じて、柔軟に対応する姿勢を身につけている。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業（講義・演習）への参加態度（30%）	授業内容に関心をもち、非常に積極的に授業に参加している。	授業内容に関心をもち、積極的に授業に参加している。	授業内容に関心はあるが、積極性にやや欠けている。	授業内容への関心がやや欠けており、積極性もやや欠けている。	授業内容に関心がなく、積極的に学ぶ姿勢がない。
授業の理解度（30%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題への取り組み（40%）	自分の考えを含めて非常にわかりやすく課題をまとめることができている。	自分の考えも含めてわかりやすく課題をまとめることができている。	課題をまとめることができているが、自分の考えがやや不足している。	課題をまとめることができているが、内容が不足している。	課題を適切にまとめることができていない

評価方法

授業参加態度 30%　リアクションペーパー30%　課題レポート 40%

テキスト

・教科書名：子どもの保健・実習　ーすこやかな育ちをサポートするためにー　第三版
・著 者 名：兼松百合子他
・出版社名：同文書院
・出 版 年（ISBN）：2019（ISBN978-4-8103-1476-2）

子どもの食と栄養Ⅰ　～栄養の基本を知ろう、乳幼児の食生活について考えよう～

中西由季子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	－	－	必修

授業概要

子どもの食と栄養Ⅰの授業では、まず現在の子どもの食生活の現状から問題点を把握し、改善すべき点について講義する。次に栄養に関する基礎知識を身につけ、子どもの発育・発達に必要な栄養（胎児期・離乳期・幼児期）について講義する。離乳期・幼児期の栄養に関しては講義だけではなく、調乳や離乳食の調理についても学び、実践できる力を養うために指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　子どもの健康と食生活の意義①　保育士がなぜ健康や栄養のことを学ぶのか、ブロックを使用して問いに対応した作品を作成し、グループ内で対話を行う。
第 2 回	子どもの健康と食生活の意義②　現在の子どもの食生活の現状から問題点を把握し、改善すべき点について講義する。
第 3 回	栄養に関する基本的知識　栄養の基本、消化と吸収　栄養と栄養素の違いや消化吸収の仕組みについて講義する。
第 4 回	栄養に関する基本的知識　栄養素１　主要栄養素（炭水化物・脂質・タンパク質）について講義する。
第 5 回	栄養に関する基本的知識　栄養素２　ビタミン(脂溶性・水溶性)について講義する。
第 6 回	栄養に関する基本的知識　栄養素３　ミネラルについて講義する。
第 7 回	栄養に関する基本的知識　栄養バランスのとれた食事、調理の基本　栄養バランスのとれた食事とはどのような食事なのか、食事摂取基準や食事バランスガイドについて講義する。調理の基本についても講義する。
第 8 回	子どもの発育・発達と食生活　小児期の発育と発達　小児期の発育と発達について講義する。
第 9 回	子どもの発育・発達と食生活　妊娠・授乳期の栄養　妊娠期・授乳期の母親に必要な栄養について講義する。
第 10 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 乳汁栄養　乳児に必要な栄養について講義し、ブロックを使って作品を作り、乳児について考え言語化し、グループ内で対話する。
第 11 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 調乳　調乳について講義し、問いづくりの手法を用いながら、調乳について理解を深める。
第 12 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 離乳栄養　離乳期と離乳栄養について講義する。
第 13 回	子どもの発育・発達と食生活　乳児期 離乳食とベビーフード　離乳食について講義し、実際に月齢別の離乳食の作成について指導する。
第 14 回	子どもの発育・発達と食生活　幼児期の食生活　幼児期の食生活の特徴について講義する。
第 15 回	子どもの発育・発達と食生活　幼児期の食事　幼児期の食事・栄養について講義し、ブロックを使って作品を作り、幼児期の食事について考え言語化し、グループ内で対話する。

予習・復習

・予習：次の授業内容に該当する部分の教科書を読んでくること。

・復習：事後学習として出された課題は必ず取り組むこと。

履修上の注意

・授業には積極的に参加すること。私語、居眠りをしないこと。
・課題等の提出期限を遵守すること。
・スマートフォンの利用については指示のあったとき以外は認めない。
・遅刻・早退は 30 分以内、それ以降は欠席とする。
・遅刻 3 回で欠席 1 回分とするので注意すること。

到 達 目 標

・子どもを取り巻く環境について考え、子どもの食生活の現状と課題について理解できる。
・栄養学の基本的な知識を身につけ、乳児期および幼児期の栄養と食生活について理解できる。
・調乳および離乳食の作成が実践できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
子どもの食生活の現状と課題について理解する（10%）	自分で子どもの食生活の現状を情報収集し、課題をみつけ、解決策を提案できる。	子どもの食生活の現状を理解でき、課題に対する解決策を提案できる。	子どもの食生活の現状を理解でき、課題もわかる。	子どもの食生活の現状を理解できるが、課題が何かわからない。	子どもの食生活の現状がわからない。
栄養について理解する（10%）	栄養について、授業内容を越えた自主的な学修ができる。	食品に入っている栄養素を理解できる。	5 大栄養素の働きを理解している。	5 大栄養素を言うことができる。	5 大栄養素がわからない。
栄養バランスのよい食事について理解する（10%）	栄養バランスについて、授業内容を越えた自主的な学修ができる。	栄養バランスのとれた食事を具体的に考えることができる。	栄養バランスのとれた食事がわかる。	栄養バランスはわかるが、バランスのよい食事がどのようなものかわからない。	栄養バランスとは何かわからない。
乳児期、幼児期の栄養について理解する（10%）	乳児期、幼児期の栄養について授業内容を越えた自主的な学修ができる。	乳児期、幼児期の栄養について理解しており、調乳・調理することができる。	調乳・離乳食の作り方がわかる。	各時期にどのような食事を摂取するか理解できる。	乳児期、幼児期の食事についてイメージできない。
課題解法能力（60%）	授業内課題を提出しており、小テストの正答率が 80 点以上である。	授業内課題を提出しており、小テストの正答率が 60 点以上である。	授業内課題を提出しており、小テストの正答率が 40 点以上である。	授業内課題を提出しており、小テストの正答率が 20 点未満である。	授業内の課題を提出していない。小テストの正答率が 20 点未満である。

評価方法

学期末試験で 60 点以上の場合、以下のように評価する。
受講態度１0%＋課題レポート２0%、学期末試験７０%

テキスト

・教科書名：子どもの食と栄養　第３版
・著 者 名：太田百合子　堤ちはる
・出版社名：羊土社
・出 版 年（ISBN）：2025（978-4-7581-1380-9）

子どもの食と栄養Ⅱ　～食育を実践しよう、特別な配慮を必要とする子供の食生活について考えよう～

中西由季子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

食育基本法や子どもの食の問題点や改善点について、食育を実践する手法について講義する。食育活動について企画書を作成し、自作の食育活動媒体を作成し、プレゼンテーションを実施するための指導をする。また、食の安全（食中毒)、アレルギー疾患や障がいのある子どもの食と栄養についても講義する。被災時に役立つ食事をつくることができるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス・子どもの食と栄養Ⅰの復習　ブロックを使って作品を作成し、子どもの食と栄養Ⅰを振り返り、グループ内で対話を行う。
第 2 回	子どもの発育・発達と栄養・食生活　学童・思春期の食事　学童期・思春期の男女の成長の違いを含め栄養・食事について講義する。
第 3 回	成人の栄養・食生活　生活習慣病や高齢期のフレイルと食の関係について講義し、日常生活活動調査および食生活の 24 時間思い出しにより、自分の必要なエネルギー量を知り、普段の自分の食事の栄養バランスの状態を知ることができるように指導する。
第 4 回	食育の基本と実践　食育の基本と事例紹介など講義する。
第 5 回	食育について計画する①　食育活動計画書について講義する。
第 6 回	食育について計画する②　食育活動計画書について講義し、各自で作成できるように指導する。
第 7 回	食の安全（食中毒）　食中毒の原因となる微生物や事例紹介など講義をする。
第 8 回	防災食ワークショップ　ローリングストック法による防災食備蓄法を紹介し、被災時に活用できるポリ袋クッキングによる親子丼とライスペーパー大福の調理を指導する。
第 9 回	SDGs と食育　2030SDGs カードゲームを実施し、SDG s と教育・子どもの栄養について体感できるように指導する。
第 10 回	児童福祉施設や家庭における食と栄養　児童福祉施設にはどのような施設が含まれるのか、どのような給食運営が行われるのか講義する。
第 11 回	食育発表会１　第 6 回から計画・準備してきた食育活動について、デモンストレーションも含め一人 5 分のプレゼンテーションを行う。
第 12 回	食育発表会２　第 6 回から計画・準備してきた食育活動について、デモンストレーションも含め一人 5 分のプレゼンテーションを行う。
第 13 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①食物アレルギーのある子どもへの対応　食物アレルギーの仕組みとアレルギー症状が発症しないような予防法について講義する。
第 14 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②障がいのある子どもへの対応　発達障害の子どもの食に関する対応について講義する。
第 15 回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③体調不良および疾患の子どもへの対応　体調不良および疾患の子どもへ注意すべきポイントについて講義し、ブロックを使って作品を作り、グループ内で対話する。

予習・復習

・予習：次の授業内容に関して教科書を読み、わからないことをチェックしておくこと。

・復習：事後学習として出された課題は必ず取り組むこと。

履修上の注意

・子どもの食と栄養Ⅰを履修していること。
・授業には積極的に参加すること。
・私語、居眠りをしないこと。
・課題等の提出期限を遵守すること。
・スマートフォンの利用については指示のあったとき以外は認めない。
・遅刻・早退は 30 分以内、それ以降は欠席とする。
・遅刻 3 回で欠席 1 回分とするので注意すること。

到 達 目 標

学童期、思春期、成人期の栄養と食生活について理解し、実践できる。
なぜ食育が必要なのか理解することができ、実際に食育を行うことができる。
疾患のある子ども、特別な配慮の必要な子どもへの対応ができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学童期、思春期の栄養と食生活について理解する。（１０％）	学童期、思春期の栄養、食生活について授業内容を越えた自主的な学修ができる。	学童期、思春期の食生活の問題点について考え、解決するための取り組みを実践できる。	学童期、思春期の食生活の問題点について考え、解決策を検討することができる。	学童期、思春期の食生活の問題点について考えることができる。	学童期、思春期の栄養、食生活について理解できない。
学童期、成人期の栄養と食生活について理解する。（５％）	成人期の栄養、食生活について授業内容を越えた自主的な学修ができる。	成人期の食生活の問題点について考え、解決するための取り組みを実践できる。	成人期の食生活の問題点について考え、解決策を検討することができる。	成人期の食生活の問題点について考えることができる。	成人期の栄養、食生活について理解できない。
食育活動が実践できる（課題解法能力）（50%）	積極的に食育の取り組みについて実践することができる。	子どもの食に関する問題点について考え、解決するための取り組みを実践できる。	子どもの食に関する問題点について考え、解決策を検討することができる。	子どもの食に関する問題点について考えることができる。	なぜ食育が必要なのかわからない。
特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する（１５％）	特別な配慮を要する子どもの食と栄養について授業内容を越えた自主的な学修ができる。	特別な配慮を要する子どもの食と栄養について考えることができる。	特別な配慮を要する子どもの食と栄養が理解できる。	特別な配慮を要する子どもについて理解できる。	特別な配慮とはなにかについて理解できない。
文章で説明する力（レポート）（２0%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

レポート（課題、食育指導案、調理実習レポート）６０％、食育発表２０％、最終レポート２０％

テキスト

・教科書名：子どもの食と栄養第３版
・著 者 名：太田百合子　堤ちはる
・出版社名：羊土社
・出 版 年（ISBN）：2025（978-4-7581-1380-9）

乳児保育Ⅰ　～乳児保育の基本と理論～	松原みゆき

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	2	選択	－	－	必修

授業概要

教科書解説、保育現場での実践例を参考にしながら、乳児保育の理念、０歳から３歳未満児の発達、乳児に対する基礎知識について実務経験を基に詳しく講義する。保育現場での経験を活かし、実習で役立つ手遊びや保育教材づくりなどを通して、保育士として求められる実践力を高める講義をする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 乳児保育とは、乳児保育の目的と意義、乳児保育の歴史的変遷
第 2 回	乳児保育を取り巻く社会的環境 乳児保育の役割と機能、乳児保育における養護と教育
第 3 回	乳児保育が営まれる多様な場 保育所における乳児保育、子育て支援の場
第 4 回	０歳児の発育・発達と保育 ０歳児の保育における援助と配慮
第 5 回	１歳児の発育・発達と保育 １歳児の保育における援助と配慮
第 6 回	２歳児の発育・発達と保育 ２歳児の保育における援助と配慮
第 7 回	移行期の子どもへの関わり 集団形成への配慮
第 8 回	乳児保育における連携・協働 保護者との連携・協働
第 9 回	乳児保育における基本的生活の援助 乳児保育に適した環境
第 10 回	乳児保育における健康支援 保育の教材研究　ペープサート作成①
第 11 回	乳児保育における衛生・安全 保育の教材研究　ペープサート作成②
第 12 回	乳児保育における生活と遊びの実践 保育の教材研究　ペープサート作成③
第 13 回	乳児保育における計画と評価 部分実習指導案（ペープサート）作成
第 14 回	多様性をめざす乳児保育 保育の場における保育実践力　ペープサート実践
第 15 回	乳児保育の基本から応用へ まとめと振り返り

予習・復習

・予習：教科書や保育所保育指針、その他の参考文献を読んでおく。

・復習：配布資料、自分で記録したノートを読み返し、学習内容の理解を深める。

履修上の注意

・授業中の基本的なマナーを守ること。
・遅刻は授業開始 30 分以内、早退は授業終了 30 分以内とし、遅刻、早退 3 回で欠席 1 回とする。
・遅刻、早退、欠席については、直接担当教員に申し出ること。
・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合は、期末試験を受けることができない。
・授業内で乳児の手遊びや乳児絵本の読み聞かせ実践を行うため、「保育者を志す学生」であることを意識し、意欲的に授業に参加すること。

到 達 目 標

1. 乳児保育の理念、歴史的変遷及び役割等について理解することができる。
2. 乳児保育を担当する保育士の役割について理解を深め、乳児保育における基本的な保育実践を習得することができる。
3. 指導案作成、教材研究を含めた模擬保育を通して、保育現場で活かされる実践的な指導力を育むことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（50%）	授業内容を越え意欲的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容に興味関心が薄く、理解が浅い。	授業内容に興味関心がなく、理解ができていない。
保育実技実践力（20%）	子どもの前に立つ保育士の在り方を理解し、保育実技の実践ができる。	声や表情に配慮した保育実技の実践ができる。	一人で保育実技の実践ができる。	周囲の人と共に保育実技の実践ができる。	保育実技の実践ができていない。
課題作品への取り組み（10%）	乳幼児をイメージし、工夫を凝らした課題作品に取り組むことができる。	乳幼児をイメージし、課題作品に前向きに取り組むことができる。	課題作品への取り組みがやや消極的である。	課題作品への取り組みが消極的である。	課題作品に取り組む姿がみられない。
授業への積極性（20%）	意欲的に授業に参加し、自主的な学習や実習等の準備につなげようとする。	意欲的に授業に参加し、学んだ事を活かそうとする。	意欲的に学ぶ態度がやや消極的である。	意欲的に学ぶ態度が消極的である。	意欲的に学ぶ態度がみられない。

評価方法

学期末試験 50%
保育実践（課題作成・指導案を含む）、授業内レポート等 30%
受講態度 20%

テキスト

・教科書名：乳児保育Ⅰ・Ⅱ
・著 者 名：後藤由美・菊地篤子
・出版社名：中山書店
・出 版 年（ISBN）：2025 年（ISBN 978-4-521-75114-6）

乳児保育Ⅱ　～乳児保育の実践と演習～	松原みゆき

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

「乳児保育Ⅰ」において修得した基礎的理論を軸に、乳児の発達をはじめ、保育者として必要な理論と保育技術が向上するよう、実務経験を活かした具体的な実践方法を指導する。乳児保育における具体的な事例の検討及び子育て支援の実情にふれ、乳幼児を取り巻く社会背景や保護者支援についても理解を深める。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション 乳児の生活の援助「食事」、離乳食と幼児食
第 2 回	乳児の生活の援助「排泄、おむつ交換」 排泄の自立
第 3 回	乳児の生活の援助「睡眠」 １日の生活リズムと睡眠
第 4 回	乳児の生活の援助「衣服の着脱」 着脱の自立
第 5 回	乳児の生活の援助「沐浴」 生活習慣の始まりと援助
第 6 回	体を動かす遊び～室内遊び、戸外遊び～
第 7 回	人と関わる遊び～大人との遊び、子ども同士の遊び～
第 8 回	物と関わる遊び～遊具やおもちゃを用いた遊び、児童文化財との触れ合い～
第 9 回	保育の教材研究　手袋シアター作成①
第 10 回	保育の教材研究　手袋シアター作成②
第 11 回	保育の教材研究　手袋シアター作成③
第 12 回	乳児保育における計画と評価 部分実習指導案（手袋シアター）作成
第 13 回	保育の場における保育実践力　模擬保育①
第 14 回	保育の場における保育実践力　模擬保育②
第 15 回	保育の場における保育実践力　模擬保育③ まとめと振り返り

予習・復習

・予習：教科書や保育所保育指針、その他の参考文献を読んでおく。

・復習：配布資料、自分で記録したノートを読み返し、学習内容の理解を深める。

履修上の注意

・「乳児保育Ⅰ」履修者が望ましい。
・授業中の基本的なマナーを守ること。
・遅刻は授業開始 30 分以内、早退は授業終了 30 分以内とし、遅刻、早退 3 回で欠席 1 回とする。
・遅刻、早退、欠席については、直接担当教員に申し出ること。
・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合は、期末試験を受けることができない。
・授業内で乳児の手遊びや乳児絵本の読み聞かせ実践を行うため、「保育者を志す学生」であることを意識し、主体的に授業に参加すること。

到 達 目 標

1. 養護および教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解することができる。
2. 乳児保育における保育者の配慮や環境構成、保育計画の作成について理解することができる。
3. 指導案作成、教材研究を含めた模擬保育を通して、保育現場で活かされる実践的な指導力を育むことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容理解度（50%）	授業内容を越え主体的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容に興味関心が薄く、理解が浅い。	授業内容に興味関心がなく、理解ができていない。
指導計画の立案（20%）	指導計画の学習を理解し、乳幼児の発達に即した指導計画の立案ができる。	指導計画の学習を理解し、指導計画の立案ができる。	テキスト等を参考にし、指導計画の立案ができる。	教員の助言を受け、指導計画の立案ができる。	指導計画について理解ができず、指導計画の立案ができていない。
保育実技実践力（10%）	子どもの前に立つ保育士の在り方を理解し、指導案に即した実践ができる。	指導案に即した実践が主体的かつ的確である。	指導案に即した実践がやや消極的である。	指導案に即した実践が消極的である。	実践ができていない。
授業への積極性（20%）	主体的に授業に参加し、自主的な学習や実習等の準備につなげようとする。	主体的に授業に参加し、学んだ事を活かそうとする。	主体的に学ぶ態度がやや消極的である。	主体的に学ぶ態度が消極的である。	主体的に学ぶ態度がみられない。

評価方法

学期末試験 50%
保育実践（指導案・課題作成を含む）、授業内レポート等 30%
受講態度 20%

テキスト

・教科書名：乳児保育Ⅰ・Ⅱ
・著 者 名：後藤由美・菊地篤子
・出版社名：中山書店
・出 版 年（ISBN）：2025 年（ISBN 978-4-521-75114-6）

特別支援論Ⅰ（対象理解）

～多様な背景をもつ子どもの理解と支援の基礎～

林　　恵

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	必修	必修	必修

授業概要

本授業では、特別支援教育を「特定の障害のある子どもへの対応」に限定せず、多様な背景をもつ子ども一人ひとりを理解し支援するための基礎的な考え方として学ぶ。
障害のある子どもに加え、外国にルーツをもつ子ども、性の多様性に関わる課題を抱える子どもなど、保育・教育現場において支援が必要とされる多様な子どもの姿を取り上げる。
子どもの行動や困り感を個人の問題として捉えるのではなく、発達的・環境的背景から理解し、保育者・教育者として求められる基本的な支援の視点を身につけることを目的とする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／特別支援論Ⅰで学ぶこと 特別支援論Ⅰの目的と全体像を確認し、多様な背景をもつ子ども一人ひとりを理解し支援する考え方を学ぶ。保育・教育の基礎として特別支援を学ぶ意義について考える。
第 2 回	特別支援教育の理念と基本的な考え方 障害児者に対する社会の捉え方や支援の在り方が、保護・隔離の時代から教育・共生へとどのように変化してきたのかを学ぶ。特別支援教育が目指してきた理念や目的について学び、インクルーシブ教育の考え方との関係を理解する。
第 3 回	障害の捉え方～医学モデルと社会モデル 障害の捉え方がどのように変化してきたのかを、医学モデルと社会モデルの違いを通して学ぶ。子どもの発達には個人差があることを踏まえ「できないこと」ではなく「困っていること」に着目する視点を学ぶ。
第 4 回	障害のある子どもの理解①（知的障害の基礎） 知的障害の基本的な特徴について学び、子どもの行動や特性を発達的観点から理解する。診断名だけにとらわれない子ども理解の重要性を確認する。
第 5 回	障害のある子どもの理解②（発達障害の基礎） 発達障害の基本的な特徴について学び、子どもの行動や特性を発達的観点から理解する。具体的事例を基に対応を考える。
第 6 回	障害のある子どもの理解③（視覚・聴覚障害児の基礎） 視覚・聴覚面に配慮が必要な子どもについて理解し、日常生活や集団生活においてどのような困難が生じやすいのかを学ぶ。基本的な配慮の視点を整理する。
第 7 回	障害のある子どもの理解④（肢体不自由児・重症心身障害児の基礎） 肢体不自由のある子どもや重症心身障害児、医療的ケアを必要とする子どもの基本的な理解について学ぶ。日常生活や集団生活において生じやすい困難や、保育・教育現場で求められる配慮の視点を理解する。
第 8 回	障害のある子どもの理解⑤（病弱児の基礎） 身体及び精神の健康に配慮が必要な子どもについて理解し、日常生活や集団生活においてどのような困難が生じやすいのかを学ぶ。
第 9 回	家族との関わりと支援 多様な背景をもつ子どもの家族との関わりについて考える。障害受容の基本的知識を学び、保護者支援の基本的な姿勢や、信頼関係を築くための視点を学ぶ。
第 10 回	外国にルーツをもつ子どもの理解①（言語・文化の違い） 外国にルーツをもつ子どもが経験しやすい言語や文化の違いについて学ぶ。ことばの問題だけでなく、生活習慣や価値観の違いが保育・教育に与える影響を理解する。
第 11 回	外国にルーツをもつ子どもの理解②（園・学校生活での困難） 園や学校生活の中で、外国にルーツをもつ子どもが直面しやすい困難について具体的に考える。周囲の関わりや環境調整の重要性を理解する。
第 12 回	性の多様性に関わる子どもの理解 性の多様性に関する基本的な考え方を学び、子どもが安心して過ごすために保育・教育現場で求められる配慮について理解する。決めつけや思い込みが子どもに与える影響を考える。
第 13 回	合理的配慮と環境調整の基礎 合理的配慮の考え方について理解し、特別な対応ではなく、誰にとっても学びやすい環境づくりの視点を学ぶ。具体的な例を通して環境調整の意義を考える。
第 14 回	保育・学校現場における支援体制と連携 保育者・教員だけでなく、園や学校全体、関係機関と連携して子どもを支える体制について学ぶ。チームで支援することの重要性を理解する。就学のシステム、指導計画がどのように活用されているのかを基礎的に理解する。
第 15 回	事例から考える多様な子どもへの理解と支援 具体的な事例をもとに、子どもの背景や困り感を整理し、どのような支援の視点が考えられるかを検討する。これまで学んだ内容を統合する。

予習・復習

・予習：次回の授業テーマについて、配布資料を事前に確認する。課題がある場合は課題に取り組む。
・復習：授業内容を振り返り、子ども理解の視点を整理する。課題がある場合は課題に取り組む。

履修上の注意

授業への積極的な参加を求める。私語は厳禁とする。
授業開始後 30 分までは遅刻とし、そこ以降は欠席とする。遅刻は 3 回で欠席を 1 カウントとする。
ただし、特別の事情がない限り、遅刻欠席をしないこと。

到 達 目 標

・　多様な背景をもつ子どもの存在と、その理解の重要性を説明することができる。
・　子どもの困り感を発達的・環境的視点から捉えることができる。
・　保育・教育現場における基本的な支援の考え方を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
特別支援教育（保育）の基礎的理解（60%）	障害のある子ども、外国にルーツをもつ子ども、性の多様性に関わる子どもなど、多様な背景をもつ子どもの理解について、授業内容を踏まえ体系的に説明できる。	多様な背景をもつ子どもの存在と、特別支援教育の基本的な考え方について、授業内容に基づき理解している。	基本的な内容は理解しているが、子どもの背景の多様性や支援の視点の理解に一部不十分な点がある。	授業内容の理解が不十分であり、特別支援教育の基礎的な考え方を十分に説明できない。	授業内容についての理解がほとんどできていない。
子ども理解と支援の視点（20%）	子どもの発達や背景を踏まえ、「困り感」に着目して支援の視点を自ら整理し、具体的に示すことができる。	子どもの背景や発達の多様性を踏まえ、基本的な支援の視点を理解している。	支援の視点は示されているが、子ども理解や説明がやや不十分である。	子どもの背景や支援の視点についての理解が不十分である。	子ども理解や支援の視点について考えることができていない。
主体的な学修態度（20%）	授業内容に関心をもち、積極的に参加しながら、自ら学びを深めようとする姿勢が顕著である。	授業や課題に取り組み、学修内容を理解しようとする姿勢が見られる。	授業には参加しているが、主体的な学修姿勢がやや不足している。	学修への取り組みが消極的である。	学修への取り組みがほとんど見られない。

評価方法

学期末試験：80%（上記ルーブリック①②をもとに評価する）
提出課題・受講態度：20%
ただし、指定した課題が提出されていない場合は評価の対象としない。

テキスト

・教科書名：保育者・教育者になる人のための特別支援教育－当事者の声を聴く－
・著 者 名：小林芳文・無藤篤訓 他
・出版社名：萌文書林
・出 版 年（ISBN）：2025 年　ISBN　978-4-89347-435-3

特別支援論Ⅱ（乳・幼児への支援方法）

～多様な子どもへの具体的支援と保育実践～

林　　恵

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	－	必修

授業概要

本授業では、「特別支援論Ⅰ」で学んだ多様な背景をもつ子どもの理解を基礎として、保育現場における具体的な支援の方法について学ぶことを目的とする。子どもの困り感を観察や記録を通して整理し、視覚的支援や支援ツール、環境構成、関わり方の工夫、支援計画の考え方などを、保育実践としてどのように活用するかを理解する。また、事例検討や演習を通して、保育者間の連携や立場の違いを踏まえた支援の在り方について考え、実習や将来の保育実践につながる視点を身につける。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	**オリエンテーション** 特別支援論Ⅰで学んだ内容を振り返り、Ⅱでは保育現場における具体的な支援を扱うことを確認する。保育者として特別支援に関わる意義と、本授業の進め方について理解する。
第 2 回	**保育における子ども理解と観察の視点** 日常の保育場面における観察の重要性を理解し、子どもの行動や困り感を整理する基本的な視点について学ぶ。気づきを支援につなげるための考え方を身につける。
第 3 回	アセスメントの基礎と記録の考え方 子どもの様子を客観的に捉え、支援に生かすためのアセスメントの基礎を学ぶ。 記録が支援の共有や継続につながることを理解する。
第 4 回	環境構成による支援の考え方 物理的・人的環境を調整することで、子どもが安心して過ごせる保育環境をつくる視点について学ぶ。環境構成が子どもの行動や集団の安定に与える影響を理解する。
第 5 回	視覚的支援の基礎 視覚的支援の考え方を理解し、スケジュールやルールの可視化などの基本的な方法を学ぶ。 視覚的支援が子どもの理解や見通しにつながることを確認する。
第 6 回	支援ツールの実践①（教材づくり） 子どもの困り感に応じた支援ツールについて考え、簡単な教材づくりを行う。 支援ツールが子どもの安心感や行動の安定につながることを体験的に学ぶ。
第 7 回	支援ツールの実践②（活用と工夫） 作成した支援ツールをどのように保育の中で活用するかを検討する。 子どもの反応を想定し、必要に応じて工夫・改善する視点を学ぶ。
第 8 回	障害のある子どもへの具体的支援（保育場面） 知的障害、発達障害、肢体不自由、医療的ケア児など、保育現場で求められる具体的な支援について学ぶ。日常の関わりや配慮のポイントを整理する。
第 9 回	外国にルーツをもつ子どもへの支援 言語や文化の違いを踏まえた関わり方や、保育場面での具体的な配慮について学ぶ。 家庭との連携や環境調整の重要性を理解する。
第 10 回	性の多様性に配慮した保育実践 性別による決めつけを見直し、子どもが安心して過ごせる保育環境づくりについて考える。 保育者の関わり方や言葉かけの工夫を理解する。
第 11 回	指導計画・支援計画の考え方（基礎） 個別の指導計画や支援計画が、どのような考え方に基づいて作成・活用されているのかを理解する。子ども理解と支援を整理・共有する枠組みとして学ぶ。
第 12 回	支援計画と保育実践のつながり 支援計画と日常の保育実践がどのようにつながっているのかを具体例を通して考える。 支援ツールや環境調整が、計画の中でどのように位置づけられるのかを理解する。
第 13 回	事例検討①（事例理解と支援の整理） 具体的な事例をもとに、子どもの背景や困り感を整理し、必要な支援の視点を検討する。 次回以降の検討に向けて、保育者や関係者の役割を確認する。
第 14 回	事例検討②（立場による支援の違い） 同一の事例について、保育者や関係者それぞれの立場から支援の在り方を検討する。 立場の違いによって生じる視点や判断の違いを体験的に理解する。
第 15 回	事例検討③（発表・統合・振り返り） 各グループの検討内容を発表し、共通点や違いを整理する。 特別支援論Ⅱで学んだ具体的支援の視点を統合し、今後の実習や現場につなげる。

予習・復習

・予習：配布資料を読み、次回のテーマや事例について考えてくる。

・復習：授業内容を振り返り、学んだ支援の視点を整理する。

履修上の注意

私語は厳禁とする。
授業開始後 30 分までは遅刻とし、そこ以降は欠席とする。遅刻は 3 回で欠席を 1 カウントとする。
ただし、特別の事情がない限り、遅刻欠席をしないこと。
授業内での意見交換や演習に積極的に参加し、他者の考えを尊重しながら学修に取り組むこと。
事例については「正解」を求めるのではなく、子ども理解や支援の視点を深める姿勢を重視する。

到 達 目 標

- 子どもの行動や困り感を、観察や記録をもとに整理することができる。
- 保育現場で活用可能な具体的支援（視覚的支援、支援ツール、環境調整等）を説明することができる。
- 指導計画・支援計画の基本的な考え方を理解し、保育実践とのつながりを説明することができる。
- 保育者間の連携や役割分担を踏まえた支援の在り方について考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
特別支援の具体的支援に関する理解（60%）	子どもの背景や困り感を踏まえ、視覚的支援、支援ツール、環境構成、関わり方の工夫などの具体的支援について、根拠をもって説明できる。授業で扱った内容を関連づけて理解している。	子どもの特性や困り感に応じた具体的支援について、授業内容に基づき適切に理解している。	具体的支援についての理解はあるが、子どもの背景との結びつきや説明がやや不十分である。	具体的支援に関する理解が不十分であり、授業内容を十分に説明できない。	特別支援の具体的支援について、ほとんど理解できていない。
子ども理解と支援の視点（20%）	観察や事例をもとに、子どもの行動や困り感を整理し、支援の視点を自ら考えて示すことができる。支援計画の考え方と実践とのつながりを理解している。	子どもの背景や困り感を踏まえ、基本的な支援の視点を理解し説明することができる。	支援の視点は示されているが、子ども理解や理由づけがやや不十分である。	子どもの背景や困り感の理解が不十分であり、支援の視点を適切に示すことができない。	子ども理解や支援の視点について考えることができていない。
主体的な学修態度（20%）	授業や演習、事例検討に積極的に参加し、自ら考え、他者の意見を踏まえながら学びを深めている。	授業や課題に取り組み、学修内容を理解しようとする姿勢が見られる。	授業には参加しているが、主体的に学修に取り組む姿勢がやや不足している。	学修への取り組みが消極的であり、授業や課題への参加が不十分である。	学修への取り組みがほとんど見られない。

評価方法

提出物・課題・レポート：80%
受講態度：20%

テキスト

テキストは使用しない。配布されたプリントをファイルしておくこと。

特別支援論Ⅲ(児童への支援方法)

～特別な教育的ニーズを有する子どもに対する指導・支援～

村浦新之助

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	－	必修	－

授業概要

本授業は、学齢期の児童に対する支援の基本的な考え方と実践方法を学ぶことを目的とする。対象となるのは知的障害や発達障害に限らず、肢体不自由、視覚・聴覚障害、病弱・虚弱など幅広い児童であり、それぞれの発達課題や教育的ニーズを理解し、適切な支援を構想する力を育成する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション：授業の目的と全体像
第 2 回	特別支援教育の理念と制度的背景
第 3 回	視覚障害・聴覚障害児への支援方法
第 4 回	知的障害児への支援方法
第 5 回	肢体不自由児への支援方法
第 6 回	病弱・身体虚弱児への支援方法
第 7 回	言語障害児への支援方法
第 8 回	自閉症スペクトラム児の支援方法Ⅰ
第 9 回	自閉症スペクトラム児の支援方法Ⅱ
第10回	情緒障害児の支援方法
第11回	学習障害児の支援方法
第12回	注意欠陥多動性障害児の支援方法
第13回	事例検討①：教育的ニーズの整理
第14回	事例検討②：合理的配慮の具体的工夫
第15回	まとめと今後の課題（振り返り・ディスカッション）

予習・復習

・予習：次回の授業テーマについて動画教材を用いて反転学習の方式をとる。

・復習：授業で扱った事例や体験内容を振り返り、「保育士としてどう関わるか」を短文でまとめる。

履修上の注意

基本的には対面とします。やむを得ずオンラインによる授業となる場合には、別途連絡します。
出席について、30 分以内の遅刻は認め、それ以降は欠席扱いとします。遅刻 3 回で欠席 1 回分とします。

到 達 目 標

・児童期の子どもの発達の特徴を大まかに説明できる。
・支援を必要とする児童の姿を具体的に理解できる。
・保育士の立場から基本的な支援方法を考えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
児童理解の基礎（40%）	授業で扱った内容を超えて、児童の特性や背景を自ら調べ、保育士としての関わり方を具体的に説明できる。	児童期の発達の特徴や支援を必要とする子どもの姿を正しく理解し、基本的な関わり方を説明できる。	児童の特性について概ね理解しているが、説明が一部不十分である。	児童の特性について最低限の理解はあるが、説明が曖昧である。	児童期の特徴や支援の必要性について理解が不十分である。
支援方法の理解と活用（40%）	事例に応じて複数の支援方法を関連づけ、保育現場での具体的な工夫を提案できる。	授業で学んだ支援方法を理解し、事例に即して適切な支援を考えることができる。	支援方法は理解しているが、事例への当てはめが十分ではない。	支援方法について部分的な理解にとどまっている。	支援方法の内容を理解できていない。
学習態度・参加姿勢（20%）	体験活動や話し合いに積極的に参加し、他者の意見も尊重しながら学びを深めている。	体験活動や話し合いに前向きに参加している。	参加はしているが、発言や取り組みに消極的な場面が見られる。	指示があれば参加するが、主体性に欠ける。	体験活動や話し合いへの参加がほとんど見られない。

評価方法

授業レポート：40%
最終レポート：40%
受講態度（話し合い・体験への参加）：20%

テキスト

・教科書名：障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：
・出 版 年（ISBN）：2021
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

地域子育て支援論 ～地域の多様なネットワークと子育て支援～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	－	選択必修

授業概要

近年，地域の子育て支援は保育者にとって重要な役割となっている。他方，地域社会には，多様な組織・団体，施設があり，子育てや子どもの育ちを支える様々な取り組みが行われ，ネットワークが形成されている。本授業では，幼稚園・保育所のみならず児童館，公民館などの各種地域施設，またボランティア団体，NPO等各種団体など，様々な主体による地域子育て支援の実践について取り上げ，その現状と課題について考察できるよう指導する。映像資料等を用いて検討を行うとともに，実際の活動を見学するなど学外授業も実施する。また，受講生自身が地域子育て支援のプログラムを作成し，模擬保育と相互検討を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／「地域子育て支援」が必要とされる背景
第 2 回	幼稚園・幼稚園・認定こども園における子育て支援（子育てサロン等）：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 3 回	地域における子育て支援①児童館：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 4 回	地域における子育て支援②プレイパーク：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 5 回	地域における子育て支援③子育てサークル，子育てネットワーク：文献や映像等を用いた実践事例検討
第 6 回	学外授業の準備
第 7 回	地域子育て支援活動の実際①（学外授業）
第 8 回	地域子育て支援活動の実際②（学外授業）
第 9 回	学外授業の振り返り
第10回	世界の子育て支援（カナダ・ドロップインセンター，ニュージランド・ネウボラ等）
第11回	地域子育て支援プログラムの作成と準備①：グループ活動
第12回	地域子育て支援プログラムの作成と準備②：グループ活動
第13回	地域子育て支援プログラムの発表と相互検討①模擬保育と振り返り
第14回	地域子育て支援プログラムの発表と相互検討②模擬保育と振り返り
第15回	まとめ：「地域子育て支援」の今後の課題・「支援」の意味を考える

予習・復習

・予習：自分自身の関心のあるテーマや事例ついて，自主的に調べを進めておくこと。
　　学外授業や発表の準備を積極的に行うこと。
・復習：授業のレジュメ，資料を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

- 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
- 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。
- 学外での活動を予定しているが，実施場所・日程等については未定である。
- 演習形式で進められるため，議論や発表等積極的な参加が求められる。

到 達 目 標

1) 地域において子育て支援が必要とされる背景を理解する。
2) 具体的な地域活動の現状と課題について理解する。
3) 地域における子育て支援プログラムを作成できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題解決能力（プログラム作成）（30%）	提示された課題に沿い，かつ発展的なプログラムを作成することができる。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができる。	提示された課題とプログラムに少しずれがある。	提示された課題とプログラムがあっていない。	提示された課題に沿ったプログラムを作成することができていない。
他者と協力してグループ活動ができる（プログラム作成及び発表）（30%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備及び発表に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備及び発表に積極的に関わっている。	準備及び発表において，与えられた役割は果たすことができている。	準備及び発表において，与えられた役割をほとんど果たすことができていない。	グループ活動に参加していない。
理解度（その他課題）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	議論に参加していない。

評価方法

プログラム作成及び発表　60%
その他課題（小課題，グループディスカッション等）　40%

テキスト

特になし。各回でレジュメ，資料を配布する。

子ども家庭支援論　～様々な家庭と子どもを支援するために～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	－	－	必修

授業概要

本授業では，保育者が子どもとその家庭を支援していくために必要な知識と基本的な態度について理解することを目的とし，子ども家庭支援の意義と役割，保育士による子ども家庭支援の基本，子育て家庭に対する支援の体制，多様な支援の展開と関係機関との連携について講義する。また，現代社会における子どもや家庭への支援の必要性や多様な支援のニーズをおさえた上で，保育所等保育施設における子育て家庭への支援，さらには市区町村レベルでの子育て支援のあり方について考える。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども家庭支援とは何か【教科書レッスン 1／子ども家庭支援の対象，子育て支援の環境と求められる支援】
第 2 回	子ども家庭支援の目標と機能【教科書レッスン 2／子ども家庭支援の原則・視点】 子ども家庭支援の対象と内容【教科書レッスン 11／子ども家庭支援の対象，場，実際】
第 3 回	子ども家庭支援における保育者の役割【教科書レッスン 3／保育所・保育者に求められる役割】
第 4 回	保育士に求められる基本的態度【教科書レッスン 4／保育士の倫理，保護者支援の基本的姿勢】
第 5 回	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援【教科書レッスン 5／ケーススタディ】
第 6 回	保護者との相互理解と信頼関係の形成【教科書レッスン 6／保護者との相互理解，保育における相談支援（受容的関わり，自己決定等)】
第 7 回	家庭の状況に応じた支援【教科書レッスン 7／家庭を支援する基本的態度，方法と技術，支援の実際】
第 8 回	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力【教科書レッスン 8／地域との連携・協力の必要性と実際】
第 9 回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源【教科書レッスン 9／子ども家庭支援の推進体制と社会資源，ネットワーク，要対協】
第 10 回	保育所等利用児童とその家庭への支援【教科書レッスン 12／保育所における子ども家庭支援の意義，支援の視点，展開場面と方法，関係機関との連携】
第 11 回	地域の子育て家庭への支援①【教科書レッスン 13／地域の子育て家庭への支援の視点，支援の実際】
第 12 回	地域の子育て家庭への支援②模擬保育（グループ発表）
第 13 回	地域の子育て家庭への支援③模擬保育（グループ発表）
第 14 回	要保護児童およびその家庭への支援【教科書レッスン 14／要保護児童とその家庭への視点と支援（家庭養護，社会的養護)】
第 15 回	子ども家庭支援の現状と課題【教科書レッスン 15】／まとめ

予習・復習

・予習：各回の教科書の該当部分を事前に読み，疑問点について調べておくこと。
　　グループでの活動や課題の準備を，各自役割を持って主体的に進めること。
・復習：授業のレジュメ，教科書を読み直し，授業の振り返りとまとめをしておくこと。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 遅刻，早退，欠席については，直接担当教員に申し出ること。

到 達 目 標

1) 子ども家庭支援の意義や目的について理解する。
2) 保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。
3) 子育て家庭に対する支援の体制とその多様な展開について理解し，部分的に実践する。
4) 子ども家庭支援の現状と課題について理解，考察する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
自分の考えを論理的に文章で説明する力（最終レポート）（20%）	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができ，かつ，授業内容を越えた自主的な学習の成果が反映されている。	授業内容を踏まえた上で，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	自分の意見を論理的に文章にすることはできているが，授業内容への理解が不足している。	授業内容の理解が不足しており，意見の論述の論理性も不足が見られる。	授業内容が理解できておらず，意見の論述に論理性がない。
理解度（最終レポート）（20%）	授業内容を越えた自主的な学習や発展的な議論ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（指導案作成）（10%）	提示された課題に沿い，かつ発展的な指導案を作成することができる。	提示された課題に沿った指導案を作成することができる。	提示された課題と指導案に少しずれがある。	提示された課題と指導案があっていない。	提示された課題に沿った指導案を作成することができていない。
他者と協力してグループ活動ができる（模擬保育）（20%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備及び発表に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備及び発表に積極的に関わっている。	準備及び発表において，与えられた役割は果たすことができている。	準備及び発表において，与えられた役割をほとんど果たすことができていない。	グループ活動に参加していない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（30%）	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができ，かつ，授業内容を越えた発展的な主張を展開できる。	授業内容を踏まえ，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，授業への理解が不足している。	授業への理解が不足しており，自分の意見もほとんど述べることができない。	授業の内容を理解できておらず，自分の意見も述べることができない。

評価方法

最終レポート　40%　指導案の作成・模擬保育　30%
その他課題（リアクションペーパー，グループディスカッション等）　30%

テキスト

・教科書名：『MINERVA 初めて学ぶ子どもの福祉 4　子ども家庭支援』
・著 者 名：倉石哲也・大竹智編著
・出版社名：ミネルヴァ書房
・出 版 年（ISBN）：2020 年（4623079295）

在宅保育　～ベビーシッターの仕事～	岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	－	－	選択必修

授業概要

ベビーシッターの職務について、教科書解説、DVD 視聴を通して、具体的、実践的に学ぶ講義をする。ベビー シッターとして子どもの遊びの援助や産後ケアの業務について演習を行う。そのための具体的な方法を指導 する

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	子育て支援制度における「居宅訪問型保育」と「ベビーシッター」について
第 3 回	一般的ベビーシッターについて
第 4 回	子どもの発達とそのケア①
第 5 回	子どもの発達とそのケア②
第 6 回	子どもの発達とそのケア③
第 7 回	子どもの発達とそのケア④
第 8 回	産後ケアについて（解説）
第 9 回	産後ケアについて（演習）
第 10 回	季節に応じた遊びの実践
第 11 回	安全管理について①
第 12 回	安全管理について②
第 13 回	保育計画・保育報告について
第 14 回	「講演：ベビーシッター業務の事例」
第 15 回	振り返りとまとめ

予習・復習

・予習：テキストを熟読しておく

・復習：演習で実践したことは自宅などで振り返り実践しておく

履修上の注意

遅刻３回で欠席１回とカウントする。遅刻・早退は 20 分以内とする。
保育士資格取得者としてのベビーシッター認定資格取得を目的とする授業であることを自覚して受講 すること。

到 達 目 標

ベビーシッターの職務について理解する。その理解が的確で実践することができるか否かの試験に合格し、認定資格を取得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ベビーシッターの職務についての理解（ 70%）	授業内容を超えた学修ができる	授業内容を100%理解している	授業内容に興味・関心を持ち理解するよう努めほぼ理解出来ている	授業内容に興味・感心は持つが理解に乏しい	授業内容について理解していない
子どもの遊びへの取り組み（20%）	授業内容を超えた学修ができる	授業内容を理解し、積極的に演習に取り組む	自らが楽しんで演習に取り組む	周囲の人の助言を受け手演習に取り組む	演習に取り組まない
産後ケアの演習への取り組み（ 10%）	授業内容を超えた学修ができる	授業内容を理解し、積極的に演習に取り組む	自らが楽しんで演習に取り組む	周囲の人の助言を受け手演習に取り組む	演習に取り組まない

評価方法

試験 70% 課題の評価 20% 授業態度 10%

テキスト

・教科書名：「課程訪問保育の理論と実践」
・著 者 名：公益社団法人全国保育サービス協会監修
・出版社名：中央法規
・出 版 年（ISBN：2022 年（ISBN978-4-8058-8427-0）

栽培　～主な野菜の作り方を学ぼう～	橋本　敏幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	−	−	−

授業概要

基本的な野菜を取り上げ、その栽培方法を習得することを指導する。また、幼児教育での農業体験の重要性を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	科目「栽培」についてのガイダンス（菜園での心得・姿勢について）
第 2 回	トマトなどの定植（野菜苗の植え付けの基本を覚える）
第 3 回	エダマメ・トウモロコシの播種（種まきの基本を知る）
第 4 回	土壌の性質と施肥（豊かな土壌を作る有機物・化学肥料の施肥量を計算する）
第 5 回	ジャガイモの管理（除草と芽掻きの要領を体験する）
第 6 回	トマトの整枝（美味しいトマトを収穫するための技術を習得する）
第 7 回	キュウリ・ナスなどの管理の仕方を学ぶ（肥料・水の管理）
第 8 回	葉菜類栽培の基礎を学ぶ（コマツナ・ホウレンソウなど）
第 9 回	根菜類栽培の基礎を学ぶ（ダイコン・ニンジン・サツマイモ）
第 10 回	ジャガイモの収穫と保存の仕方を学ぶ
第 11 回	エダマメ・トウモロコシの収穫と調整の仕方を学ぶ
第 12 回	菜園の片づけ（栽培した菜園に感謝を込めてきれいにする）
第 13 回	地球温暖化と食糧危機に今、私たちにできることを考える（講義）
第 14 回	幼児教育と農業（自然や生命を通して子供の発達を考える）（講義）
第 15 回	栽培授業のまとめ

予習・復習

・予習：用意した資料等を事前に熟読すること。指示した課題についてはノートにまとめる。

・復習：特に実習で学んだ事柄をまとめて記録する。

履修上の注意

栽培は実習中心の授業です。天候（雨・高温）の影響を受けやすいので体調管理が重要です。また、除草など地味で根気のいる作業が多くあります。相応の覚悟が必要です。そのために実習に適した服装を用意してください。正当な理由がない場合は始業時に遅れた者は遅刻とします。

到 達 目 標

誰でもが一つの野菜を栽培できることを目指す。
栽培（農業）が子どもの発達に影響を及ぼすことについて考えられるようになる。
地道に野菜作りに取り組める姿勢を身に着ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
栽培方法についての理解度（40%）	栽培方法を理解し次に行う管理を自ら判断し正確に行うことができる。	栽培方法を理解し指示に従って正確に管理を行うことができる。	栽培方法はほぼ理解できているが正確な管理を行うことが困難である。	栽培方法がやや理解不足のため指導のもとある程度の管理ができる。	栽培方法が理解不足のため指導のもとでも管理が困難である。
栽培実習能力についての到達度（40%）	機械や道具を正しく使いこなし作業手順について先を見ながら率先して行うことができる。	機械や道具を正しく使いこなし指示通りに作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があるが積極的に作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があり作業が消極的で時間がかかる。	消極的で実習を行う姿勢が見られない。
文章で説明する力（20%）	栽培手順や重点箇所を理路整然と正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや大まかであるが正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや正確さに欠けるがまとめることができる。	栽培手順や重点箇所が説明不足なまとめ方である。	栽培手順や重点箇所をまとめる力が劣っている。

評価方法

学期末考査　40%
実習態度　40%
レポート　20%

テキスト

教科書は使いません。必要に応じて資料を配布します。

演劇　～演技・演出の体験とファシリテーション～	中村　一規

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2年	後期	1	選択	－	－	－

授業概要

身体を使って実践的に演劇を体験する。「短編作品を創作し発表すること」「シアターゲームとそのファシリテーション」の２項目を中心に、演劇という表現方法について体系的に学ぶ。自らの表現を獲得すること、他者とのコミュニケーションを理解することについて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	演劇とは何か？①　演劇について考えてみる
第 2 回	演劇とは何か？②　シアターゲームを体験する
第 3 回	演劇とは何か？③　インプロを体験する
第 4 回	演技演出体験①　発声体験　人に届く声とはなにか？
第 5 回	演技演出体験②　短編戯曲の読み合わせと発表
第 6 回	演技演出体験③　演出を付けてみる、付けられてみる
第 7 回	演技演出体験④　短編作品のストーリーを考える
第 8 回	演技演出体験⑤　短編作品の創作と練習
第 9 回	演技演出体験⑥　短編作品の発表とフィードバック
第 10 回	ファシリテーションとは何か？①　さまざまなシアターゲーム
第 11 回	ファシリテーションとは何か？②　ワークショッププログラムの組み方、進め方
第 12 回	ファシリテーションとは何か？③　実践とフィードバック
第 13 回	ファシリテーションとは何か？④　今、必要とされている表現とは？
第 14 回	ファシリテーションとは何か？⑤　今、必要とされているコミュニケーション力とは？
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：必要に応じて、テキスト・動画などの事前課題を課す。
・復習：振り返りシートの記入と提出。連続課題の場合は創作や練習、プレゼンテーションの準備

履修上の注意

動きやすい服装で参加すること。
実技を中心とした授業だが、体調がすぐれない場合は見学も可（要相談）
グループでの作業が多いため、遅刻はできる限り無いように。

到 達 目 標

演技スキルの向上や知識の習得だけが目的ではなく、演劇を通じて「なぜ表現するのか」「表現にどのような力があるのか」「幼児・児童に表現をどう促し導くべきか」などについて、思考し自覚ができるようになることを目指す。
芸術という答えがないことについて、身体を通じて創作し、他者と協働できるようになるために必要な、心と身体を整えることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識理解（40%）	演劇についての知識と理解があり、それを応用し発展させることができている	演劇についての知識と理解があり、それを活用する術に自覚的である	演劇について知識を身につけ理解している	演劇に対して最低限の知識を身に付け、理解している	演劇に対する知識と理解が不十分である
意識・関心（30%）	授業課題に他者と協働して取り組み、優れた成果をあげている	授業課題に自覚的に取り組み、成果をあげている	授業課題に集中して取り組んでいる	授業課題に最低限、取り組んでいる	授業課題への取り組みが不十分である
技能・表現（30%）	演劇を表現・説明するための能力が十分にあり、それを活用しオリジナルの形に昇華できている	演劇を表現・説明するための能力が十分に備わっている	演劇を身体を通じて、他者に伝わるように表現・説明できている	演劇を身体を通じて最低限、表現・説明している	演劇を表現・説明するための能力が不十分である

評価方法

（知識・理解）学期末試験、レポートなど　40%
（思考・関心）振り返りシート、授業態度など　30%
（技能・表現）授業内発表、プレゼンテーションなど　30%

テキスト

必要に応じて、その都度テキストを配布する。
参考図書については、授業内で紹介する。

教育実習指導(事前事後)(幼稚園)

～幼稚園での実習を有意義なものとするために～

小山内，木谷，齊藤，川喜田
佐々木，宮澤，一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年･2年	後期･前期(通年)	1	選択	必修	－	－

授 業 概 要

1年次後期の「教育実習Ⅰ（幼稚園)」と2年次前期の「教育実習Ⅱ（幼稚園)」のそれぞれについて、実習の事前と事後に指導を行う。事前指導では、実習活動中のルールやマナーや実習日誌を書く目的と書き方、指導案の書き方を講義し、部分実習および責任実習に向けた活動への探究を促す。事後指導では、実習活動の振り返りを行い、学生自身が自分の課題を確認し幼児教育者としての資質を培う。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	【教育実習Ⅰ】事前指導① 教育実習の概要と本授業（事前事後指導）の流れ、「実習個人調書」の作成
第 2 回	【教育実習Ⅰ】事前指導② 実習生としてのマナーと心構え、実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 3 回	【教育実習Ⅰ】事前指導③ 「実習の課題」の作成、実習日誌の意義と幼稚園の一日の流れ
第 4 回	【教育実習Ⅰ】事前指導④ 実習日誌の書き方（場面の記録や環境構成図を含む)
第 5 回	【教育実習Ⅰ】事前指導⑤ 部分実習に向けた準備、指導案の基本的な書式
第 6 回	【教育実習Ⅰ】事前指導⑥ 実習直前：実習期間中の連絡方法や日誌の提出と受け取りの理解、巡回指導の説明
第 7 回	【教育実習Ⅰ】事後指導 「教育実習Ⅰ」の振り返りと「教育実習Ⅱ」に向けた自己課題の省察
第 8 回	【教育実習Ⅱ】事前指導① 教育実習Ⅱのねらい、実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 9 回	【教育実習Ⅱ】事前指導② 責任実習に向けた準備
第 10 回	【教育実習Ⅱ】事前指導③ 責任実習の日の日誌の書き方について
第 11 回	【教育実習Ⅱ】事前指導④ 指導案の作成❶　指導案作成の意義や目的を理解し、書式を確認する
第 12 回	【教育実習Ⅱ】事前指導⑤ 指導案の作成❷　作成した指導案を修正しながら、指導案の書き方を理解し身につける
第 13 回	【教育実習Ⅱ】事前指導⑥ 指導案の作成❸　保育活動の展開で必要な工夫や配慮を考察し含めて、指導案を完成させる
第 14 回	【教育実習Ⅱ】事前指導⑦ 実習直前：実習期間中の連絡方法や日誌の提出と受け取りの再確認、巡回指導の説明
第 15 回	【教育実習Ⅱ】事後指導 「教育実習Ⅱ」の振り返りによる自己課題の省察

予 習 ・ 復 習

・予習：次回の授業内容を確認し、教場に持参する物や提出物を整える。
・復習：授業時に提示された課題を完成させ、期日内に提出できるように準備する。

履修上の注意

・遅刻は授業開始から 30 分までとし、必ず指示された教員宛に事前に E メールで連絡を入れること。
・ⅠとⅡ各々の実習指導の欠席が 2 割を超えた場合、事前指導段階であれば実習を実施できない。事後指導を含む場合は、実習活動を終えていたとしても本授業の単位は認められない。
・やむを得ず欠席する場合も必ず事前に連絡を入れ、証明書を添付した欠席届を提出する。
・授業時には毎回『実習のてびき』と『実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド』を持参する。
・日誌や指導案を作成する授業回には、定規等の必要な筆記具を持参する。

到 達 目 標

【教育実習Ⅰ】
・実習生として、マナーを守り意欲的に初めての実習に取り組むために、実習の課題を明確にする。
・３歳から小学校就学始期までの子どもの発達を理解し、幼児の前に立つための準備をする。
・一日の保育の流れや展開を理解し、日誌を時系列で記録できるようにする。
・実習の手続きや提出部の期日を守り、自主的で意欲的に学ぶ姿勢を身につける。
・終了後に実習活動を振り返り、教育実習Ⅱに向けて自身の課題を明確に理解する。
【教育実習Ⅱ】
・実習園の特色や教育・保育方針を理解した上で、自分の課題を明確にして実習に臨む。
・保育者による子どもへの援助の意図や配慮を感じ取り、それを「気づき」として日誌に書けるようにする。
・〈導入・展開・まとめ〉の流れ、子どもの動きを予測した配慮や留意点を含めた指導案を作成する。
・実習の手続きや提出物の期日を守り、見通しをもって計画的に実習への準備を進める。
・終了後に実習活動を振り返り、保育者としての自身の課題を明確に理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習活動への理解と事前準備への取り組み姿勢（40%）	実習の流れを完全に理解し、実習に向けて主体的・積極的に取り組んでいる	実習の流れを理解し、授業内の指示を守り適切に準備を進めている	実習活動への理解にやや不安があり、教員の助言を受けつつ準備を行う	実習活動への理解が不足しており、準備に教員の直接的な援助が必要となる	実習を行う上で必要な理解がなく、準備を進めることが困難である
幼稚園の役割と幼稚園教諭の職務への理解（20%）	幼児教育の意義や幼稚園の役割、教諭の職務について完全に理解している	幼児教育の意義や幼稚園の役割、教諭の職務についてほぼ理解している	幼児教育や幼稚園実習への意欲はあるが、理解面で不十分な部分がある	幼児教育や幼稚園実習への意欲は乏しいが、学ぼうとする姿勢はある	幼児教育や幼稚園実習への関心が薄く、学習態度にも問題がある
実習日誌の記入に対する理解（20%）	実習日誌に意義を十分に理解し、各項目に模範的な記述ができる	実習日誌の意義を理解し、過不足なく記述することができる	日誌に書く内容の基本的な理解はあるが、実際の記述は不十分である	日誌への理解が不十分であるため、記述内容が薄く気づきが含まれない	日誌への理解が不足しているため、日誌を書くことが困難である
指導案の作成に対する理解（20%）	指導案の意義を十分に理解し、模範的な立案ができる	指導案の意義を理解し、過不足のない立案ができる	指導案の立案に必要な基本的な理解はあるが、記述に不十分な部分がある	指導案への理解が不十分であるため、立案に教員の直接的な指導を必要とする	指導案への理解が不足しているため、立案することが困難である

評価方法

授業態度、課題等の提出物、授業理解を測る確認テストの結果等により、総合的に評価を行う

テキスト

・川口短期大学こども学科『実習のてびき』
・文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成 30 年)』フレーベル館　ISBN: 978-4577814475
・小櫃智子（編)『改訂版　実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社、
2023 年 ISBN: 978-4907270438

教育実習Ⅰ（幼稚園）

～幼児との関わりや教育活動の実践を通して、幼稚園教諭の職務と幼稚園の役割を学ぶ～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	必修	－	－

授業概要

実際に幼稚園に赴き、教育活動や幼児の園生活に関わりながら、幼児教育の意義と幼児の発達への理解を深める。幼稚園教諭の具体的な職務内容や幼稚園の社会的役割について学ぶことを目的とする。

授業計画

【実習期間】

2026年11月9日～11月20日（2週間）

【実習内容】

・観察実習や参加実習を通して、保育者に準ずる立場で幼児教育活動を実践的に学ぶ。
・参加し観察した内容や気づきや考察した内容を、実習日誌に記録する。
・実習園の指導の下、部分実習を通じて「幼児の前に立つ」ことを体験し省察する。

予習・復習

・予習

実習先事前訪問での学びに基づいて、実習園の教育方針や実習内容の概要を理解する。
教育実習事前指導の授業に出席し、実習活動のねらいを理解し自身の実習の課題を定める。
実習中は翌日の実習課題を想定して、教材準備等に努める。

・復習

実習期間中は毎日、実習日誌の記述を通して、その日に学んだことや気づいたことをまとめ振り返る。
実習期間中の反省会や実習日誌への指導から、自身の課題を理解し必要な修正等を行う。

履修上の注意

・教育実習Ⅰを実施するには、次の①～⑥全ての条件を満たすことが必要である。
① 本実習の派遣条件科目の単位を修得している。（『履修のてびき』参照）
②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に規定数以上出席し、全ての授業内容を学んでいる。
③ 全ての手続きと書類提出を、所定の期日内に済ませている。
④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の全ての到達目標に達している。
⑤ 心身の健康に問題が無く、自身の体調管理を実習前より続けている。
⑥「誓約書」の内容を理解し、実習開始前に署名したものを本学に提出している。
・教育実習の日程を守り、実習園の指導に従い実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認めない。但し、欠席に考慮すべき理由がある場合は、実習園へ理由を示す証明書類を提出して、実習期間の延長をお願いすることもある。
・実習日誌は必ず自分で記述し、実習園が指示する日時に手渡しで提出する。日誌が戻されたら、指導内容を確認し必要な修正や書き直し等を行う。

到達目標

(1) 実習生の姿勢と態度
・実習生としてのマナーを守り、実習活動に意欲的に取り組む。
・実習先でも礼儀正しく、謙虚な姿勢で指導を受ける。
・自分から進んで質問をし、実践を通して学びを深める。
(2) 知識と技能
・実習前に十分に準備をして、「幼児の前に立つ」経験をする。
・３歳から小学校就学始期までの幼児の発達を理解する。
(3) 実習日誌
・各年齢の発達の特徴や保育活動の流れやつながりを理解し、時系列で記録できる。
・幼児に対する教諭の働きかけや配慮を具体的に記録できる。
・幼児の実際の姿を観察し、それを「場面の記録」等に具体的かつ詳細に記述できる。
・実習で感じた気づきを日誌に記述することができる。
(4) 手続きや提出物
・指示に従い、期日を守って提出する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学生としての実習時の態度（30%）	実習の意義を十分に理解し、模範的な実習態度で取り組む	実習の意義を理解し、指導や助言を受け入れ積極的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みは不十分である	自己都合の欠席や遅刻をし、実習への意欲が見られない
幼稚園教諭及び幼稚園への理解（30%）	幼児教育の理念や保育者の職務や役割を十分に理解し、模範的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務を理解し、積極的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務について学ぼうとする意欲がある	幼児教育の理念や保育者の職務についての学びが不十分である	幼児教育の理念や保育者の役割に対する理解が足りない
幼児への理解（20%）	年齢による発達の違いを十分に理解し、それに即した模範的な関わりができる	年齢による発達の違いを理解し、それを踏まえた関わりを意識している	幼児の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解しようとしている	観察が不足しているため、年齢にあった関わりができない	保育者としての視座がなく、単に子どもと遊ぶのに止まる
教育活動の実践力（10%）	主体的・積極的に子どもと関わり、模範的な部分実習ができる	子どもの前に立つ意欲を持ち、さまざまな活動に取り組む	幼児の前に立つように決められたり求められたりすれば、行う	活動をする際、子どもへの配慮が不十分である	子どもの前に立つことができず、求められても遠慮する姿が見られる
実習時の観察力と記録力（10%）	教育活動を時系列で具体的に記録し、多くの気づきもあり模範的な記述である	時系列に抜けなく記録をし、環境構成図や気づきも記載されている	時系列に教育活動を記録しているが、具体性に乏しく気づきも少ない	指導や助言を受けて改善を心がけているが、その内容は不十分である	毎日の日誌提出が滞っていたり、指導や助言を受け入れなかったりする

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度、幼稚園理解、幼児理解）と、実習日誌の記載内容への評価の2点で行う。

実習園から受け取った「実習日誌」を所定の期日までに教員・保育士養成支援センターへ提出していることを前提とする。

テキスト

指定なし

教育実習Ⅱ(幼稚園)

～教育活動に必要な知識や能力・技術と、幼稚園教諭の視座を獲得する～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	必修	－	－

授業概要

教育実習Ⅰ（幼稚園）での経験を礎に、観察・参加実習に加えて自身で作成した指導案に基づく保育活動を実践する。幼児教育の課程はもとより、実習先の幼稚園の教育理念を把握し、子どもの「個」と「集団」の双方の関わり方について理解する。また、実際の子どもの姿を踏まえて指導案を作成し、それに基づく「責任実習」を通じて、深く幼稚園教諭の職務を理解する。

授業計画

【実習期間】

2026年6月8日～11月19日（2週間）

【実習内容】

・観察実習や参加実習を通して、保育者に準ずる立場で幼児教育活動を実践的に学ぶ。
・参加・観察および実践した内容や気づきや考察した内容を、実習日誌に記録する。
・実習園の指導の下、指導案を完成させ「部分実習」「責任実習」を実践する。

予習・復習

・予習

実習先事前訪問での学びに基づいて、ピアノの伴奏曲の練習や部分実習の教材等を作成する。
教育実習事前指導の授業に出席し、実習活動のねらいを理解し自身の実習の課題を定める。
実習中は翌日の実習課題を想定して、指導案の修正や部分実習教材の準備や練習に努める。

・復習

実習期間中は毎日、実習日誌の記述を通して、その日に学んだことや気づいたことをまとめ振り返る。
実習期間中の反省会や実習日誌への指導から、自身の課題を理解し必要な修正等を行う。

履修上の注意

・教育実習Ⅱを実施するには、次の①～⑥全ての条件を満たすことが必要である。
①「教育実習Ⅰ」を含む本実習の派遣条件科目の単位を修得している。(『履修のてびき』参照)
②「教育実習指導（事前事後）(幼稚園)」の授業に規定数以上出席し、全ての授業内容を学んでいる。
③ 全ての手続きと書類提出を、所定の期日内に済ませている。
④「教育実習指導（事前事後）(幼稚園)」の全ての到達目標に達している。
⑤ 心身の健康に問題が無く、自身の体調管理を実習前より続けている。
⑥「誓約書」の内容を理解し、実習開始前に署名したものを本学に提出している。
・教育実習の日程を守り、実習園の指導に従い実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認めない。但し、欠席に考慮すべき理由がある場合は、実習園へ理由を示す証明書類を提出して、実習期間の延長をお願いすることもある。
・実習日誌は必ず自分で記述し、実習園が指示する日時に手渡しで提出する。日誌が戻されたら、指導内容を確認し必要な修正や書き直し等を行う。

到達目標

(1) 実習生の姿勢と態度
・「今日の課題」を省察した上で「翌日の課題」を設定する等、学びの積み上げを意識する。
・子どもとは「個」と「集団」を念頭に積極的に関わり、学びを深める。
(2) 知識と技能
・保育における「PDCAサイクル」を理解する。
・部分実習や責任実習を通じて保育技術を磨き、さらなる向上を目指す意欲を持つ。
(3) 実習日誌
・教諭の「保育上の意図」を感じ取り、それを「学び」や「気づき」として記述することができる。
・幼児との関わりを詳細に読みやすく記録し、そこから省察できる。
(4) 指導案
・子どもの姿を想定して工夫や配慮を考え、「導入・展開・まとめ」を一連の流れとして立案できる。
(5) 手続きや提出物
・指示に従い、計画的に作成を進め、期日を守って提出する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学生としての実習時の態度（30%）	実習の意義を十分に理解し、模範的な実習態度で取り組む	実習の意義を理解し、指導や助言を受け入れ積極的に取り組む	指導や助言を受け入れ、努力する姿がみられる	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みは不十分である	自己都合の欠席や遅刻をし、実習への意欲が見られない
幼児への理解（30%）	年齢による発達の違いを十分に理解し、それに即した模範的な関わりができる	年齢による発達の違いを理解し、それを踏まえた関わりを意識している	幼児の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解しようとしている	観察が不足しているため、年齢にあった関わりができない	保育者としての視座がなく、単に子どもと遊ぶのに止まる
実習時の観察力と記録力（20%）	教育活動を時系列で具体的に記録し、多くの気づきもあり模範的な記述である	時系列に抜けなく記録をし、環境構成図や気づきも記載されている	時系列に教育活動を記録しているが、具体性に乏しく気づきも少ない	指導や助言を受けて改善を心がけているが、その内容は不十分である	毎日の日誌提出が滞っていたり、指導や助言を受け入れなかったりする
幼稚園教諭及び幼稚園への理解（10%）	幼児教育の理念や保育者の職務や役割を十分に理解し、模範的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務を理解し、積極的に学んでいる	幼児教育の理念や保育者の職務について学ぼうとする意欲がある	幼児教育の理念や保育者の職務についての学びが不十分である	幼児教育の理念や保育者の役割に対する理解が足りない
責任実習の内容（10%）	指導案作成を含む事前準備が万全で、当日も責任をもって子どもの姿に配慮しつつ臨機応変に教育活動を展開する	指導案作成を含む事前準備が十分であり、当日も想定される子どもの姿を踏まえた教育活動を展開する	指導案を作成して当日に教育活動を展開するが、子どもへの配慮等の課題が見られる	指導案を作成して教育活動を展開しているが、起案に難があったり、準備不足であったり、柔軟性に課題があったりする	指導案を含む準備が不十分で、大幅な時間超過や中途で活動を終えたりと、教育活動の展開に大きな課題がある

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度、幼稚園理解、幼児理解）と、実習日誌の記載内容への評価の2点で行う。

実習園から受け取った「実習日誌」を所定の期日までに教員・保育士養成支援センターへ提出していることを前提とする。

テキスト

指定なし

教育実習指導(事前事後)(小学校)

～より良い教師を目指して、有意義な教育実習を行うために～

長沼, 木谷 , 西, 藤田, 一色

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年･2年	後期･前期(通年)	1	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

・小学校教諭および中・高等学校教諭としての実務経験に基づき、事前指導において、各自が小学校教育の役割と教育実習の意義・目的を理解し、実習への心構えを整えられるように指導する。また、授業展開技術の理解と実践の向上を目指して指導する。
・事後指導においては、実習で学んだことを整理するとともに、小学校教諭としての資質・能力を培うために自らの課題を明確にすることができるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	小学校について―文部科学省・教育委員会、学校現場、１日の流れ 教育実習の心得（1）―服務の厳正、個人情報や SNS の扱い
第 2 回	教育実習までの準備―教育実習について、事前オリエンテーション、子どもたちの発達 児童と学校生活―学校の現状、諸問題と課題
第 3 回	授業展開技術の理解（1）―学習指導要領、指導計画、教材研究と学習指導案
第 4 回	授業展開技術の理解（2）―学習指導案の作成
第 5 回	教育実習の心得（2）―実習までの心構え、個人情報や SNS の扱い 授業展開技術の理解（3）―教材・教具の作成
第 6 回	授業展開技術の実践（1）―授業の実施
第 7 回	授業展開技術の実践（2）―授業の実施
第 8 回	授業展開技術の実践（3）―授業の実施
第 9 回	教育実習の実際―現職の小学校教諭から実際の様子を学ぶ
第 10 回	実習日誌―実習日誌の書き方、実習日誌の例
第 11 回	実習中の心得（3）―先生方や学級への関わり、服務の厳正、個人情報や SNS の扱い
第 12 回	授業展開技術の実践（4）―授業の実施
第 13 回	授業展開技術の実践（5）―授業の実施
第 14 回	実習後の学習―実習終了後の挨拶、礼状の書き方、学びの整理と反省
第 15 回	教育実習のまとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読むこと。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認すること。

履修上の注意

・事前指導の欠席が 2 割を超えた場合、教育実習に参加することはできない。
・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。
・指導案作成や模擬授業の実施、また教育実習に持参するために、個人用パソコンを準備すること。

到 達 目 標

＜事前指導＞
・小学校教育への理解を深め、教育実習の意義を理解することができる。
・教育実習の準備として、実習中の心得や実習日誌の書き方を理解することができる。
・授業展開技術を理解し、実践することができる。
＜事後指導＞
・小学校教諭としての資質・能力を培うために自らの課題を明確にすることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
＜事前指導＞教育実習の理解と準備に対する取組（20%）	実習の流れを理解し、主体的・積極的に準備に取り組んでいる。	実習の流れを理解し、教員の見守りのもと準備に取り組んでいる。	実習の流れの理解にやや不安があり、教員の助言を受け、準備に取り組んでいる。	実習の流れの理解が不足しており、教員の援助を受けて準備に取り組んでいる。	実習の流れを理解することができず、準備することが難しい。
＜事前指導＞授業展開技術の理解（30%）	各教科の特質を理解したうえで綿密に教材研究が行われ、その内容が学習指導案に適切に反映されている。	各教科の特質を理解したうえで教材研究が行われ、その内容が学習指導案に反映されている。	各教科の特質の理解にやや不安があるものの、学習指導案の基本的な書き方を理解している。	学習指導案の書き方への理解が不足しており、教員の援助を受けて準備に取り組む。	学習指導案の書き方を理解することができず、作成することが難しい。
＜事前指導＞授業展開技術の実践（30%）	子どもの実態に応じ、子どもの学びを促進するさまざまな工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られ、指示の出し方や板書が的確である。	子どもの学びを促進する工夫が見られるが、指示の出し方や板書にやや課題がある。	子どもの学びを促進する工夫が必要であり、指示の出し方や板書にも課題がある。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴うことが予想される。
＜事後指導＞実習日誌の記録（20%）	自分の実践や子どもの様子、実習校の先生方の活動について、気づいたことや考えたことの記載を十分に行おうとしている。	自分の実践や子どもの様子、実習校の先生方の活動について、気づいたことや考えたことの記載を行おうとしている。	自分の実践や子どもの様子、実習校の先生方の活動について、気づいたことを記載しているが、具体性に乏しい。	指導や助言を受けて日誌を提出しようとするが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

・実習課題および授業態度（20%）、学習指導案の作成（30%）、模擬授業の様子（30%）、実習日誌の記録（20%）を通して総合的に判断する。

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
著 者 名：文部科学省
出版社名：東洋館
出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第 2 版第 3 刷）』
著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
出版社 名：萌文書林
出 版 年：2023 年

教育実習Ⅰ（小学校）

～より良い教師を目指して、有意義な教育実習を行う～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法について指導する。
・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して指導する。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における 教師の任務や役割等について指導する。
・小学校教諭および中・高等学校教諭としての実務経験に基づき、教育実習の意義について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 10 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 15 回	教育実習の振り返り。教育実習Ⅱへの課題と準備の確認。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

・実習は全出席するものであり、遅刻・早退のないようにすること。
・社会通念から逸脱した行為（服務規程違反や個人情報流出等）があれば、実習の中止となる。
・<u>個人用パソコンを準備すること。</u>

到 達 目 標

・教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
・教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（30%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（20%）	児童に対する教育活動を、積極的・主体的に行う。	児童に対する教育活動を、意欲的に行う。	児童の前に立って教育活動をしようとする努力がみられる。	教育活動において児童に対する配慮が不十分である。	児童の前にたって教育活動を行うことができない。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行う。

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
著 者 名：文部科学省
出版社名：東洋館
出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第 2 版第 3 刷）』
著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
出版社 名：萌文書林
出 版 年：2023 年

教育実習Ⅱ(小学校)

～より良い教師を目指して、有意義な教育実習を行う～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	必修	－

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法について指導する。
・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して指導する。
・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における教師の任務や役割等について指導する。
・小学校教諭および中・高等学校教諭としての実務経験に基づき、教育実習の意義について詳しく指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第 2 回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第 3 回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第 4 回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 5 回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第 6 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 7 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 8 回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第 9 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 10 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 11 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 12 回	クラス活動への参加。研究授業。
第 13 回	クラス活動への参加。教科等指導。
第 14 回	クラス活動への参加。お別れ会など。
第 15 回	教育実習の振り返り。教師になるということについて再認識。

予習・復習

・予習：授業等の準備
・復習：実習日誌の作成

履修上の注意

・実習は全出席するものであり、遅刻・早退のないようにすること。
・社会通念から逸脱した行為（服務規程違反や個人情報流出等）があれば、実習の中止となる。
・<u>個人用パソコンを準備すること。</u>

到 達 目 標

・教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
・教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（20%）	指導や助言を受け入れ、実習に積極的・主体的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、実習に意欲的に取り組む。	指導や助言を受け入れ、努力する姿勢がみられる。	遅刻や欠席はないが、実習への取り組みが不十分である。	連絡のない欠席や遅刻をし、実習への意欲が感じられない。
教育活動の実践（30%）	指導案作成を含む準備が万全であり、責任感を持って児童の姿に配慮し臨機応変に教育活動を展開する。	指導案作成を含む準備が十分であり、責任感を持って子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し、教師として責任感をもって子どもの姿に配慮して教育活動を展開する。	指導案を作成し教育活動を展開するものの、準備不足や柔軟性に課題がみられる。	指導案を含む準備が不十分で、教育活動の展開に困難を伴う。
児童理解（20%）	年齢ごとの発達を理解し、実際の児童の姿からそれを確認できる。	児童の興味や関心を理解し、教育活動につなげることができる。	児童の姿を観察し、幼児の興味や関心を理解する。	観察が不足し、児童の興味や関心への理解が不十分である。	児童への理解が不足し、幼児に対する興味・関心が薄い。
学校についての理解（10%）	教育理念や教師の役割を理解し、積極的・主体的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割を理解し、意欲的に学ぶことができる。	教育理念や教師の役割について学ぶ姿勢がみられる。	教育理念や教師の役割についての学びが不十分である。	学校の理念や役割への理解が薄い。
実習の記録（20%）	時系列で具体的に教育活動を記録でき、場面の記録や実習生の気づきの記載も十分である。	時系列で具体的に教育活動を記録でき、実習生の気づきの記載もある。	時系列に教育活動を記録できるが、具体性や気づきが薄い。	指導や助言を受けて日誌を提出するが、記録すべき内容が記載されていない。	日誌の記載が不十分であり、指導や助言を受け入れられない。

評価方法

実習校の評価および実習日誌により厳正に評価を行う。

テキスト

・教科書名：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
著 者 名：文部科学省
出版社名：東洋館
出 版 年：平成 30 年
・教科書名：『小学校教育実習ガイド（第 2 版第 3 刷）』
著 者 名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
出版社 名：萌文書林
出 版 年：2023 年

保育実習指導Ⅰ（事前事後）　～有意義な実習を行うために～

岩崎, 小山内, 宮澤, 藤田, 川喜田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習における実習を円滑に進め学習効果を上げるために、実習生に必要な知識やスキルについての実習事前事後指導を行う。また、保育士の実務経験に基づき実習園の概要を把握し、実習への意欲を高めながら自己の課題を明確にし、効果的な保育実習の実施を目指し事前指導を行う。

実習終了後には、実習成果報告会を行い個々に実習での経験を整理するとともに、受講生が互いに学び合える場を設けるなど、保育実習Ⅲ・Ⅳに向けて自己課題を明確にするための事後指導を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	【事前指導】保育実習の概要と事前事後指導の流れ
第 2 回	実習生としてのマナーと心構え
第 3 回	保育所の生活と社会的役割
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌の書き方①記録の意義、記入上の諸注意
第 6 回	実習日誌の書き方②記録の取り方、記入の仕方
第 7 回	実習日誌の書き方③記録の取り方、記入の実際（ワーク）
第 8 回	実習先事前訪問（オリエンテーション）について
第 9 回	実習目標と課題の立て方
第 10 回	指導案の作成①指導案を作成する意味と指導案の書き方
第 11 回	指導案の作成②実際に指導案を作成する
第 12 回	実習直前オリエンテーション
第 13 回	【事後指導】実習成果発表会
第 14 回	保育実習Ⅰでの反省と振り返り
第 15 回	保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
②実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

履修上の注意

事前指導は、欠席が 2 割を超えた場合、実習を実施できない（講義要項 p.1 および p.16 参照） ・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること

到 達 目 標

実習に関するマナーを理解するとともに、子どもの生活や遊びにおける関心をもって実習に臨む ・子どもの発達過程を理解し、実習に臨む ・実習日誌の意義・記入上の諸注意を理解し、日誌に具体的な記述ができるようになり実習に臨む ・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる ・保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し、授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また、関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って、資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	提示された課題と内容にずれがある、または、課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ、自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが、論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが、論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

テキスト

・教科書名：「改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド」
・著 者 名：小櫃智子 田中君枝・小山朝子・遠藤純子
・出版社名：わかば社
・出 版 年（ISBN）：978-4-907270-43-8

保育実習指導Ⅱ（事前事後）　～有意義な施設実習とするために～

小山内，齊藤
佐藤，西内

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	－	必修

授業概要

実習を円滑に進め学習効果をあげるために，実習に必要な知識やスキルについての実習事前指導を行う。具体的には，実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮，プライバシーの保護と守秘義務，実習日誌の書き方，実習施設の特色等について指導を行う。また，現場職員を講師に招き，施設理解を深められるようにする。実習終了後には，実習先の講評や実習日誌，レポートや自己評価の作成等を通して，実習のまとめと振り返りを行い，保育士としての目標，自己の課題が明確になるよう事後指導を行う。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	【事前指導】	保育実習Ⅱ（施設）の概要と意義，目的／実習事前事後指導の流れ
第 2 回		施設の理解（施設の目的，利用児・者の理解，支援者の役割）(1) 児童養護施設
第 3 回		施設の理解（施設の目的，利用児・者の理解，支援者の役割）(2) 福祉型障害児入所施設
第 4 回		施設の理解（施設の目的，利用児・者の理解，支援者の役割）(3) 医療型障害児入所施設
第 5 回		施設の理解（施設の目的，利用児・者の理解，支援者の役割）(4) 障害者入所施設
第 6 回		実習に向けた心構えと施設実習の実際（先輩の体験談を聞く※）
第 7 回		支援の技法を学ぶ（障害児・者を対象としたレクリエーション活動や自立活動）
第 8 回		実習施設について知る／実習日誌の書き方（1）実習施設の概要
第 9 回		施設の生活と支援の実際（1）（現場職員の方の話を聞く※）
第 10 回		実習日誌の書き方（2）施設での日々の記録を書くために
第 11 回		施設の生活と支援の実際（2）（現場職員の方の話を聞く※）
第 12 回		実習の課題・毎日の課題の意義と立て方 実習日誌の書き方（3）施設での場面記録を書くために
第 13 回		実習における諸注意と事前の自己チェック
第 14 回	【事後指導】	実習の振り返り・保育実習Ⅲ・Ⅳに向けての課題（レポート作成）
第 15 回		

※の回は，外部講師を招聘予定。講師の都合等により，回数・日程は変更の可能性がある。

予習・復習

・予習：①次回の授業内容を確認し，持ち物や提出物を整える。
　　②自己の課題を明確にして実習に臨む。
・復習：①課題を完成させ，期日内に提出できるように自主的に準備を進める。
　　②実習終了後には，実習における自己の学びを振り返り，まとめる。

履修上の注意

・事前指導（13 回）の欠席が 2 割を超えた場合，実習はできない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

到 達 目 標

① 人権を理解し尊重する態度を身につける。
② 施設の役割，社会的な位置づけや施設の現状（生活，職員の役割）を理解する。
③ 観察することの意味を理解する。
④ 記録の取り方・記入の仕方を理解する。
⑤ 期日を守り，提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
⑥ 保育実習Ⅱを振り返り，保育実習Ⅲ・Ⅳの課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度・実習に向けた準備（40%）	授業内容を十分理解し，授業内容を越えた自主的な学習や準備ができる。	授業内容を十分理解し，実習に向けた準備ができている。	授業内容を理解できていない部分があり，実習に向けた準備が不十分である。	授業内容をほとんど理解できておらず，実習に向けた準備もほとんどできていない。	授業内容を理解できておらず，実習に向けた準備も全くできていない。
課題解決及び発表能力（40%）	提示された課題に沿って，資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。また，関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って，資料を調べたり参照したりしながら課題を作成することができる。	資料を調べたり参照したりすることができず，提示された課題と内容にずれがある，または，課題に不足がある。	資料を調べたり参照したりすることができず，提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
授業に対する積極性（10%）	授業内での学習に積極的に取り組み，自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ，自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが，論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが，論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度，課題の内容とその提出状況等により，総合的に評価する。

テキスト

・守巧他著『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270429）
・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）

保育実習Ⅰ(保育所) ～保育所の機能・子ども理解に向けて～　こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	－	必修

授 業 概 要

実際に保育所の生活を体験する中で、保育所の機能、保育所での乳幼児の生活とその流れ、保育士の職務・役割、「養護」と「教育」を一体として行う保育所保育の基本等について理解できるように指導する。

授 業 計 画

(1) 実習期間
2027年2月・3月の間の12日間以上、90時間以上の実習を行う（実習園により日程が異なる）。
(2) 実習内容
①観察・参加実習を中心とし、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する
②各実習園のご指導の下、部分実習を行う

予習・復習

予習：①実習先事前訪問にもとづき、実習園の概要理解に努める。
②保育実習事前指導を受け準備学習をする。 実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
③実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
復習：実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅰを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④「保育実習指導Ⅰ(事前事後)」の到達目標に達していること
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到 達 目 標

1. 実習生の姿勢・態度
・保育実習に関するマナーを学ぶ。
・安全に配慮できる。
・子どもの生活や遊びにおける関心を高める。

2. 知識および技能
・デイリープログラムを理解する（子どもの一日と保育者の一日を理解する）
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・子どもの発達過程を理解する。

3. 実習日誌
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する
・記録のとり方・記入の仕方を学ぶ。

4. 指導案
・指導案とは何かを知る。

5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を 要する
実習生としての態度 （40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能 （50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌 （10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・保育所理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる

テキスト

特になし

保育実習Ⅱ(施設)　～施設保育士の役割と子ども・利用者援助理解について～

こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	－	2	選択	－	－	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

施設での生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や施設での生活と流れを知り、子ども・利用者を理解し、援助の仕方や方法、施設保育士の職務等について理解できるよう指導する。

授業計画

(1) 実習期間実習時間
2026年2月・3月の間に、12日間実習を行う（実習施設により日程が異なる)。
(2) 実習内容
観察・参加実習を中心とする（実習施設によっては部分実習を行う場合がある)。

予習・復習

・予習　① 実習先への事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
・復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

（1）保育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の授業に原則全て出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④「保育実習指導Ⅱ(事前事後)」の到達目標に達していること。
（2）保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到 達 目 標

1. 実習生の姿勢・態度
・人権を理解し尊重する態度を身につける。
・施設実習を通し自己の成長を目指す。
・観察することの意味を理解して実践する。
2. 知識および技能
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。
3. 実習日誌
・実習日誌の意義・記入上の諸注意について理解する。
・記録の取り方・記入の仕方を学ぶ。
4. 指導案
・部分実習の具体例を学ぶ。
5. 手続きと提出物
・期日を守り、自主的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習指導Ⅲ･Ⅳ(事前事後)
～実習の集大成として～

木谷, 佐藤, 岩﨑
宮澤, 西内, 藤田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	選択	−	−	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

保育実習Ⅲ（保育所）･Ⅳ（施設）の意義，目的，方法などを学ぶとともに，保育実習Ⅰ（保育所）･Ⅱ（施設）において明確になった課題について，さらに学びを深められるよう実習事前指導を行う。また，子どもや利用者，保育士の役割と職務内容について理解を深め，保育士としての専門性や実践的知識を高めるため，責任実習の実施に向けた指導を行う。

事後指導では，実習先の講評や実習日誌，自己評価，実習反省会等を通して，実習のまとめと振り返りを行い，保育士としての新たな目標，自己の課題が明確になるよう指導する。

授業は，保育所での勤務経験を反映させて実施する。

授 業 計 画

授業回	授業内容	
	保育実習Ⅲ（保育所）	保育実習Ⅳ（施設）
	【事前指導】	
第 1 回	実習事前事後指導の流れについて	実習事前事後指導の流れについて
第 2 回	保育実習Ⅲ（保育所）の目的と意義	保育実習Ⅳ（施設）の目的と意義
第 3 回	実習先事前訪問について	実習先事前訪問について
第 4 回	課題を明確にして保育実習に取り組むために	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第 5 回	実習日誌とその活用（1）	実習日誌とその活用（1）
第 6 回	実習日誌とその活用（2）	実習日誌とその活用（2）
第 7 回	指導案の作成（1）	施設の役割と現状
第 8 回	指導案の作成（2）	指導案の作成
第 9 回	模擬保育（1）	模擬保育（1）
第 10 回	模擬保育（2）	模擬保育（2）
第 11 回	模擬保育（3）	施設の理解を深める（施設見学①）
第 12 回	模擬保育（4）	施設の理解を深める（施設見学②）
第 13 回	実習における諸注意と事前の自己チェック	実習における諸注意と事前の自己チェック
	【事後指導】	
第 14 回	実習の総括と自己評価（レポート作成）	実習の総括と自己評価（レポート作成）
第 15 回		

予 習 ・ 復 習

（1）予習　①次回の授業内容を確認し，持ち物や提出物を整える。
　　②実習先事前訪問にもとづき，自己の課題を明確にして実習に臨む。
（2）復習　①課題を完成させ，期日内に提出できるように計画的に準備を進める。
　　②実習終了後には，実習における自己の学びを振り返り，まとめる。

履修上の注意

・事前指導の欠席が 2 割を超えた場合，実習を実施できない。
・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。
・保育実習指導Ⅳでは，学外授業を行う予定である。

到 達 目 標

・園や施設の方針を理解したうえで，保育者の関わりを基に適切に行動できるようになる。
・生活・遊びを促すための教材研究や援助の仕方を理解する。
・記録のとり方・記入の仕方を理解する。
・指導案を書く意味を理解し，指導案を保育実習につなげることができる。
・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
・保育実習Ⅲ・Ⅳを振り返り，今後の課題を明確にできる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を十分理解し，授業内容を越えた自主的な学習ができる。	授業内容を十分理解している。	授業内容を理解できていない部分がある。	授業内容をほとんど理解できていない。	授業内容を理解できていない。
課題解決能力（40%）	提示された課題に沿って，資料を調べたり参照したりしながら課題を作成し発表することができる。また，関連する事柄について自主的な学習ができる。	提示された課題に沿って，資料を調べたり参照したりしながら課題を作成し発表することができる。	提示された課題と内容にずれがある，または，課題に不足がある。	提示された課題と内容があっていない。	課題を作成することができていない。
実習体験を論理的に文章で説明する力（10%）	実習体験を踏まえ，自分の意見を論理的かつ発展的に文章にすることができる。	実習体験を踏まえ，自分の意見を論理的に文章にすることができる。	実習体験を論理的に文章にすることはできているが，論理性に不足が見られる。	実習体験を文章にすることはできているが，論理的ではない。	実習体験を文章で説明することができていない。

評価方法

授業態度，課題の内容とその提出状況等により，総合的に評価する。

テキスト

・「実習のてびき」（川口短期大学より配布）
・厚生労働省編『保育所保育指針解説』（平成 29 年度告示）フレーベル館，2018 年 3 月（ISBN：457781448X）
・Ⅲ：小櫃智子他編著『改訂版　実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270437）
・Ⅳ：守巧他著『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』わかば社，2023 年（ISBN：4907270429）

保育実習Ⅲ(保育所)　～保育所理解および保育理解を深める～

こども学科教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

授業概要

保育実習Ⅰ(保育所)の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育課程を把握し、保育士の職務をより深く理解できるように指導する。また、修得した全教科の知識と技能を基礎として、総合的に実践する応用力を身に付けられるように指導する

授業計画

（1） 実習期間と実習時間
2026 年 8 月･9 月の間の 12 日間以上、90 時間以上の実習を行う（実習園によって日程が異なります)。
(2) 実習内容
実習園の指導のもと参加実習、指導実習（部分実習および責任実習）を行い、省察する。

予習・復習

・復習：(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、保育園の概要理解に努める
② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する
③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅲを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること
②「保育実習指導(事前事後)Ⅲ」の授業に原則全出席していること
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
④保育実習指導Ⅲ（事前事後）の到達目標に達していること
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
・園や施設の方針を理解したうえで、適切に行動できる
・目標を明確にし、向上心をもって実践的な学びを積み上げることができる
2. 知識および技能
・保育内容にふさわしい教材準備や環境構成ができる
・生活・遊びを促すための援助ができる
3. 実習日誌
・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。
・子どもの姿を場面で捉え、そこから「乳幼児理解」につなげていくことができる。
4. 指導案
・指導案を書く意味が分かり、指導案を保育実践につなげることができる
・全日実習指導案の作成から実践につなげる
5. 手続きと提出物
・期日を守り、計画的に進められる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
（　%）					
（　%）					

評価方法

実習園による評価（実習態度、保育所理解、幼児理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育実習Ⅳ(施設)　～児童福祉施設への理解を深め、実践力を高める～	こども学科専任教員

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	－	2	選択	－	－	選択必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅱ(施設)の学びをふまえ、児童福祉施設(保育所を除く)、その他社会福祉施設における実践を通して、施設における子ども・利用者の生活を理解するとともに、保育士として必要な支援技術の向上を目指し指導する。

授業計画

(1) 実習期間実習時間
　2025年8月・9月の間に、12日間の実習を行う（実習施設により日程は異なります)。
(2) 実習内容
　観察・参加実習を中心とするが、施設の指導をもとに部分実習も行う。

予習・復習

(1) 予習　① 実習先事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める。
　② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する。
　③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める。
(2) 復習　実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

履修上の注意

(1) 保育実習Ⅳを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
①実習派遣条件科目の単位を修得していること。
②「保育実習指導(事前事後)Ⅳ」の授業に原則全出席していること。
③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること。
④保育実習指導Ⅳ（事前事後）の到達目標に達していること。
(2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認めらない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

到 達 目 標

1. 実習生の姿勢・態度
・施設の方針を理解したうえで、保育者と子ども・利用者とのかかわり方を学び、適切に行動できる。
・保育者として学んだことを主体的に果たすことができる。

2. 知識および技能
・信頼関係を築くための技能を身につける。
・施設の役割と社会的な位置づけを知る。
・施設の現状（生活、職員の役割）を理解する。

3. 実習日誌
・子どもや利用者とのかかわりから保育者の意図を感じ取り、「学び」や「気づき」を書くことができる。
・「個」と「集団」の姿を記録できる。
・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。

4. 指導案
・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげることができる。

5. 手続きと提出物
・期日を守り、計画的に進められる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
実習生としての態度（40%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
保育の知識・技能（50%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。
実習日誌（10%）	実習生として大変優れている。	実習生として優れている。	実習生として適切である。	実習生として努力を要する。	実習生としてかなり努力を要する。

評価方法

施設による評価（実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等）および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

テキスト

なし

保育・教職実践演習（幼・小）

～これまでの学びをふりかえる～

長沼・西・佐藤・西内
藤田・一色・川喜田

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

入学から２年次前期までに学んできた教員および保育士になるために必要な知識・技能について習得できているかを整理し、学びの確認を行う。免許・資格取得関連項目について、何をどう学んだか、学修評価表（かわたんシート）を通じて確認し、保育所をはじめとする各児童福祉施設、幼稚園および小学校について、分野ごとに、子ども理解、クラス経営、内容の指導法等に関するグループディスカッションなどを行っていく。

また、外部講師の講義を通して、広い視野に立って教育・福祉について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	全体講義①外部講師の講義（先輩から学ぶ保育・教育の現場）
第 3 回	クラス別演習①
第 4 回	全体講義②外部講師の講義（保育所で働くということ）
第 5 回	クラス別演習②
第 6 回	全体講義③外部講師の講義（児童福祉施設で働くということ）
第 7 回	クラス別演習③
第 8 回	全体講義④外部講師の講義（幼稚園で働くということ）
第 9 回	クラス別演習④
第 10 回	全体講義⑤外部講師の講義（小学校で働くということ）
第 11 回	クラス別演習⑤
第 12 回	全体講義⑥ふりかえり
第 13 回	クラス別演習⑥
第 14 回	全体報告会
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：日頃から、情報メディアセンター（図書館）へ赴くなどして、教育・保育・福祉に関する書物に目を通しておく。

・復習：授業で学んだことをノートにまとめておき、随時確認する。

履修上の注意

① 教育実習Ⅰ（幼稚園）、教育実習Ⅱ（幼稚園）・（小学校）を履修済みであること。
② 保育実習Ⅰ・Ⅲ（保育所）、保育実習Ⅱ・Ⅳ（施設）を履修済みであること。
③ ①もしくは②の条件（片方もしくは両方）を満たしていること。

その他
原則として、すべての回の出席を求める。やむを得ない欠席については、必ず届け出ること。
クラス別演習は、２０～３０名程度のクラスを編制し、クラス別の授業を行う。履修クラスはガイダンスで提示する。

到 達 目 標

これまで大学で学んできた授業内容、および実習での活動について、学修評価表（かわたんシート） を通して全体の関係性を理解することができる。
また、自己の学修と他者の学修とをグループディスカッション等を通して比較し、教育・保育・福祉の多様性を理解することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（40%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（10%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

学期末レポート 70%
授業内レポート 20%
受講態度 10%

テキスト

教科書は使用しない。

保育･教育学演習Ⅰ　～運動遊びの実践・実感を通して～	小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	選択必修	－

授業概要

本演習では、「身体、身体活動」を中心に実践していく。自分自身が様々な運動を経験し、その中での気づきを発見する。また、運動の「できない」から「できる」に変わるためにどのように活動を組み立てていく必要があるかを自分たちで探索的に考えていく。その経験を踏まえて、運動に対して多角的に取り組めるように運動あそびの作成も行っていく。実践、実感し、物事を系統的に考えられるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：保育・教育学演習Ⅰ　体育・健康科学についての進め方や注意事項を伝達する。
第 2 回	パラバルーンの立案、作成、実践①：全員で行う種目であるパラバルーンを知るとともに、体験してみる。
第 3 回	パラバルーンの立案、作成、実践②：パラバルーンの演技を、音楽、振付から考え、完成させるための準備を進める。
第 4 回	パラバルーンの発表（リハーサル）：一通り完成したパラバルーンの演技を実際に行い、細かな調整を行う。
第 5 回	パラバルーンの発表：完成したパラバルーンの演技を実際に行う。
第 6 回	実習についての学習：教育実習・保育実習に向けての学習を進める。
第 7 回	運動遊びの実践①：運動遊びを実践し、自己の運動遊びの「できる」「できない」を確認するとともに、互いに教えあうことを実践してみる。パラバルーンの発表：　全員で発表を行う。
第 8 回	運動遊びの実践②：大人であっても「できない」遊びを実施しながら、「できる」ための方法を ICT やアイディアを持ち寄って検討してみる。
第 9 回	運動遊びの実践③：既存の運動を用いて遊びのアイディアを探索する（1）学外授業
第 10 回	運動遊びの実践④：既存の運動を用いて遊びのアイディアを探索する（2）学外授業
第 11 回	運動遊びの立案：運動遊びを人に「行わせること」を目指して、各自が実践する内容を立案する。
第 12 回	遊びの発表（シミュレーション）：運動遊びを人に「行わせること」を目指して作成した内容のシミュレーションを行い、発表の準備をする。
第 13 回	運動遊びの発表・実践①：運動遊びを人に「行わせること」を実際に実践してみる。
第 14 回	保育・教育学演習Ⅱについて：保育・教育学演習Ⅱの内容について説明することで、保育・教育学演習Ⅱへの見通しをもった準備を行わせる。
第 15 回	全体総括

予習・復習

集団での活動が中心となることから、内容の理解が薄い場合は他の多くの学生に負担を強いることになる。そのため、以下の予習・復習を必ず行うこと。

・予習：内容の理解を深めるようシミュレーションや内容の確認を十分にして授業に臨む。

・復習：行ったことを、再度検討し次への課題を発見する。

履修上の注意

実技での活動を中心とする。全ての内容において多くの準備を必要とする。できる・できないのみではなく、積極的で「一生懸命」な姿勢で取り組むこと。集団での活動が中心となることから、協調性を持ち、積極的にコミュニケーションを取ることを期待する。
・主にアリーナで行うが、その際は適した服装をすること。
・遅刻（30 分以内の遅れ）は 3 回で 1 回の欠席とする。
※履修者の状況に合わせて，内容を変更する場合がある。

到 達 目 標

初めて行う運動や、「できる」または「できない」運動に取り組むことで、運動へどのようにアプローチしていくかを積極的に考えることができる。
互いに協力しあいながら、運動に取り組み楽しみを共有することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内を超え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
授業への積極性（30%）	授業内での学習に積極的に取り組み、自主的な学習や準備につなげることができる。	授業内での学習に積極的に取り組むことができる。	授業内での学習への取り組みがやや消極的である。	授業内での学習への取り組みが消極的である。	授業内での学習に取り組む姿がみられない。
問題発見能力（20%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
授業での協調性（20%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

・授業への貢献度（積極性、協調性）（50%）
・発表（20%）
・提出物（30%）

テキスト

なし
必要に応じて、適宜、プリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅰ　～絵本を読む・絵本をつくる～

木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

幼稚園実習や就職後に使うための、創作絵本の制作をする。
創作紙芝居の共同制作し、その方法と意義の理解を指導していく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	紙芝居の共同制作　アイディア出し　作画
第 2 回	紙芝居の共同制作　作画　脚本
第 3 回	紙芝居の共同制作　完成　上演練習
第 4 回	絵本の制作 アイディアを出す
第 5 回	絵本の制作 構成
第 6 回	校外授業
第 7 回	校外授業
第 8 回	絵本の制作 作画
第 9 回	絵本の制作 作画
第 10 回	絵本の制作 作画
第 11 回	絵本の制作 彩色
第 12 回	絵本の制作 彩色
第 13 回	絵本の制作 製本
第 14 回	絵本の制作 製本
第 15 回	まとめ・振り返り

予習・復習

・予習：多くの絵本を読む。

・復習：下描きなど事前準備が必要な場合は教員がその都度指示をする。

履修上の注意

自分の宝物を作るつもりでこの授業に臨む。
校外授業を行う。(場所、取り組みなどについては授業の中で説明する)
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

絵本について詳しくなる。
自分の絵本を完成させる。
実習や就職した後に役立つ知識や経験を積む。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［絵本・紙芝居制作等における活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［絵本・紙芝居制作等におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［絵本・紙芝居制作等における表現力］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた作品を作る表現力を持っている。	作品を作る表現力を持っている。	作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

提出作品(70%)

制作態度・発表(30%)

テキスト

使用せず、適宜プリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅰ　～『クオーレ』を読む～

長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

イタリアの作家エドモンド・デ・アミーチスの名作『クオレ』(1886 年刊行) を講読します。この作品には、今から 130 年ほど前の北イタリアの都市の 1 年間の学校生活が小学 4 年生の日記形式で綴られています。作品の講読を通じて各自が保育・教育学に関する諸問題を発見・分析し、皆で討議します。こうした活動を通じて、各自が保育者・教育者として必要な社会認識の基本的能力を培うことができるよう指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	はじめに（履修上の注意および授業の位置づけなど）
第 2 回	作品の講読・分析（その 1）
第 3 回	作品の講読・分析（その 2）
第 4 回	作品の講読・分析（その 3）
第 5 回	作品の講読・分析（その 4）
第 6 回	作品の講読・分析（その 5）
第 7 回	作品の講読・分析（その 6）
第 8 回	作品の講読・分析（その 7）
第 9 回	作品の講読・分析（その 8）
第 10 回	作品の講読・分析（その 9）
第 11 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 1）
第 12 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 2）
第 13 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 3）
第 14 回	レポート（ミニ論文）の作成（その 4）
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
学外での授業（２回分）を実施する予定です（国立国会図書館国際子ども図書館の見学・利用）。
遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

文学作品の講読を通じて、保育者・教育者として必要な社会認識の基本的能力を培うことができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（30%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（20%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 70%
学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：『クオレ』(21 世紀版 少年少女世界文学館 22)
・著 者 名：エドモンド・デ・アミーチス著、矢崎源九郎訳
・出版社名：講談社
・出 版 年：2011 年（ISBN：978-4-06-283572-5)

保育･教育学演習Ⅰ　～教育と社会について考える～	西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

本演習では、子どもや学校教育に関する文献や映像資料を取り上げ、内容についてメンバーでディスカッションを行う。学術的な文献のみならず、文芸作品などにおける教育に関連する文化的側面からもアプローチし、子どもや教育に関する問題を多角的な視点から考えることができるよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	文献の精読とディスカッションⅠ①（文芸作品）
第 3 回	文献の精読とディスカッションⅠ②（文芸作品）
第 4 回	文献の精読とディスカッションⅠ③（文芸作品）
第 5 回	文献の精読とディスカッションⅠ④（文芸作品）
第 6 回	文献の精読とディスカッションⅠ⑤（文芸作品）
第 7 回	文献の精読とディスカッションⅠ⑥（文芸作品）
第 8 回	中間のまとめ（レポート作成）
第 9 回	文献の精読とディスカッションⅡ①（学術論文）
第 10 回	文献の精読とディスカッションⅡ②（学術論文）
第 11 回	文献の精読とディスカッションⅡ③（学術論文）
第 12 回	文献の精読とディスカッションⅡ④（学術論文）
第 13 回	文献の精読とディスカッションⅡ⑤（学術論文）
第 14 回	文献の精読とディスカッションⅡ⑥（学術論文）
第 15 回	授業のまとめ（レポートの作成）

予 習 ・ 復 習

・予習：授業の前に、事前に配布された文献・資料を読み内容を捉え、問題に対する自分の考えをある程度まとめてくること。

・復習：授業のなかで関心を持った内容や、疑問に思った点について自分で文献や資料等で調べ理解を深めること。

履修上の注意

・日頃から、子どもや教育に関連する新聞記事やニュースに関心をもつことが望ましい。
・授業開始から２０分までを遅刻とし、それ以後は欠席とする。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・文献や資料の内容を理解し、多角的な視点から考察することができる。
・ディスカッションを通して、他者の意見に耳を傾け、自分の考えをまとめることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容を十全に理解している。	授業内容を理解はしているが多少不足がある。	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない。	授業内容を全く理解していない。
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる。	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる。	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる。	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる。	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない。
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる。	論理的な説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	基本的な内容を説明することができる。	基本的な内容についての説明ができない。

評価方法

提出物や発表内容（50%）
授業への取り組み姿勢（50%）

テキスト

教科書等は特に指定しないが、必要に応じて適宜資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅰ

～管・打楽器を中心とした音楽表現活動に関する研究及び演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	選択必修	－

授業概要

管・打楽器や身の回りにあるもの等を用いて，自らも主体的且つ豊かに表現することで，子ども達 に「音楽の楽しさ」「表現することの楽しさや大切さ」を伝えられるような保育者・教育者を目指す。 また，楽曲分析や討論，演習などを通して研究を深めるための方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，研究テーマの検討	楽器の奏法の習得①
第 2 回	探求・研究活動①	〃 ②
第 3 回	探求・研究活動②	〃 ③
第 4 回	探求・研究活動③	〃 ④
第 5 回	探求・研究活動④	〃 ⑤
第 6 回	探求・研究活動⑤	〃 ⑥
第 7 回	探求・研究活動⑥	〃 ⑦
第 8 回		
第 9 回	楽器編成や幼児・児童に合わせた編曲について	〃 ⑧
第 10 回	様々な楽器の奏法について	〃 ⑨
第 11 回	探求・研究活動⑦	〃 ⑩
第 12 回	太鼓の演奏会に参加し，プロの演奏を鑑賞する（土曜日または日曜日に実施予定）	
第 13 回	探求・研究活動⑧	〃 ⑪
第 14 回	探求・研究活動⑨	〃 ⑫
第 15 回	探求・研究活動⑩	〃 ⑬

予習・復習

楽器の演奏技能の向上には個人練習は必須である。基礎練習を含め，曲練習をして授業に臨むこと。また，発表に向けての準備も行うこと。

履修上の注意

・大学祭での発表などや学外での演奏会鑑賞等，授業外での活動も行うため，必ず参加すること。
・遅刻３回で１欠席扱いとする。

到 達 目 標

・管・打楽器，鍵盤楽器，声等によるアンサンブル力の向上
・ステージ発表におけるパフォーマンス力の向上
・ステージ発表に向けた企画・運営のための実践力の向上

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
楽器の技能（30%）	担当楽器を自由に演奏することができ，さらに上手く表現できない人に対してアドバイスすることができる。	担当楽器をしっかりと演奏することができ，所々，工夫することができる。	時々躓くが，担当楽器を一人であれば，ほぼ演奏できる。	アドバイスを参考に，担当楽器を演奏しようとするが躓きがかなり多い。	アドバイスを受けても考えることができず，全く演奏することができない。
器楽合奏の技能（30%）	周りに指示を出しながら練習や演奏を進め，全体の流れを把握しながら的確にアドバイスすることができる。	全体の流れを把握し，周りの人と合わせてしっかり演奏することができる。	全体の流れはあまり把握できておらず，周りと上手く合わせられないところがある。	全体の流れを把握できておらず，一度躓くと，途中から流れに戻ることが難しい。	全体の流れや自分の役割を全く把握しておらず，合奏は見ているだけになっている。
ステージ発表に向けた創意工夫（10%）	曲に応じた音色の工夫や振付，パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	曲に応じた振付，パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	演奏することはほぼできるが，パフォーマンスは所々だけ意識することができる。	演奏することはあまりできず，パフォーマンスまで意識を向けることは難しい。	演奏することがほぼできず，パフォーマンスを意識することは全くできない。
企画・運営の能力（10%）	発表に向け，魅せる演奏をするためのパフォーマンスを含めた企画・運営方法を考えることができる。	周りと協力して，ステージ発表の企画・運営について考えることができる。	ステージ発表の企画・運営について，意見を求められたときに発言することができる。	ステージ発表の企画・運営について，意見を求められてもほとんど何もいうことなく，お願いされたことだけを行う。	ステージ発表の企画・運営について何も考えておらず，お願いされたことも行うことができない。
学習意欲（20%）	話し合い活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。課題は概ね期日内に提出している。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいうことがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。未提出の課題がある。

評価方法

演奏技能及びアンサンブル力（60%）　発表（20%）　学習態度・課題提出（20%）

テキスト

適宜，楽譜や資料を配布するため，スクラップブック等に整理し，まとめること。

保育･教育学演習Ⅰ　～絵本や昔話、幼年童話を深く学ぶ～	佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

児童文学や児童文化を研究領域に、ゼミ生一人ひとりが自ら選んだテーマに沿って学びを深められるように指導する。

前半は教育実習Ⅰでの部分実習活動を念頭に、絵本の種類や知識、使い方など、絵本において知っておくべき基本的な事柄を確認する。その上で、想定される対象年齢児の発達や成長を踏まえて選んだ絵本の読み聞かせを実演してもらい、それに対して個別指導を行う。

後半は、1つの研究テーマを柱に、ゼミ生間で発表や意見交換を行う。研究テーマに該当すれば、児童文学や児童文化作品から研究対象を自由に選ぶことができる。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ・２年間のゼミ授業とチューター制度の確認 ・学生同士で自己紹介
第 2 回	絵本研究の基本① ・個別面談指導（１回目）
第 3 回	絵本研究の基本② ・絵本の特徴と“絵本でリブリオバトル”（※お気に入りの絵本を１冊持参）
第 4 回	絵本研究の基本③ ・絵本作品の鑑賞と研究観点（形態別）について説明、学園祭に関して
第 5 回	絵本研究の基本④ ・絵本作品の鑑賞と研究観点（作家別）について説明、学園祭に関して
第 6 回	学園祭での出展を通じて① ・学園祭に向けての準備や練習（※協働活動）
第 7 回	学園祭での出展を通じて② ・学園祭での実践と振り返り
第 8 回	教育実習Ⅰに向けて① ・読み聞かせ活動に向けた絵本の選書と紹介
第 9 回	教育実習Ⅰに向けて② ・絵本の読み聞かせの実践と指導
第 10 回	絵本研究の基本⑤ ・「研究テーマ（共通）」の説明
第 11 回	絵本研究の基本⑥ ・調査と分析の準備
第 12 回	児童文化の活動① ・折り紙「指人形」の説明と制作　　※児童文学作品をテーマとした内容
第 13 回	児童文化の活動② ・折り紙「指人形」の制作
第 14 回	保育実習Ⅰ・Ⅱに向けて ・折り紙「指人形」による「劇」実演
第 15 回	絵本研究の基本⑦ ・「プレ発表」研究テーマに則した研究発表

予習・復習

・予習：文献や配布資料の読み込み、教材（絵本）の調査、発表準備など（毎回授業時に指示する）

・復習：実演や発表の準備、発表後の討議や資料の整理（毎回授業時に指示する）

履修上の注意

・演習（ゼミナール）授業なので、積極的に自分の考えや意見を述べ発表することを求める。
・遅刻は 20 分までとし、3 回で 1 回の欠席とみなす。
・児童文学や児童文化のテーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する予定である。

到 達 目 標

・教育者や保育者に求められる児童文学・児童文化に関する知識と理論と、それを現場で生かす実践力を身につける。
・文献や資料をもとに考察を深め、自分の見解を客観的かつ具体的に他者へ伝える能力（発表力や説明力）を身につける。
・グループワークを通して討議の意義を理解し、他者の意見から学ぶ姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
調査分析力（25%）	指導内容を超えて、主体的に調査や分析ができる	指導内容を踏まえて、必要十分な調査や分析ができる	調査や分析が指導時に求めたレベルに満たない	調査や分析の精度や独自性が十分でない	事前の調査や分析をほとんどしていない
口頭発表力（25%）	論理的で独自性があり、発表の仕方にも工夫がある	論理の通った内容の発表ができる	説明の不足する点があるが、発表することができる	最低限の内容だが、発表をすることはできる	研究発表をしない、または準備不足が非常に目立つ
協働活動力（20%）	ゼミ生同士の活動に積極的に関わり、他者から学ぼうとする	ゼミ生同士の活動において、協力する姿勢がある	協働活動において自分の役割を理解し、それに努める	協働活動において常に受動的な態度だが、活動には参加する	活動に参加しない、または非常に消極的な姿勢が目立つ

評価方法

・研究発表　50%
・制作課題　30%
・受講態度　20%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

保育･教育学演習Ⅰ　～遊びを通した子ども・子育て支援～	佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択	－

授業概要

「遊び」をキーワードに一年間，演習活動を進めていく。保育者として，子どもとともに遊びを楽しめるようにするとともに，子ども主体の遊びを援助・展開するとはどういうことなのか，実践的に検討を進めながら指導を行う。その前半に当たる本授業では，以下の３つの活動を行う。 ①さまざまな遊びに触れる， ②様々な素材や教材を通した遊びの展開を考え，実践する，③児童館の乳幼児親子活動や行事等にボランティアとして参加する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	季節の遊び①
第 3 回	新聞紙遊び
第 4 回	廃材遊び
第 5 回	幼児向け遊びの発表（指導案の作成及び模擬保育）①
第 6 回	幼児向け遊びの発表（指導案の作成及び模擬保育）②
第 7 回	学外授業に向けた事前学習
第 8 回	学外授業①児童館の乳幼児親子活動への参加，振り返りレポートの作成
第 9 回	学外授業②児童館の小学生事業への参加，振り返りレポートの作成
第 10 回	学外授業③児童館行事への参加，振り返りレポートの作成
第 11 回	学外授業の振り返り
第 12 回	季節の遊び②
第 13 回	乳児向け遊びの発表（指導案の作成及び模擬保育）①
第 14 回	乳児向け遊びの発表（指導案の作成及び模擬保育）②
第 15 回	まとめ／次年度の演習活動に向けた準備

予習・復習

・予習：個人またはグループでの課題や活動の準備を積極的に行う。
・復習：発表や学外授業の振り返りを行い，次の課題を見つけ，改善を重ねること。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 学外での活動を予定しているが，実施場所・日程等については未定である。
・ 全ての学外授業に出席することが求められる。

到 達 目 標

1) 様々な遊びや遊び方，素材・教材等に興味関心を持ち，遊びを探究し，実践する。
2) 児童館での種々の活動に参加することを通して，「遊びを通して子どもや子育てを支援する」ことの意味や意義について理解を深める。
3) 自分の役割を見つけ，能動的にグループ活動に参加し協働して取り組むことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題解決能力（指導案作成・発表）（40%）	提示された課題に沿い，かつ発展的な指導案を作成し，発表することができる。	提示された課題に沿った指導案を作成し，発表することができる。	提示された課題と指導案・発表内容に少しずれがある。	提示された課題と指導案・発表内容があっていない。	提示された課題に沿った指導案を作成し，発表することができていない。
他者と協力して活動ができる（学外授業への参加，その他課題）（40%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備・活動や議論に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備・活動や議論に積極的に関わっている。	準備・活動や議論において，最低限与えられた役割は果たすことができている。	活動にほとんど参加できていない。	活動に参加できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	自分の意見を述べることができない。

評価方法

指導案作成及び模擬保育　40%
学外授業への参加（準備・振り返り含む）　30%
その他課題（授業内の活動・発表への参加，グループディスカッション等）　30%

テキスト

特になし。授業内に適宜紹介する。

保育･教育学演習Ⅰ　～保育学演習～	岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	選択必修	－

授業概要

園生活で使用されている保育知識・技術を、受講生の興味・関心に応じて理解が深められるように指導する。現在、保育現場で行われているモンテッソーリ教育やシュタイナー保育、ヨコミネ式保育等について文献、実地調査を交えて学習を進める。また、保育現場で使用できる教材を作成し発表を行えるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	各自で保育方法を調べる
第 3 回	各自で調べた保育方法を発表する
第 4 回	テーマに基づきグループで理解を深める
第 5 回	グループで実地調査に向けて準備を行う
第 6 回	グループワーク発表準備：学内
第 7 回	グループワーク発表
第 8 回	保育教材について調べる
第 9 回	保育教材作成①-ペープサート作成 1 -
第 10 回	保育教材作成②-ペープサート作成 2-
第 11 回	保育教材作成③-ペープサート作成 3・練習-
第 12 回	保育教材作成④-ペープサート作成 3・練習 2-
第 13 回	作成した保育教材の発表①
第 14 回	作成した保育教材の作成②
第 15 回	まとめ・振り返り

予習・復習

・予習：各自の課題に応じた資料作成・教材作成
・復習：学んだことを元に他教科との関連を横断的に捉える。

履修上の注意

・自分の課題に積極的に取り組むこと。学外での学習を行う予定であるため授業時間外での学習が必要になる。
・遅刻（授業開始 20 分）３回で、欠席１回とする。
・オープンキャンパス等の学校行事に参加する。

到 達 目 標

・保育方法について学び、知識を増やし今後の自分の保育に生かす。
・教材作成を通じて、実習や就職後に生かす。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
製作物（30%）	期限内に丁寧な作品を作成できる	期限内に作品を作成出来る	製作は終了したが期限内に仕上げることができない。	期限内に製作は終了したが雑な仕上がりである。	授業回数終了までに製作を終わらすことが出来ない。
発表（30%）	具体的な指導案を作成し練習の成果が発揮できる。	練習不足であるが具体的な指導案作成が出来る。	具体的な指導案作成、発表に向けた練習ができない。	具体的な指導案作成ができないがアドバイスがあれば発表ができる。	アドバイスがあっても指導案を作成し発表ができない。
受講態度（40%）	授業や行事に積極的に参加し自身の課題に向けた取り組みができる。	授業や行事に参加し自身の課題を見いだす事ができる。	授業や行事に参加するが自身の課題が見つけられない。	授業や行事に対する参加が不十分であるが自身の課題を見いだせる。	授業や行事に参加出来ず自身の課題を見つけることができない

評価方法

課題への取り組み 30%　　発表 50%　　受講態度 20%

テキスト

特になし。適時、資料を配布する。・教科書名：

保育･教育学演習Ⅰ　～保育者・教員としての感性・表現力の育成～

宮澤多英子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	選択必修	－

授業概要

保育者や教員には、子どもの表現に気付き、受けとめ、育む実践力が求められます。本授業は、声や音を素材とする「音楽表現」を中心として、将来保育者・小学校教員として子どもの豊かな表現を支えるための感性や表現力を育成することを目指し、様々な活動を通して表現の芽生えや育ちに対する理解や表現の技能について学びます。

授業では、生活の中での感性・表現力の育成として、身の周りの音を聴くサウンド・ウォークを行い他者と共有するための「サウンド・マップ」を作成したり、身近な素材を用いた音あそびに取り組んだり、日常生活の体験や音環境が子どもの感性の育成に与える影響について実践的に指導します。また、音楽文化である楽曲に対する感性・表現力の育成として、大学祭や保育現場でのコンサートを企画し、聴き手と一体となって楽しめるプログラムの考案や演奏法、表現法について指導します。さらに、協働的に表現をつくりあげる活動として、ピアノ連弾や ICT の利点を生かしたリモート演奏動画の制作を行い、履修者同士が意見を交わしながら楽曲のよさや美しさの要因となる音楽的要素や音楽表現の教育的意義について学びます。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	オリエンテーション、大学祭での演奏発表の企画・立案	
第 2 回	大学祭での演奏発表に向けて①　合唱・合奏（パート練習）	
第 3 回	大学祭での演奏発表に向けて②　合唱・合奏（パート・全体練習）	
第 4 回	大学祭での演奏発表に向けて③　合唱・合奏・うたあそび（パート・全体練習）	
第 5 回	【大学祭での演奏発表】準備・リハーサル・本番・片付け	
第 6 回	保育現場でのミニコンサートに向けて①　指導計画案の作成、合唱・合奏（パート練習）	
第 7 回	保育現場でのミニコンサートに向けて②　合唱・合奏（全体練習）、リハーサル	
第 8 回	【学外演習】保育現場でのミニコンサートと保育体験	
第 9 回	身の周りの音を聴く①　サウンド・ウォークの実施	
第 10 回	身の周りの音を聴く②　「サウンド・マップ」の作成	
第 11 回	身の周りの音を聴く③　身近な素材を用いた音あそび（音さがし・音作品づくり）	
第 12 回	リモート演奏動画の制作①　企画　　※ICT の活用	ピアノ連弾①　譜読み・ペア練習
第 13 回	リモート演奏動画の制作②　合唱・合奏練習、動画撮影	ピアノ連弾②　ペア練習
第 14 回	リモート演奏動画の制作③　合奏練習、動画撮影・編集	ピアノ連弾③　ペア練習・聴き合い
第 15 回	リモート演奏動画の制作④　鑑賞会	ピアノ連弾④　演奏発表会

予習・復習

・予習：楽譜が配布された楽曲は事前に譜読みをし、自主練習を行いましょう。
・復習：授業で学んだ内容について要点を整理し、楽曲については必ず自主練習を行いましょう。

履修上の注意

・遅刻は 3 回で 1 回欠席とします。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとします。
・大学祭での演奏発表は、準備・リハーサル・本番・片付けまで、全ての活動への参加を必須とします。

到 達 目 標

・音や音楽に対する感性や表現力を高めようとする意欲をもち、授業に主体的、協働的に取り組むことができる。
・楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして演奏発表することができる。
・身の周りの音や身近な素材のもつ音色に能動的に関わり、多角的な視点から音環境や音楽表現について思考・判断することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（40%）	指定された予習・復習や課題以外にも自主的に課題を設定して取り組み、音楽表現活動に積極的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、音楽表現活動に主体的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みがやや消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みが消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、音楽表現活動への取り組みが消極的である。
表現の創意工夫と表現の技能（50%）	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして表現することができる。	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして表現することができる。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、表現の技能がやや不足している。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、表現の技能が不十分である。	楽曲にふさわしい表現の工夫がみられず、表現の技能も不十分である。
音環境や音楽表現に対する思考力と判断力（10%）	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を十分に知覚・感受し、その関わりについて多角的な視点から考え、思考・判断を深めることができる。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受し、その関わりについて多角的な視点から思考・判断することができる。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受し、その関わりについての自分なりに思考・判断している。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受するものの、その関わりに対する思考・判断が不十分である。	身の回りの音や身近な素材のもつ音色を知覚・感受するものの、その関わりに対する思考・判断がみられない。

評価方法

・受講態度 40%　…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・演奏発表 50%　…【評価項目】表現の創意工夫と表現の技能
・テキストの課題 10%　…【評価項目】音環境や音楽表現に対する思考力と判断力

テキスト

初回の授業で以下のテキストを配布する。
・教科書名：『保育者養成のための創作表現活動―音楽・造形・身体動作のつながり―』
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：株式会社 外為印刷
・出 版 年：2021 年

保育･教育学演習Ⅰ　～子どもの遊び（身体活動）～

藤田　倫子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

本演習では、実際に体験することで見えてくることを大切に考え、「子どものあそび」（身体活動）に関わる理論について学ぶとともに、実践を組み合わせて指導していく。保育者、教員として、子どもや保護者に適切に伝えることができ、「あそび」の実践ができることを目標にする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション・子どもの運動やあそびに関わる理論学習
第 2 回	子どもが自発的に遊ぶ物的環境： 子どもが固定優や可動遊具、自然等からアフォードされる内容について考察する。
第 3 回	子どもが自発的に遊ぶ人的環境： 子どもが友人や保育者などからアフォードされる内容について考察する。
第 4 回	子どもの遊びと関わり： 保育者として子どもの遊びの中に「どうあるか」についてディスカッションを行う。
第 5 回	スポーツ運動学から見た子どもの動作獲得① 理論学習
第 6 回	スポーツ運動学から見た子どもの動作獲得② 理論学習
第 7 回	研究の基礎①：研究テーマ
第 8 回	研究の基礎②：方法
第 9 回	研究の基礎③：資料・文献検索
第 10 回	親子ふれあい体操①：親子ふれあい体操の意義について学ぶ。
第 11 回	親子ふれあい体操②：親子ふれあい体操の実際について（フィールドワーク）
第 12 回	親子ふれあい体操③親子ふれあい体操の実際について（フィールドワーク）
第 13 回	親子ふれあい体操④子育て支援事業としての意義について（フィールドワーク）
第 14 回	研究の方向性を確定する
第 15 回	研究テーマに沿った資料を収集する・まとめ

予習・復習

・予習：次の授業の事前学習として示された項目を調べて、授業に臨むこと。
・復習：授業中の重要ポイントを振り返り、現代社会の課題と関連付けて自分の考えをもつ。

履修上の注意

・遅刻について、30 分未満の遅刻 3 回で、欠席 1 回とする。また、30 分以上の遅刻は、欠席となる。
・「感じる」ことを大切にし、それらをいろいろな方法で、できる限り表現すること。
・他学生の表現について、多様な意見や考えがあることを理解し、自らの考えと関連付けて理解を深める。
・やむを得ない理由による遅れの場合を除き、原則、遅刻は認めない。

到 達 目 標

①「子どものあそび」について、理論を理解する。
②子どもや保護者に「あそび」を通して関わる際の留意点を理解し、適切に伝えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
専門知識の理解（40%）	授業内容を超え積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解ができていない。
専門知識の活用力・応用能力（20%）	専門的な知識を実社会での実践に役立てることができる。	課題について、専門的な知識を用いて説明できる。	専門的な知識について理解しているが、活用・応用能力に多少不足がある。	専門的な知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できない。	専門的な知識に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない。
発言力・傾聴力（20%）	自らの意見を論理的に発言でき、相手の意見を尊重し、理解しながら聞くことができる。	自らの意見を発言でき、相手の意見を理解しながら聞くことができる。	自己主張の発言や、周囲の意見に同意してばかりである。相手の意見は聞いている。	最低限の発言のみで、相手の意見も聞いていないことがある。	発言をしない。相手の意見を尊重せず、自分の考え方や意見を押し付ける。
授業での協調性（20%）	授業内で他学生と顕著に協調を図れる。	授業内で他学生と十分に協調を図れる。	授業内で他者と部分的に協調を図れる。	授業内で他者と協調を図る努力はみられる	授業内で他者と協調を図れない。

評価方法

授業への取り組み
・専門知識の理解（40%）
・専門知識の活用力・応用能力・実践力（20%）
・発言力・傾聴力 （20%）
・授業での協調性（20%）

テキスト

適宜、資料を配付する。

保育･教育学演習Ⅰ　～保育・教育カウンセリングの技法と事例検討～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	1	選択	－	選択必修	－

授業概要

保育・教育カウンセリングとは、保育者・教育者だからこそできる、保育や教育の場において実践的に役に立つカウンセリングのことである。

本授業では、実践力のある保育者・教育者の育成を目指し、保育・教育カウンセリングの技法と活用事例について指導する。具体的には、演習やトレーニングを通して保育・教育カウンセリング・スキルの獲得を目指す。また、子ども・保護者・同僚との交流場面を想定しつつ、「こんな時はどうする？」という視点で事例検討を行い、保育・教育カウンセリングに関する知識の獲得を目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	保育・教育カウンセリングの基本的な考え
第 3 回	保育・教育カウンセリングの技法（1）　ペーシング、あいづち、リフレクション
第 4 回	保育・教育カウンセリングの技法（2）　ミラーリング、Ｉメッセージ、リフレーミング
第 5 回	保育・教育カウンセリングの技法（3）　勇気づけ、エンカウンター、モデリング
第 6 回	保育・教育カウンセリングの技法（4）　ピア・サポート、アサーション、解決志向アプローチ
第 7 回	子どもに関わる保育・教育カウンセリング（1） かんしゃくが止まらない子、友だちと遊べない子、ケンカが絶えない子
第 8 回	子どもに関わる保育・教育カウンセリング（2） 保育者になつかない子、集中できない子、嘘をつく子
第 9 回	子どもに関わる保育・教育カウンセリング（3） 暴力をふるう子、よい食習慣がない子、まばたき・指しゃぶりが多い子
第 10 回	子どもに関わる保育・教育カウンセリング（4） 性に関心のある子、発達に課題のある子、家族が問題を抱えている子
第 11 回	保護者に関わる保育・教育カウンセリング（1） 保護者との信頼関係、かかわり方のポイント、子育て支援
第 12 回	保護者に関わる保育・教育カウンセリング（2） 発達障害の子どもを抱える保護者へのかかわり、精神疾患を抱える保護者へのかかわり
第 13 回	同僚の保育者・教育者と支え合うための保育・教育カウンセリング（1） 保育者・教育者のメンタルヘルス、チームワーク
第 14 回	同僚の保育者・教育者と支え合うための保育・教育カウンセリング（2） 専門家によるコンサルテーション、チームワーク
第 15 回	まとめ　保育・教育カウンセリングに基づいた保育・教育の在り方

予習・復習

・予習：予告した内容について、事前に学習しておくこと。
・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。
　　授業の内容によって、レポートを課すことがある。

履修上の注意

１．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
２．授業中、グループごとのディスカッションや意見交換、演習を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
３．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。
４．身近に乳幼児や児童がいたら、授業内容と照らし合わせながら観察し、理解を深めることを期待する。

到 達 目 標

１．演習を通して、保育者・教育者に必要とされる心理学の知識、カウンセリング・スキルを身に付ける。
２．保育・教育カウンセリングの基盤となる理論を踏まえて、自分の考えを文章で表現することができる。
３．保育・教育カウンセリングのスキル及び基盤となる理論を踏まえて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育・教育カウンセリング・スキルの習得度（40%）	演習内容を超えた保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いている。	演習した保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いている。	演習した保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いているが、多少不足がある。	演習した保育・教育カウンセリング・スキルが最低限身に付いている。	演習した保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いていない。
考えを文章で表現する力（レポート）（30%）	説得力のある文章で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のない文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを表現できている。	文章で自分の考えを最低限表現できている。	文章で自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発言・議論する力（30%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・保育・教育カウンセリングの習得度　40%
・課題への取組（レポート等）　30%
・授業中の議論や発言等　30%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～運動遊びの実践的検討を通して～	小山内　弘和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

身体、身体活動」の視点からテーマを選定し、検討、実践、まとめを行っていく。特に、運動遊びを作成、発表する事を中心に進めていく。運動の実践について学習していくよう指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：　保育・教育学演習Ⅱ　体育・健康科学についての進め方や注意事項を伝達する。
第 2 回	運動遊びについての確認：　簡単な運動遊びを実施することで、各自の身体的な活動能力を確認する。
第 3 回	運動実践について学ぶ①：　運動を実践させるために必要なことを考え、それを実践できる方策について検討する。
第 4 回	運動実践について学ぶ②：　運動を実践させるために必要なことを考え、それを実践できる方策について検討する。
第 5 回	運動遊び最終発表の検討③：　最終発表に向けた運動遊びの立案を ICT なども用いながら行い、物品等の確認を行う。
第 6 回	運動遊び最終発表の検討④：　最終発表に向けた運動遊びの立案を実践するための資料を ICT なども用いながら作成を進める。
第 7 回	運動遊び最終発表の検討⑤：　最終発表に向けた運動遊びの立案を実践するための資料を ICT なども用いながら作成を進める。
第 8 回	運動遊び最終発表の検討⑥：　最終発表に向けた運動遊びの立案を実践するための資料を ICT なども用いながら作成を進める。
第 9 回	発表シミュレーション①：　最終発表の運動遊びにむけ、シミュレーションを行う。
第 10 回	発表シミュレーション②：　最終発表の運動遊びにむけ､最後のシミュレーションを行う。
第 11 回	最終発表①：　運動遊びの最終発表を行う。(2 人)
第 12 回	最終発表②：　運動遊びの最終発表を行う。(2 人)
第 13 回	最終発表③：　運動遊びの最終発表を行う。(1 人)
第 14 回	最終検討：　最終発表を基に、評価・分析を行う。
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

授業内での内容以外にシミュレーションや分析を必要とすることから、以下の予習・復習を行うこと。
・予習：授業前には机上での活動のみならず、様々な側面から内容を十分に理解してくるようにする。
・復習：行ったことを、再度検討し次への課題を発見するとともに、資料の最終版に反映させる。

履修上の注意

・全ての内容において、多くの準備を必要とする。それらに対しては積極的な姿勢で取り組むこと。また、「一生懸命」であること。
・実践を行う際は、それに適した服装をすること。
・遅刻（30 分以内の遅れ）は 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

「身体、身体活動」に注目して、課題の追求のために、グループで協力して実践的に学習していく。テーマの選定と実践を通して、身体活動についての視点や思考するための基礎を獲得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内を超え積極的に学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
問題発見能力（30%）	発見できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を発見することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を発見することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を発見すること ができない。
問題解決能力（20%）	解決できない学生に解決方法をアドバイスできる。	独自の能力で課題を解決することができる。	参考にするものがあれば、独自の能力で課題を解決することができる。	他人のアドバイス があれば課題を解決することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解決すること ができない。
授業での協調性（20%）	授業内での学習に協調的に取り組み、自主的な学習や準備も協調して行うことができる。	授業内での学習にとても協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができる。	授業内での学習にやや協調的に取り組むことができる。	授業内での学習に協調的に取り組むことができない。

評価方法

・提出物（30%）
・発表（50%）
・授業への貢献度（協調性）（20%）

テキスト

なし。
必要に応じてプリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ ～絵本や紙芝居を読む・手作り作品を作る～

木谷　安憲

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授 業 概 要

絵本を読み、絵本に対する理解を深める。絵本と紙芝居を比較することで、それぞれの良さを知る。
手作り絵本や紙芝居を制作し、実習に持っていき園児達の前で読む。
演習を通して、絵本や紙芝居が保育にはたす役割について理解を深めるように指導する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業の概要とスケジュール
第 2 回	好きな絵本を紹介する
第 3 回	紙芝居と絵本の違いを知る
第 4 回	紙芝居と絵本の分析する
第 5 回	園で読まれる絵本について調べる
第 6 回	共同制作 大きな絵
第 7 回	かんたんな絵本の制作の仕方を学ぶ
第 8 回	絵本の共同制作 アイディアを出す
第 9 回	絵本の共同制作 下描き
第 10 回	校外授業
第 11 回	校外授業
第 12 回	絵本の制作　彩色
第 13 回	絵本の制作　彩色
第 14 回	絵本の制作　製本
第 15 回	絵本の制作　完成 まとめ・振り返り

予 習 ・ 復 習

・予習：できるだけ多くの絵本を読む。

・復習：下描きなど事前準備が必要な場合は教員がその都度指示をする。

履修上の注意

この授業で自分の宝物を作る。
校外授業を行う(場所、取り組みなどについては授業の中で説明する)。
20 分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席とする。

到 達 目 標

絵本について自分の考えを言えるようになる。
読者である園児を想定した自分の絵本を完成させる。
実習や就職した後に役立つ知識や経験を実践を通して積む。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
思考力［絵本・紙芝居制作等における活動計画等］(20%)	思考力を働かせた、全学生の見本となるような活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた、すぐれた活動計画等を作ることができる。	思考力を働かせた活動計画等を作ることができる。	活動計画等を作ることができても、思考力の観点が抜けている。	思考力という観点が抜けている
構想力［絵本・紙芝居制作等におけるアイディア等］(20%)	全学生の見本となるような構想力のある作品制作を行うことができる。	すぐれた構想力のある作品制作を行うことができる。	構想力のある作品制作を行うことができる。	作品制作を行うことができるが、構想力の観点が抜けている。	構想力という観点が抜けている。
表現力［絵本・紙芝居制作等における表現力］(40%)	全学生の見本となるような見本作品を作る表現力を持っている。	すぐれた作品を作る表現力を持っている。	作品を作る表現力を持っている。	作品を作ることができても、表現力の観点が抜けている。	表現力という観点が抜けている。
総合的な力(20%)	思考力、構成力、表現力を結びつけ、全学生の見本となるような実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、すぐれた実践を行うことができる。	思考力、構成力、表現力を結びつけた、実践を行うことができる	実践を行うことができても、思考力、構成力、表現力が結びついていない。	思考力、構成力、表現力を結びつける観点が抜けている。

評価方法

提出作品(70%)

制作態度・発表(30%)

テキスト

使用せず、適宜プリントを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～『クオーレ』を読む（続）～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2 年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

1 年次の成果を十分にふまえて、各自の問題意識を文学作品の講読・分析を通じて、さらに学問的に深めていけるよう指導します。具体的には、各自が追究すべき課題および作品を設定し、授業を通じて分析・考察をすすめます。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	はじめに（履修上の注意および授業の位置づけなど）
第 2 回	課題の設定および作品の選定（その 1）
第 3 回	課題の設定および作品の選定（その 2）
第 4 回	課題の設定および作品の選定（その 3）
第 5 回	作品の講読・分析（その 1）
第 6 回	作品の講読・分析（その 2）
第 7 回	作品の講読・分析（その 3）
第 8 回	作品の講読・分析（その 4）
第 9 回	作品の講読・分析（その 5）
第 10 回	作品の講読・分析（その 6）
第 11 回	論文の作成（その 1）
第 12 回	論文の作成（その 2）
第 13 回	論文の作成（その 3）
第 14 回	論文の作成（その 4）
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互い大いに学びあってください。
学外での授業（２回分）を実施する予定です（東京地方裁判所で刑事裁判傍聴）。
遅刻 2 回を欠席 1 回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

到 達 目 標

文学作品の講読を通じて、保育者・教育者として必要な社会認識の能力を養うことができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容についての理解ができていない。
課題解決および発表能力（30%）	解決方法や発表の仕方が分からない他人へアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解き、発表することができる。	参考文献等を参照しながら課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解き、発表することができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができず発表することもできない。
授業への積極性（10%）	授業に積極的に取り組み、自主的な学習へつなげることができる。	授業に積極的に取り組むことができる。	授業への取り組みが、やや消極的である。	授業への取り組みが消極的である。	授業へ取り組む姿勢がみられない。
論理的に文章で説明する力（30%）	提示された課題について、他人を十分に説得する内容を記述することができる。	論理が通った内容をよく記述することができる。	不足する点はあるものの、他人が理解できる程度の論理的な文章を書くことができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明することができない。

評価方法

授業の成果 70%
学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：『クオレ』(21 世紀版 少年少女世界文学館 22)
・著 者 名：エドモンド・デ・アミーチス著、矢崎源九郎訳
・出版社名：講談社
・出 版 年：2011 年（ISBN：978-4-06-283572-5)

保育･教育学演習Ⅱ　～教育と社会について考える～	西　敏郎

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

本演習では、教育や社会における自分自身の関心に基づいて参照する文献を選び精読し、その内容について発表を行う。自分で選んだ文献を精読したうえで内容に対する自分自身の考えをまとめることができるよう指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	文献の選定方法と読み方について
第 3 回	発表用レジュメ・資料の作成について
第 4 回	課題の設定と文献の選定①
第 5 回	課題の設定と文献の選定①
第 6 回	課題の設定と文献の選定①
第 7 回	文献の精読と分析①
第 8 回	文献の精読と分析②
第 9 回	文献の精読と分析③
第 10 回	（報告）発表とディスカッション①
第 11 回	（報告）発表とディスカッション②
第 12 回	（報告）発表とディスカッション③
第 13 回	（報告）発表とディスカッション④
第 14 回	（報告）発表とディスカッション⑤
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：自分で選んだ文献を読み進めること。

・復習：授業のなかで関心を持った内容や疑問に思った点について、自分で文献や資料等で調べ理解を深めること。

履修上の注意

・授業外の時間を利用して、文献を要約し考察を加えたレジュメを作成する必要があります。
・授業開始から２０分までを遅刻とし、それ以後は欠席とする。
・遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・自分の問題関心に基づき、参照すべき文献を選ぶことができる。
・文献を精読したうえで内容を要約し、自分なりの考察を加えたレジュメを作成し、発表することができる。
・ディスカッションを通して、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを再構築することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業内容の理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容を十全に理解している	授業内容を理解はしているが多少不足がある	授業の基本的な内容を概ね理解しているにすぎない	授業内容を全く理解していない
問題を捉え考察する力（30%）	授業の内容にとどまらず関連する発展的な内容を踏まえて考えることができる	授業の内容に関して、自分の考えを自分の言葉でまとめることができる	参考書や教科書を参考にすれば、自分の考えを導くことができる	他者の助言があれば、自分の考えをまとめることができる	他者の助言があっても、自分の考えがまとまらない
自分の考えを論理的に文章で説明する力（30%）	他者を説得する内容を記述することができる	論理的な説明文を記述することができる	不足する点はあるが、説明文を書くことができる	基本的な内容を説明することができる	基本的な内容についての説明ができない

評価方法

提出物や発表内容（50%）
授業への取り組み姿勢（50%）

テキスト

教科書等は特に指定しないが、必要に応じて適宜資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅱ

～打楽器を中心とした音楽表現活動に関する研究及び演習～

齊藤　淳子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

ミニ発表会やワークショップ等の企画・運営を行うことで，保育・教育現場における発表会等の企画・運営のための実践力を養うとともに，研究テーマに関する楽曲分析や演習等を通して，研究を深めるための方法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	ガイダンス，研究計画	管・打楽器奏法の習得①
第 2 回	探求・研究活動①	〃 ②
第 3 回	探求・研究活動②	〃 ③
第 4 回	探求・研究活動③	〃 ④
第 5 回	探求・研究活動④	〃 ⑤
第 6 回	探求・研究活動⑤	〃 ⑥
第 7 回	ミニ発表会・ワークショップの企画・立案	〃 ⑦
第 8 回	探求・研究活動⑥	〃 ⑧
第 9 回	探求・研究活動⑦	〃 ⑨
第 10 回	探求・研究活動⑧	〃 ⑩
第 11 回	探求・研究活動⑨	〃 ⑪
第 12 回	探求・研究活動⑩	〃 ⑫
第 13 回	探求・研究活動⑪	〃 ⑬
第 14 回	リハーサル	〃 ⑭
第 15 回	ミニ発表会・ワークショップ	

予習・復習

楽器の演奏技能の向上には個人練習は必須である。基礎練習を含め，曲練習をして授業に臨むこと。また，発表に向けての準備も行うこと。

履修上の注意

・オープンキャンパスでのミニコ発表会やワークショップ，学園祭での発表等，授業外での活動にも必ず参加すること。
・大学祭が行われる 10 月下旬までは練習を継続するため，その練習に必ず参加すること。
・遅刻 3 回で 1 欠席扱いとする。

到 達 目 標

・管・打楽器によるアンサンブル力の向上
・ステージ発表におけるパフォーマンス力の向上
・ステージ発表やワークショップに向けた企画・運営のための実践力の向上

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
太鼓の技能（30%）	どの曲も自由に演奏でき，上手く表現できていない人に対してアドバイスすることができる。	どの曲も基本的な奏法を意識し，しっかりと音を響かせながら演奏することができる。	太鼓を演奏することはできるが，響きにムラがある。	太鼓をしっかりと音を鳴らすことができず，リズムも不安定である。	太鼓は音を出しているだけで，曲を演奏することはできない。
太鼓によるアンサンブルの技能（30%）	周りに指示を出しながら練習や演奏を進め，全体の流れを把握しながら的確にアドバイスすることができる。	全体の流れを把握し，周りの人と阿吽の呼吸で演奏することができる。	なんとなく周りに合わせることはできるが，全体の流れはあまり把握できていない。	なんとなく周りに合わせようとはしているが，流れの把握もできておらず，上手く合わせることができない。	周りに合わせようとすることなく，合っていなくても気にすることなく自分のペースで演奏している。
ステージ発表に向けた創意工夫（10%）	曲に応じた音色の工夫や振付，パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	曲に応じた振付，パフォーマンスなどを意識して演奏することができる。	演奏することはほぼできるが，パフォーマンスの動きや声は小さい。	演奏することはほぼできるが，リズムを小手先で刻んでいるだけで，動きはなく，声も出していない。	簡単なところのみ音を出しているが，曲を演奏しているとは言い難く，創意工夫は全く何もしていない。
企画・運営の能力（10%）	発表に向け，魅せる演奏をするためのパフォーマンスを含めた企画・運営方法を考えることができる。	周りと協力して，ステージ発表の企画・運営について考えることができる。	ステージ発表の企画・運営について，意見を求められたときに発言することができる。	ステージ発表の企画・運営について，意見を求められてもほとんど何もいうことなく，お願いされたことだけを行う。	ステージ発表の企画・運営について何も考えておらず，お願いされたことも行うことができない。
学習意欲（20%）	話し合い活動の際にリーダーを務め，話し合いをまとめるなど積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際に活発に意見やアイディアを出し，積極的な態度で授業に取り組んでいる。課題は期日内に全て提出している。	話し合い活動の際，意見を求められたらいうことはできるが，授業に臨む姿はやや積極性に欠ける。課題は概ね期日内に提出している。	話し合い活動の際に意見を求められてもほとんど何もいうことがなく，授業に臨む姿は積極性に欠ける。課題は提出しているが期日を守れないものが多い。	話し合い活動の際，その場にいるだけで話し合い等に参加しておらず，授業に臨む姿は消極的である。未提出の課題がある。

評価方法

演奏技能及びアンサンブル力（60%）　発表（20%）　学習態度・課題提出（20%）

テキスト

適宜，楽譜や資料を配布するため，スクラップブック等に整理し，まとめること。

保育･教育学演習Ⅱ　～絵本や童話について専門的に学ぶ～

佐々木美和

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

児童文学や児童文化を研究領域に、履修学生（ゼミ生）一人ひとりが自ら選んだテーマに沿って学びを深められるように指導する。「保育・教育学演習Ⅰ」での学びを発展させ、ゼミ生個人が選んだ研究テーマについて調査や分析を進める。発表やグループ討議を経て、一人ひとりの考察を深め、全員でその成果をまとめる。

この一連の研究活動を通して、児童文学や児童文化全般に対する知識を増やし理解が深まってくように個別に指導を行う。また、就学や学生生活に関する相談はもちろん、実習活動や就職活動への支援を行う。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ・研究発表についての説明と個別面談指導の日程決め
第 2 回	絵本研究に向けて① ・作家論アプローチと様式（形態）アプローチ
第 3 回	絵本研究に向けて② ・個別面談指導（１回目）
第 4 回	絵本研究に向けて③ ・受容者アプローチと教材活用論アプローチ
第 5 回	絵本研究に向けて④ ・作品論アプローチ
第 6 回	教育実習Ⅱに向けて① ・折り紙シアターやマジックショーの習得 ・責任実習の活動案（指導案）の指導
第 7 回	教育実習Ⅱに向けて② ・絵本の読み聞かせ指導
第 8 回	絵本研究に向けて⑤ ・文献調査や資料収集と整理
第 9 回	絵本研究に向けて⑥ ・文献調査や資料収集と整理
第 10 回	絵本研究に向けて⑦ ・「プレ発表会」と質疑応答、個別面談指導（２回目）
第 11 回	個人研究発表活動① ・「中間発表会」と質疑応答
第 12 回	個人研究発表活動② ・個別面談指導（３回目）
第 13 回	児童文化活動 ・長い「あやとり」を用いた「遊び」体験
第 14 回	個人研究発表活動③ ・「研究発表会」（前半）での研究発表
第 15 回	個人研究発表活動④ ・「研究発表会」（後半）での研究発表

予習・復習

・予習：文献や配布資料の読み込み、教材（絵本）の調査、発表準備など（毎回授業時に指示する）

・復習：実演や発表の準備、発表後の討議や資料の整理（毎回授業時に指示する）

履修上の注意

・演習（ゼミナール）授業なので、積極的に自分の考えや意見を述べ発表すること。
・遅刻は 20 分までとし、3 回で 1 回の欠席とみなす。
・児童文学や児童文化のテーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する予定である。

到 達 目 標

・教育者や保育者に求められる児童文学・児童文化に関する知識と理論と、それを現場で生かす実践力を身につける。
・文献や資料をもとに考察を深め、自分の見解を客観的かつ具体的に他者へ伝える能力（発表力や説明力）を身につける。
・グループワークを通して討議の意義を理解し、他者の意見から学ぶ姿勢を身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
保育活動実践力（30%）	すべての課題に対して模範的な実演ができる	すべての課題の実演内容が必要十分である	課題によって実演内容の出来不出来が分かれる	準備不足な面はあるが、課題に挑んでいる	実演していない課題がある、または準備不足が非常に目立つ
調査分析力（25%）	指導内容を超えて、主体的に調査や分析ができる	指導内容を踏まえて、必要十分な調査や分析ができる	調査や分析が指導時に求めたレベルに満たない	調査や分析の精度や独自性が十分でない	事前の調査や分析をほとんどしていない
口頭発表力（25%）	論理的で独自性があり、発表の仕方にも工夫がある	論理の通った内容の発表ができる	説明の不足する点があるが、発表することができる	最低限の内容だが、発表をすることはできる	研究発表をしない、または準備不足が非常に目立つ
協働活動力（20%）	ゼミ生同士の活動に積極的に関わり、他者から学ぼうとする	ゼミ生同士の活動において、協力する姿勢がある	協働活動において自分の役割を理解し、それに努める	協働活動において常に受動的な態度だが、活動には参加する	活動に参加しない、または非常に消極的な姿勢が目立つ

評価方法

・研究発表　50%
・制作課題　30%
・受講態度　20%

テキスト

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～遊びを通した子ども・子育て支援～

佐藤　晃子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択	－

授業概要

「遊び」をキーワードに一年間，演習活動を進めていく。保育者として，子どもとともに遊びを楽しめるようにするとともに，子ども主体の遊びを援助・展開するとはどういうことなのか，実践的に検討を進めながら指導を行う。「Ⅰ」を踏まえ本授業では，地域に出て，実際に子どもを対象とした遊びを計画・実施することを最終的な目標とする。具体的には，以下の３つの活動を行う。 ①スケッチブックシアターなどの教材作成を行う， ②児童館の乳幼児親子活動に定期的に参加し，親子の姿や活動の展開方法，環境構成，職員の動きなどを観察する，③グループで乳幼児親子活動を計画し，実施する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	スケッチブックシアターの作成①
第 3 回	スケッチブックシアターの作成②
第 4 回	スケッチブックシアターの作成③（発表）
第 5 回	学外授業①児童館の乳幼児親子活動への参加，振り返りレポートの作成
第 6 回	学外授業②児童館の乳幼児親子活動への参加，振り返りレポートの作成
第 7 回	学外授業の振り返り／乳幼児親子活動の計画・準備①（指導案作成）
第 8 回	乳幼児親子活動の計画・準備②
第 9 回	乳幼児親子活動の計画・準備③（リハーサル）
第 10 回	学外授業③乳幼児親子活動の実施
第 11 回	学外授業の振り返り
第 12 回	乳児向け教材の作成①
第 13 回	乳児向け教材の作成②
第 14 回	乳児向け教材の作成③（発表）
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：個人またはグループでの課題や活動の準備を積極的に行う。
・復習：発表や学外授業の振り返りを行い，次の課題を見つけ，改善を重ねること。

履修上の注意

・ 遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
・ 学外での活動を予定しているが，実施場所・日程等については未定である。
・ 全ての学外授業に出席することが求められる。

到 達 目 標

1) 対象やねらいにあった教材を作成することができる。
2) 児童館での種々の活動に参加することを通して，遊びの援助に関する実践的な理解を深める。
3) 対象やねらいにあった乳幼児親子活動を計画し，実践する。
4) 自分の役割を見つけ，能動的にグループ活動に参加し協働して取り組むことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題解決能力（教材作成・発表）（40%）	提示された課題に沿い，かつ発展的な教材を作成し，発表することができる。	提示された課題に沿った教材を作成し，発表することができる。	提示された課題と教材・発表内容に少しずれがある。	提示された課題と教材・発表内容があっていない。	提示された課題に沿った教材を作成し，発表することができていない。
他者と協力して活動ができる（学外授業への参加）（40%）	グループの役割分担を行い，メンバーと協力しながら，準備・活動や議論に積極的に関わっている。	自分の役割を見つけ，準備・活動や議論に積極的に関わっている。	準備・活動や議論において，最低限与えられた役割は果たすことができている。	活動にほとんど参加できていない。	活動に参加できていない。
自分の考えを論理的に述べる力（その他課題）（20%）	議論に積極的に参加し，自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を論理的に述べることができる。	自分の意見を述べることができるが，やや論理性に欠ける。	自分の意見をほとんど述べることができない。	自分の意見を述べることができない。

評価方法

教材作成及び発表　40%
学外授業への参加（準備・実施・振り返り含む）　40%
その他課題（授業内の活動・発表への参加，グループディスカッション等）　20%

テキスト

特になし。授業内に適宜紹介する。

保育･教育学演習Ⅱ　～自分の保育を見つめ直す～	岩崎　桂子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

保育・教育学演習Ⅰに続き、保育方法を学び保育の技術・知識が増えるように指導する。また、就職に向けて各自の保育観に合った就職先の選定を行うための材料とし、指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	実習先での保育方法を学ぶ
第 3 回	実習先での保育方法を考察する
第 4 回	実習先での保育方法・保育計画について発表①
第 5 回	実習先での保育方法・保育計画について発表②考察
第 6 回	教材研究
第 7 回	教材作成-パネルシアター
第 8 回	主活動での実践計画を立てる①調べ学習
第 9 回	主活動での実践計画を立てる②活動計画を立てる
第 10 回	主活動での実践計画を立てる②発表　前半
第 11 回	主活動での実践計画を立てる④発表　後半
第 12 回	模擬保育振り返り
第 13 回	教材制作-ペープサート・スケッチブックシアター
第 14 回	教材発表
第 15 回	まとめ-卒業までの自身の課題を見つめ直す-

予習・復習

・予習：各自の課題に応じた資料作成・教材作成
・復習：学んだことを元に他教科との関連を横断的に捉える。

履修上の注意

自分の課題に積極的に取り組むこと。学外での学習を行う予定であるため授業時間外での学習が必要になる。学生の状況により、授業内容が変更する可能性がある。
遅刻（授業開始 20 分）３回で欠席１回とする。
オープンキャンパスに授業の一環として参加する可能性がある。
学外に出向き、授業を行うことがある。

到 達 目 標

・様々な保育について学び、各自の保育観を確立する。
・就職に向けて各自の強みを身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
製作物（30%）	期限内に丁寧な作品を作成できる	期限内に作品を作成出来る	製作は終了したが期限内に仕上げることができない。	期限内に製作は終了したが雑な仕上がりである。	授業回数終了までに製作を終わらすことが出来ない。
発表（50%）	具体的な指導案を作成し練習の成果が発揮できる。	練習不足であるが具体的な指導案作成が出来る	具体的な指導案作成、発表に向けた練習ができない。	具体的な指導案作成ができないがアドバイスがあれば発表ができる。	アドバイスがあっても指導案を作成し発表ができない。
受講態度（20%）	授業や行事に積極的に参加し自身の課題に向けた取り組みができる。	授業や行事に参加し自身の課題を見いだす事ができる。	授業や行事に参加するが自身の課題が見つけられない	授業や行事に対する参加が不十分であるが自身の課題を見いだせる。	授業や行事に参加出来ず自身の課題を見つけることができない

評価方法

課題への取り組み 30%　　発表 50%　　受講態度 20%

テキスト

特になし。適時、資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅱ　～子どもの感性・表現を育む実践力の育成～

宮澤多英子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

保育者や教員には、子どもの表現に気付き、受けとめ、育む実践力が求められます。本授業は、「保育・教育学演習Ⅰ」で身に付けた表現の芽生えや育ちに対する理解や表現の技能を生かし、将来保育者・小学校教員として子どもの感性・表現力を育む音楽表現活動を実現するための実践力を育成することを目指します。

授業では、音楽文化としての楽曲演奏における実践力の育成として、「保育・教育学演習Ⅰ」での演奏発表の経験を生かし、保育現場におけるアウトリーチ活動を行います。子どもが主体となって音や音楽を楽しむことのできる参加型コンサートを主体的・協働的に企画し、演奏発表を行います。保育現場における音楽鑑賞会のアウトリーチ活動の実践経験に基づいて、対象年齢の子どもの発達や園生活での音楽経験を踏まえたプログラムの考案や演奏法、表現法について指導します。また、子どもの生活の中で表れる音や音楽への興味や音楽的表現がどのように集団での表現あそびに発展するのかを考え、総合的な表現を引き出す環境や活動の展開について、音遊びや音楽遊び、劇あそびの体験を通して実践的に学びます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、保育現場での演奏発表（アウトリーチ活動）の企画・立案
第 2 回	保育現場でのコンサートに向けて①　活動計画案の作成、斉唱・合唱・合奏（パート練習）
第 3 回	保育現場でのコンサートに向けて②　斉唱・合唱・合奏（パート・全体練習）
第 4 回	保育現場でのコンサートに向けて③　斉唱・合唱・合奏・うた絵本（全体練習）
第 5 回	保育現場でのコンサートに向けて④　斉唱・合唱・合奏・音楽あそび・司会進行（全体練習）
第 6 回	保育現場でのコンサートに向けて⑤　全体の流れの確認、リハーサル
第 7 回	【学外演習】保育現場でのコンサート（アウトリーチ活動）
第 8 回	保育現場での演奏発表（アウトリーチ活動）の振り返り
第 9 回	【オープンキャンパス】演奏・音楽遊びの実践（準備・本番・片付け）
第 10 回	総合的な表現活動の体験①　音あそび（音楽表現から造形表現への広がり）
第 11 回	総合的な表現活動の体験②　音楽あそび（音楽表現から身体表現への広がり）
第 12 回	総合的な表現活動の体験③　劇あそび（音楽表現・身体表現・造形表現との関わり）
第 13 回	総合的な表現活動の体験④　劇あそび（活動計画案の作成）
第 14 回	総合的な表現活動の体験⑤　劇あそび（作成した活動計画案の発表）
第 15 回	【総合的な表現活動の発表】リハーサル・本番・振り返り

予習・復習

・予習：楽譜が配布された楽曲は事前に譜読みをし、自主練習を行いましょう。

・復習：授業で学んだ内容について要点を整理し、楽曲については必ず自主練習を行いましょう。

履修上の注意

・遅刻は 3 回で 1 回欠席とします。授業開始後 20 分以降は欠席扱いとします。
・保育現場でのコンサートに向けた活動では、リハーサルと本番両方の出席を必須とします。

到 達 目 標

・自分自身の音や音楽に対する感性や表現力を高めようとする意欲をもち、授業に主体的、協働的に取り組むことができる。
・聴き手が楽しめる演奏発表の企画を考案し、表現を創意工夫しながら演奏することができる。
・総合的な表現活動の体験や考案を通して、音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて多角的な視点から思考・判断することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
学修に対する姿勢や態度（40%）	指定された予習・復習や課題以外にも自主的に課題を設定して取り組み、音楽表現活動に積極的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に丁寧に取り組み、音楽表現活動に主体的に取り組むことができる。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みがやや消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組んでいるが、音楽表現活動への取り組みが消極的である。	指定された予習・復習や課題に取り組まず、音楽表現活動への取り組みが消極的である。
表現の創意工夫と表現の技能（50%）	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを十分に生かして表現することができる。	楽曲にふさわしい表現を創意工夫しながら、楽曲のよさや美しさを生かして表現することができる。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、表現の技能がやや不足している。	楽曲にふさわしい表現を自分なりに工夫してはいるものの、表現の技能が不十分である。	楽曲にふさわしい表現の工夫がみられず、表現の技能も不十分である。
総合的な表現に対する思考力・判断力（10%）	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて、多角的な視点から思考・判断を深めることができる。	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて、多角的な視点から思考・判断することができる。	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて、自分なりに思考・判断している。	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについての思考・判断がやや不足している。	音楽表現と造形・身体表現とのつながりや関わりについて、思考・判断が不十分である。

評価方法

・受講態度 40%　…【評価項目】学修に対する姿勢や態度
・演奏発表 50%　…【評価項目】表現の創意工夫と表現の技能
・テキストの課題 10%　…【評価項目】総合的な表現に対する思考力・判断力

テキスト

「保育・教育学演習Ⅰ」に引き続き、以下のテキストを使用する。
・教科書名：:『保育者養成のための創作表現活動―音楽・造形・身体動作のつながり―』
・著 者 名：宮澤多英子
・出版社名：株式会社 外為印刷
・出 版 年：2021 年

保育･教育学演習Ⅱ～福祉心理学（いのちの教育含む）を学ぶ～	西内　俊朗

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
２年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

・福祉対象者への心理支援全般についての講義および福祉施設見学を実施する。
・福祉心理学における心理支援の実際およびコミュニティアプローチ等について講義する。
・子どもの健全育成にとって重要とされる「いのちの教育」「死への準備教育」について講義する。
・障害児者通園施設や医療機関での実務経験に基づき、様々な話題提供や事例課題を提示してグループワークの指導を行う。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	社会福祉の展開と心理支援
第 2 回	生活を支える心理支援
第 3 回	コミュニティアプローチについて１（危機介入について）
第 4 回	コミュニティアプローチについて２（災害と福祉について）
第 5 回	福祉施設見学（医療型障害児入所施設）
第 6 回	福祉施設見学（福祉型障害児通所施設）
第 7 回	がん教育の実際および福祉的な配慮について（小学校）
第 8 回	がん教育の実際および福祉的な配慮について（中学校）
第 9 回	がん教育の実際および福祉的な配慮について（高等学校）
第 10 回	多職種連携による支援
第 11 回	多職種連携による支援２
第 12 回	家族・福祉施設職員等への心理支援の実際
第 13 回	がん医療における心理支援の実際と「死への準備教育」について
第 14 回	がん医療における心理支援の実際と「死への準備教育」について２
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：事前に配布した資料を読んで授業に臨むこと

・復習：毎回の授業で具体的に説明

履修上の注意

・遅刻、早退は3回につき1回の欠席とする。
・授業の中でグループワークを実施するので、積極的に参加してください。

到 達 目 標

・保育者、教育者として必要とされる児童福祉分野、高齢福祉分野、最新の医療保健の動向についての理解を深め、具体的な実践活動につなげていける基本的能力を培う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　５０%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（　３０%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
課題整理能力（　２０%）	課題整理能力の弱い他者に適切なアドバイスができる。	様々情報を適切に取捨選択して課題を整理することができる。	情報の整理方法に多少の課題があるが他者のアドバイスなしで課題整理できる。	他者のアドバイスを踏まえて課題整理ができる。	他者のアドバイスあっても課題整理ができない。

評価方法

課題レポート・発表　５０%
受講態度　５０%

テキスト

授業の中で説明する

保育･教育学演習Ⅱ　～子どもや保護者へのメッセージ～

藤田　倫子

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授 業 概 要

本演習では、子どもの運動や生活にかかわる正確な情報を、発信する相手に、適切に発信する力を身につけることを目的とする。また、正確な情報を発信するために、検索力や調査力など、情報収集に関する知識やリテラシーについて理解する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション・1年次の学びを振り返る
第 2 回	研究ノートの作成①：研究の方向性の確認
第 3 回	研究ノートの作成②：文献の要約①
第 4 回	研究ノートの作成③：文献の要約②
第 5 回	研究ノートの作成④：文献の要約③
第 6 回	研究ノートの作成⑤：まとめる①
第 7 回	研究ノートの作成⑥：まとめる②
第 8 回	発表資料の作成①：PPT の作成①
第 9 回	発表資料の作成②：PPT の作成②
第 10 回	発表資料の作成②：PPT の作成③
第 11 回	フィールドワーク：親子ふれあい体操の実践①
第 12 回	フィールドワーク：親子ふれあい体操の実践②
第 13 回	フィールドワーク：屋内外遊戯施設の見学・体験①
第 14 回	フィールドワーク：屋内外遊戯施設の見学・体験②
第 15 回	まとめ

予 習 ・ 復 習

・予習：興味のある事柄について、論文検索を行っておく。
・復習：授業内で行った内容について振り返り、メモを作成する。

履修上の注意

・遅刻について、30 分未満の遅刻 3 回で、欠席 1 回とする。また、30 分以上の遅刻は、欠席となる。
・情報メディアセンターやパソコン室を適宜活用する。
・自分のこころと向き合い、興味や関心が明確になるように努めるとともに、保育や教育に必要な情報を得るための努力をする。

到 達 目 標

・子どもの運動や生活にかかわる正確な情報を、適切に発信する力を身につける。
・正確な情報を発信するために、検索力や調査力など、情報収集に関する知識やリテラシーについて理解できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
専門知識の理解（40%）	授業内容を超え積極的に学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	内容についての理解ができていない。
専門知識の活用力・応用能力（20%）	専門的な知識を実社会での実践に役立てることができる。	課題について、専門的な知識を用いて説明できる。	専門的な知識について理解しているが、活用・応用能力に多少不足がある。	専門的な知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できない。	専門的な知識に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない。
専門知識の発信力 （40%）	正確な情報とともに、自らの意見や情報のねらい等を論理的に表現し、発信できる。	正確な情報とともに、自らの意見や情報のねらい等を論理的に発信できるが、表現力に欠ける。	正確な情報や論理的説明はできるが、情報発信のねらいや目的があいまいである。	正確な情報のみの発信で、論理的にまとまっておらず、伝達力、発信力が弱い。	不正確な情報を不適説に発信する。

評価方法

授業への取り組み
・専門知識の理解（40%）
・専門知識の活用力・応用能力（20%）
・専門知識の発信力 （40%）

テキスト

適宜資料を配布する。

保育･教育学演習Ⅱ

～現場で心理学を活かせる保育者・教育者を目指す～

一色　翼

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	－	選択必修	－

授業概要

保育・教育学演習Ⅰを通して学んだ保育・教育カウンセリングのスキルと知識を生かし、魅力的な保育者・教育者となることを目指すためには、その前提として、広汎にわたって人間の心理そのものへの関心と理解を深める必要がある。

本授業では、学生一人ひとりが関心のある心理学に焦点を当てる。そしてその知見を保育・教育に生かす方法について考え、一連の成果に関する発表会を実施する。選んだ課題に関連する先行研究をどのように探すのか、そしてその知見を保育や教育にどのように応用するのか、その知識や方法について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業計画と進め方
第 2 回	心理学の応用例（1）　「人にうそをつく心理」を保育・教育に生かす
第 3 回	心理学の応用例（2）　「人に魅力を感じる心理」を保育・教育に生かす
第 4 回	心理学の応用例（3）　「人を苦手になる心理」を保育・教育に生かす
第 5 回	課題（関心のある心理学）についてのディスカッション
第 6 回	課題（関心のある心理学）の設定と資料の選定・検討（1）
第 7 回	課題（関心のある心理学）の設定と資料の選定・検討（2）
第 8 回	課題（関心のある心理学）の設定と資料の選定・検討（3）
第 9 回	発表資料の作成（1）
第 10 回	発表資料の作成（2）
第 11 回	発表会（1）　発表と質疑応答
第 12 回	発表会（2）　発表と質疑応答
第 13 回	発表会（3）　発表と質疑応答
第 14 回	発表会（4）　発表と質疑応答
第 15 回	まとめ　魅力的な保育者・教育者を目指すための心理学の応用

予習・復習

・予習：自分で選んだ資料を読み進めること。
　　自分が担当する回の発表資料の作成を進めること。
・復習：授業内容と関連するものについて、関心を広げ、発展的な学修を行うことを期待する。

履修上の注意

１．授業開始後 20 分未満の遅刻を 3 回すると、1 回分の欠席扱いとする。
　　授業開始後 20 分を超過した場合、遅刻ではなく欠席扱いとする。
２．課題を設定し、発表会を行う。
　　授業内容に関連した発言を求めるため、積極的な発言を期待する。
３．配布プリントはファイルし、整理しておくこと。

到 達 目 標

１．心理学と関連させて課題を設定し、探究する力を身に付ける。
２．心理学の知見を踏まえて、自分の考えを効果的に表現することができる。
３．心理学の知見を踏まえて、根拠を示しながら自分の考えを発言・議論することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題を設定して探究する力（発表資料）（35%）	演習内容を超えた保育・教育カウンセリング・スキルが身に付いている。	関心のある課題を設定し、それに即した発表資料を作成することができる。	関心のある課題を設定することができているが、発表資料に多少不足がある。	関心のある課題を設定することができているが、発表資料に不足がある。	課題設定や発表資料ができていない。
考えを表現する力（発表資料）（35%）	説得力のある資料で自分の考えを表現できている。	論理的に矛盾のなく自分の考えを表現できている。	自分の考えを表現できている。	自分の考えを最低限表現できている。	自分の考えを表現することができていない。
根拠を示しながら発表する力（発表）（30%）	根拠を示しながら説得力のある発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができているが、多少根拠が乏しい。	最低限の根拠を示しながら発言・議論をすることができている。	根拠を示しながら発言・議論をすることができていない。

評価方法

・発表資料　70%
・発表　30%

テキスト

・テキストは使用しない。
・必要に応じてプリントを配布する。

文学　～文化としての文学～

柴田　勝二

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

西洋・中国との比較のなかで日本文化全体の特質を把握したうえで、古典から近現代に至る詩・劇・物語・小説の名作を取り上げ、そこに込められた主題や技法について講義する。日本文学を中心とするが、その特質を明らかにするために随時外国文学にも言及する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	日本文化の特質：西洋・中国との比較のなかで
第 2 回	神と仏：文学と仏像における表象
第 3 回	他者との共鳴１：詩歌①（万葉集・古今集）
第 4 回	他者との共鳴２：詩歌②（新古今集・連歌）
第 5 回	自然に映される自己：詩歌③（俳句・近代詩）
第 6 回	死と生の狭間で：劇①（夢幻能）
第 7 回	義理と人情の相克１：劇②（人形浄瑠璃）
第 8 回	義理と人情の相克２：劇③（歌舞伎）
第 9 回	虚構のなかの現実：劇④（三島由紀夫『近代能楽集』）
第 10 回	二つの世界の重なり１：物語①（伊勢物語・源氏物語）
第 11 回	二つの世界の重なり２：物語②（平家物語・雨月物語）
第 12 回	死をはらむ生者１：小説①（川端・谷崎）
第 13 回	死をはらむ生者２：小説②（鴎外・漱石）
第 14 回	せめぎ合う土着と外来：小説③（遠藤周作『沈黙』１）
第 15 回	せめぎ合う土着と外来：小説④（遠藤周作『沈黙』２）

予習・復習

・予習：とくに必要としないが、できればテキストの該当部分を読んでおくこと。
・復習：学習した内容をまとめ、中間・期末レポートの作成をつつがなく行えるように準備する。

履修上の注意

・毎時間必ず出席すること。
・私語を慎むこと。私語がある場合は授業中に注意する。
・遅刻は 10 分まで許容する。遅刻２回で欠席１回に換算する。

到 達 目 標

・西洋・中国と対比して日本文学の特質を説明できる。
・日本文学の代表的な作品の特徴を説明できる。
・文学作品とその映像化の違いについて説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
日本文学への理解度（40%）	古典・近代の代表的な作家・作品の特徴を十分に説明できる。	古典・近代の代表的な作家・作品の標準的な特質をある程度説明できる。	古典か近代の代表的な作品の特質をある程度説明できる。	古典か近代の代表的な作品の特質をあまり説明できない。	古典か近代の代表的な作品の特質を説明できない。
日本文化への理解度（30%）	日本文化の特質を西洋・中国との比較で具体的に適切に説明できる。	日本文化の特質を西洋・中国との比較である程度説明できる。	日本文化の特質を西洋か中国との比較である程度説明できる。	日本文化の特質を具体的な次元ではあまり説明できない。	日本文化の特質を具体的な次元では説明できない。
作品への鑑賞と批評の能力（30%）	原作のテキストとその舞台化・映像化の差異を具体的に適切に説明できる。	原作のテキストとその舞台化・映像化の差異をある程度適切に説明できる。	原作のテキストとその舞台化か映像化の差異をある程度説明できる。	原作のテキストとその舞台化か映像化の差異をあまり説明できる。	原作のテキストとその舞台化か映像化の差異を説明できない。
（　%）					
（　%）					

評価方法

・毎時間提出する小レポート：20%
・中間レポート：30%
・期末レポート：50%

テキスト

・教科書名：『〈重ね〉と〈陰陽〉の日本文化――生命の美学』
・著 者 名：柴田勝二
・出版社名：新典社
・出 版 年（ISBN）：2025 年（9784787955203）

文化論　～映像で学ぶ他者理解のための「文化」論～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1･2	後期	2	選択	教養科目　選択

授 業 概 要

この授業でいう「文化」とは「経営文化」「組織文化」「企業文化」という文脈の「文化」であり、「文化」を価値と規範の体系と定義しています。なんだか難しそうに聞こえそうです。ですが、「あの人と私とでは価値観が違う」とよく言うように、とても身近な話です。

相手がどういう価値・規範で働いているのか、どういう価値・規範で生きているのか。そんなふうに他者を理解する練習を重ねていきます。それは教養を高めることであり、「生涯現役で活躍する」上で必ず役に立つと思います。

具体的には次のようなことを講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明
第 2 回	§1　国による「文化」の違い　その 1 「文化が違う」ということはどういうことなのか、考えてみよう。
第 3 回	§1　国による「文化」の違い　その 2 行動の違いの根底にある、規範の違いを探ってみよう。
第 4 回	§1　国による「文化」の違い　その 3 文化の違いを理解しあうことは、いかにして可能か考えてみよう。
第 5 回	§2　官と民による「文化」の違い 官にはどんな文化があるかを学ぶ。
第 6 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民の文化の違い、違いの要因を学ぶ。
第 7 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民、それぞれの苦手を理解する。
第 8 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民、それぞれ学び合うべきところを考えてみよう。
第 9 回	これまでの学びの振り返り 授業の意図がつかめていたか、確認してみよう。
第 10 回	§3　「価値」による理解　その 1 自己理解：自分は何を大事にしている人なのかを理解しよう。
第 11 回	§3　「価値」による理解　その 2 企業理解：企業が追求する価値の表明たる経営理念、企業理念との向き合い方を学ぶ。
第 12 回	§4　「文化」による企業理解　その 1 企業が追求する価値の表明たる理念を浸透する方法を学ぶ。
第 13 回	§4　「文化」による企業理解　その 2 追求する価値が言動や企業の性格を規定することを学ぶ。
第 14 回	§4　「文化」による企業理解　その 3 企業の文化を誰がどのように体現しているかを理解しよう。
第 15 回	§4　「文化」による企業理解　その 4 企業の文化を自分なりに理解してみよう。

予 習 ・ 復 習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の 2 点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを 1 分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は、遅刻した時間・頻度に応じて成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。
1　あらゆる場で文化の違いに気づき、違う文化の理解に努めることができる。
2　文化という視点で企業を比較し、企業を理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（ 50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。
（ %）					
（ %）					
（ %）					

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。配付資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理も学力のうちです。自分で確実に実行してください。

環境論　～人と自然とのつながりを考える～

小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

講義の前半では、自然科学および社会科学的な視点から、ヒトを含めた多様な生物のつながりとそれらを支える環境の全体像である「生物多様性」の本質について考察します。後半では、動物園の動物や身近なペットを題材に取り上げ、「生命のつながり」に関わる法的・倫理的な諸問題を扱います。

本講義で扱うすべてのテーマは、以下の4つの視座から分析・検証を行えるよう構成されています。①物事を多角的な視点から捉える、②事象を批判的に考察する眼を持つ、③常に弱者への配慮を忘れない、④科学が持つ限界を正しく認識する，これらの視点に基づいた問題設定を通じて、現代社会における環境のあり方を深く探求していきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	野生動物への餌づけ 野生動物へ餌をあげることによる影響
第 3 回	野生動物の交通事故 野生動物の交通事故の原因と対策
第 4 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち1 レッドリスト、レッドデータブックとは何か
第 5 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち2 生物の絶滅原因
第 6 回	動物園の役割と今後1 動物園は必要？動物園の実態とは？
第 7 回	動物園の役割と今後2 動物園を評価するための準備と予備知識
第 8 回	動物園の役割と今後3 動物園評価の方法とその意味
第 9 回	動物園の役割と今後4 動物園評価の発表
第10回	動物園の役割と今後5 動物園の将来像
第11回	ペットと私たちの生活1 身近なペット、イヌ・ネコ
第12回	ペットと私たちの生活2 外来生物が引き起こす問題、輸入規制対象となる飼育動物
第13回	ペットと私たちの生活3 飼育動物に関する法律
第14回	ペットと私たちの生活4 ペット産業の実態
第15回	ペットと私たちの生活5 イヌ・ネコの命を救う活動

予習・復習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をします。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。講義時間内に行ないますが、これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう時があります。

履修上の注意

本講義を履修した後は、環境問題への理解をより一層深めることができる「自然科学」や「環境論」をあわせて受講することを強くお勧めします。もちろん、それらの科目を先に修得している場合や、並行して履修している状態であっても全く問題ありません。各科目の繋がりを意識することで、より多角的な視点が得られるはずです。

なお、公共交通機関の遅延を除き、授業開始から 20 分以上経過した際の入室は認めません。講義の円滑な進行を妨げるため、時間厳守を徹底してください。また、授業中のスマートフォン使用についても、教員が許可した場合を除き一切禁止いたします。学修に集中できる環境づくりに協力してください。

到 達 目 標

「環境問題」という複雑な課題に対し、単なる個人の価値観や感情のみで判断するのではなく、科学的・倫理的・社会的な背景から多角的に検証できる「多面的視点」を養います。アニメ作品に描かれる象徴的な事象を分析することで、既存の枠組みにとらわれず物事を批判的に捉える眼を養い、自分とは異なる立場や弱者の視点、さらには科学が抱える限界をも考慮した深い洞察力の習得を目指します。本講義を通じて、フィクションの中の問いを現実の環境問題へと再構築し、論理的根拠に基づいた客観的な分析と判断ができるようになることを最終的な目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
（ %）					
（ %）					

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テキスト 30%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

民法　～「人生の必修科目」～	三重野雄太郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

民法とは、私たち一般市民の間の関係について定めた法律である。
法律というと、皆さんには「難しい」、「お堅い」などと思われるであろう。しかし、コンビニでお茶を買うのも、大学に来るのに電車やバスに乗るのも「契約」という法律に定められた行為に基づくものである。また、婚姻（結婚）も法律に定められた行為である。これらは、全て民法に規定されている。そうすると、民法というのは実は私たちにとって非常に身近なもので、生きていくうえで否が応でも関わらざるを得ない法律だということが分かって頂けるだろう。
　また、皆さんには、法律は、私たちを縛るルールであると思われるかもしれない。確かにそういった側面があることは否めないが、一方で、法律は私たちを守ってくれるものでもある。交通事故に遭った場合に被害弁償をしてもらう、配偶者に浮気されたので離婚してもらうなどといったような場合に民法の知識があれば、泣き寝入りしなくて済むであろう。
　本講義では、私たちの生活に直接関わりうる事柄を中心に取り上げながら、民法の基本を学んでもらう。民法を学ぶことで、皆さんが一市民として幸せに生きていくためにも必要な知識・素養が得られるであろ

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	契約とは？①
第 3 回	契約とは？②
第 4 回	債務不履行①
第 5 回	債務不履行②
第 6 回	意思表示①
第 7 回	意思表示②
第 8 回	意思表示③
第 9 回	消費生活と法
第 10 回	契約各論①
第 11 回	契約各論②
第 12 回	不法行為①
第 13 回	不法行為②
第 14 回	家族関係
第 15 回	相続・遺言

予習・復習

・予習：教科書の該当箇所を精読し、毎回指示する予習課題に取り組む。疑問点を書き出しておく。
・復習：教科書の該当箇所と配布資料を再確認し、理解できた点、できなかった点をまとめる。

履修上の注意

①初回授業で注意事項・授業運営方針について話す。全員がそれを理解していることを前提に授業運営がなされる点、ご了承頂けているものとして進めていく。
②本授業を履修して下さる場合、本シラバスの内容について熟知・了承頂けているという前提で教員は対応する。
③自身に関わる事柄として、当事者意識を持って学ぶこと。
④授業は基本的に講義形式で行うが、発問して答えてもらったり、グループワークをしてもらったり、みんなでディスカッションをしたりなどの活動を取り入れることもある。授業に積極的に「参加」して欲しい。

到達目標

①現代社会における様々な法的問題や私たちの日常生活に直接関わる法的事象について、関心を持ち、自身に関わる事柄として考えることができる。
②具体的な法的事例を切り口にして法律学を学び、各事例に関わる条文、判例、概念などを理解するとともに、それらを活用して具体的事例について妥当な解決策を導き出すことができる。
③自身の考えを根拠をもって論理的かつ的確に表現できる
④立場の異なる人の考えに耳を傾け、理解しようと努める態度を養う。
⑤他者と議論して問題に対する妥当な結論を見出すことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容をひととおり理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限の理解はしている。	授業内容について理解できていない。
論理的思考力・表現力（30%）	他人を納得させられるくらいに説得力ある論理的な文章が書ける。	根拠を挙げて、論理的な文章が書ける。	論理性・説得性に不足があるが、根拠を示しながら文章を書ける。	最低限の内容を示す文章が書ける。	課題で問われている内容に即した文章を書けていない。

評価方法

授業内のテスト　70%
授業内課題など提出物　30%

テキスト

・教科書名：ストーリーから学ぶ民法ナビ
・著者名：出雲孝ほか
・出版社名：みらい
・出版年：2021 年
・ISBN：978-4-86015-540-7

※参考書
・参考書名：概説　生命倫理学
・著者名：三重野雄太郎ほか
・出版社名：大学教育出版
・出版年：2025 年
・ISBN：978-4-86692-339-0

心理学　～こころのはたらきを理解する～

伊澤　利文

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

この授業では、まず人間の「心」についての基礎を学んでゆきます。生物としての人間という視点から心理学の基礎的な知識を習得します。次に、他の動物にはみられない人間心理の特徴的な部分についての学習に進みます。そして最終的に、みなさん自身を含めた「人間」という存在の理解を目指します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、および心理学の歴史　－心への関心はいつ生まれたのか？－
第 2 回	「心」はどこにあるのか？　－脳の構造と人間心理との関係－
第 3 回	知覚　－感覚を使った世界とのつながり方を知る－
第 4 回	学習　－新しいことが「出来るようになる」メカニズムについて－
第 5 回	記憶　－新しいことを「覚える（覚えておく）」メカニズムについて－
第 6 回	感情　－自分の周りの世界を「彩る」メカニズムと人間の生活について－
第 7 回	注意　－自分の周りの何かに「気づく」メカニズムについて―
第 8 回	ストレス　－さまざまなタイプのストレスと心身への影響について－
第 9 回	発達　－人間が「成長する」メカニズムについて－
第 10 回	言語　－人間が「会話」し「理解する」仕組みについて－
第 11 回	思考　－人間だけが持つ「考える」メカニズムについて－
第 12 回	意識　－「意識がある」とは心理学的にどのような状態なのか？－
第 13 回	パーソナリティ　－性格を科学的に理解することの意味－
第 14 回	社会心理　－社会生活における「情報処理」と「他者」の役割について－
第 15 回	睡眠と夢　－人間の「眠り」と「夢」のメカニズムについて－

予習・復習

・予習：インターネットなどを使って、各回のテーマに関連する予備知識をつけておくことが望ましい。

・復習：スマホなどで撮影した画像から、授業ノートを分かりやすく清書することが望ましい。

履修上の注意

授業には積極的な態度で望み、心と身体の基本的なメカニズムを理解するよう努めること。欠席した分だけ、得られる情報量が少なくなることを意識してください。そのため、この授業では「遅刻 2 回で欠席 1 回」の扱いとしますので注意するように。

到 達 目 標

・科学的な視点から心理学の基礎を学ぶ。
・科学的な視点から世界を眺め、必要な場合には状況を分析して対処できるようになる。
・この授業で得られた心理学の知識を、今後の生活で活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（４０%）		授業内容をほぼ理解できている。	授業内容の理解が多少不足している。	授業内容を大まかにではあるが理解している。	出席不足などから授業内容を理解していない。
関心度（３５%）	授業内容を越えた領域まで興味を示している。	授業に大きな関心を持って望んでいる。	授業内容への好奇心が多少不足している。	授業内容への関心があまり持てていない。	授業内容にほぼ関心がなく出席しているだけである。
発信力（２５%）	自分の疑問点を分かり易く簡略に質問できる。	教員からの質問に対して自分の考えを口頭で表現できる。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できる（挙手）。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できない。	
（　%）					
（　%）					

評価方法

・定期テスト　：　７０%
・発表　：　２０%
・受講態度　：　１０%

テキスト

・使用しません。資料が必要な場合に、適宜プリントを配布します　。

臨床心理学　～生きづらさを理解し支えるための学問～

赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

臨床心理学を「心の病気を知る学問」としてだけでなく、「人が悩みやつらさを抱えながら生きていく過程を理解し、支えるための学問」として学ぶ。公認心理師・臨床心理士として心理カウンセリングを行ってきた実務経験に基づき、うつ病・不安障害・適応障害などの代表的な精神疾患について基礎的な知識や青年期に特有の心の揺れや悩みについても取り上げ、実際の職場場面を踏まえながらグループワークを用い指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業のねらい、意図を伝え、受講にあたり心構えを共有する
第 2 回	臨床心理学とは　心の健康やストレスについて考える
第 3 回	青年期の病理①　恋愛関係の心理（解説と事例検討）
第 4 回	青年期の病理②　親子関係の心理（解説と事例検討）
第 5 回	青年期の病理③　友人関係の心理（解説と事例検討）
第 6 回	主な精神疾患①　うつ病・不安障害（解説と事例検討）
第 7 回	主な精神疾患②　適応障害・統合失調症・依存（解説と事例検討）
第 8 回	主な精神疾患③　パーソナリティ障害（解説と事例検討）
第 9 回	主な心理療法①　グループアプローチ（解説と実習）
第 10 回	主な心理療法②　クライエント中心療法　認知行動療法（解説と実習）
第 11 回	主な心理療法③　催眠療法　自律訓練法（解説と実習）
第 12 回	主な心理療法④　マインドフルネス　コンパッション・フォーカスト・セラピー（解説と実習）
第 13 回	事例検討① 見立てと方針を考える（グループワーク）
第 14 回	事例検討② グループ発表
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：毎回の授業テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

・人と関わることや発言・発表の機会が多い授業である。
・教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
・交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
・提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

主な精神疾患と青年期の心理的課題について理解する
代表的な心理療法の考え方を学ぶとともに、自分や身近な人の心の不調に気づき、適切に関わりながら自分自身の心を大切にできるようになる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他人に伝わるように論理的に記述する事ができる。	自分の考えを含めて記述する事ができる。	不足する点があるが、課題に沿った文を書く事ができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明ができない。
積極性（40%）	率先して自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する努力ができる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	人と関わろうとしない。

評価方法

授業での積極性（発言、他者との関わり、意欲）３０％
毎回の授業レポート課題（リアクションペーパー）２０％
定期試験（レポート）５０％

テキスト

必要に応じてプリントを配布